

自殺に関する県民意識調査
報告書

平成26年 1月

滋賀県立精神保健福祉センター

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の実施要領.....	1
3 標本の抽出.....	1
4 調査票の配付・回収の状況.....	2
5 集計方法、数値の取り扱いについて.....	2
6 回答者の状況.....	3
第2章 調査の結果	7
1 自殺の現状等について.....	7
2 悩みやストレスに関することについて.....	19
3 自殺やうつに関する意識について.....	67
4 メディア（新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体）について.....	100
第3章 調査結果の考察	127
1 滋賀県と全国の傾向との全般的比較.....	127
2 自殺の現状等について.....	127
3 悩みやストレスに関することについて.....	128
4 自殺やうつに関する意識について.....	131
5 メディアとの接触について.....	134
第4章 使用した調査票	137

第1章 調査の概要

1 調査の目的

県民の自殺に対する意識や、自殺サイトへの接触などの実態を把握し、今後の自殺対策を推進するうえでの基礎資料とする。

2 調査の実施要領

- 調査地域 滋賀県全域（全市町）
- 調査対象者 平成25年8月1日現在における県内在住の満20歳以上の男女
- 調査対象者数 3,000人
- 標本抽出方法 各市町の選挙人名簿より無作為抽出
- 調査方法 郵送配付・回収、無記名方式。
調査期間中に、はがきによる礼状兼依頼状を1回配付
- 調査時期 平成25年8月30日～9月24日

3 標本の抽出

県内の市町を下表のとおり7つの地域に区分し、母集団である各地域の満20歳以上人口の構成比を基に各地域の抽出標本数を算出した。ただし、湖西地域は母集団となる人口が少ないため、他の地域に比べて抽出割合を2倍した。

地域	母集団	抽出標本数	該当市町
大津地域	269,665人	700人	大津市
湖南地域	246,913人	641人	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲賀地域	115,694人	301人	湖南市、甲賀市
東近江地域	184,660人	480人	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
湖東地域	122,215人	317人	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖北地域	129,573人	336人	長浜市、米原市
湖西地域	43,359人	225人	高島市
合計	1,112,079人	3,000人	---

※母集団は、平成24年3月31日現在の住民基本台帳登録の満20歳以上人口を基準とした。

4 調査票の配付・回収の状況

配付件数	不達件数	実配付件数	回収数 (回収率)	有効回答数 (有効回答率)
3,000件	22件	2,978件	1,661件 (55.8%)	1,659件 (55.7%)

※「不達件数」は、対象者の転居や宛名不明により配付できなかった調査票の件数。「回収率」及び「有効回答率」は、「実配付件数」に対する「回収数」及び「有効回答数」それぞれの比率。「有効回答数」は「回収数」から白票や回答不備の無効票を除外した件数。

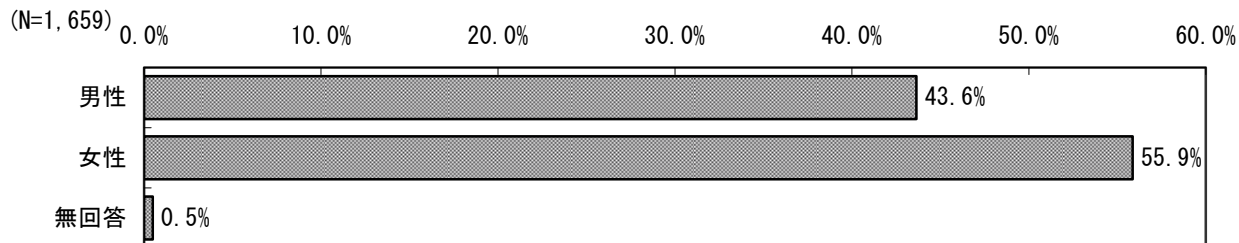
5 集計方法、数値の取り扱いについて

- 集計は百分率（％）によるものとし、問18は加重平均（点）による集計も行っている。
- 百分率の集計結果は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表記している。
- 加重平均の集計結果（問18）は小数第3位を四捨五入し、小数第2位までを表記している。
- 単数回答設問の各選択肢の回答比率の合計は、四捨五入の関係で100.0%にならない場合がある。
- 複数回答設問の各選択肢の回答比率は、当該設問に回答すべき人数を集計母数として求めているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- 当該設問の集計区分ごとの集計母数は、グラフ中に「(N=***）」と表記し、数表では「集計母数」と表記している。
- 一部のグラフにおいては、集計結果の数値表記が込み入って見難くなることを避けるため、回答がなかった選択肢の集計結果の「0.0%」表記を割愛している場合がある。
- 内閣府が平成23年度に実施した「自殺対策に関する意識調査」と比較可能な設問については、全体集計のグラフに「全国・平成23年度調査」と表記の上で比較を行っている。
- 分析においては、「その他」や「無回答」は、特に断りなく分析区分や分析の対象から除外している。

6 回答者の状況

(1) 回答者の性別

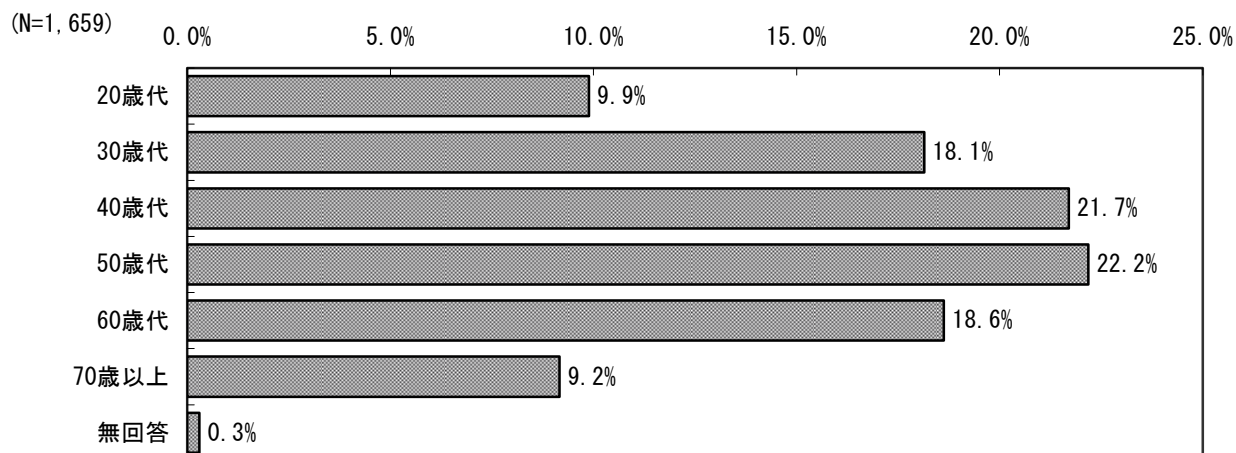
図表 回答者の性別



回答者の性別は、「女性」が55.9%、「男性」が43.6%となっている。

(2) 回答者の年齢

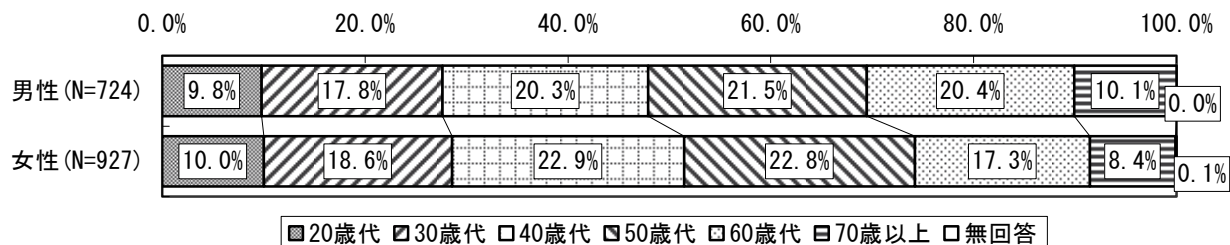
図表 回答者の年齢



回答者の年齢は、「50歳代」が22.2%で最も多く、以下、「40歳代」が21.7%、「60歳代」が18.6%、「30歳代」が18.1%などとなっている。

図表 性別 回答者の年齢

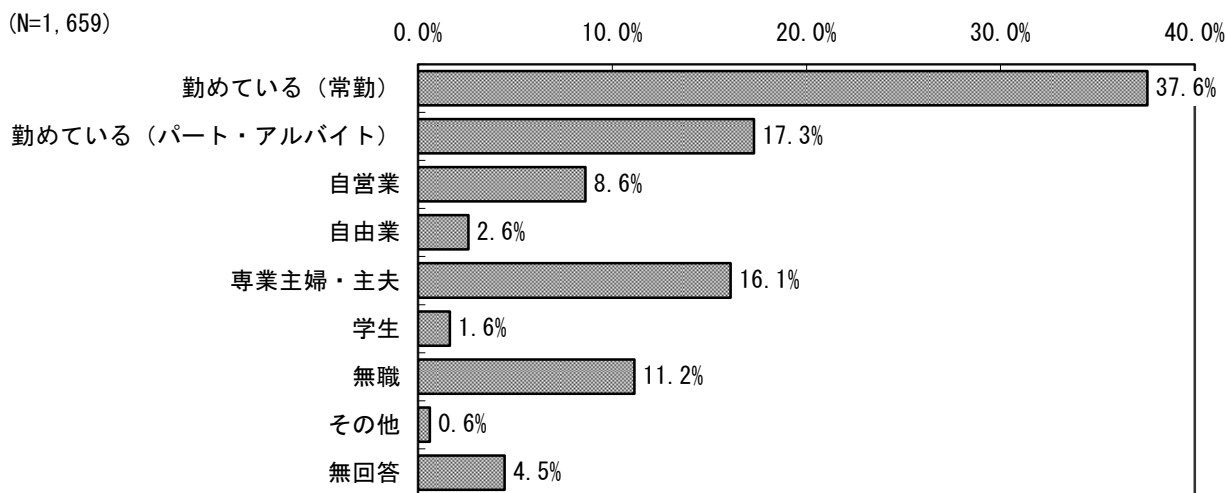
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	合計
男性	71 9.8%	129 17.8%	147 20.3%	156 21.5%	148 20.4%	73 10.1%	0 0.0%	724 100.0%
女性	93 10.0%	172 18.6%	212 22.9%	211 22.8%	160 17.3%	78 8.4%	1 0.1%	927 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	4 50.0%	8 100.0%
合計	164 9.9%	301 18.1%	360 21.7%	368 22.2%	309 18.6%	152 9.2%	5 0.3%	1,659 100.0%



性別にみると、男性では「50歳代」が21.5%で最も多く、以下、「60歳代」が20.4%、「40歳代」が20.3%などとなっている。女性では「40歳代」が22.9%で最も多く、以下、「50歳代」も22.8%、「30歳代」が18.6%などとなっている。

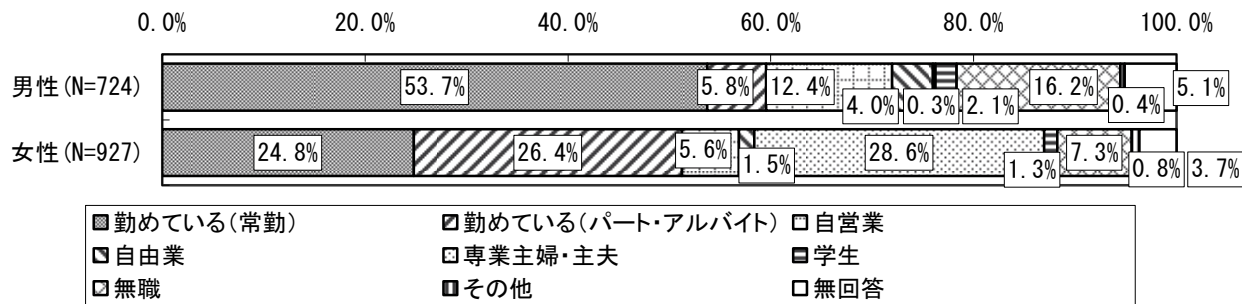
(3) 回答者の職業

図表 回答者の職業

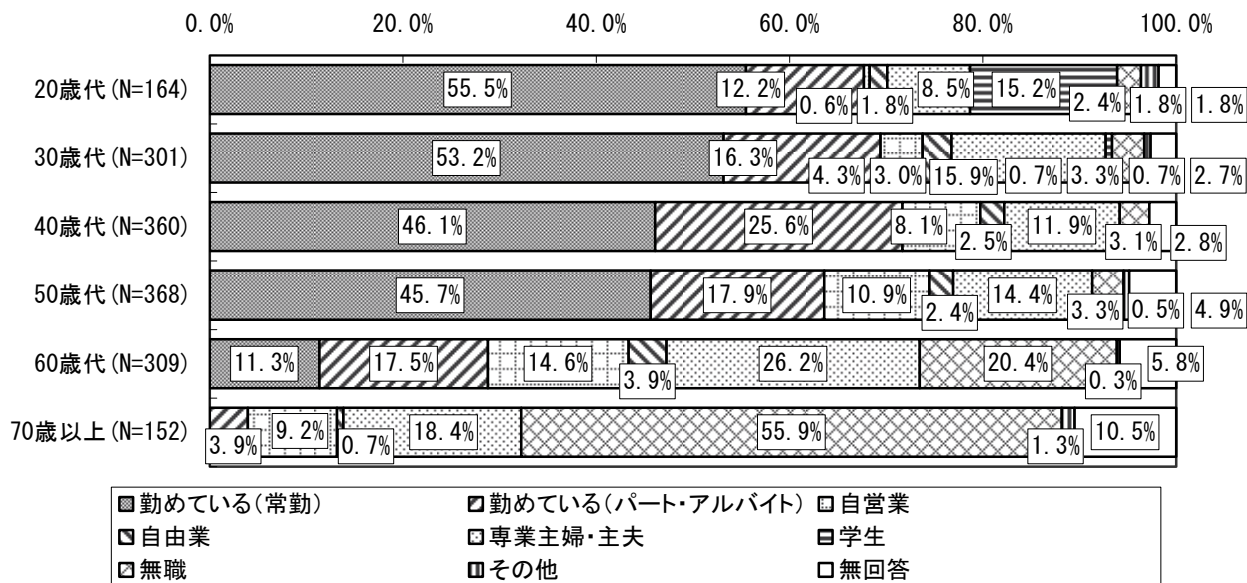


回答者の職業は、「勤めている (常勤)」が37.6%で最も多く、以下、「勤めている (パート・アルバイト)」が17.3%、「専業主婦・主夫」が16.1%、「無職」が11.2%などとなっている。

図表 性別 回答者の職業



図表 年齢別 回答者の職業

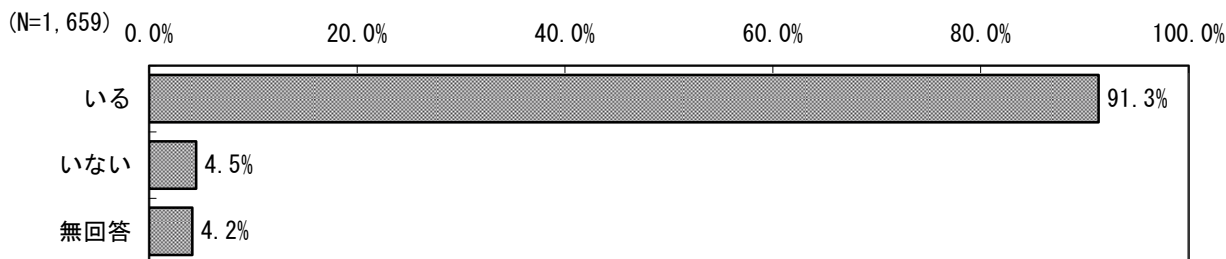


性別にみると、男性では「勤めている（常勤）」が最も多く、以下、「無職」、「自営業」などとなっている。女性では「専業主婦・主夫」が最も多く、以下、「勤めている（パート・アルバイト）」が、「勤めている（常勤）」がなどとなっている。

また、年齢別にみると、50歳代以下では「勤めている（常勤）」が最も多く、60歳代では「専業主婦・主夫」、70歳以上では「無職」がそれぞれ最も多い。

(4) 回答者の同居者の有無

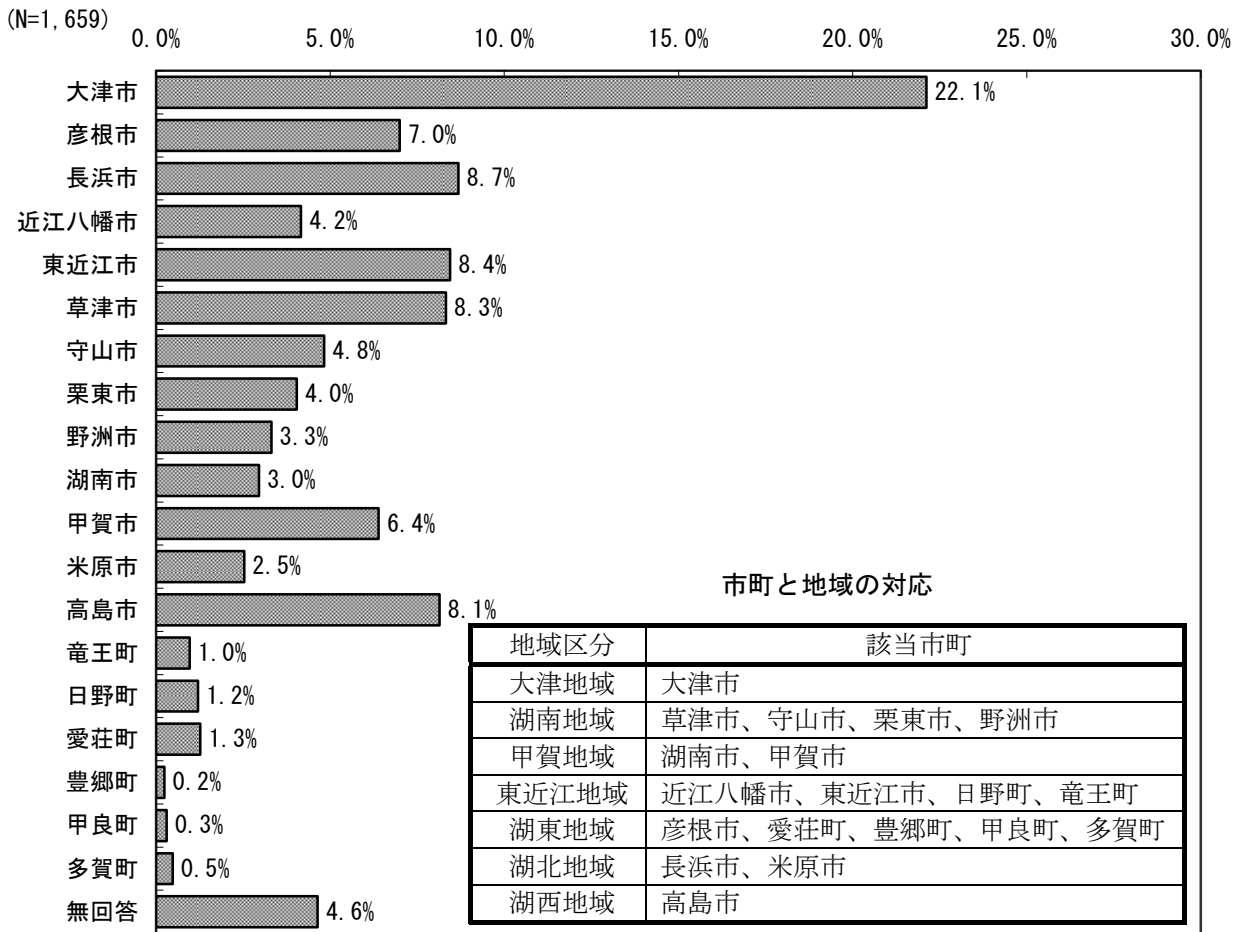
図表 回答者の同居者の有無



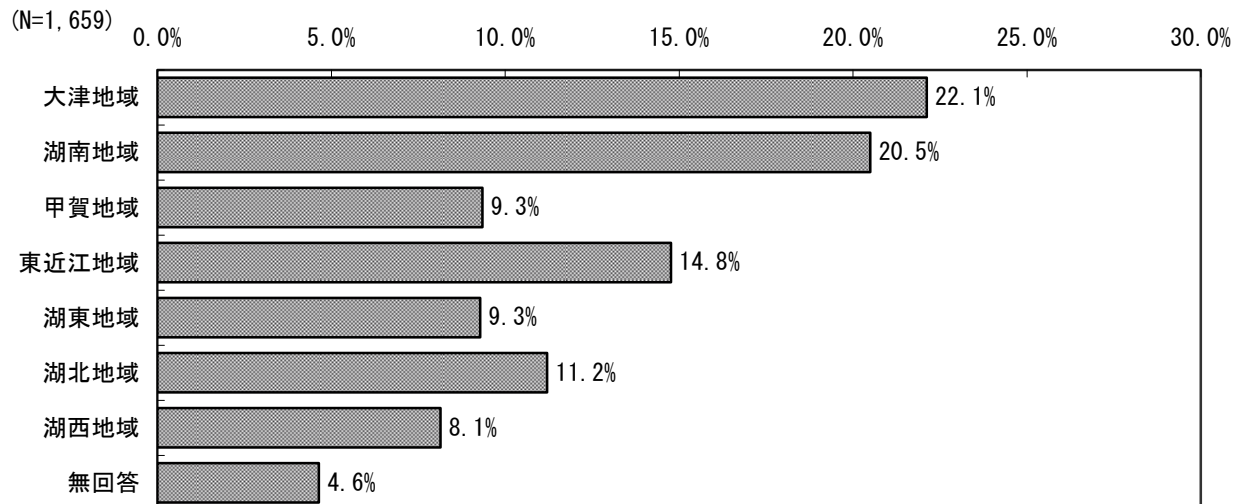
回答者の同居者の有無は、「いる」が91.3%、「いない」が4.5%となっている。

(5) 回答者の居住市町・地域

図表 回答者の居住市町・地域



図表 回答者の居住地域



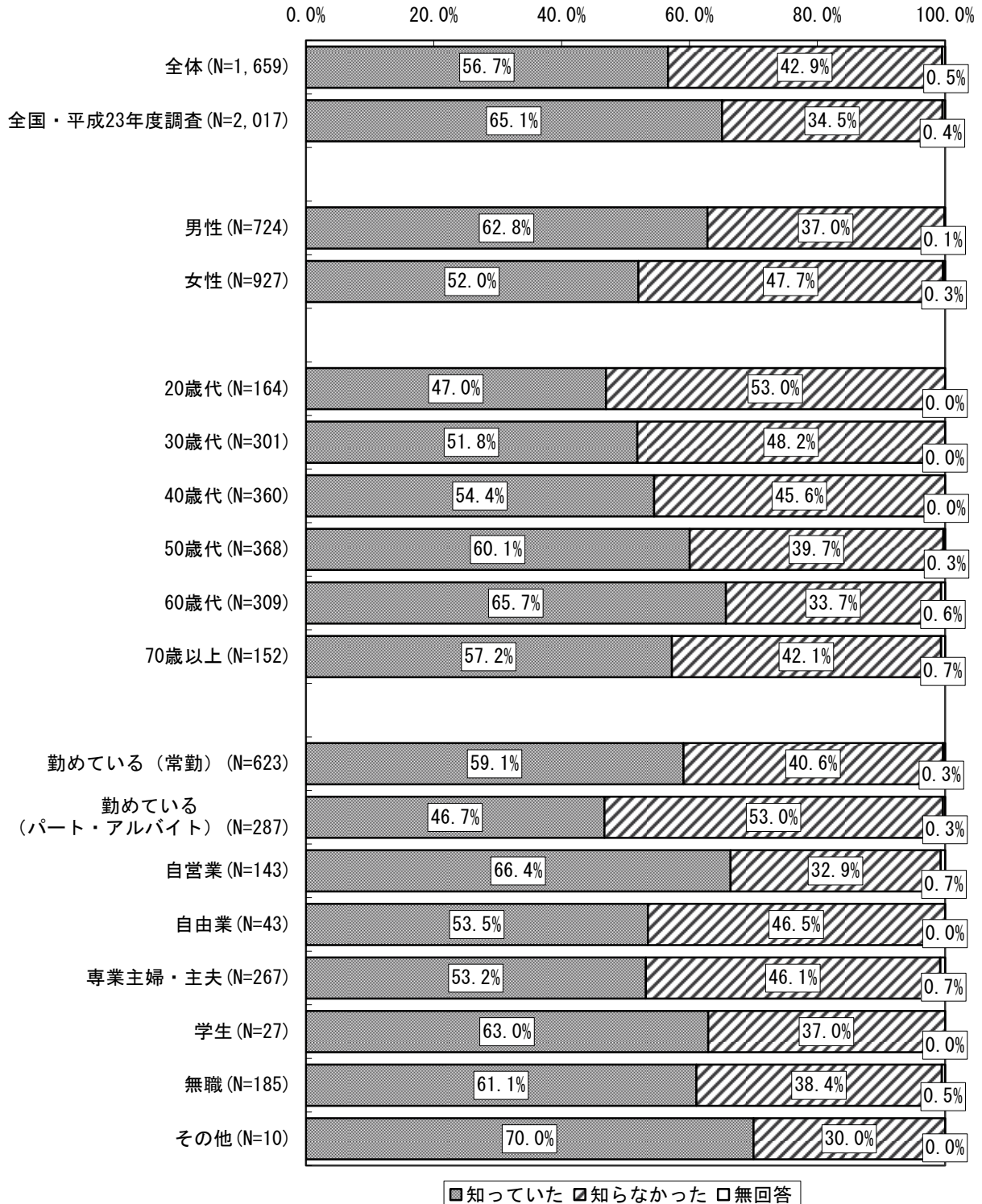
回答者の居住地域は、「大津地域」が22.1%で最も多く、以下、「湖南地域」が20.5%、「東近江地域」が14.8%、「湖北地域」が11.2%などとなっている。

第2章 調査の結果

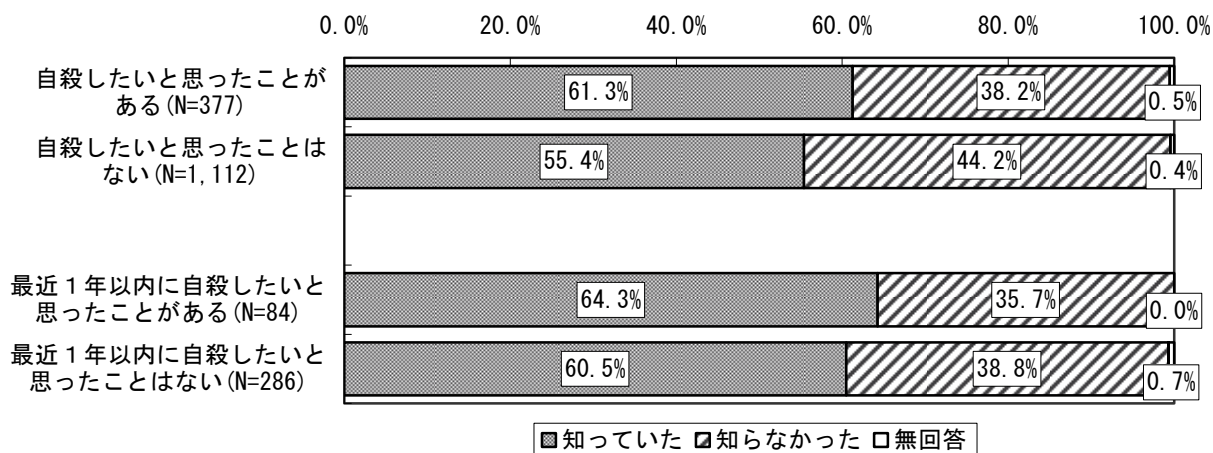
1 自殺の現状等について

問3 我が国の自殺者数は平成10年以降毎年3万人を超える水準となっており、交通事故死者数と比べて約6～7倍となっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。それとも知らなかったですか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

図表 我が国の自殺の実態の認知



図表 我が国の自殺の実態の認知



我が国の自殺の実態の認知をたずねたところ、「知っていた」が56.7%、「知らなかった」が42.9%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「知っていた」が8.4ポイント少なく、「知らなかった」が8.4ポイント多い。

性別にみると、男女ともに「知っていた」が「知らなかった」を上回っている。「知っていた」は、男性（62.8%）が女性（52.0%）に比べて10.8ポイント多い。

年齢別にみると、20歳代では「知らなかった」が「知っていた」を上回っているが、30歳代以上では「知っていた」が「知らなかった」を上回っている。「知っていた」は60歳代を最多として年齢層が高いほどが多い傾向となっている。

職業別にみると、「勤めている（パート・アルバイト）」では、「知らなかった」が「知っていた」を上回っており、他の職業では「知っていた」が「知らなかった」を上回っている。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「知っていた」は、「自殺したいと思ったことがある」人（以下、「過去に自殺願望あり群」と言う）（61.3%）が「自殺したいと思ったことはない」人（以下、「過去に自殺願望なし群」と言う）（55.4%）に比べて5.9ポイント多い。

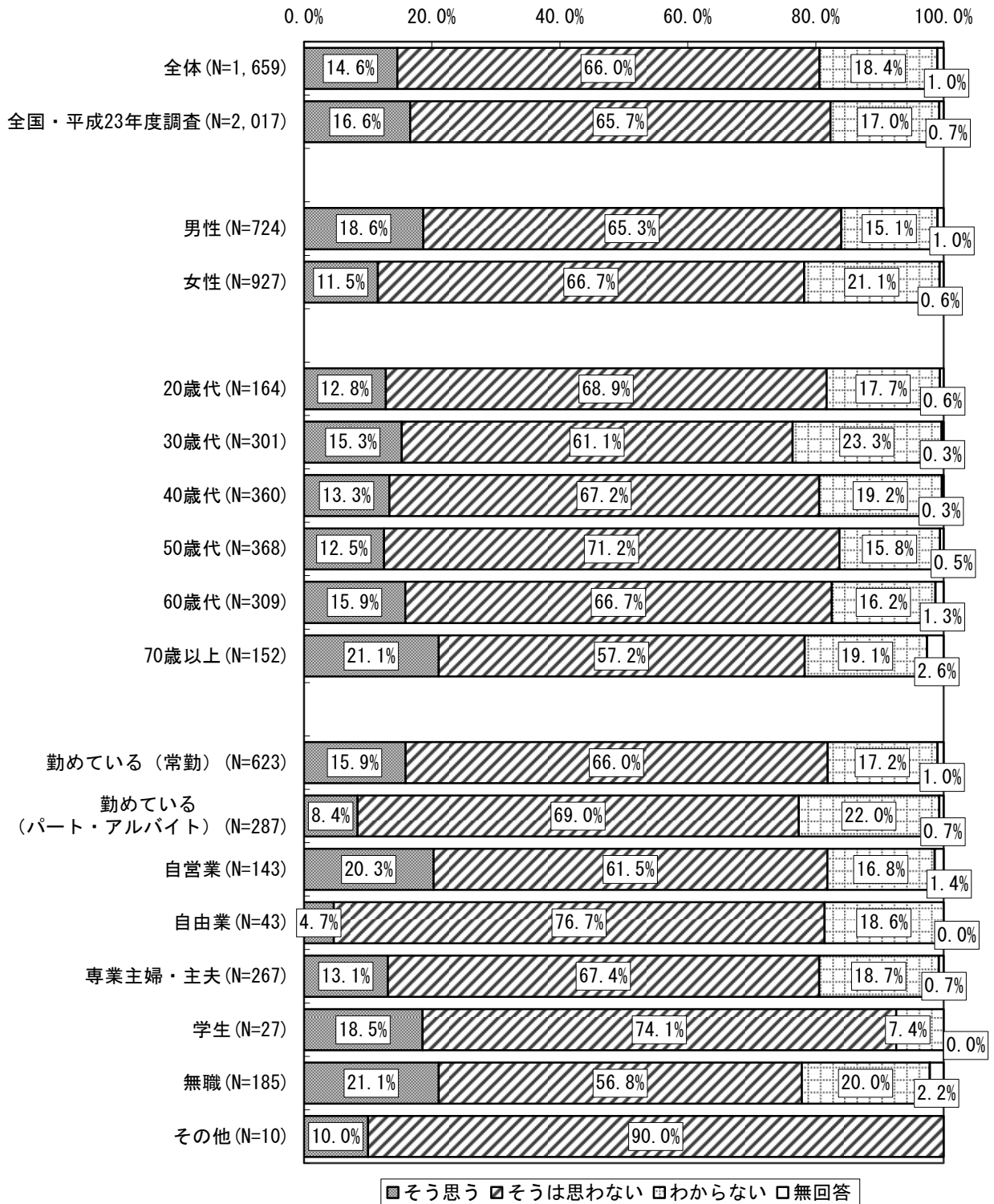
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「知っていた」は、最近1年以内に自殺したいと思ったことが「ある」人（以下、「1年以内自殺願望あり群」と言う）（64.3%）が「ない」人（以下、「1年以内自殺願望なし群」と言う）（60.5%）に比べて3.8ポイント多い。

以下の分析における、分析区分の表記・呼称について

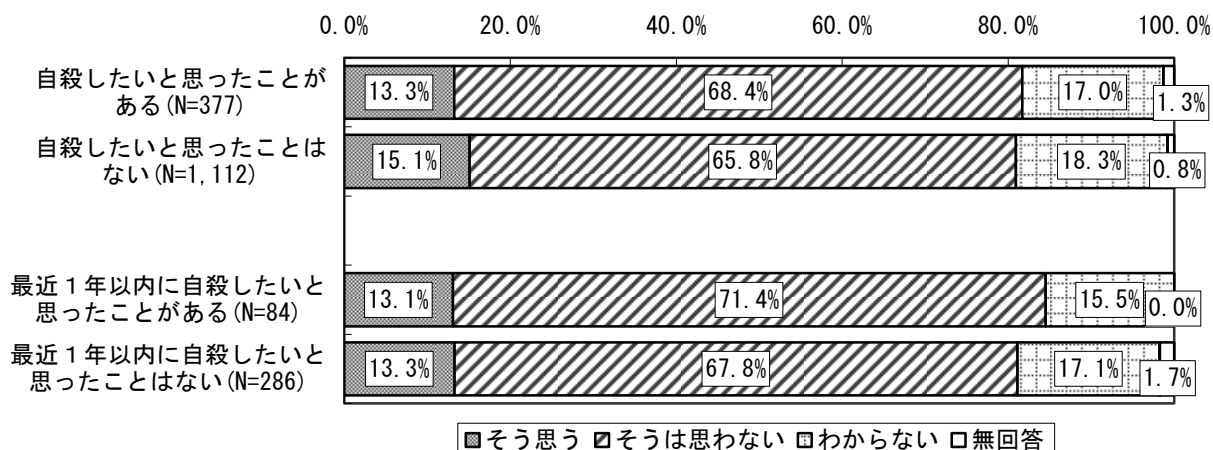
- 「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無」による分析においては、これまでに自殺したいと思ったことが「ある」回答者を「過去に自殺願望あり群」、自殺したいと思ったことが「ない」回答者を「過去に自殺願望なし群」と表記する。
- 「最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無」による分析においては、最近1年以内に自殺したいと思ったことが「ある」回答者を「1年以内自殺願望あり群」、最近1年以内に自殺したいと思ったことが「ない」回答者を「1年以内自殺願望なし群」と表記する。

問4 自殺は個人の問題であるといわれていることについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 自殺は個人の問題といわれることに対する意識



図表 自殺は個人の問題といわれることに対する意識



自殺は個人の問題といわれることに対する意識をたずねたところ、「そう思わない」が66.0%で最も多く、以下「わからない」が18.4%、「そう思う」が14.6%となっている。

全国調査と比較すると、いずれの選択肢も2ポイント以内の差となっており、回答傾向に大差はない。

性別にみると、「そう思う」は、男性（18.6%）が女性（11.5%）に比べて7.1ポイント多く、「わからない」は、女性（21.1%）が男性（15.1%）に比べて6.0ポイント多い。

年齢別にみると、「そう思う」は70歳以上が21.1%で最も多く、60歳代以下ではいずれの年齢層でも10%台となっている。逆に、「そう思わない」は50歳代が71.2%で最も多く、70歳以上が57.2%で最も少ない。

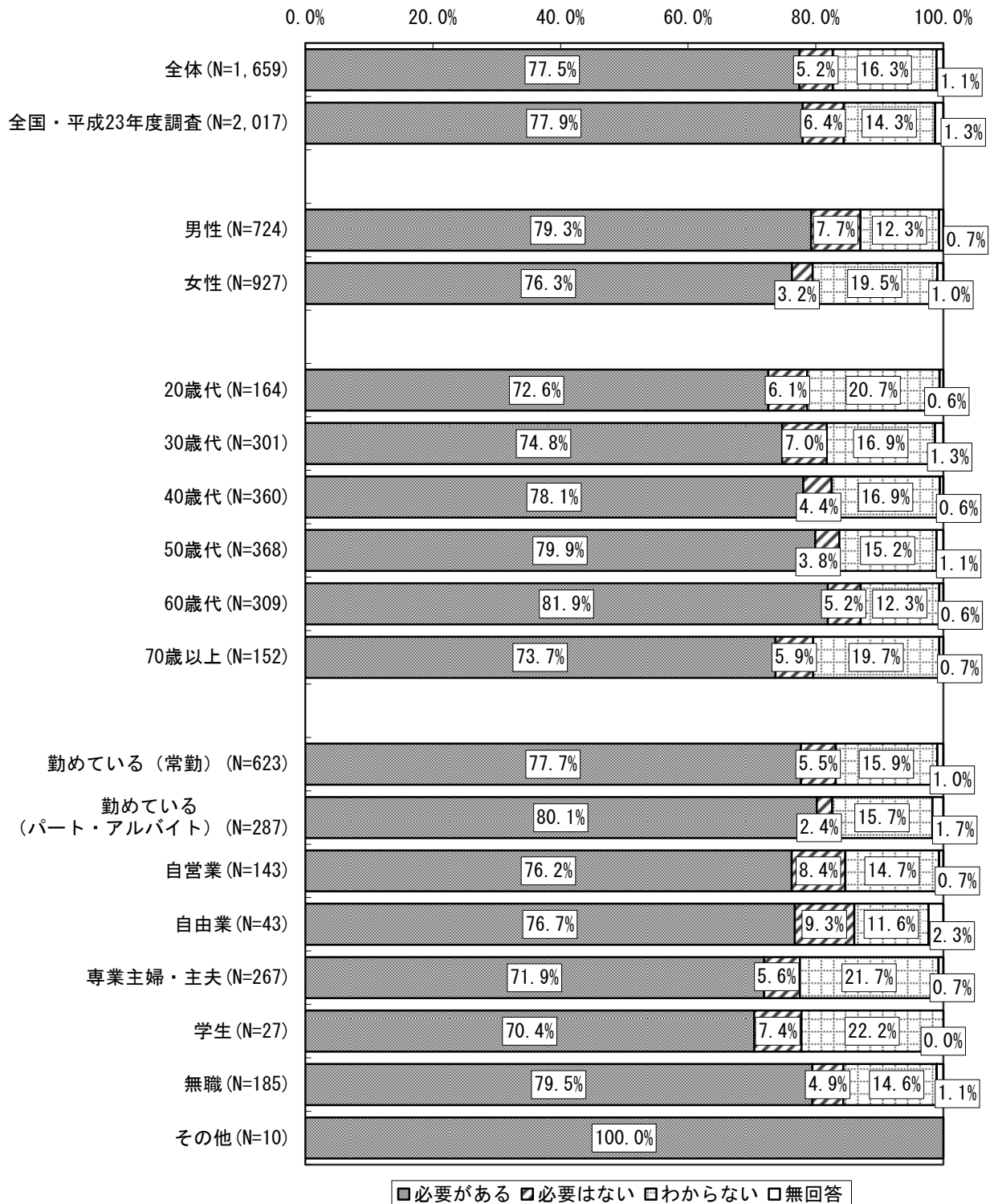
職業別にみると、「そう思わない」は、「自由業」（76.7%）、集計母数は少ないが、「学生」（74.1%）で4分の3前後と特に多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、「過去に自殺願望なし群」が15.1%、「過去に自殺願望あり群」が13.3%で、大差はない。また、「そう思わない」は、「過去に自殺願望あり群」が68.4%、「過去に自殺願望なし群」が65.8%で、大差はない。

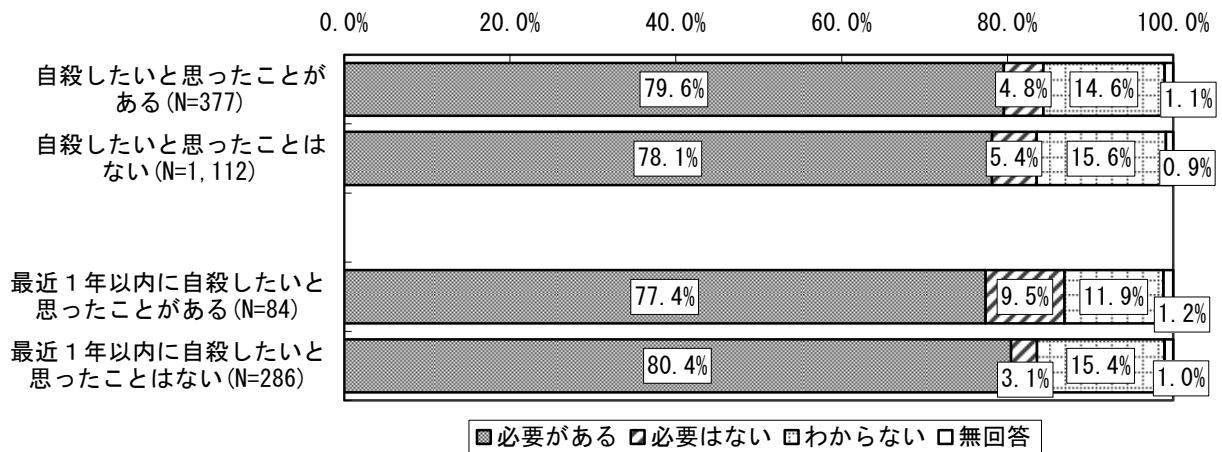
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、「1年以内自殺願望なし群」が13.3%、「1年以内自殺願望あり群」が13.1%で、大差はない。「そう思わない」は、「1年以内自殺願望あり群」（71.4%）が「1年以内自殺願望なし群」（67.8%）に比べて3.6ポイント多い。

問5 自殺対策は社会的な取組として実施する必要があると思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 自殺対策を社会的な取組として実施する必要性に対する意識



図表 自殺対策を社会的な取組として実施する必要性に対する意識



自殺対策を社会的な取組として実施する必要性に対する意識をたずねたところ、「必要がある」が77.5%で最も多く、以下、「わからない」が16.3%、「必要はない」が5.2%となっている。

全国調査と比較すると、いずれの選択肢も2ポイント以内の差となっており、回答傾向に大差はない。

性別にみると、「必要がある」は、男性（79.3%）が女性（76.3%）に比べて3.0ポイント多く、「必要はない」も男性（7.7%）が女性（3.2%）に比べて4.5ポイント多い。他方、「わからない」は、女性（19.5%）が男性（12.3%）に比べて7.2ポイント多い。

年齢別にみると、60歳代を最多として年齢層が高いほど「必要がある」が多い傾向となっており、「わからない」が少ない傾向となっている。「必要はない」は、50歳代が3.8%で最も少なく、30歳代が7.0%で最も多い。

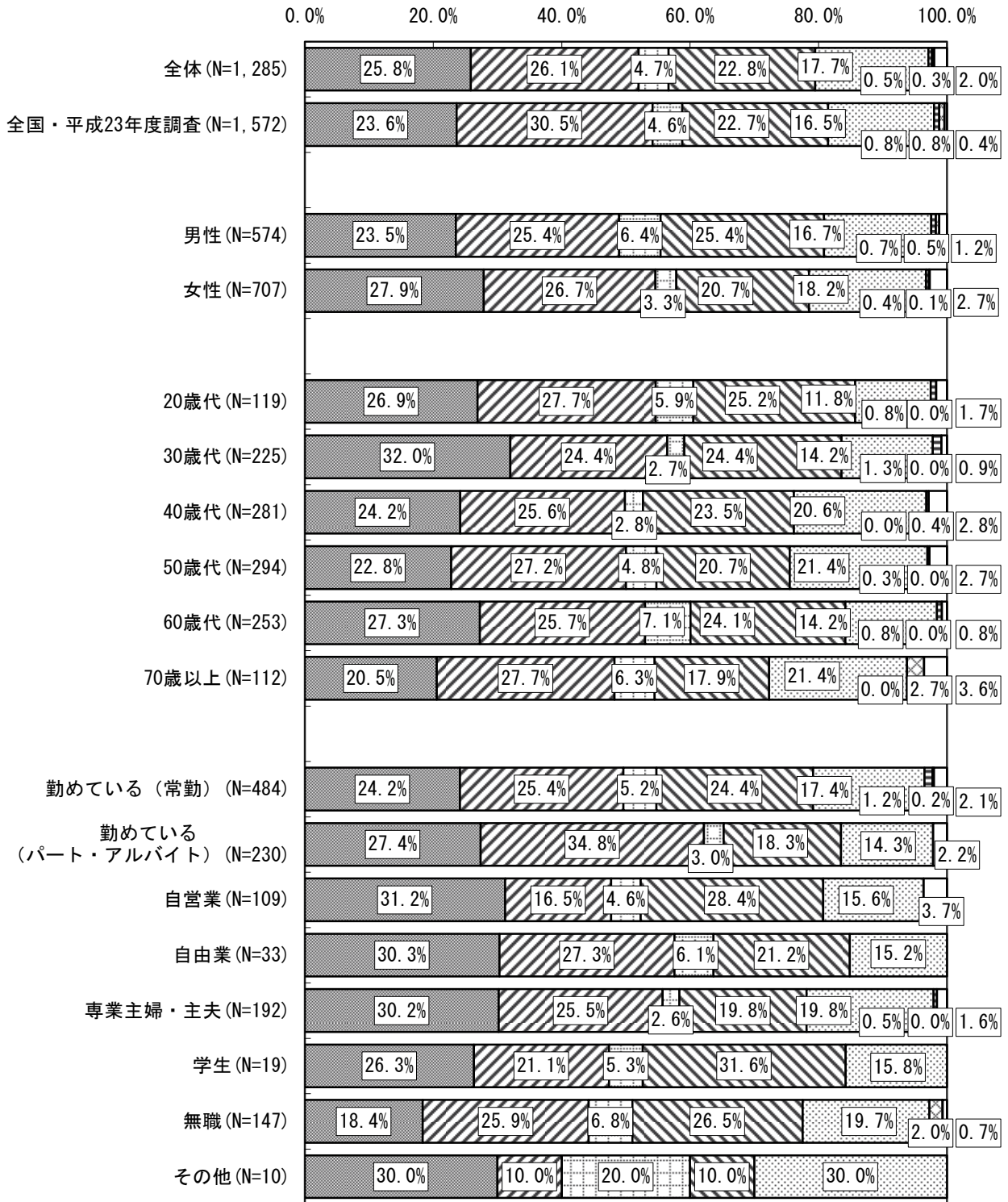
職業別にみると、いずれの職業でも「必要がある」が70%以上を占め、「勤めている（パート・アルバイト）」や「無職」では約80%と特に多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「必要がある」は、「過去に自殺願望あり群」が79.6%、「過去に自殺願望なし群」が78.1%で、大差はない。また、「必要はない」や「わからない」も、「過去に自殺願望あり群」と「過去に自殺願望なし群」とで1ポイント以内の差となっており、大差はない。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「必要がある」は、「1年以内自殺願望なし群」（80.4%）が「1年以内自殺願望あり群」（77.4%）に比べて3.0ポイント多く、「必要はない」は、「1年以内自殺願望あり群」（9.5%）が「1年以内自殺願望なし群」（3.1%）に比べて6.4ポイント多い。

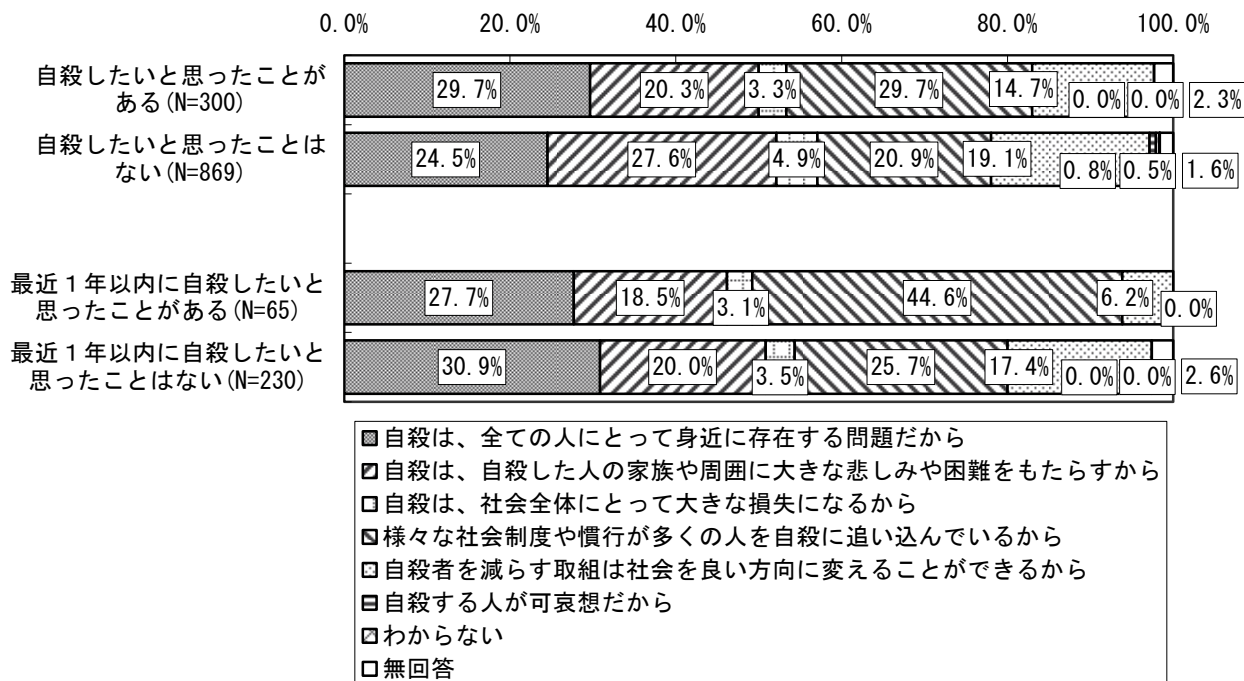
問6 問5で「1 必要がある」とお答えの方にお聞きします。そのように思うのはなぜですか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 自殺対策を社会的な取組として実施する必要があると思う理由



- 自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから
- 自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから
- 自殺は、社会全体にとって大きな損失になるから
- 様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから
- 自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから
- 自殺する人が可哀想だから
- わからない
- 無回答

図表 自殺対策を社会的な取組として実施する必要があると思う理由



自殺対策を社会的な取組として実施する必要があると回答した人に対して、その理由をたずねたところ、「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が26.1%で最も多く、以下、「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」が25.8%、「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」が22.8%、「自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから」が17.7%などとなっている。

全国調査と比較すると、「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」は本調査が4.4ポイント少ないが、回答傾向に大差はない。

性別にみると、「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」は、男性（25.4%）が女性（20.7%）に比べて4.7ポイント多く、「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」は、女性（27.9%）が男性（23.5%）に比べて4.4ポイント多い。

年齢別にみると、20歳代・40歳代・50歳代・70歳以上では「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が最も多く、30歳代と60歳代では「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」が最も多い。

職業別にみると、常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」では「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」、「自営業」・「自由業」・「専業主婦・主夫」では「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」、「学生」と「無職」では「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」がそれぞれ最も多い。

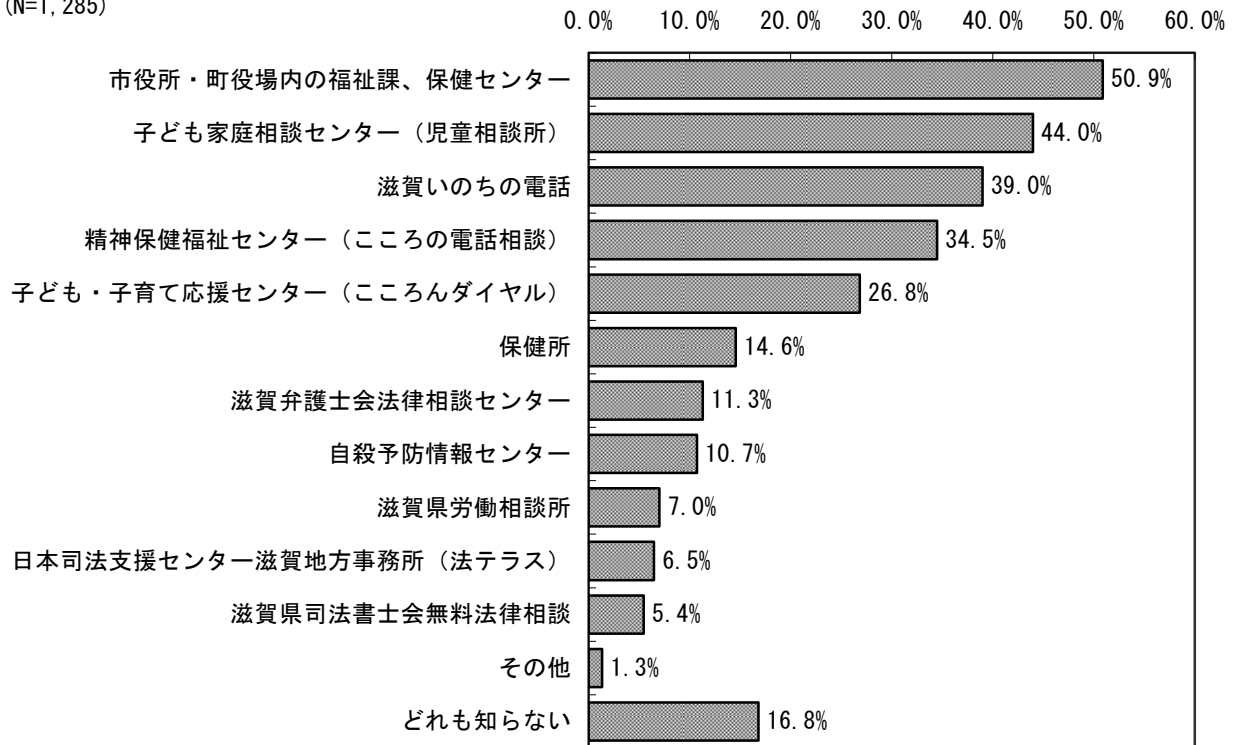
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「過去に自殺願望なし群」では「自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから」が最も多く、「過去に自殺願望あり群」に比べて7.3ポイント多い。また、「過去に自殺願望あり群」では「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」と「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」が同率で最も多く、ともに「過去に自殺願望なし群」に比べて5ポイント以上多い。このほか、「自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから」は、「過去に自殺願望なし群」(19.1%)が「過去に自殺願望あり群」(14.7%)に比べて4.4ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」が最も多く、「1年以内自殺願望なし群」では「自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから」が最も多い。「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」は、「1年以内自殺願望あり群」(44.6%)が「1年以内自殺願望なし群」(25.7%)に比べて18.9ポイント多い。また、「自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから」は、「1年以内自殺願望なし群」(17.4%)が「1年以内自殺願望あり群」(6.2%)に比べて11.2ポイント多い。

問7 問5で「1 必要がある」とお答えの方にお聞きします。悩みの相談先について、あなたは以下の相談機関（窓口）を知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。

図表 悩みに関する相談機関・窓口の認知状況（複数回答）

(N=1,285)



※「その他」・「どれも知らない」を含まずに、結果が多い順に図示

自殺対策を社会的な取組として実施する必要があると回答した人に対して、悩みに関する相談機関・窓口の認知状況をたずねたところ、「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」が50.9%で最も多く、以下、「子ども家庭相談センター（児童相談所）」が44.0%、「滋賀いのちの電話」が39.0%、「精神保健福祉センター（こころの電話相談）」が34.5%などとなっている。「どれも知らない」は16.8%となっている。

図表 悩みに関する相談機関・窓口の認知状況（複数回答）

	集計母数	福祉課・保健セン	市役所・町役場内	子ども家庭相談セン	相談（児童相談所）	精神保健福祉セン	自殺予防情報セン	滋賀いのちの電話	保健所	子ども・子育て応援ダイヤル
全体	1,285	50.9%	44.0%	34.5%	10.7%	39.0%	14.6%	26.8%		
性別	男性	574	44.9%	33.8%	25.3%	10.3%	32.1%	10.6%	18.3%	
	女性	707	55.6%	52.3%	42.0%	11.2%	44.7%	17.8%	33.9%	
年齢	20歳代	119	42.0%	40.3%	30.3%	6.7%	28.6%	16.8%	32.8%	
	30歳代	225	44.0%	44.9%	27.1%	9.3%	27.1%	15.6%	26.2%	
	40歳代	281	45.2%	46.6%	34.2%	10.7%	42.0%	12.8%	29.9%	
	50歳代	294	55.1%	44.2%	38.8%	9.9%	54.4%	15.6%	24.1%	
	60歳代	253	56.9%	41.5%	35.6%	12.3%	36.0%	15.4%	26.1%	
	70歳以上	112	64.3%	44.6%	41.1%	17.0%	33.0%	9.8%	23.2%	
職業	勤めている（常勤）	484	45.2%	39.7%	29.1%	7.4%	40.5%	14.7%	23.6%	
	勤めている（パート・アルバイト）	230	51.7%	54.3%	40.9%	11.7%	41.3%	13.9%	33.9%	
	自営業	109	54.1%	44.0%	23.9%	10.1%	34.9%	11.9%	18.3%	
	自由業	33	39.4%	33.3%	45.5%	21.2%	39.4%	6.1%	33.3%	
	専業主婦・主夫	192	63.5%	54.2%	43.2%	10.9%	44.3%	18.2%	32.3%	
	学生	19	42.1%	21.1%	36.8%	5.3%	36.8%	26.3%	57.9%	
	無職	147	51.0%	34.0%	32.0%	18.4%	28.6%	10.9%	17.7%	
その他	10	60.0%	60.0%	40.0%	10.0%	40.0%	20.0%	30.0%		
本気で自殺したいと思ったことの有無	ある	300	48.0%	45.0%	35.7%	11.3%	43.7%	15.7%	29.3%	
	ない	869	52.5%	44.5%	34.4%	10.6%	37.5%	14.5%	26.0%	
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無	ある	65	41.5%	33.8%	27.7%	12.3%	43.1%	10.8%	23.1%	
	ない	230	49.1%	47.4%	37.0%	10.4%	43.9%	17.0%	31.3%	
	集計母数	所々（法テラス）	日本司法支庁支援セン	相談セン	滋賀弁護士会	無料法律相談	滋賀県司法書士会	滋賀県労働相談	その他	どれも知らない
全体	1,285	6.5%	11.3%	5.4%	7.0%	1.3%	16.8%			
性別	男性	574	6.4%	12.5%	4.2%	7.3%	1.4%	24.4%		
	女性	707	6.5%	10.2%	6.4%	6.8%	1.3%	10.6%		
年齢	20歳代	119	5.0%	1.7%	3.4%	3.4%	1.7%	21.0%		
	30歳代	225	7.1%	6.7%	4.9%	5.8%	1.8%	21.8%		
	40歳代	281	7.8%	11.7%	4.3%	6.4%	0.4%	17.4%		
	50歳代	294	7.5%	13.3%	5.1%	8.5%	2.7%	12.9%		
	60歳代	253	6.3%	15.8%	8.7%	9.5%	0.8%	15.4%		
	70歳以上	112	0.9%	14.3%	5.4%	5.4%	0.0%	13.4%		
職業	勤めている（常勤）	484	6.6%	10.5%	3.9%	7.2%	1.0%	20.9%		
	勤めている（パート・アルバイト）	230	4.8%	9.1%	3.9%	6.1%	0.0%	13.0%		
	自営業	109	11.0%	18.3%	9.2%	6.4%	4.6%	19.3%		
	自由業	33	12.1%	21.2%	9.1%	9.1%	9.1%	21.2%		
	専業主婦・主夫	192	4.2%	10.4%	7.3%	6.3%	0.5%	6.3%		
	学生	19	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	21.1%		
	無職	147	7.5%	13.6%	6.8%	8.2%	0.0%	19.7%		
その他	10	10.0%	10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%			
本気で自殺したいと思ったことの有無別	ある	300	9.0%	11.7%	7.0%	6.3%	2.3%	15.7%		
	ない	869	5.5%	11.0%	5.1%	7.8%	1.0%	16.7%		
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別	ある	65	12.3%	7.7%	1.5%	4.6%	3.1%	23.1%		
	ない	230	8.3%	13.0%	8.7%	7.0%	2.2%	13.5%		

性別にみると、男女ともに「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」が最も多いが、女性（55.6%）が男性（44.9%）に比べて10.7ポイント多い。また、「子ども家庭相談センター（児童相談所）」・「精神保健福祉センター（こころの電話相談）」・「子ども・子育て応援センター（こころんダイヤル）」・「滋賀いのちの電話」も女性が男性に比べて10ポイント以上多く、男女差が大きい。「どれも知らない」は、男性（24.4%）が女性（10.6%）に比べて13.8ポイント多い。

年齢別にみると、30歳代と40歳代では「子ども家庭相談センター（児童相談所）」が最も多く、他の年齢層では「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」が最も多い。「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」や「滋賀弁護士会法律相談センター」は、年齢層が高いほど多い傾向となっている。「どれも知らない」は、年齢層が低いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、「勤めている（パート・アルバイト）」では「子ども家庭相談センター（児童相談所）」、「自由業」では「精神保健福祉センター（こころの電話相談）」、他の職業では「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」がそれぞれ最も多い。「どれも知らない」は、「勤めている（常勤）」のほか、集計母数は少ないが、「自由業」や「学生」でも20%を超え、他の職業に比べてやや多い。

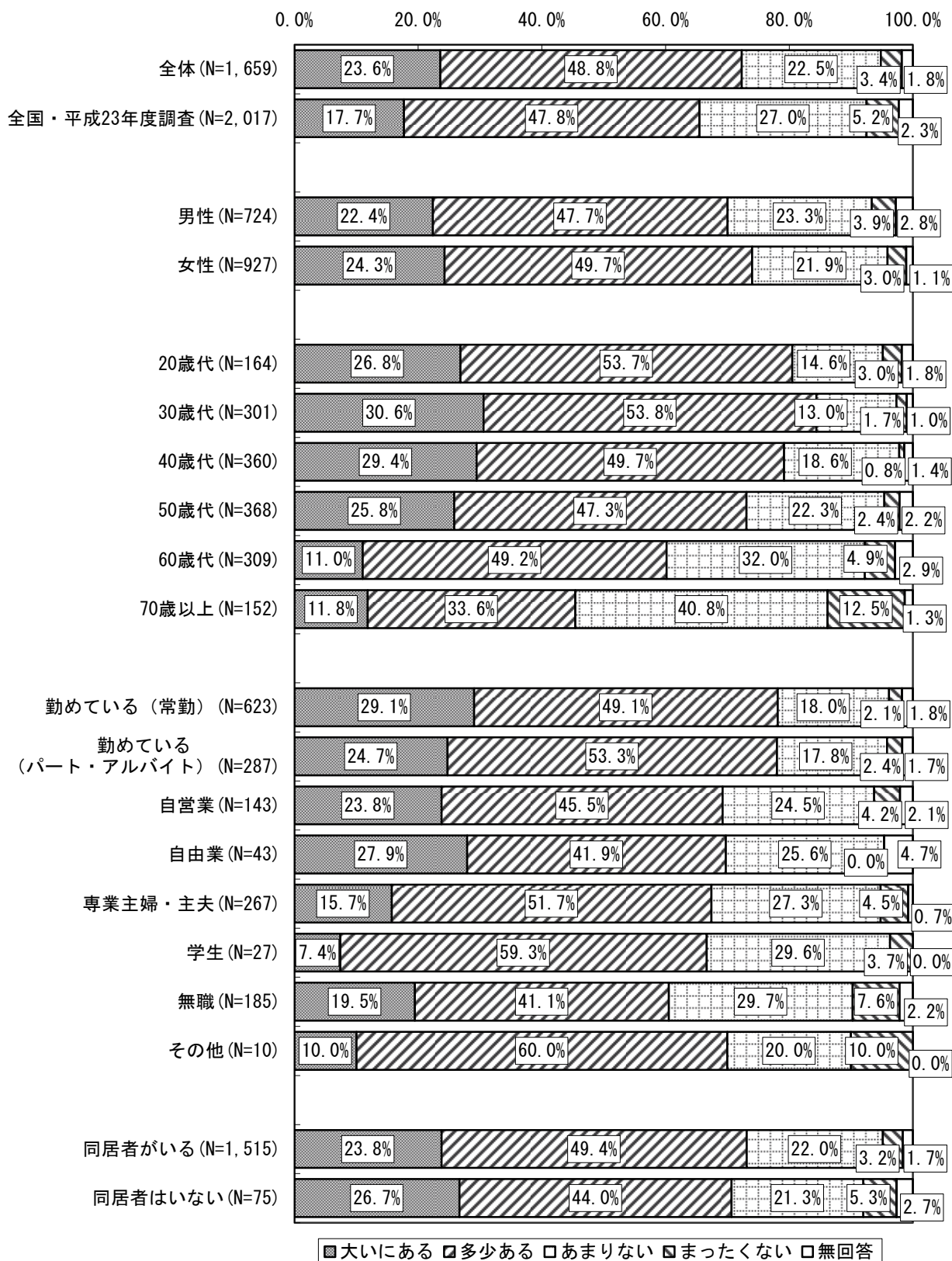
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」が最も多く、以下、「子ども家庭相談センター（児童相談所）」、「滋賀いのちの電話」などとなっている。「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」は、「過去に自殺願望なし群」（52.5%）が「過去に自殺願望あり群」（48.0%）に比べて4.5ポイント多い。また、「滋賀いのちの電話」は、「過去に自殺願望あり群」（43.7%）が「過去に自殺願望なし群」（37.5%）に比べて6.2ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「滋賀いのちの電話」が最も多く、次いで「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」となっている。「1年以内自殺願望なし群」では「市役所・町役場内の福祉課、保健センター」が最も多く、次いで「子ども家庭相談センター（児童相談所）」となっている。「どれも知らない」は、「1年以内自殺願望あり群」（23.1%）が「1年以内自殺願望なし群」（13.5%）に比べて9.6ポイント多い。

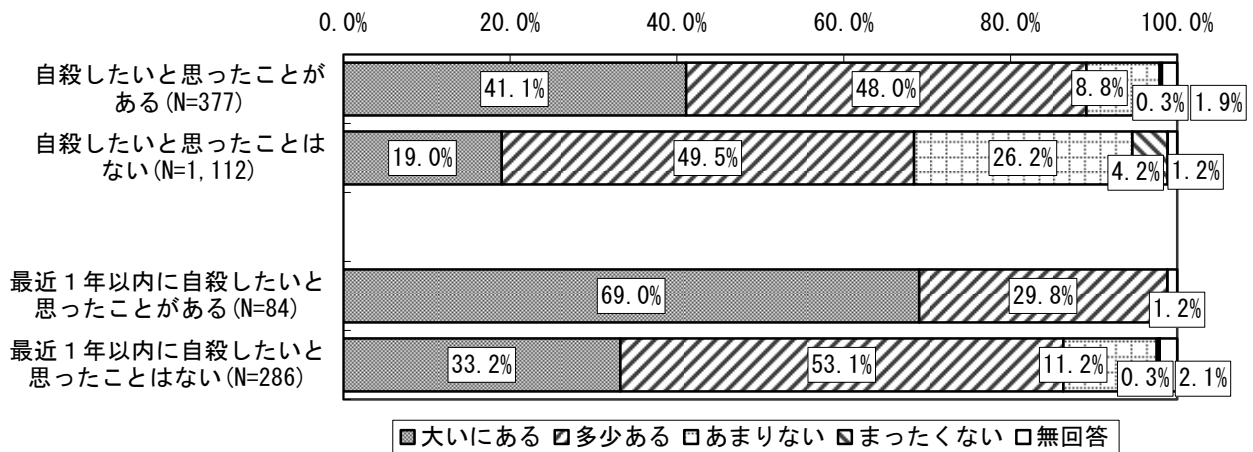
2 悩みやストレスに関することについて

問8 あなたは、この1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦労、ストレスを感じたことなどがありましたか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

図表 この1ヶ月間に日常生活で不満・悩み・苦労・ストレスを感じたことの有無と程度



図表 この1ヶ月間に日常生活で不満・悩み・苦労・ストレスを感じたことの有無と程度



この1ヶ月間に日常生活で不満・悩み・苦労・ストレスを感じたことの有無と程度をたずねたところ、「多少ある」が48.8%で最も多く、次いで「大いにある」が23.6%となっており、これらを合わせた「不満や悩み等があった」人は72.4%となっている。逆に、「まったくない」と「あまりない」を合わせた「不満や悩み等がなかった」人は25.9%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「大いにある」が5.9ポイント多く、「あまりない」が4.5ポイント少ない。また、本調査では「不満や悩み等があった」人は6.9ポイント多く、「不満や悩み等がなかった」人は6.3ポイント少ない。

性別にみると、「不満や悩み等があった」人は、女性（74.0%）が男性（70.1%）に比べて3.9ポイント多い。

年齢別にみると、「不満や悩み等があった」人は年齢層が低いほど多い傾向となっており、40歳代以下では4分の3以上を占めている。また、50歳代以下では、不満や悩み等が「大いにある」が4分の1以上を占め、60歳代以上に比べて10ポイント以上多い。

職業別にみると、「不満や悩み等があった」人は、常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」では78%を占めて特に多く、同じく就労者である「自営業」（69.3%）や「自由業」（69.8%）に比べて10ポイント近く多い。不満や悩み等が「大いにある」は、「勤めている（常勤）」（29.1%）や「自由業」（27.9%）が、「勤めている（パート・アルバイト）」（24.7%）や「自営業」（23.8%）に比べてやや多い。

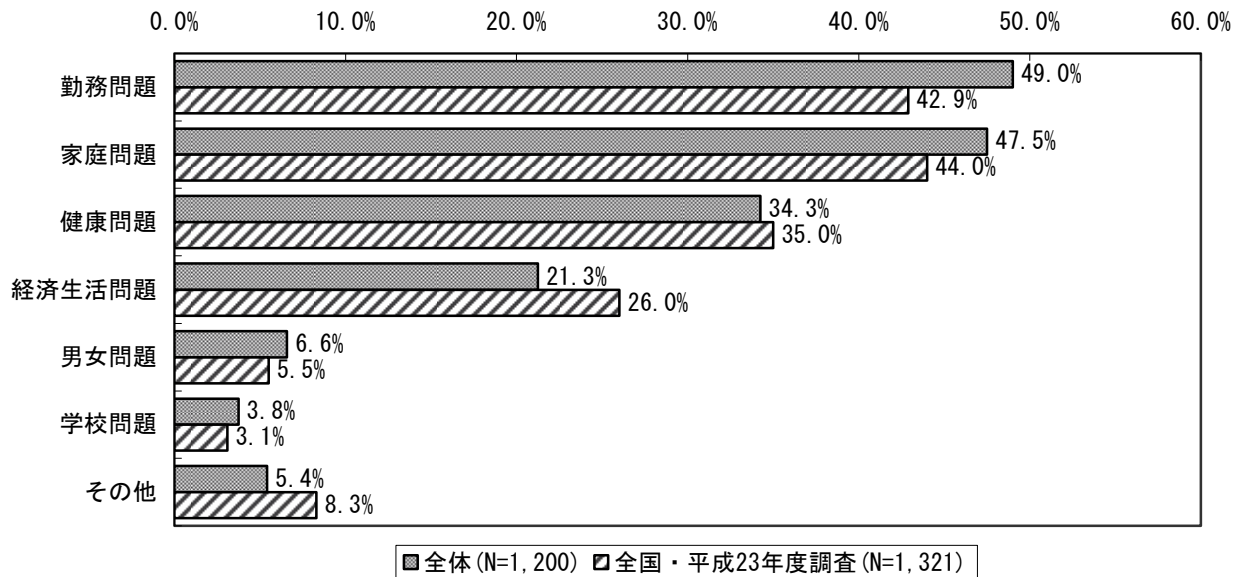
同居者の有無別にみると、「不満や悩み等があった」人は、同居者が「いる」人が73.2%、「いない」人が70.7%で、大差はない。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「不満や悩み等があった」人は、「過去に自殺願望あり群」（89.1%）が「過去に自殺願望なし群」（68.5%）に比べて20.6ポイント多く、特に「大いにある」は22.1ポイントの差がみられる。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「不満や悩み等があった」人は、「1年以内自殺願望あり群」が98.8%、「1年以内自殺願望なし群」が86.3%となっており、特に「大いにある」は35.8ポイントの差がみられる。

問9 問8で「1 大いにある」または「2 多少ある」とお答えの方にお聞きします。それは、どのようなことが原因ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 この1ヶ月間に日常生活で感じた不満や悩み等の内容（複数回答）



※「その他」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

この1ヶ月間に日常生活で感じた不満や悩み等を感じたことがある人に対して、その内容をたずねたところ、「勤務問題」が49.0%で最も多く、以下、「家庭問題」が47.5%、「健康問題」が34.3%、「経済生活問題」が21.3%などとなっている。

全国調査と比較すると、本調査では「勤務問題」や「家庭問題」が全国調査に比べて多く、「経済生活問題」が全国調査に比べて少ない。「健康問題」や「男女問題」、「学校問題」は、大差はない。

図表 この1ヶ月間に日常生活で感じた不満や悩み等の内容（複数回答）

		集計母数	家庭問題	健康問題	経済生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
全体		1,200	47.5%	34.3%	21.3%	49.0%	6.6%	3.8%	5.4%
性別	男性	507	33.1%	29.6%	25.4%	61.5%	5.9%	3.2%	4.7%
	女性	686	58.5%	37.8%	18.2%	39.7%	7.1%	4.1%	6.0%
年齢	20歳代	132	23.5%	18.9%	14.4%	71.2%	17.4%	5.3%	6.1%
	30歳代	254	45.7%	24.0%	23.2%	62.2%	10.6%	4.3%	3.5%
	40歳代	285	53.7%	29.1%	27.0%	56.5%	4.6%	6.3%	4.9%
	50歳代	269	54.3%	37.2%	23.0%	50.6%	3.3%	2.6%	4.5%
	60歳代	186	50.5%	51.6%	16.7%	18.3%	2.2%	0.5%	7.0%
	70歳以上	69	42.0%	63.8%	10.1%	2.9%	4.3%	1.4%	13.0%
職業	勤めている（常勤）	487	35.5%	23.0%	17.5%	79.9%	7.2%	2.7%	3.5%
	勤めている（パート・アルバイト）	224	54.9%	37.1%	18.8%	48.7%	6.7%	4.9%	4.5%
	自営業	99	53.5%	33.3%	43.4%	37.4%	4.0%	0.0%	9.1%
	自由業	30	40.0%	33.3%	36.7%	43.3%	10.0%	10.0%	16.7%
	専業主婦・主夫	180	73.9%	40.6%	15.0%	3.9%	3.3%	4.4%	9.4%
	学生	18	16.7%	27.8%	22.2%	33.3%	27.8%	27.8%	5.6%
	無職	112	42.0%	67.0%	26.8%	6.3%	8.9%	2.7%	3.6%
	その他	7	28.6%	42.9%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%
同居者	いる	1,108	48.1%	33.6%	21.3%	49.4%	6.6%	3.8%	5.4%
	いない	53	28.3%	45.3%	17.0%	49.1%	9.4%	3.8%	7.5%
本気で自殺した ことの有無	ある	336	52.4%	37.8%	28.0%	50.6%	8.6%	5.4%	6.8%
	ない	761	45.9%	32.7%	19.3%	49.3%	6.2%	3.0%	4.9%
最近1年以内に 自殺したい ことの有無	ある	83	60.2%	37.3%	38.6%	49.4%	13.3%	10.8%	3.6%
	ない	247	49.4%	37.7%	23.9%	51.4%	7.3%	3.2%	7.7%

性別にみると、男性では「勤務問題」が最も多く、以下、「家庭問題」、「健康問題」などとなっている。女性では「家庭問題」が最も多く、以下、「勤務問題」、「健康問題」などとなっている。「家庭問題」や「健康問題」は女性が男性を上回っており、「経済生活問題」や「勤務問題」は男性が女性を上回っている。

年齢別にみると、20歳代～40歳代では「勤務問題」、50歳代では「家庭問題」、60歳代以上では「健康問題」がそれぞれ最も多い。「勤務問題」や「男女問題」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、「健康問題」は年齢層が高いほど多い傾向となっている。また、「家庭問題」は40歳代～60歳代では50%台となっており、他の年齢層に比べて多く、「経済生活問題」は30歳代～50歳代では20%台となっており、他の年齢層に比べて多い。

職業別にみると、「勤めている（常勤）」・「自由業」・「学生」では「勤務問題」が最も多く、特に「勤めている（常勤）」では79.9%と突出している。また、「勤めている（パート・アルバイト）」・「自営業」・「専業主婦・主夫」では「家庭問題」が最も多く、特に「専業主婦・主夫」では73.9%と突出している。

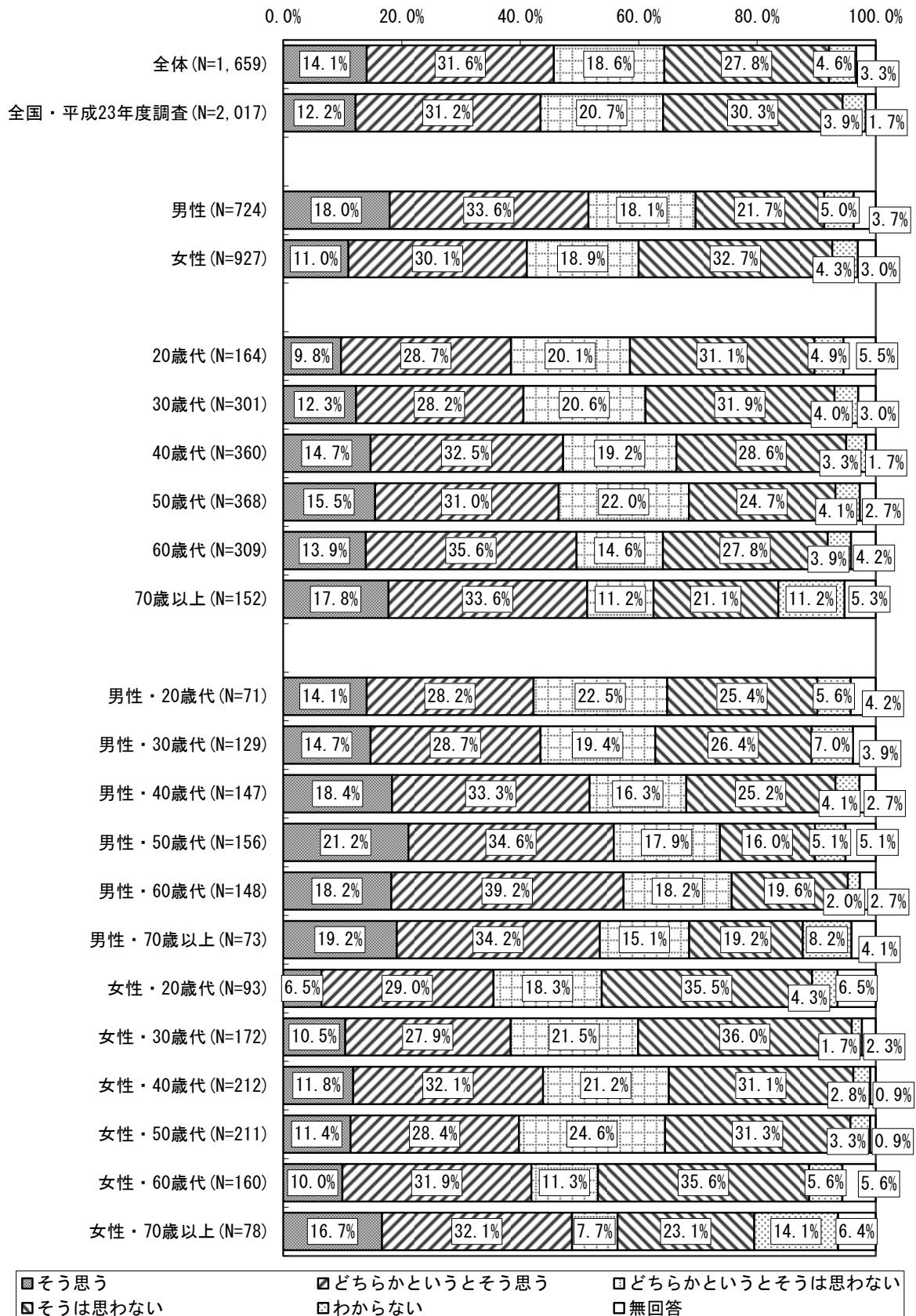
同居者の有無別にみると、同居者の有無に関係なく「勤務問題」が最も多く、以下、同居者が「いる」人では「家庭問題」、「健康問題」、「経済生活問題」などとなっており、同居者が「いない」人では「健康問題」、「家庭問題」、「経済生活問題」などとなっている。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「過去に自殺願望あり群」では「家族問題」が最も多く、次いで「勤務問題」となっている。「過去に自殺願望なし群」では「勤務問題」が最も多く、次いで「家族問題」となっており、差の大小はあるものの、いずれの項目も「過去に自殺願望あり群」が「過去に自殺願望なし群」に比べて多い。

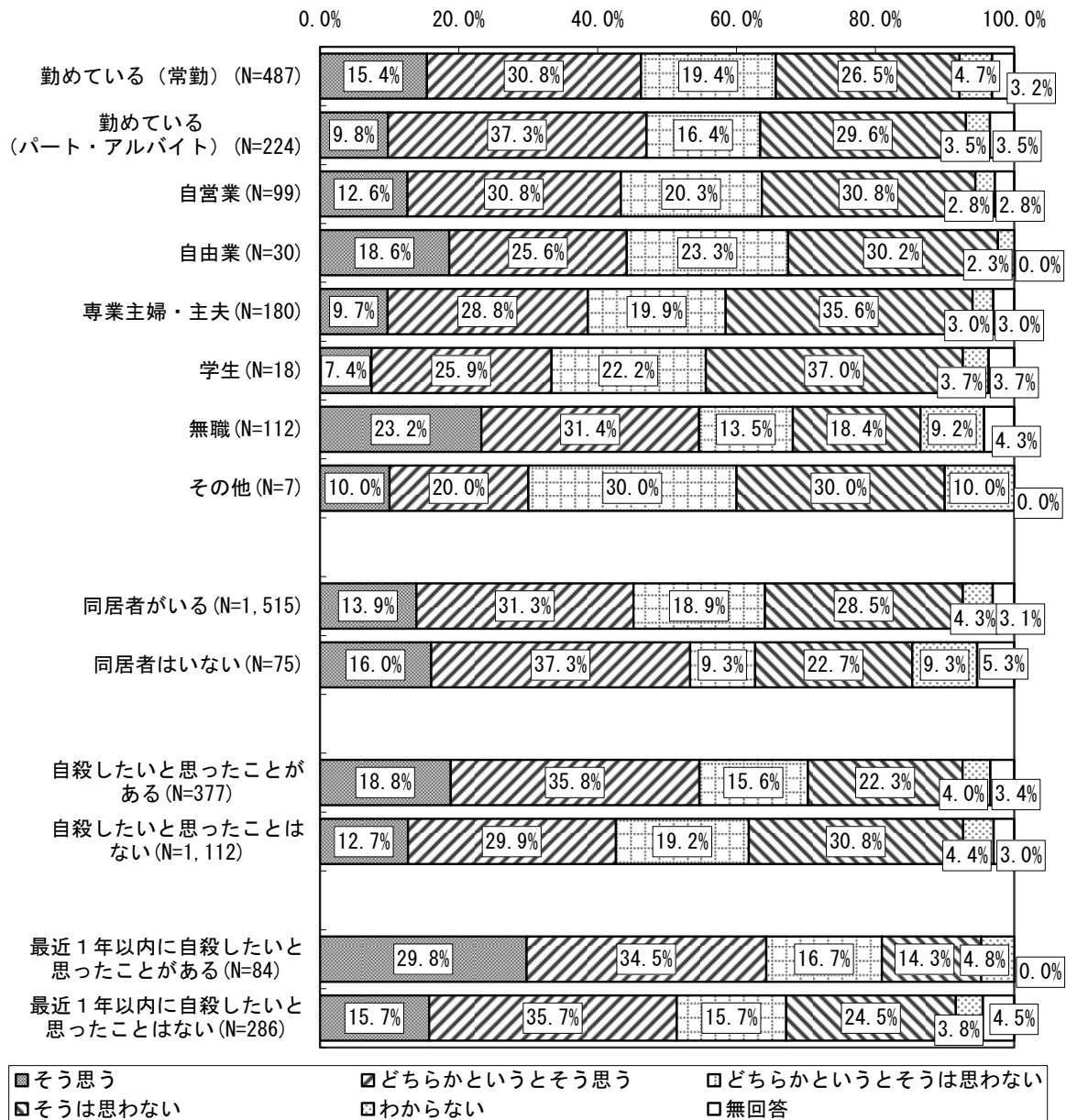
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「家族問題」が最も多く、「1年以内自殺願望なし群」に比べて10.8ポイント多い。「勤務問題」や「健康問題」を除いて、いずれも「1年以内自殺願望あり群」人が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多い。

問10 あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたときなどに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 悩みやストレスがあるときに誰かに相談したり助けを求めたりすることに対するためらいの有無と程度



図表 悩みやストレスがあるときに誰かに相談したり助けを求めたりすることに対するためらいの有無と程度



悩みやストレスがあるときに誰かに相談したり助けを求めたりすることに対するためらいの有無と程度をたずねたところ、「どちらかというと思う」が31.6%で最も多く、これと「そう思う」を合わせた「ためらいを感じる」人は45.7%となっている。逆に、「そう思わない」と「どちらかというとは思わない」を合わせた「ためらいを感じない」人は46.4%で、「ためらいを感じる」人との大差はない。

全国調査と比較すると、本調査では「ためらいを感じる」人は2.3ポイント多く、「ためらいを感じない」人は4.6ポイント少ない。

性別にみると、「ためらいを感じる」人は男性（51.6%）が女性（41.1%）に比べて10.5ポイント多い。強いためらいである「そう思う」も、男性（18.0%）が女性（11.0%）に比べて7.0ポイント多い。逆に、全くためらいを感じない「そう思わない」は、女性（32.7%）が男性（21.7%）に比べて11.0ポイント多い。

年齢別にみると、「ためらいを感じる」人は年齢層が高いほど多い傾向となっており、強いためらいである「そう思う」も同様の傾向となっている。逆に、全くためらいを感じない「そう思わない」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、20歳代と30歳代では30%台となっている。

性・年齢別にみると、「ためらいを感じる」人は、男女ともに年齢層が高いほど多い傾向となっている。また、いずれの年齢層でも男性が女性に比べて多いが、特に男性の40歳代以上では過半数を占めており、「ためらいを感じる」人がより多い傾向にある。

職業別にみると、「ためらいを感じる」人は「無職」が54.6%で最も多く、以下、常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」が46%～47%で続いている。このほかの職業では、いずれも「ためらいを感じない」が過半数を占めている。

同居者の有無別にみると、「ためらいを感じる」人は、同居者が「いない」人（53.3%）が「いる」人（45.2%）に比べて8.1ポイント多い。

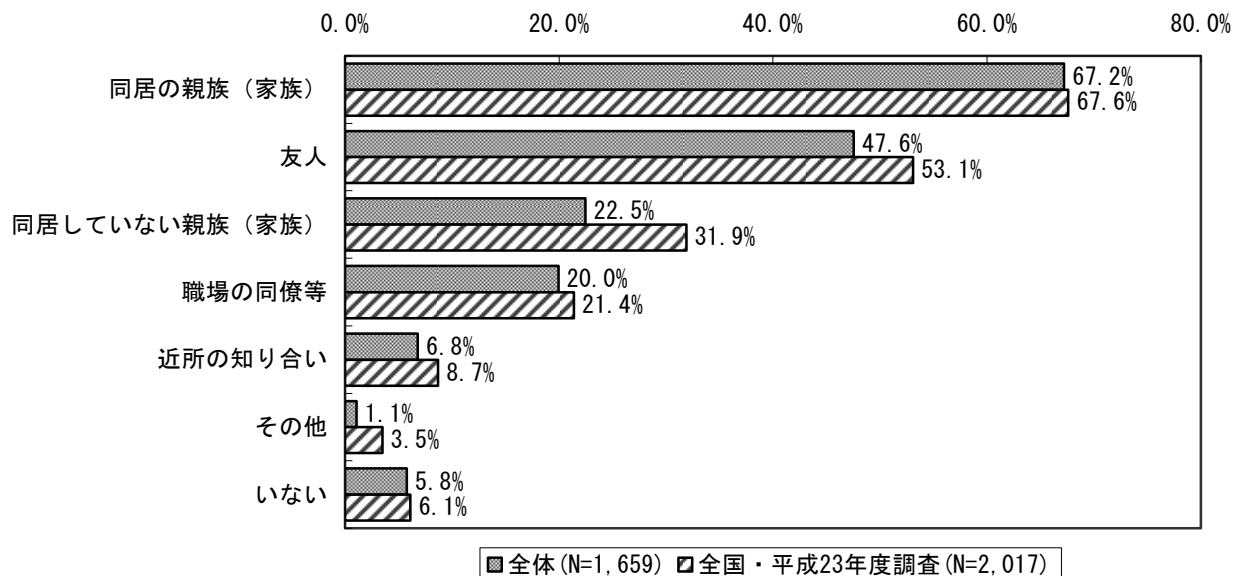
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「ためらいを感じる」人は、「過去に自殺願望あり群」（54.6%）が「過去に自殺願望なし群」（42.6%）に比べて12.0ポイント多く、特に、強いためらいである「そう思う」も、「過去に自殺願望あり群」（18.8%）が「過去に自殺願望なし群」（12.7%）に比べて6.1ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「ためらいを感じる」人は、「1年以内自殺願望あり群」（64.3%）が「1年以内自殺願望なし群」（51.4%）に比べて12.9ポイント多く、特に、強いためらいである「そう思う」も、「1年以内自殺願望あり群」（29.8%）が「1年以内自殺願望なし群」（15.7%）に比べて14.1ポイント多い。

問11 あなたの周囲の人たちとの関係についてお聞きします。(1)と(2)それぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

(1) あなたの不満や悩み、つらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はどなたですか。

図表 不満・悩み・つらい気持ちを受け止めて耳を傾けてくれる人の有無とその人との関係(複数回答)

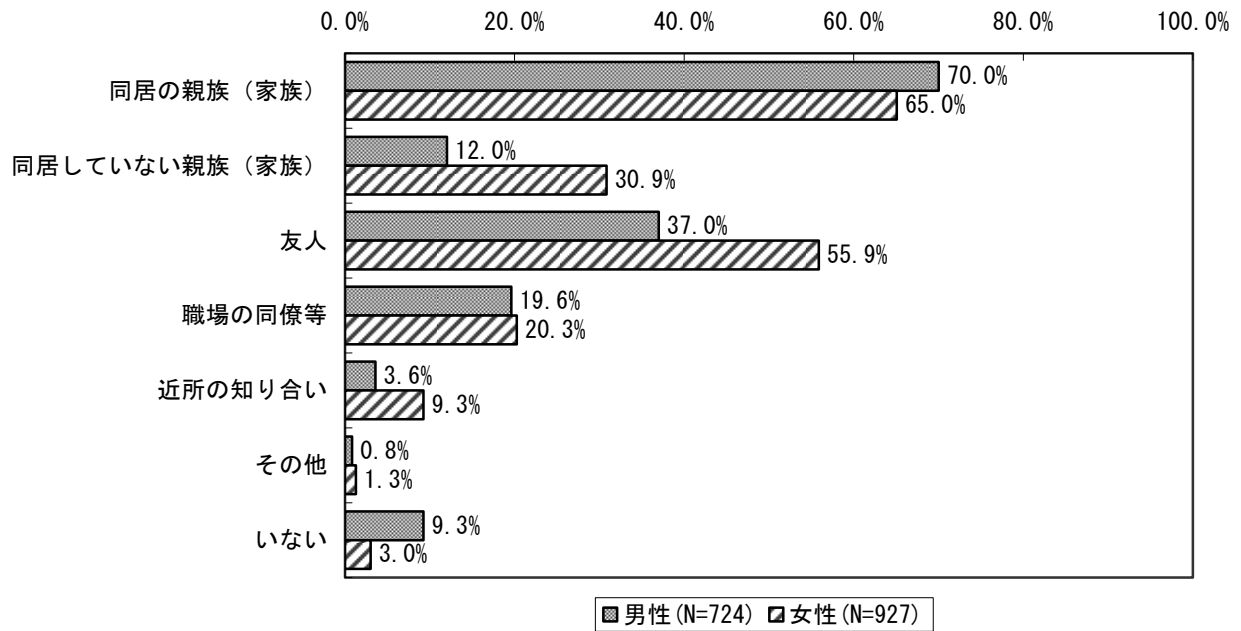


※「その他」・「いない」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

不満・悩み・つらい気持ちを受け止めて耳を傾けてくれる人の有無とその人との関係をたずねたところ、「いない」は5.8%で、いる人との関係についてみると、「同居の親族(家族)」が67.2%で最も多く、以下、「友人」が47.6%、「同居していない親族(家族)」が22.5%、「職場の同僚等」が20.0%、「近所の知り合い」が6.8%などとなっている。

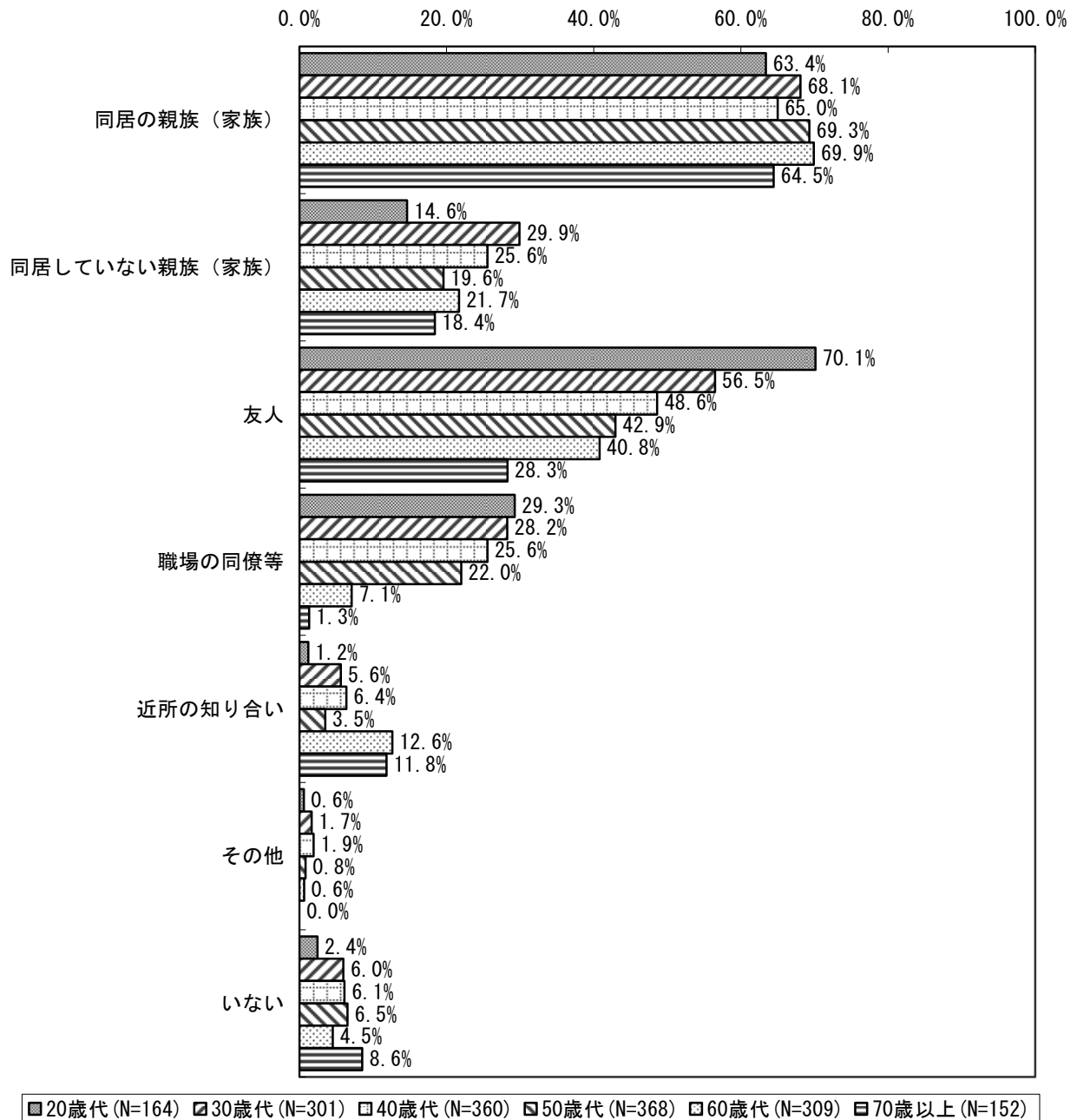
全国調査と比較すると、「同居の親族(家族)」は本調査・全国調査ともに最も多く、0.4ポイント差でほぼ同率となっている。このほか、「同居していない親族(家族)」は本調査が9.4ポイント少なく、「友人」も本調査が5.5ポイント少ない。

図表 性別 不満・悩み・つらい気持ちを受け止めて耳を傾けてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）



性別にみると、男女ともに「同居の親族（家族）」が最も多いが、男性（70.0%）が女性（65.0%）に比べて5.0ポイント多い。以下、男性では「友人」、「職場の同僚」などとなっており、女性では「友人」、「同居していない親族（家族）」が続いている。「いない」は、男性（9.3%）が女性（3.0%）に比べて6.3ポイント多い。

図表 年齢別 不満・悩み・つらい気持ちを受け止めて耳を傾けてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）



年齢別にみると、20歳代では「友人」が最も多く、他の年齢層では「同居の親族（家族）」が最も多い。「同居の親族（家族）」は年齢層が高いほど多い傾向となっており、「友人」や「職場の同僚等」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。「いない」は、70歳以上が8.6%で最も多い。

図表 不満・悩み・つらい気持ちを受け止めて耳を傾けてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）

		集計母数	同居の親族（家族）	同居していない親族（家族）	友人	職場の同僚等	近所の知り合い	その他	いない
全体		1,659	67.2%	22.5%	47.6%	20.0%	6.8%	1.1%	5.8%
性別	男性	724	70.0%	12.0%	37.0%	19.6%	3.6%	0.8%	9.3%
	女性	927	65.0%	30.9%	55.9%	20.3%	9.3%	1.3%	3.0%
年齢	20歳代	164	63.4%	14.6%	70.1%	29.3%	1.2%	0.6%	2.4%
	30歳代	301	68.1%	29.9%	56.5%	28.2%	5.6%	1.7%	6.0%
	40歳代	360	65.0%	25.6%	48.6%	25.6%	6.4%	1.9%	6.1%
	50歳代	368	69.3%	19.6%	42.9%	22.0%	3.5%	0.8%	6.5%
	60歳代	309	69.9%	21.7%	40.8%	7.1%	12.6%	0.6%	4.5%
	70歳以上	152	64.5%	18.4%	28.3%	1.3%	11.8%	0.0%	8.6%
職業	勤めている（常勤）	623	69.3%	16.9%	45.7%	32.9%	2.6%	0.8%	6.4%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	68.3%	26.8%	52.6%	29.6%	9.1%	1.0%	2.4%
	自営業	143	68.5%	18.9%	47.6%	6.3%	5.6%	2.1%	5.6%
	自由業	43	53.5%	16.3%	46.5%	18.6%	4.7%	0.0%	11.6%
	専業主婦・主夫	267	65.5%	38.6%	57.7%	1.9%	13.5%	1.5%	3.0%
	学生	27	66.7%	14.8%	70.4%	14.8%	0.0%	0.0%	3.7%
	無職	185	61.1%	17.8%	31.9%	1.1%	10.3%	1.1%	11.4%
	その他	10	70.0%	20.0%	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%
同居者	いる	1,515	69.2%	22.0%	47.7%	20.1%	6.7%	1.1%	5.1%
	いない	75	24.0%	32.0%	53.3%	22.7%	8.0%	0.0%	16.0%
本気で自殺したいと思ったことの有無	ある	377	57.0%	22.3%	50.7%	18.3%	6.6%	2.7%	10.1%
	ない	1,112	70.4%	22.6%	46.6%	20.3%	6.7%	0.6%	4.7%
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無	ある	84	38.1%	20.2%	36.9%	19.0%	6.0%	2.4%	21.4%
	ない	286	62.2%	23.4%	54.5%	18.5%	7.0%	2.8%	6.6%

職業別にみると、「学生」では「友人」が最も多く、70.4%と突出している。他の職業では「同居の親族（家族）」が最も多い。「職場の同僚等」は、「勤めている（常勤）」が32.9%で最も多く、同様に、「同居していない親族（家族）」は「専業主婦・主夫」が38.6%で最も多い。

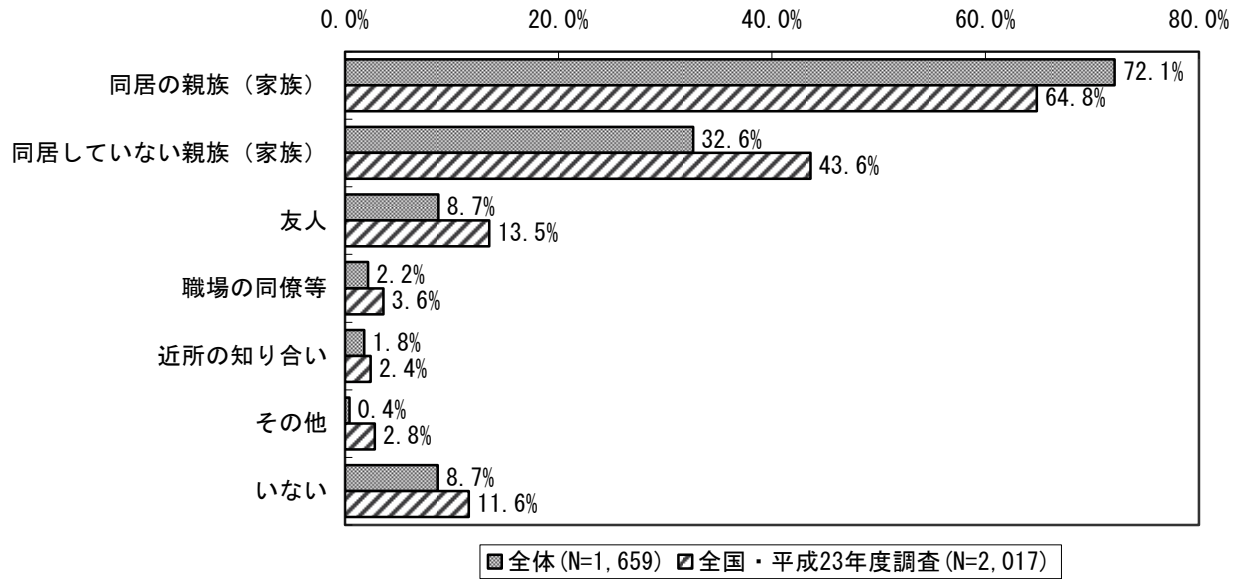
同居者の有無別にみると、同居者が「いる」人では「同居の親族（家族）」が最も多く、同居者が「いない」人では「友人」が最も多い。「いない」は、同居者が「いない」人（16.0%）が「いる」人（5.1%）に比べて10.9ポイント多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「同居の親族（家族）」が最も多いが、「過去に自殺願望なし群」（70.4%）が「過去に自殺願望あり群」（57.0%）に比べて13.4ポイント多い。「友人」は、「過去に自殺願望あり群」（50.7%）が「過去に自殺願望なし群」（46.6%）に比べて4.1ポイント多く、同様に、「いない」は、「過去に自殺願望あり群」（10.1%）が「過去に自殺願望なし群」（4.7%）に比べて5.4ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「同居の親族（家族）」は、「1年以内自殺願望なし群」（62.2%）が「1年以内自殺願望あり群」（38.1%）に比べて24.1ポイント多く、同様に、「友人」は、「1年以内自殺願望なし群」（54.5%）が「1年以内自殺願望あり群」（36.9%）に比べて17.6ポイント多い。「いない」は、「1年以内自殺願望あり群」（21.4%）が「1年以内自殺願望なし群」（6.6%）に比べて14.8ポイント多い。

(2) 必要なとき、あなたに物質的・金銭的な支援をしてくれる人はどなたですか。

図表 必要なときに物質的・金銭的な支援をしてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）

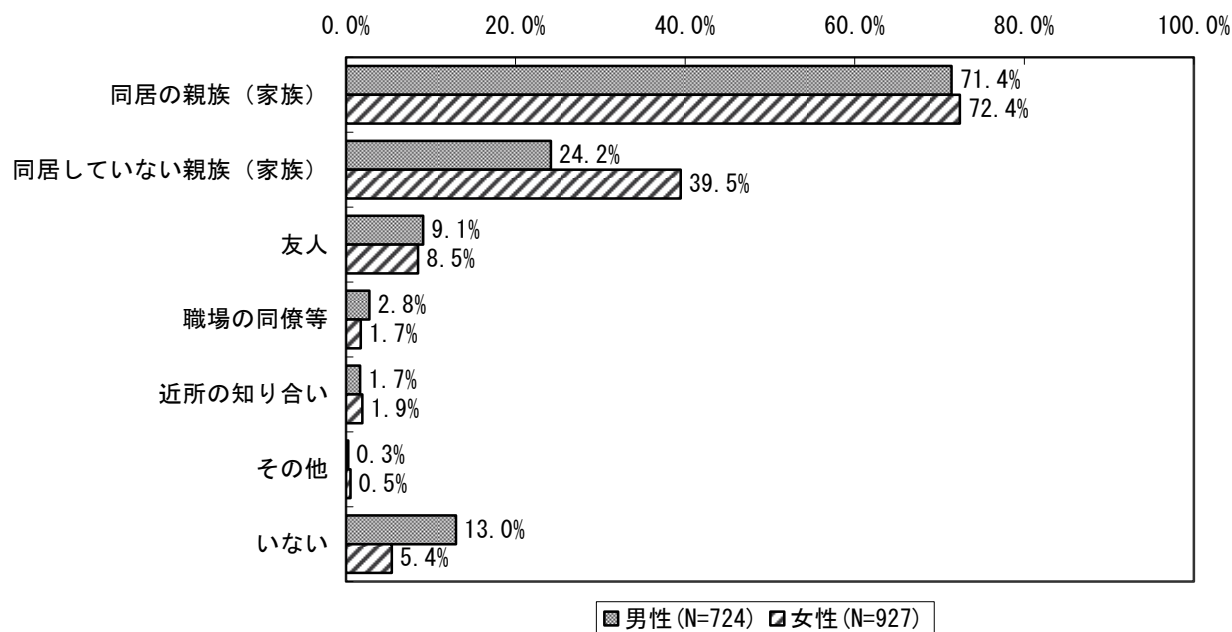


※「その他」・「いない」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

必要なときに物質的・金銭的な支援をしてくれる人の有無とその人との関係をたずねたところ、「いない」は8.7%で、いる人との関係についてみると、「同居の親族 (家族)」が72.1%で最も多く、以下、「同居していない親族 (家族)」が32.6%、「友人」と「いない」がともに8.7%などとなっている。

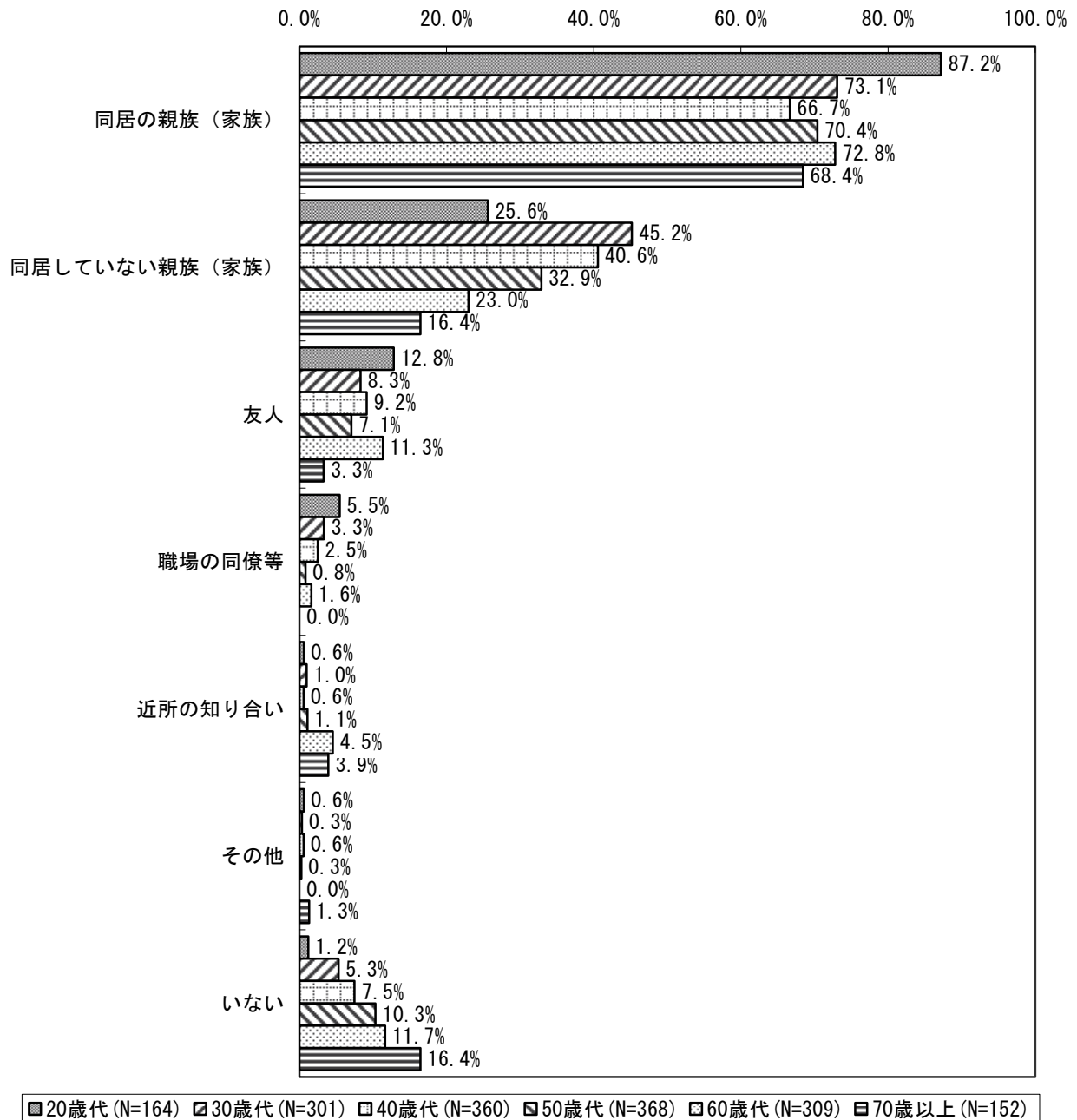
全国調査と比較すると、「同居の親族 (家族)」は本調査・全国調査ともに最も多いが、本調査が7.3ポイント多い。このほか、「同居していない親族 (家族)」は本調査が11.0ポイント少なく、「友人」も本調査が4.8ポイント少ない。

図表 性別 必要なときに物質的・金銭的な支援をしてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）



性別にみると、男女ともに「同居の親族（家族）」が最も多く、ほぼ同率である。「同居していない親族（家族）」は、女性（39.5%）が男性（24.2%）に比べて15.3ポイント多く、「いない」は、男性（13.0%）が女性（5.4%）に比べて7.6ポイント多い。

図表 年齢別 必要なときに物質的・金銭的な支援をしてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）



年齢別にみると、いずれの年齢層でも「同居の親族（家族）」が最も多く、20歳代が87.2%で最も多い。30歳代と40歳代では「同居していない親族（家族）」が40%台となっており、他の年齢層に比べて多い。「いない」は年齢層が高いほど多い傾向となっている。

図表 必要なときに物質的・金銭的な支援をしてくれる人の有無とその人との関係（複数回答）

		集計母数	同居の親族（家族）	同居していない親族（家族）	友人	職場の同僚等	近所の知り合い	その他	いない
全体		1,659	72.1%	32.6%	8.7%	2.2%	1.8%	0.4%	8.7%
性別	男性	724	71.4%	24.2%	9.1%	2.8%	1.7%	0.3%	13.0%
	女性	927	72.4%	39.5%	8.5%	1.7%	1.9%	0.5%	5.4%
年齢	20歳代	164	87.2%	25.6%	12.8%	5.5%	0.6%	0.6%	1.2%
	30歳代	301	73.1%	45.2%	8.3%	3.3%	1.0%	0.3%	5.3%
	40歳代	360	66.7%	40.6%	9.2%	2.5%	0.6%	0.6%	7.5%
	50歳代	368	70.4%	32.9%	7.1%	0.8%	1.1%	0.3%	10.3%
	60歳代	309	72.8%	23.0%	11.3%	1.6%	4.5%	0.0%	11.7%
	70歳以上	152	68.4%	16.4%	3.3%	0.0%	3.9%	1.3%	16.4%
職業	勤めている（常勤）	623	74.6%	30.7%	9.1%	3.9%	1.0%	0.3%	8.0%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	68.3%	42.5%	9.4%	1.7%	2.1%	0.3%	5.2%
	自営業	143	65.7%	32.2%	14.7%	2.8%	2.1%	0.0%	11.2%
	自由業	43	69.8%	27.9%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	14.0%
	専業主婦・主夫	267	73.4%	40.8%	6.7%	0.4%	3.0%	0.7%	6.0%
	学生	27	92.6%	22.2%	7.4%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%
	無職	185	66.5%	18.9%	7.0%	0.0%	3.2%	0.0%	19.5%
	その他	10	70.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%
同居者	いる	1,515	73.7%	32.5%	8.4%	2.1%	1.7%	0.3%	8.3%
	いない	75	33.3%	38.7%	16.0%	4.0%	4.0%	2.7%	20.0%
本気で自殺したいと思ったことの有無	ある	377	65.5%	32.6%	11.1%	2.7%	2.1%	0.5%	13.3%
	ない	1,112	74.3%	33.2%	8.2%	2.2%	1.7%	0.4%	7.2%
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無	ある	84	50.0%	32.1%	6.0%	3.6%	1.2%	1.2%	26.2%
	ない	286	69.2%	33.2%	12.9%	2.4%	2.1%	0.3%	9.8%

職業別にみると、いずれの職業でも「同居の親族（家族）」が最も多く、「学生」や「勤めている（常勤）」、「専業主婦・主夫」では70%を超えて特に多い。「同居していない親族（家族）」は、「勤めている（パート・アルバイト）」や「専業主婦・主夫」では40%台とやや多く、「いない」は、「無職」・「自由業」・「自営業」では10%台とやや多い。

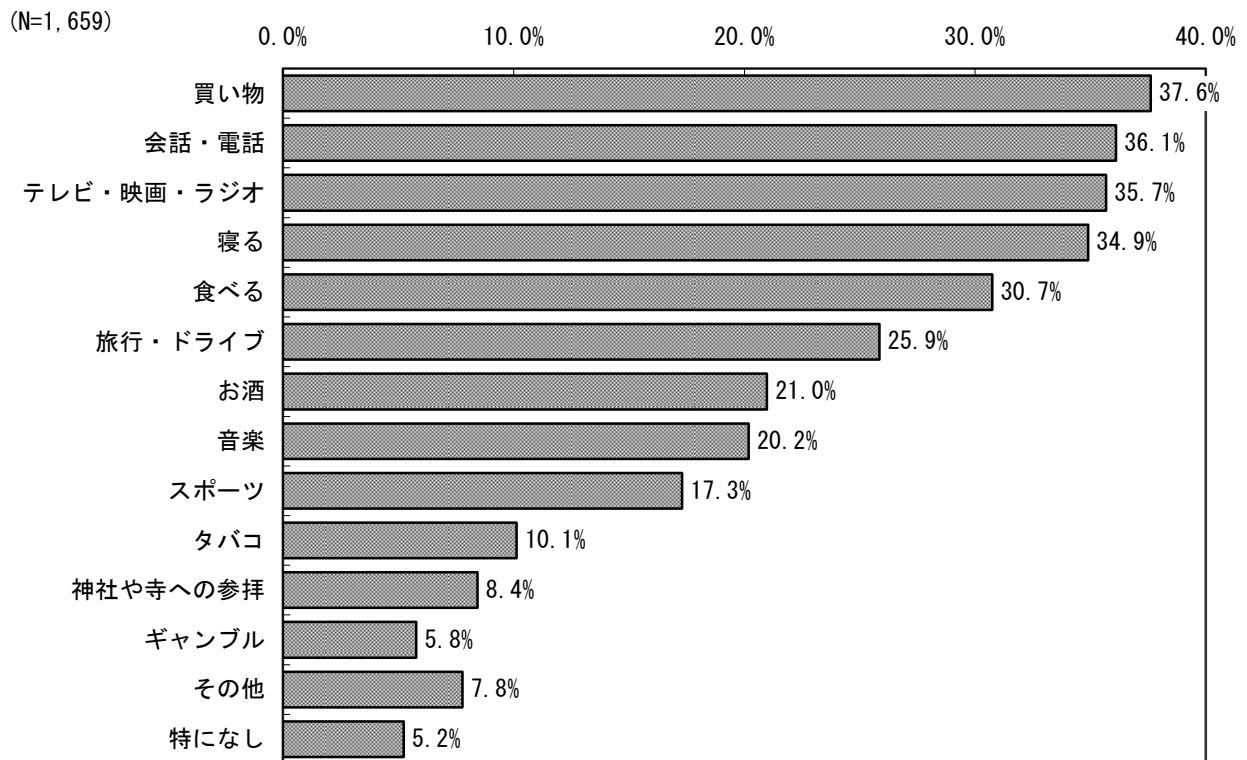
同居者の有無別にみると、同居者が「いる」人では「同居の親族（家族）」、「いない」人では「同居していない親族（家族）」が最も多い。「いない」は、同居者が「いない」人（20.0%）が「いる」人（8.3%）に比べて11.7ポイント多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「同居の親族（家族）」が最も多いが、「過去に自殺願望なし群」（74.3%）が「過去に自殺願望あり群」（65.5%）に比べて8.8ポイント多い。「いない」は、「過去に自殺願望あり群」（13.3%）が「過去に自殺願望なし群」（7.2%）に比べて6.1ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「同居の親族（家族）」が最も多く、次いで「同居していない親族（家族）」となっているが、「同居の親族（家族）」は、「1年以内自殺願望なし群」（69.2%）が「1年以内自殺願望あり群」（50.0%）に比べて19.2ポイント多い。「いない」は、「1年以内自殺願望あり群」（26.2%）が「1年以内自殺願望なし群」（9.8%）に比べて16.4ポイント多い。

問12 あなたが、日常生活での悩みやストレスを解消するためによく行うことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 日常生活での悩みやストレスを解消するためによく行っていること（複数回答）



※「その他」・「特になし」を含まずに、結果が多い順に図示

日常生活での悩みやストレスを解消するためによく行っていることをたずねたところ、「買い物」が37.6%で最も多く、以下、「会話・電話」が36.1%、「テレビ・映画・ラジオ」が35.7%、「寝る」が34.9%、「食べる」が30.7%、「旅行・ドライブ」が25.9%などとなっている。

図表 日常生活での悩みやストレスを解消するためによく行っていること（複数回答）

		集計母数	買い物	ラテジレビ・映画・	会話・電話	寝る	食べる	音楽	旅行・ドライブ
全体		1,659	37.6%	35.7%	36.1%	34.9%	30.7%	20.2%	25.9%
性別	男性	724	20.6%	31.4%	18.2%	34.3%	20.4%	17.4%	26.8%
	女性	927	51.2%	38.9%	50.3%	35.3%	38.9%	22.4%	25.2%
年齢	20歳代	164	50.6%	37.2%	45.1%	53.0%	41.5%	39.6%	27.4%
	30歳代	301	40.5%	34.2%	37.9%	42.2%	40.9%	22.3%	22.9%
	40歳代	360	42.2%	36.9%	37.5%	40.0%	39.7%	20.0%	25.3%
	50歳代	368	35.3%	38.3%	35.1%	32.9%	29.6%	19.8%	24.5%
	60歳代	309	31.1%	30.4%	32.7%	22.0%	16.2%	12.0%	30.7%
	70歳以上	152	26.3%	38.2%	29.6%	19.1%	11.2%	12.5%	25.0%
職業	勤めている（常勤）	623	36.0%	34.8%	29.7%	41.6%	33.5%	21.5%	29.9%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	46.7%	38.3%	48.1%	37.6%	36.9%	20.2%	22.3%
	自営業	143	26.6%	28.0%	30.1%	30.8%	25.9%	14.7%	28.0%
	自由業	43	34.9%	14.0%	23.3%	18.6%	20.9%	16.3%	16.3%
	専業主婦・主夫	267	50.6%	41.6%	54.7%	28.1%	33.0%	21.3%	25.1%
	学生	27	44.4%	48.1%	44.4%	55.6%	48.1%	51.9%	11.1%
	無職 その他	185 10	22.7% 30.0%	36.8% 20.0%	21.6% 50.0%	25.9% 30.0%	14.1% 30.0%	14.6% 20.0%	24.3% 20.0%
本気で自殺したいと思ったことの有無	ある	377	36.6%	36.3%	35.0%	38.5%	34.2%	23.3%	25.2%
	ない	1,112	37.6%	35.1%	37.0%	33.1%	30.1%	20.0%	26.4%
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無	ある	84	31.0%	34.5%	26.2%	39.3%	41.7%	25.0%	23.8%
	ない	286	38.8%	36.4%	37.4%	38.1%	31.8%	22.4%	25.9%
		集計母数	スポーツ	お酒	参拝社や寺への	タバコ	ギャンブル	その他	特になし
全体		1,659	17.3%	21.0%	8.4%	10.1%	5.8%	7.8%	5.2%
性別	男性	724	24.4%	32.3%	8.4%	17.5%	10.5%	7.5%	6.6%
	女性	927	11.9%	12.1%	8.4%	4.0%	2.2%	8.0%	4.1%
年齢	20歳代	164	26.8%	20.1%	2.4%	10.4%	6.1%	9.8%	3.0%
	30歳代	301	11.6%	24.9%	5.0%	14.3%	8.0%	8.6%	3.3%
	40歳代	360	17.5%	23.1%	8.1%	10.8%	5.6%	7.2%	3.6%
	50歳代	368	18.5%	22.0%	8.4%	9.5%	7.3%	6.0%	4.3%
	60歳代	309	17.2%	17.8%	12.0%	6.8%	4.2%	7.4%	6.8%
	70歳以上	152	15.8%	13.2%	15.1%	6.6%	1.3%	9.9%	14.5%
職業	勤めている（常勤）	623	22.0%	27.8%	6.1%	15.9%	9.3%	6.4%	5.0%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	9.4%	16.4%	9.1%	6.6%	3.1%	5.6%	3.1%
	自営業	143	18.9%	23.1%	9.8%	9.8%	4.2%	9.8%	2.1%
	自由業	43	16.3%	27.9%	0.0%	7.0%	7.0%	20.9%	2.3%
	専業主婦・主夫	267	15.4%	8.2%	9.7%	2.2%	2.6%	9.0%	3.0%
	学生	27	29.6%	22.2%	7.4%	7.4%	0.0%	11.1%	3.7%
	無職 その他	185 10	16.8% 10.0%	22.7% 10.0%	11.9% 10.0%	10.8% 10.0%	6.5% 0.0%	7.6% 20.0%	14.1% 20.0%
本気で自殺したいと思ったことの有無	ある	377	12.7%	23.6%	10.3%	14.1%	7.2%	10.3%	4.0%
	ない	1,112	18.8%	20.1%	7.7%	8.7%	4.9%	7.6%	5.6%
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無	ある	84	11.9%	22.6%	8.3%	20.2%	6.0%	9.5%	7.1%
	ない	286	13.3%	24.5%	10.8%	12.2%	7.7%	10.5%	3.1%

性別にみると、男性では「寝る」が最も多く、以下、「お酒」、「テレビ・映画・ラジオ」、「旅行・ドライブ」、「スポーツ」などとなっている。また、女性では「買い物」が最も多く、以下、「会話・電話」、「テレビ・映画・ラジオ」と「食べる」（同率）、「寝る」などとなっている。

年齢別にみると、20歳代と30歳代では「寝る」、40歳代では「買い物」、50歳代と70歳以上では「テレビ・映画・ラジオ」、60歳代では「会話・電話」がそれぞれ最も多い。「買い物」や「会話・電話」、「寝る」、「食べる」、「音楽」、「タバコ」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。逆に、「神社や寺への参拝」や「特になし」は年齢層が高いほど多い傾向となっている。

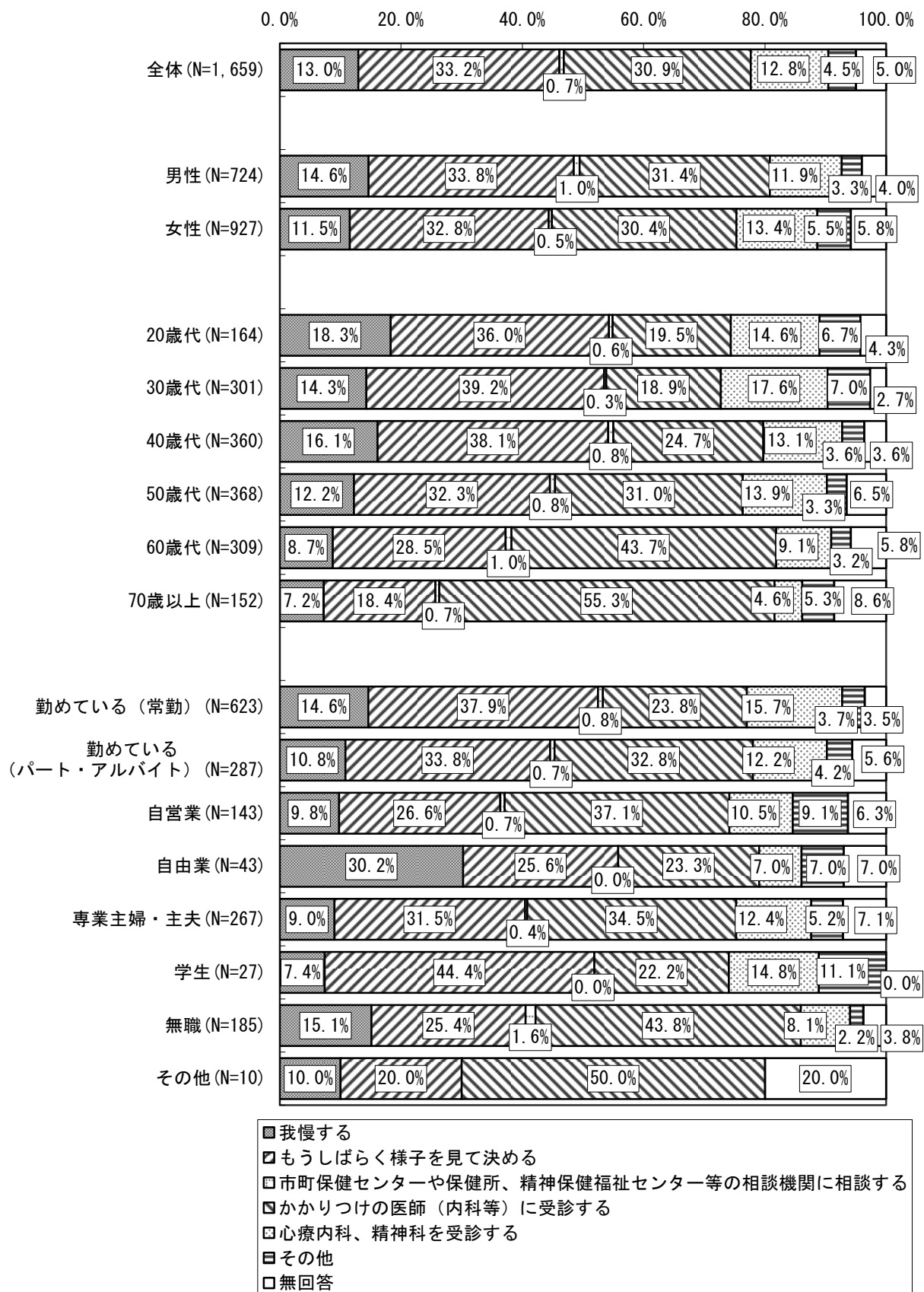
職業別にみると、「勤めている（常勤）」・「自営業」・「学生」では「寝る」、「勤めている（パート・アルバイト）」と「専業主婦・主夫」では「会話・電話」、「自由業」では「買い物」、「無職」では「テレビ・映画・ラジオ」がそれぞれ最も多い。「お酒」は、「自由業」が27.9%、「勤めている（常勤）」が27.8%となっており、他の職業に比べてやや多く、同様に、「タバコ」も「勤めている（常勤）」では15.9%とやや多い。また、「会話・電話」や「買い物」は、「専業主婦・主夫」では半数を超えており、他の職業に比べて多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「過去に自殺願望あり群」では「寝る」が最も多く、以下、「買い物」、「テレビ・映画・ラジオ」、「会話・電話」などとなっている。「過去に自殺願望なし群」では「買い物」が最も多く、以下、「会話・電話」、「テレビ・映画・ラジオ」、「寝る」などとなっている。「特になし」は、自殺したいと思ったことの有無に関係なく大差はない。

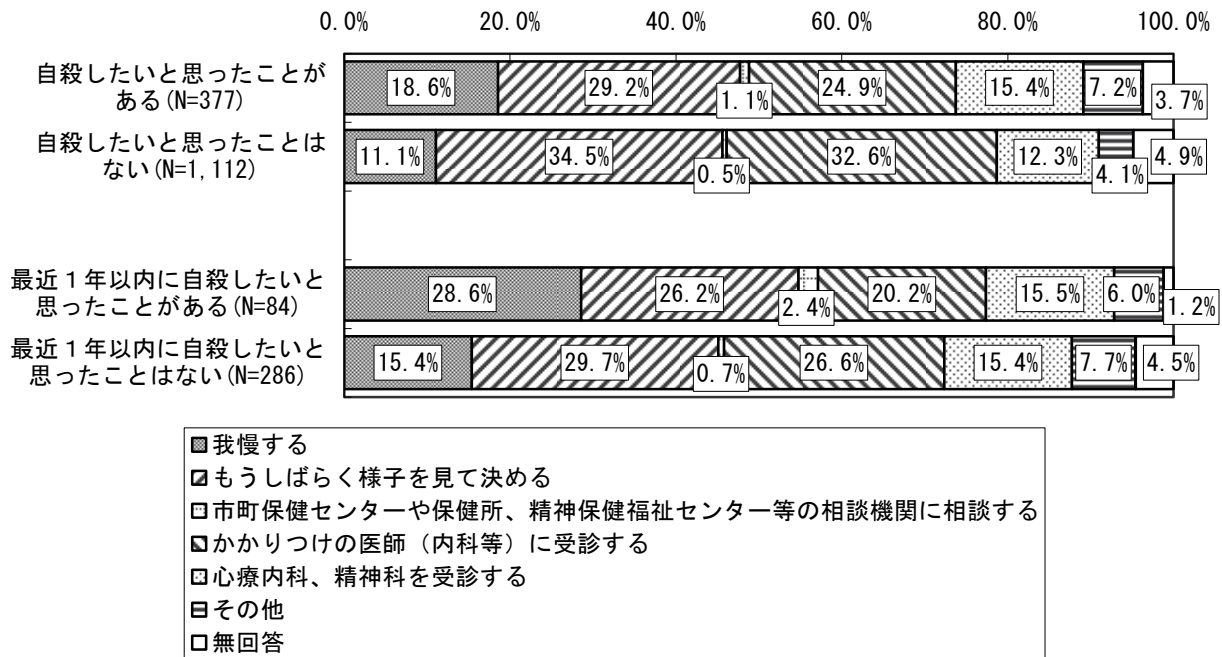
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「食べる」が最も多く、以下、「寝る」、「テレビ・映画・ラジオ」、「買い物」などとなっている。「1年以内自殺願望なし群」では「買い物」が最も多く、以下、「寝る」、「会話・電話」、「テレビ・映画・ラジオ」などとなっている。「特にない」は、「1年以内自殺願望あり群」（7.1%）が「1年以内自殺願望なし群」（3.1%）に比べて4.0ポイント多い。

問13 もし、よく眠れない日が2週間続いた時、あなたはどのようにしますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

図表 仮によく眠れない日が2週間続いたときにとると思う対処法



図表 仮によく眠れない日が2週間続いたときにとると思う対処法



仮によく眠れない日が2週間続いたときにとると思う対処法をたずねたところ、「もうしばらく様子を見て決める」が33.2%で最も多く、以下、「かかりつけの医師（内科等）に受診する」が30.9%、「我慢する」が13.0%、「心療内科、精神科を受診する」が12.8%などとなっている。

性別にみると、男女ともに「もうしばらく様子を見て決める」が最も多いが、男女間の差は1.0ポイントで大差はない。「我慢する」は、男性（14.6%）が女性（11.5%）に比べて3.1ポイント多い。

年齢別にみると、20歳代～50歳代では「もうしばらく様子を見て決める」が最も多く、年齢層が低いほど多い傾向となっている。また、60歳代以上では「かかりつけの医師（内科等）に受診する」が最も多く、年齢層が高いほど多い傾向となっている。「我慢する」や「心療内科、精神科を受診する」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

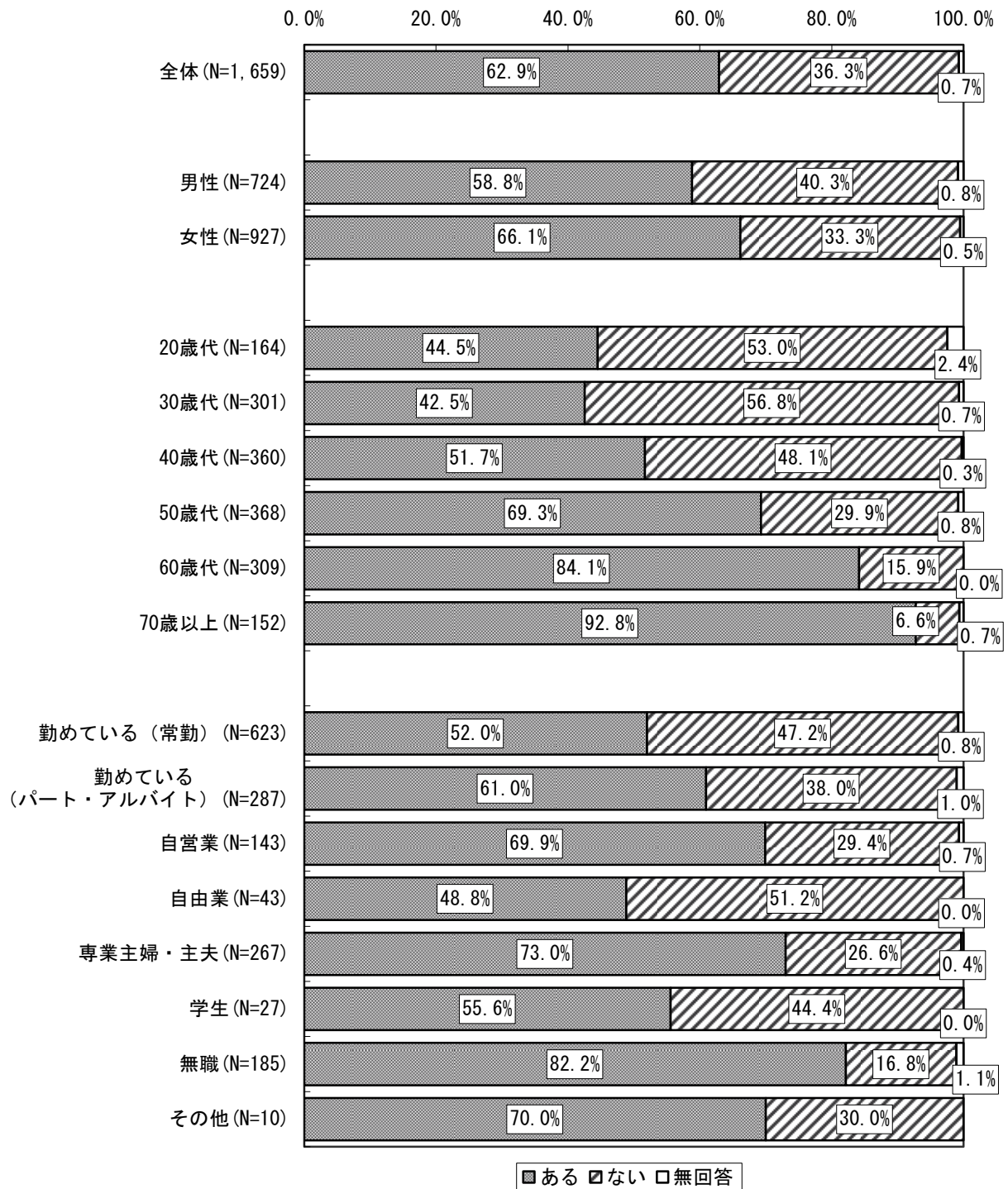
職業別にみると、「自由業」では「我慢する」が最も多く、30.2%と突出している。常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」と「学生」では「もうしばらく様子を見て決める」が最も多く、「学生」では44.4%と特に多い。「自営業」・「専業主婦・主夫」・「無職」では「かかりつけの医師（内科等）に受診する」が最も多く、「無職」が43.8%で特に多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「もうしばらく様子を見て決める」が最も多く、次いで「かかりつけ医師（内科等）に受診する」となっているが、いずれも「過去に自殺願望なし群」が「過去に自殺願望あり群」に比べて多い。「我慢する」は、「過去に自殺願望あり群」（18.6%）が「過去に自殺願望なし群」（11.1%）に比べて7.5ポイント多い。

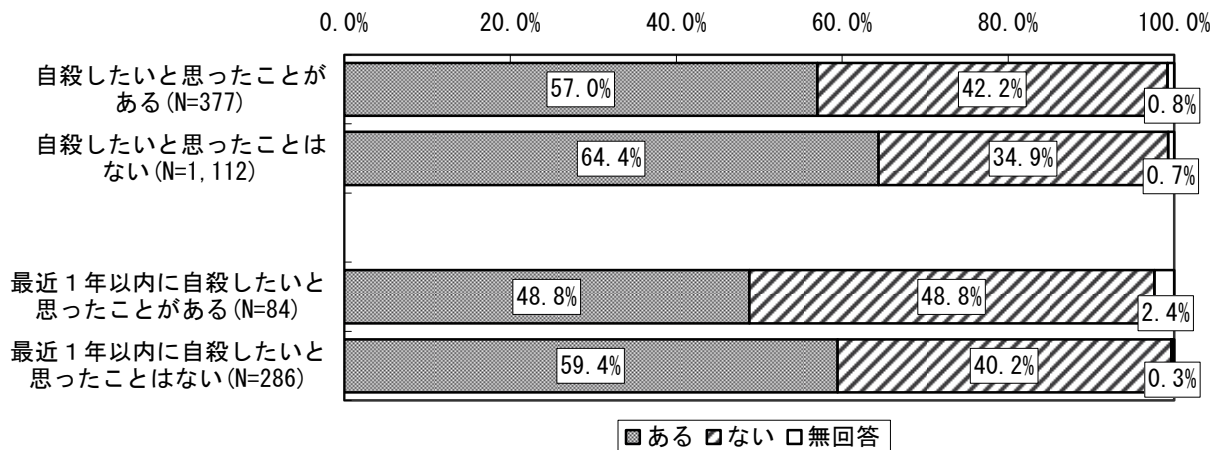
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「我慢する」が最も多く、次いで「もうしばらく様子を見て決める」となっている。「1年以内自殺願望なし群」では「もうしばらく様子を見て決める」が最も多く、次いで「かかりつけ医師（内科等）に受診する」となっている。「我慢する」は、「1年以内自殺願望あり群」（28.6%）が「1年以内自殺願望なし群」（15.4%）に比べて13.2ポイント多い。

問14 あなたにはかかりつけの医療機関がありますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

図表 かかりつけの医療機関の有無



図表 かかりつけの医療機関の有無



かかりつけの医療機関の有無をたずねたところ、「ある」が62.9%、「ない」が36.3%となっている。

性別にみると、男女ともに「ある」が「ない」を上回っている。「ある」は、女性（66.1%）が男性（58.8%）に比べて7.3ポイント多い。

年齢別にみると、20歳代と30歳代では「ない」が「ある」を上回っており、過半数を占めている。40歳代以上では「ある」が「ない」を上回っており、「ある」は年齢層が高いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、「自由業」では「ない」が「ある」を上回っているが、他の職業ではこれが逆転している。「ある」は、「無職」が82.2%で最も多い。

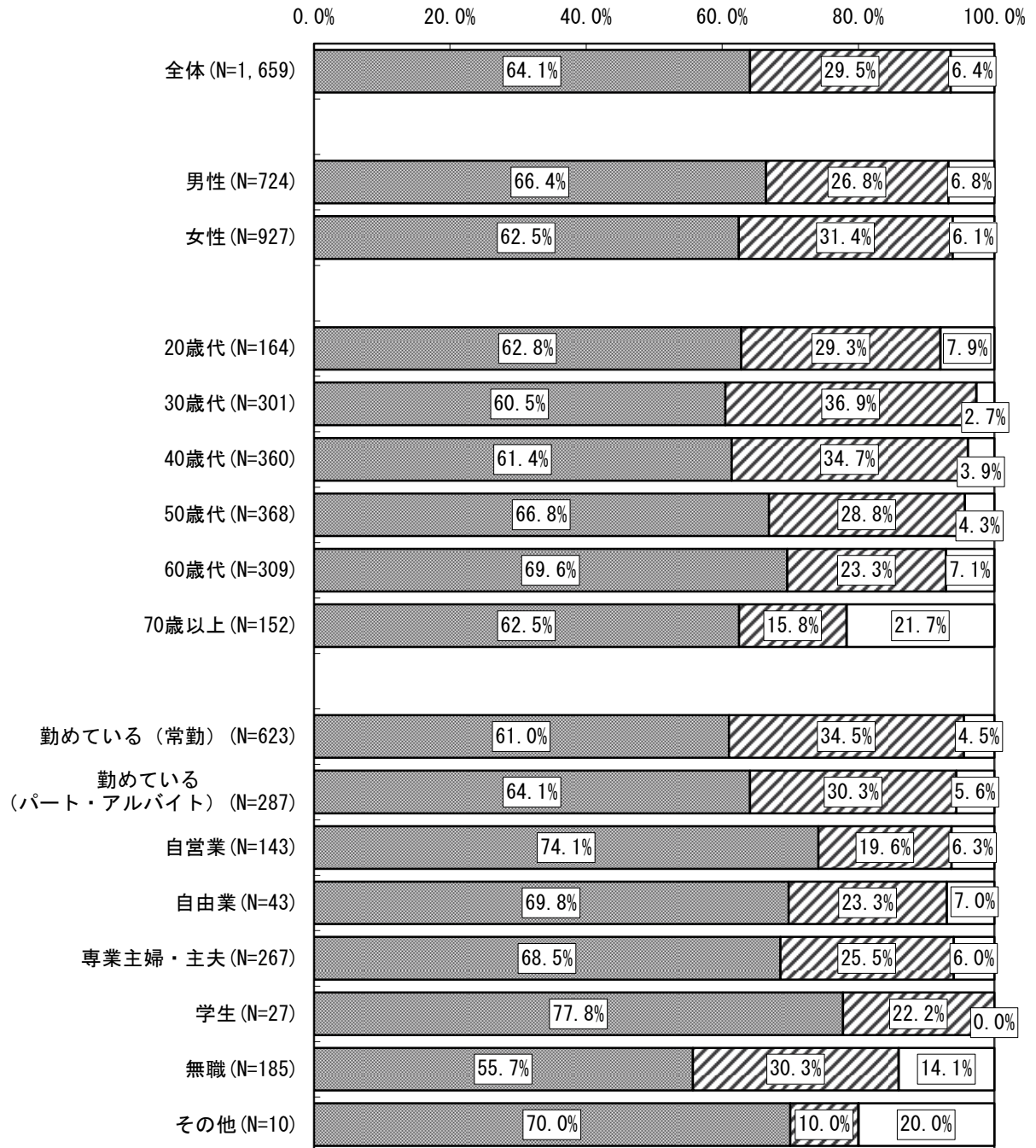
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「ない」は、「過去に自殺願望あり群」（42.2%）が「過去に自殺願望なし群」（34.9%）に比べて7.3ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「ない」は、「1年以内自殺願望あり群」（48.8%）が「1年以内自殺願望なし群」（40.2%）に比べて8.6ポイント多い。

問15 あなたは何か困難や問題に直面した時、どのように考えることが多いですか。次のaからiそれぞれについて、あなたのお考えにより近いものに○をつけてください。

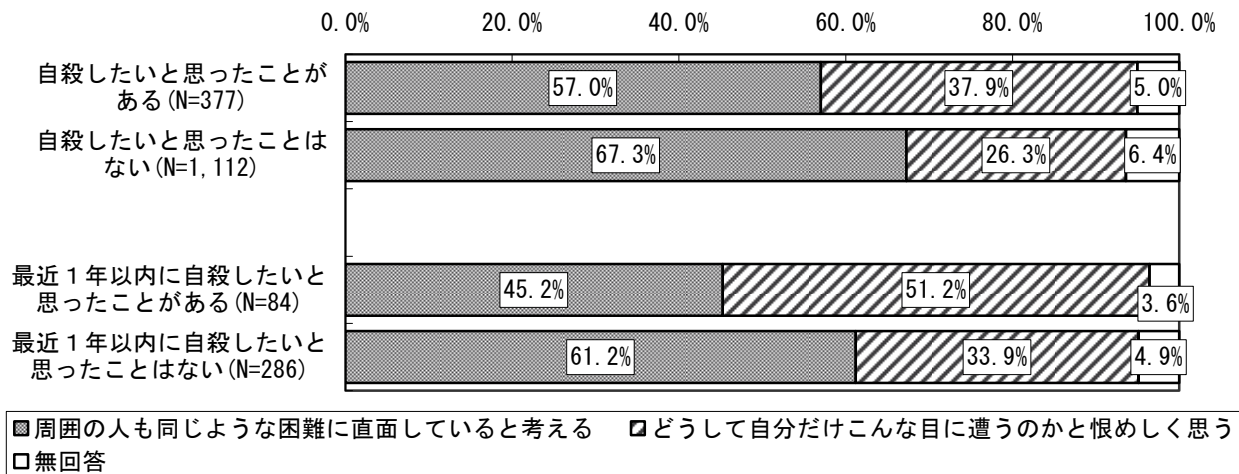
- (a) 1 周囲の人も同じような困難に直面していると思う
 2 どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (a)



■ 周囲の人も同じような困難に直面していると思う □ どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う
 □ 無回答

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (a)



「周囲の人も同じような困難に直面していると考える」と「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「周囲の人も同じような困難に直面していると考える」が64.1%で、「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」の29.5%を上回っている。

性別にみると、男女ともに「周囲の人も同じような困難に直面していると考える」が「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」を上回っている。「周囲の人も同じような困難に直面していると考える」は、男性（66.4%）が女性（62.5%）に比べて3.9ポイント多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「周囲の人も同じような困難に直面していると考える」が「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」を上回っている。「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」は、30歳代では36.9%、40歳代では34.7%となっており、他の年齢層が10%台～20%台であるのに比べて多い。

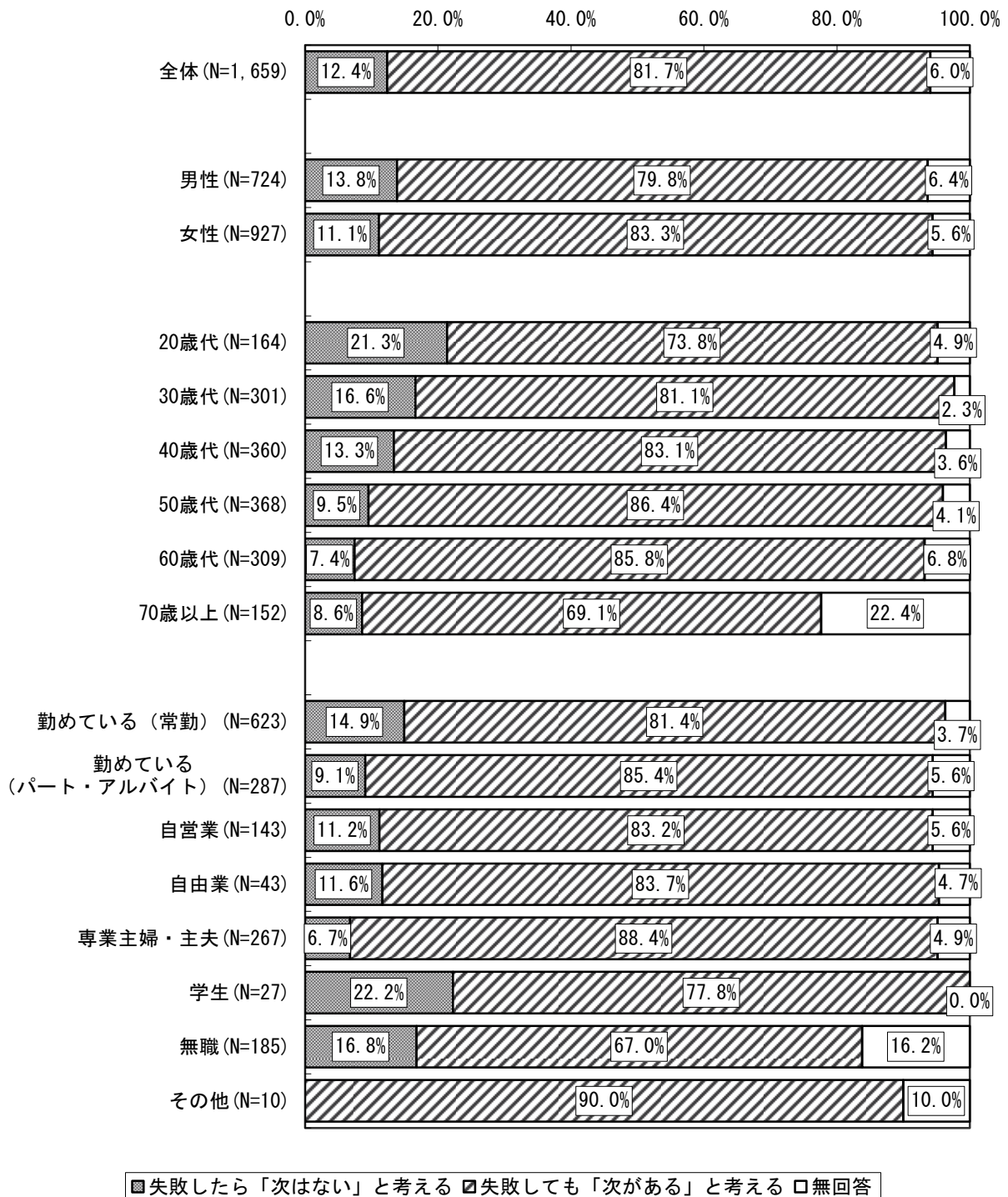
職業別にみると、いずれの職業でも「周囲の人も同じような困難に直面していると考える」が「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」を上回っている。「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」は、「勤めている（常勤及びパート・アルバイト）」や「無職」では30%台と他の職業に比べて多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」は、「過去に自殺願望あり群」（37.9%）が「過去に自殺願望なし群」（26.3%）に比べて11.6ポイント多い。

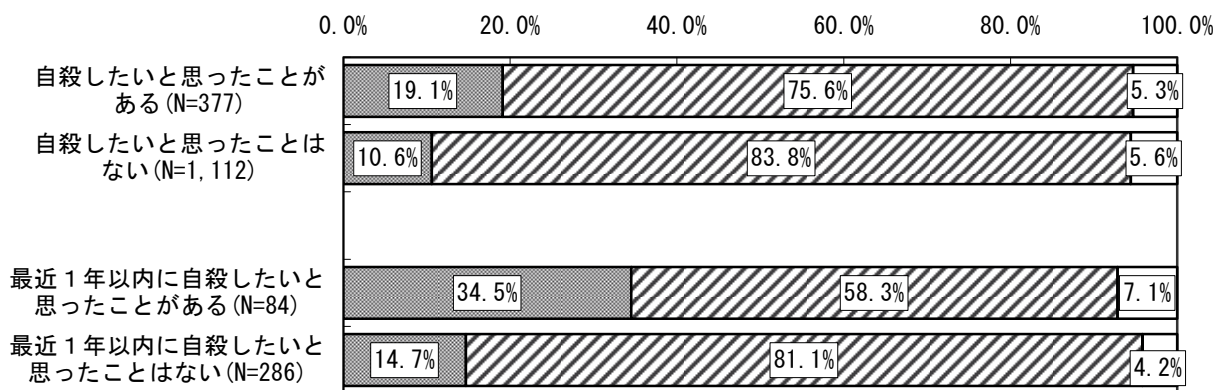
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では、「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う」が「周囲の人も同じような困難に直面していると思う」を上回っており、「1年以内自殺願望なし群」ではこれが逆転している。

- (b) 1 失敗したら「次はない」と考える
 2 失敗しても「次がある」と考える

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (b)



図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (b)



■失敗したら「次はない」と考える □失敗しても「次がある」と考える □無回答

「失敗したら『次はない』と考える」と「失敗しても『次がある』と考える」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「失敗しても『次がある』と考える」が81.7%で、「失敗したら『次はない』と考える」の29.5%を上回っている。

性別にみると、男女ともに「失敗しても『次がある』と考える」が「失敗したら『次はない』と考える」を上回っている。「失敗しても『次がある』と考える」は、女性（83.3%）が男性（79.8%）に比べて3.5ポイント多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「失敗しても『次がある』と考える」が「失敗したら『次はない』と考える」を上回っているが、「失敗したら『次はない』と考える」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

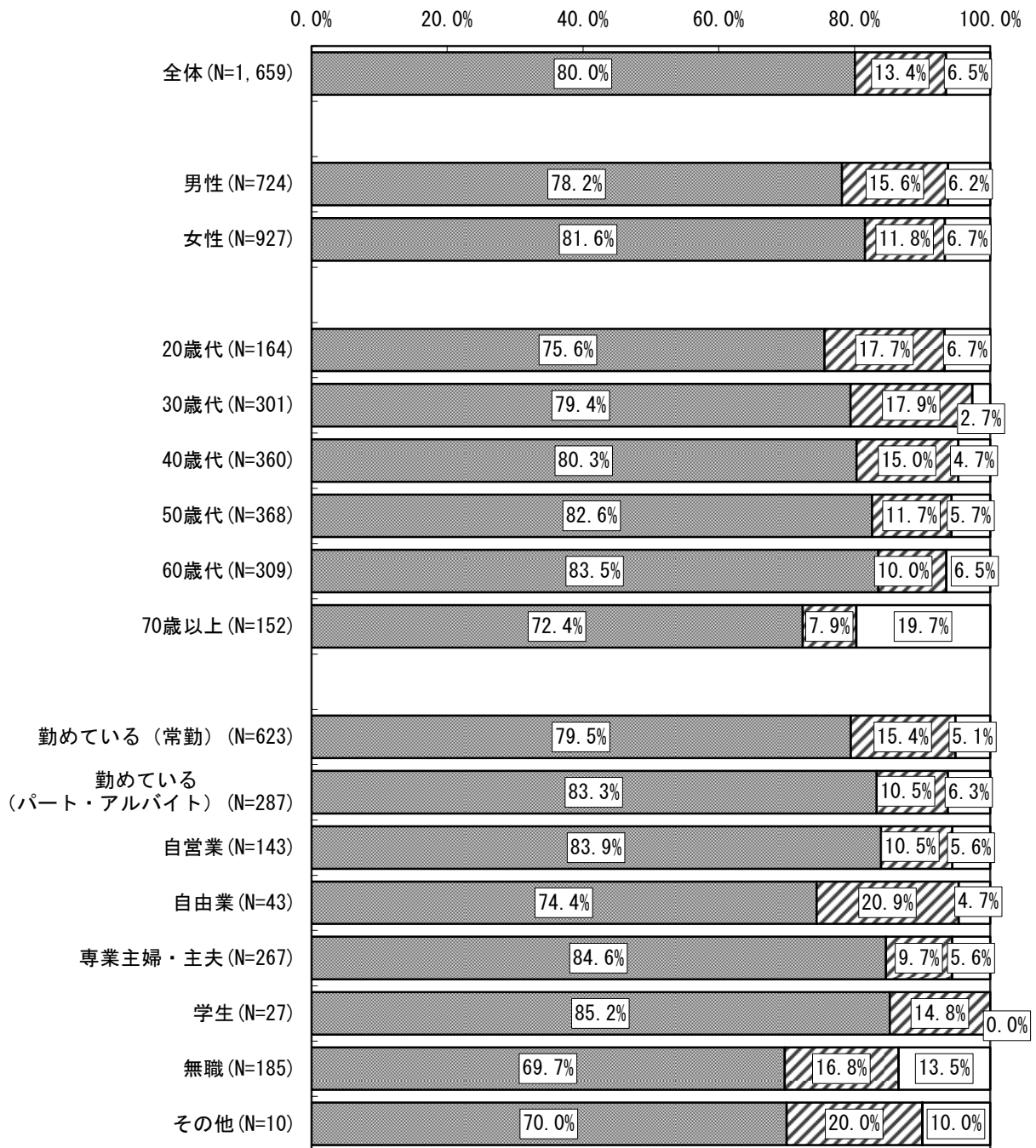
職業別にみると、「失敗しても『次がある』と考える」が「失敗したら『次はない』と考える」を上回っているが、「学生」では、「失敗したら『次はない』と考える」が22.2%で最も多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「失敗したら『次はない』と考える」は、「過去に自殺願望あり群」（19.1%）が「過去に自殺願望なし群」（10.6%）に比べて8.5ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「失敗しても『次がある』と考える」が「失敗したら『次はない』と考える」を上回っているが、「失敗したら『次はない』と考える」は、「1年以内自殺願望あり群」（34.5%）が「1年以内自殺願望なし群」（14.7%）に比べて19.8ポイント多い。

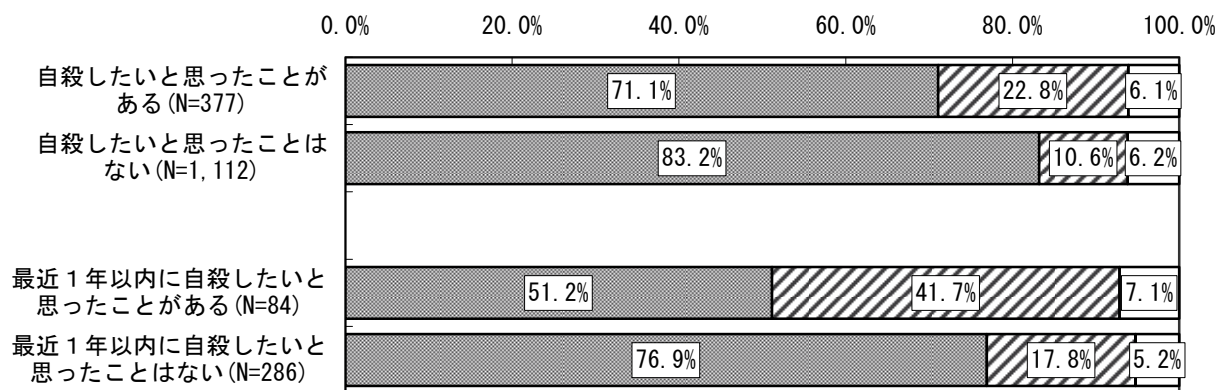
- (c) 1 「必ず解決策がある」と考える
 2 「解決できない問題に直面した」と考える

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (c)



■「必ず解決策がある」と考える □「解決できない問題に直面した」と考える ○無回答

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (c)



■「必ず解決策がある」と考える □「解決できない問題に直面した」と考える ○無回答

『必ず解決策がある』と考える」と『解決できない問題に直面した』と考える」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「『必ず解決策がある』と考える」が80.0%で、「『解決できない問題に直面した』と考える」の13.4%を上回っている。

性別にみると、男女ともに『必ず解決策がある』と考える」が『解決できない問題に直面した』と考える」を上回っている。『必ず解決策がある』と考える」は、男性（78.2%）が女性（81.6%）に比べて3.4ポイント多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも『必ず解決策がある』と考える」が『解決できない問題に直面した』と考える」を上回っているが、60歳代以下では4分の3以上を占めているのに対し、70歳以上では72.4%とやや少ない。「『解決できない問題に直面した』と考える」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

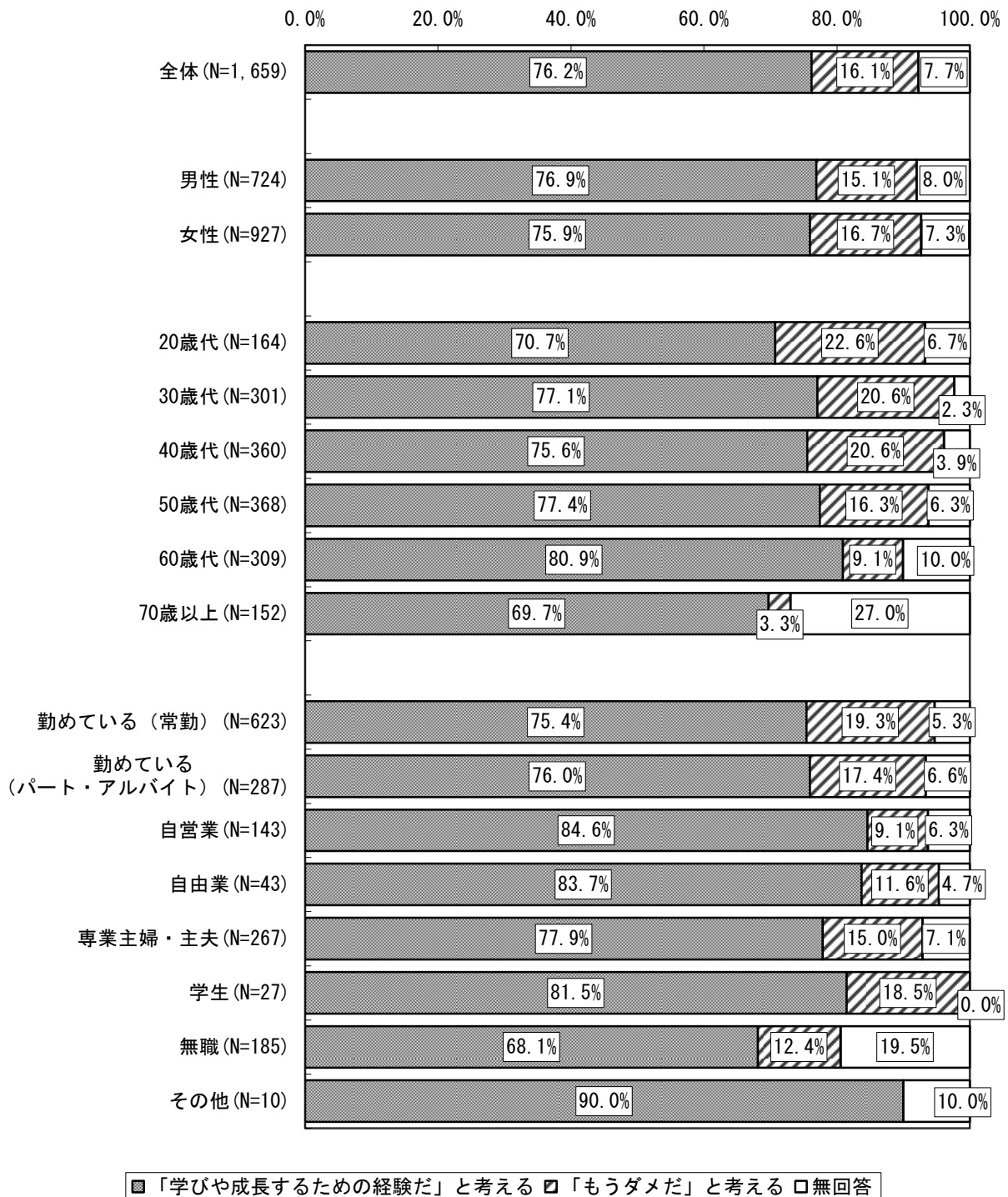
職業別にみると、いずれの職業でも『必ず解決策がある』と考える」が『解決できない問題に直面した』と考える」を上回っているが、「『解決できない問題に直面した』と考える」は、「自由業」では20.9%と他の職業に比べて多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「『解決できない問題に直面した』と考える」は、「過去に自殺願望あり群」（22.8%）が「過去に自殺願望なし群」（10.6%）に比べて12.2ポイント多い。

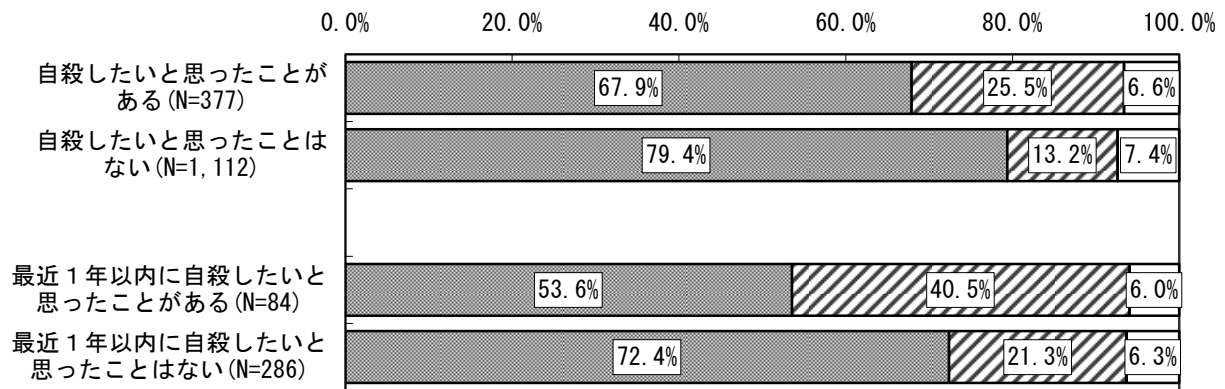
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく『必ず解決策がある』と考える」が『解決できない問題に直面した』と考える」を上回っているが、「『必ず解決策がある』と考える」は、「1年以内自殺願望なし群」（76.9%）が「過去に自殺願望あり群」（51.2%）に比べて25.7ポイント多い。

- (d) 1 「学びや成長するための経験だ」と考える
 2 「もうダメだ」と考える

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (d)



図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (d)



■「学びや成長するための経験だ」と考える □「もうダメだ」と考える ○無回答

『学びや成長するための経験だ』と考える」と『もうダメだ』と考える」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、『学びや成長するための経験だ』と考える」が76.2%で、『もうダメだ』と考える」の16.1%を上回っている。

性別にみると、男女ともに『学びや成長するための経験だ』と考える」が『もうダメだ』と考える」を上回っており、男女間での回答傾向に大差はない。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも『学びや成長するための経験だ』と考える」が『もうダメだ』と考える」を上回っているが、30歳代～60歳代では4分の3以上を占めているのに対し、20歳代と70歳以上では約70%とやや少ない。『もうダメだ』と考える」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

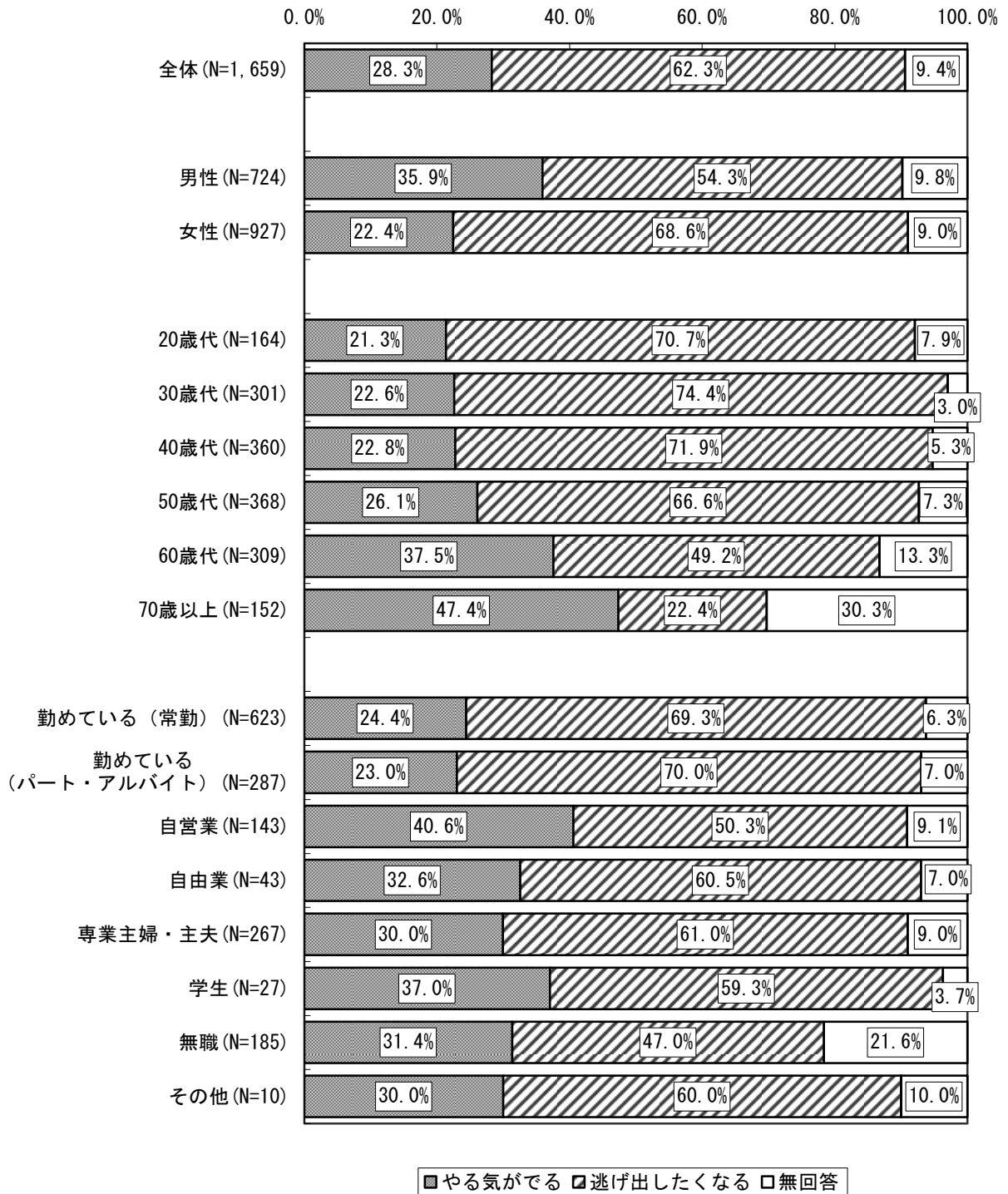
職業別にみると、いずれの職業でも『学びや成長するための経験だ』と考える」が『もうダメだ』と考える」を上回っているが、『もうダメだ』と考える」は、「勤めている（常勤）」や「学生」では20%近くを占め、他の職業に比べてやや多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、『もうダメだ』と考える」は、「過去に自殺願望あり群」（25.5%）が「過去に自殺願望なし群」（13.2%）に比べて12.3ポイント多い。

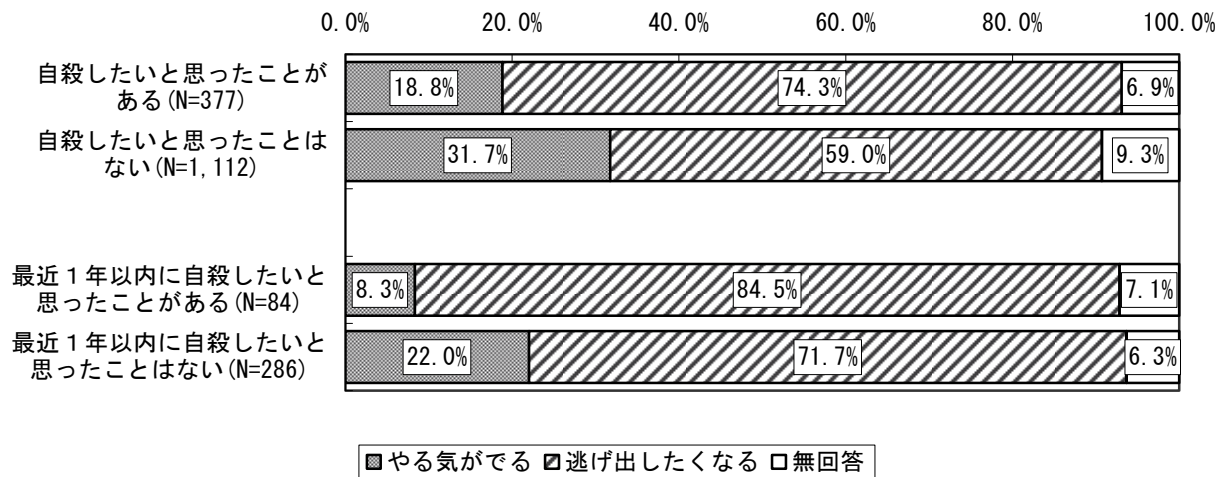
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく『学びや成長するための経験だ』と考える」が『もうダメだ』と考える」を上回っているが、『学びや成長するための経験だ』と考える」は、「1年以内自殺願望なし群」（72.4%）が「1年以内自殺願望あり群」（53.6%）に比べて18.8ポイント多い。

- (e) 1 やる気がする
2 逃げ出したくなる

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (e)



図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (e)



「やる気がでる」と「逃げ出したくなる」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「逃げ出したいくなる」が62.3%で、「やる気がでる」の28.3%を上回っている。

性別にみると、男女ともに「逃げ出したいくなる」が「やる気がでる」を上回っている。「逃げ出したいくなる」は、女性（68.8%）が男性（54.3%）に比べて14.3ポイント多い。逆に、「やる気がでる」は、男性（35.9%）が女性（22.4%）に比べて13.5ポイント多い。

年齢別にみると、70歳以上では「やる気がでる」が「逃げ出したいくなる」を上回っているのに対し、60歳代以下では「逃げ出したいくなる」が「やる気がでる」を上回っている。「逃げ出したいくなる」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

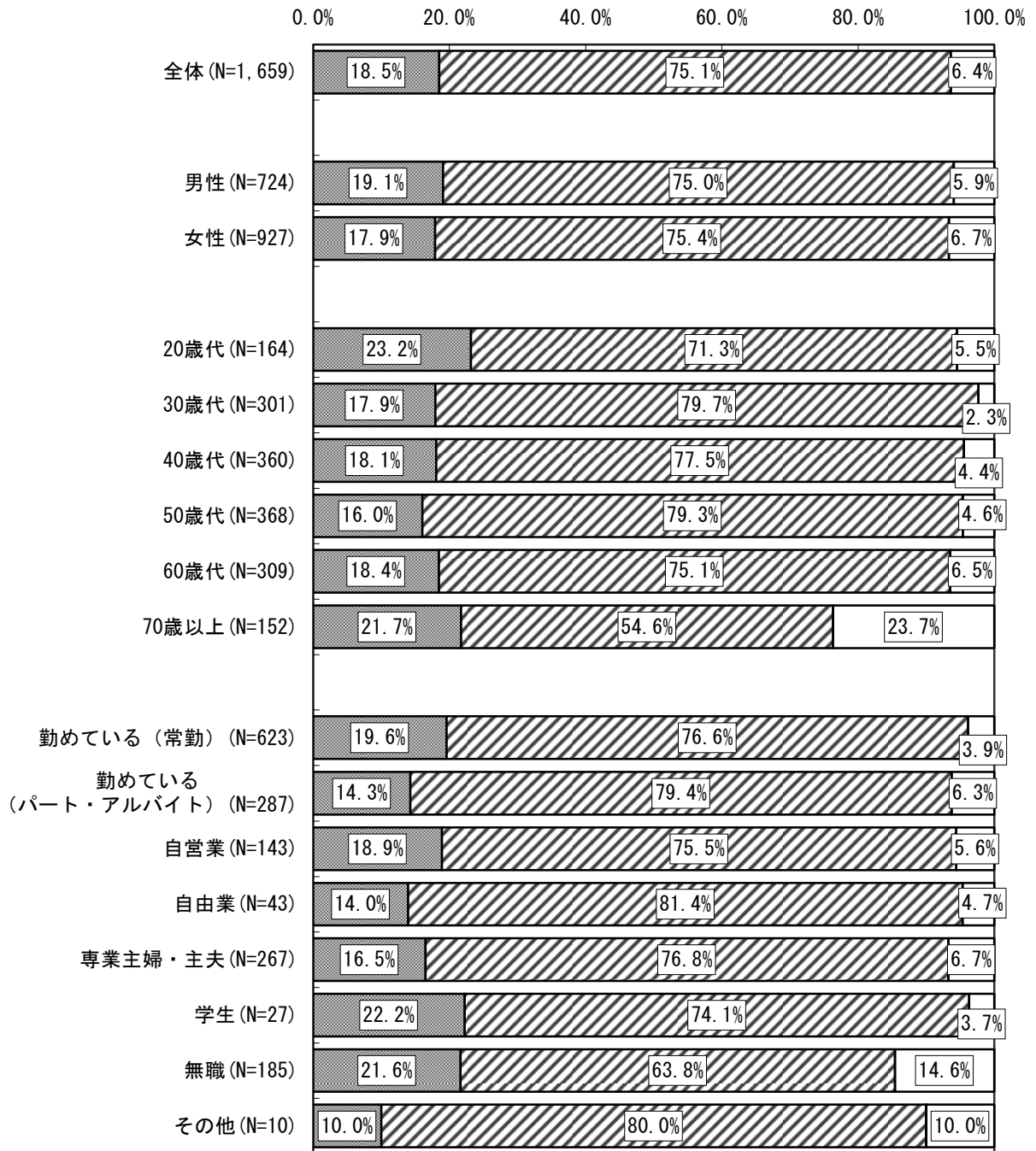
職業別にみると、いずれの職業でも「逃げ出したいくなる」が「やる気が出る」を上回っているが、「逃げ出したいくなる」は、「勤めている（常勤及びパート・アルバイト）」では70%と他の職業に比べてやや多いが、「自営業」では50.3%にとどまり、最も少ない。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「逃げ出したいくなる」が「やる気がでる」を上回っているが、「逃げ出したいくなる」は、「過去に自殺願望あり群」（74.3%）が「過去に自殺願望なし群」（59.0%）に比べて15.3ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「逃げ出したいくなる」が「やる気がでる」を上回っているが、「逃げ出したいくなる」は、「1年以内自殺願望あり群」（84.5%）が「1年以内自殺願望なし群」（71.7%）に比べて12.8ポイント多い。

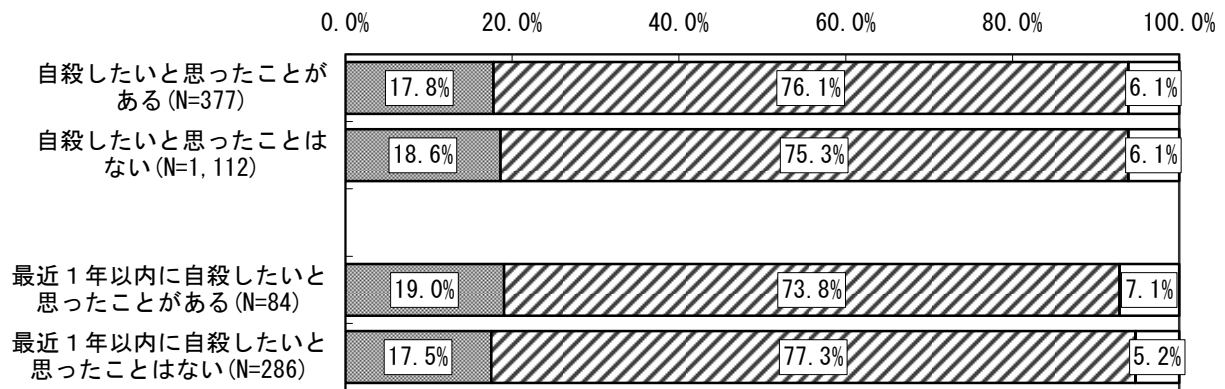
- (f) 1 絶対に逃げてはいけないと考える
 2 時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (f)



■絶対に逃げてはいけないと考える □時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える □無回答

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方（f）



■絶対に逃げてはいけないと考える □時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える □無回答

「絶対に逃げてはいけないと考える」と「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」が75.1%で、「絶対に逃げてはいけないと考える」の18.5%を上回っている。

性別にみると、男女ともに「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」が75%を占め、「絶対に逃げてはいけないと考える」を上回っている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」が「絶対に逃げてはいけないと考える」を上回っている。「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」は、60歳代以下では70%以上を占めているのに対し、70歳以上では54.6%と15ポイント以上少ない。また、「絶対に逃げてはいけないと考える」は、20歳代が23.2%で最も多い。

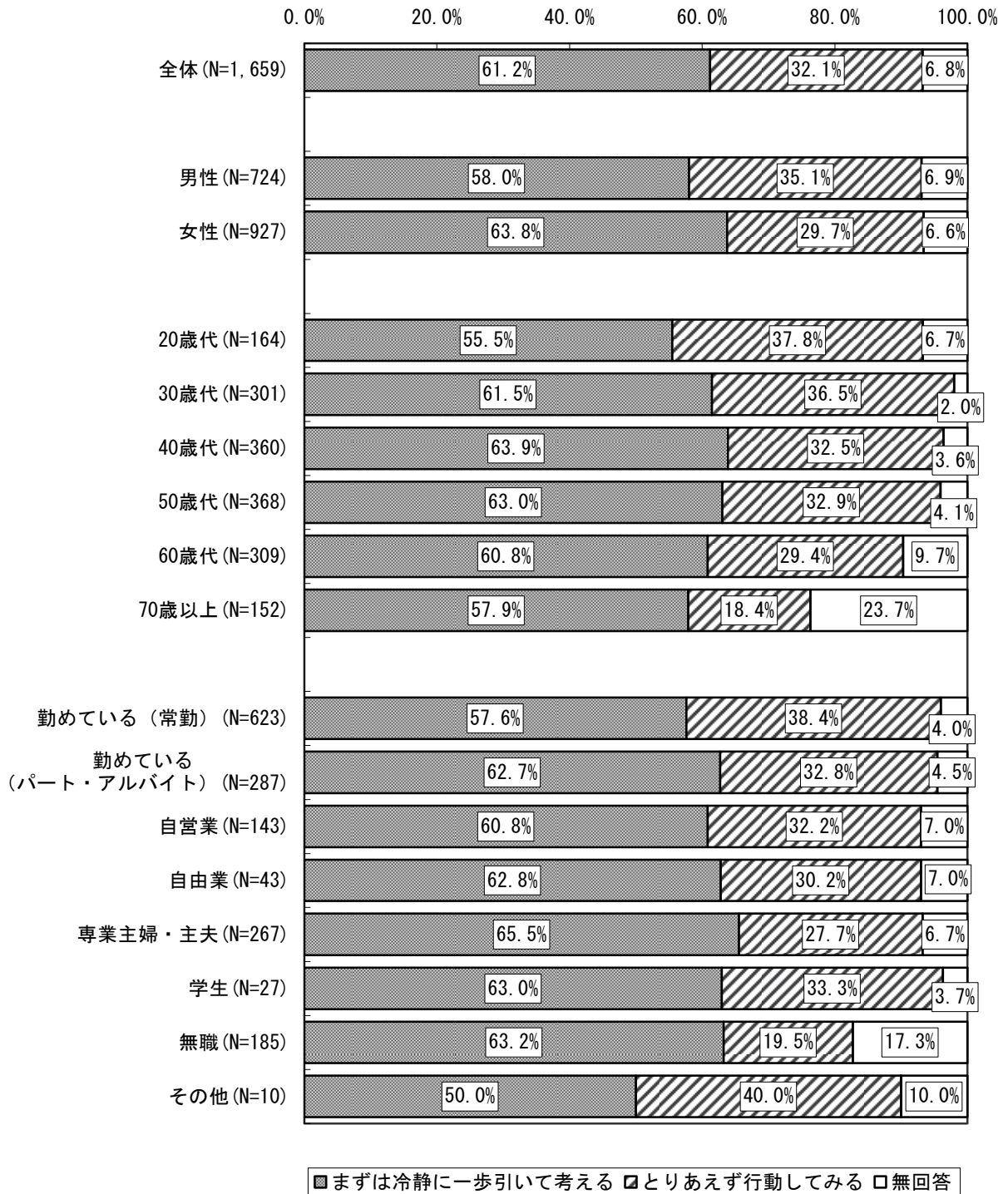
職業別にみると、いずれの職業でも「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」が「絶対に逃げてはいけないと考える」を上回っているが、「絶対に逃げてはいけないと考える」は、「学生」や「無職」では20%台と他の職業に比べてやや多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「絶対に逃げてはいけないと考える」と「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」との大差はない。

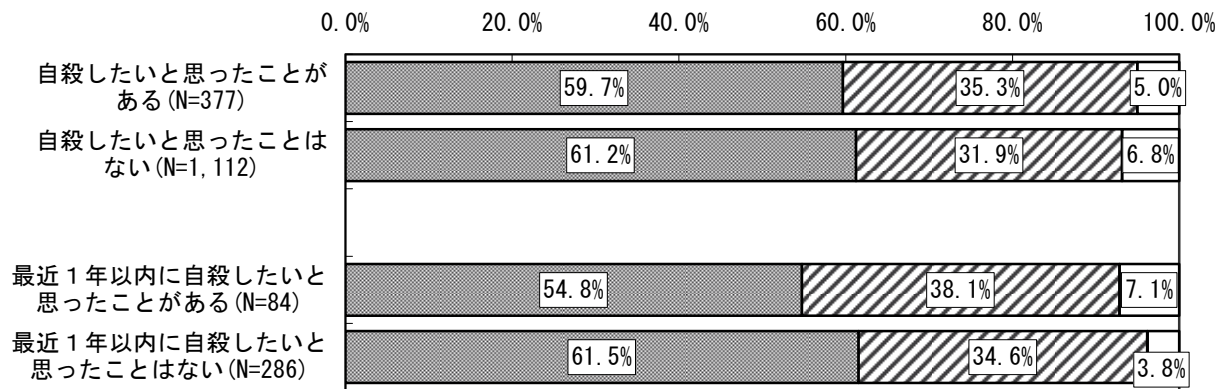
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」は、「1年以内自殺願望なし群」（77.3%）が「1年以内自殺願望あり群」（73.8%）に比べて3.5ポイント多い。

- (g) 1 まずは冷静に一步引いて考える
2 とりあえず行動してみる

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (g)



図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (g)



■まずは冷静に一步引いて考える □とりあえず行動してみる □無回答

「まずは冷静に一步引いて考える」と「とりあえず行動してみる」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「まずは冷静に一步引いて考える」が61.2%で、「とりあえず行動してみる」の32.1%を上回っている。

性別にみると、男女ともに「まずは冷静に一步引いて考える」が「とりあえず行動してみる」を上回っている。「まずは冷静に一步引いて考える」は、女性(63.8%)が男性(58.0%)に比べて5.8ポイント多い。逆に、「とりあえず行動してみる」は、男性(35.1%)が女性(29.7%)に比べて5.4ポイント多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「まずは冷静に一步引いて考える」が「とりあえず行動してみる」を上回っているが、30歳代～60歳代では60%台となっているのに対し、20歳代と70歳以上では「とりあえず行動してみる」が50%台となっており、年齢層が低いほど多い傾向となっている。

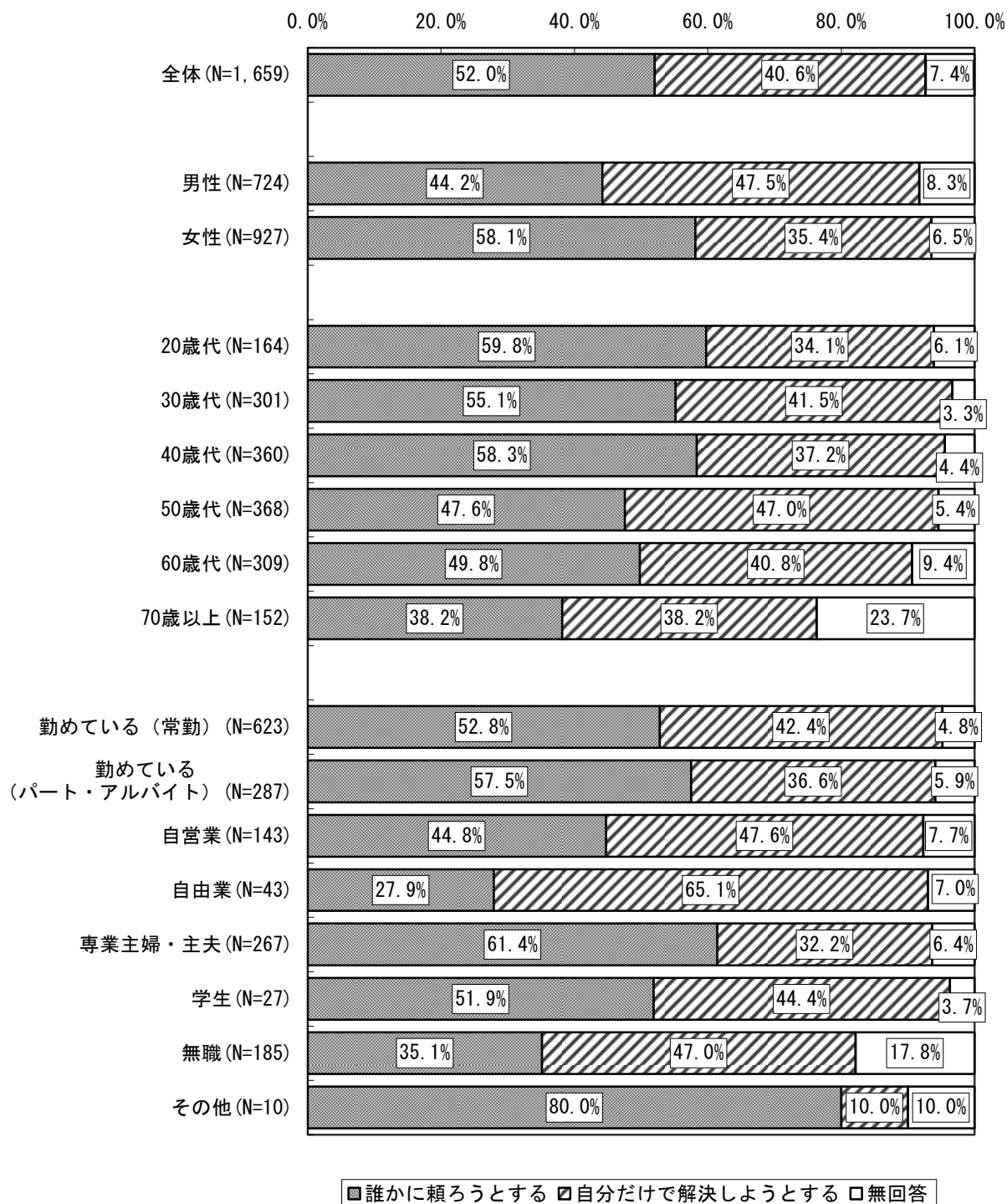
職業別にみると、いずれの職業でも「まずは冷静に一步引いて考える」が「とりあえず行動してみる」を上回っているが、「とりあえず行動してみる」は、「専業主婦・主夫」と「無職」を除いて30%台と多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「まずは冷静に一步引いて考える」が「とりあえず行動してみる」を上回っている。「とりあえず行動してみる」は、「過去に自殺願望あり群」(35.3%)が「過去に自殺願望なし群」(31.9%)に比べて3.4ポイント多い。

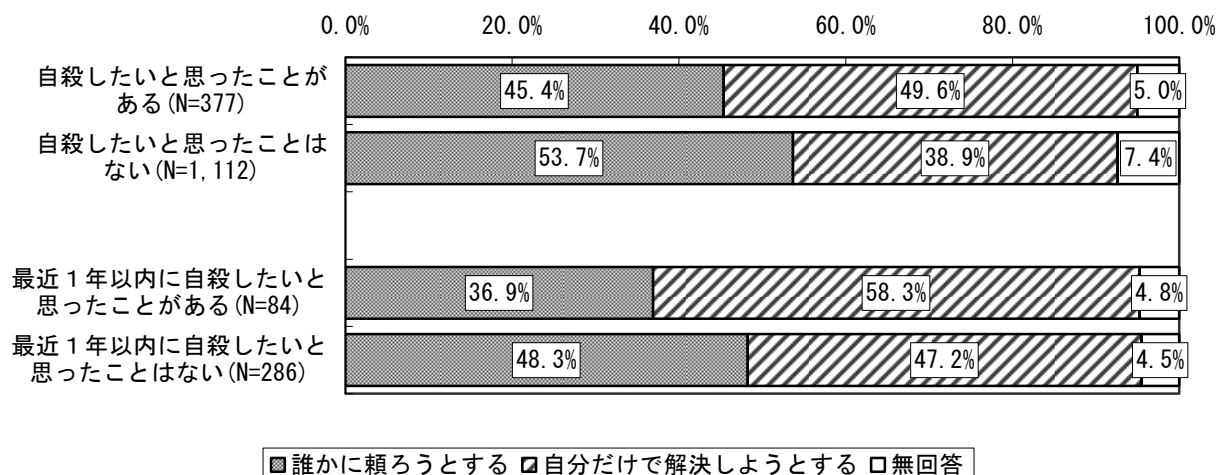
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「まずは冷静に一步引いて考える」が「とりあえず行動してみる」を上回っているが、「まずは冷静に一步引いて考える」は、「1年以内自殺願望なし群」(61.5%)が「1年以内自殺願望あり群」(54.8%)に比べて6.7ポイント多い。

- (h) 1 誰かに頼ろうとする
2 自分だけで解決しようとする

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (h)



図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (h)



「誰かに頼ろうとする」と「自分だけで解決しようとする」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「誰かに頼ろうとする」が52.0%で、「自分だけで解決しようとする」の40.6%を上回っている。

性別にみると、男性では「自分だけで解決しようとする」が「誰かに頼ろうとする」を上回っているが、女性では「誰かに頼ろうとする」が「自分だけで解決しようとする」を上回っている。

年齢別にみると、50歳代と70歳以上では「誰かに頼ろうとする」と「自分だけで解決しようとする」が拮抗しているが、他の年齢層では「誰かに頼ろうとする」が「自分だけで解決しようとする」を上回っている。「誰かに頼ろうとする」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

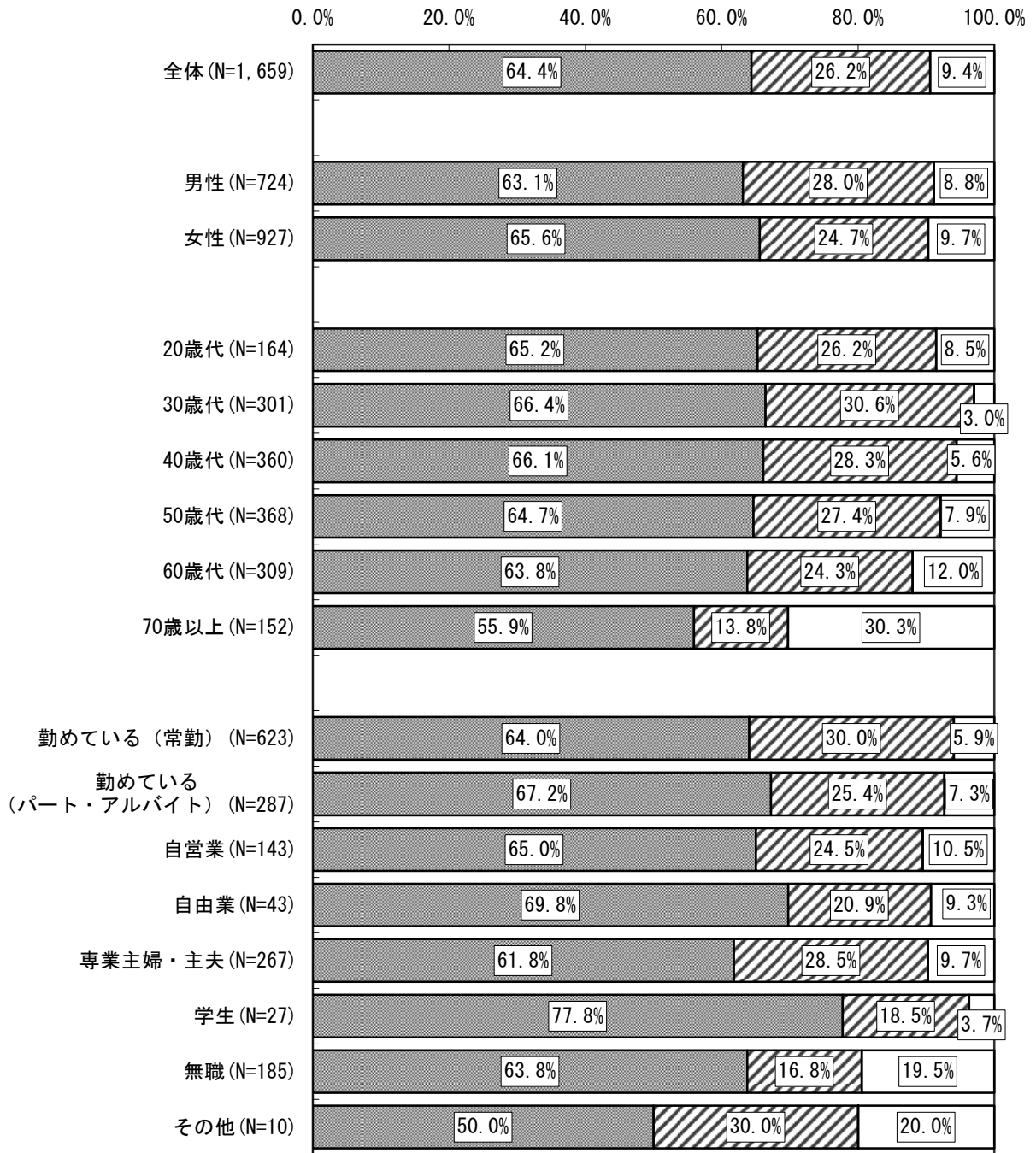
職業別にみると、「自由業」・「自営業」・「無職」では「自分だけで解決しようとする」が「誰かに頼ろうとする」を上回っており、「自由業」が65.1%で最も多い。逆に、他の職業では、これが逆転しており、「誰かに頼ろうとする」は、「専業主婦・主夫」が61.4%で最も多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「過去に自殺願望あり群」では「自分だけで解決しようとする」が「誰かに頼ろうとする」を上回っているが、「過去に自殺願望なし群」ではこれが逆転している。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「自分だけで解決しようとする」が58.3%で過半数を占めているが、「1年以内自殺願望なし群」では、「誰かに頼ろうとする」と「自分だけで解決しようとする」がほぼ拮抗している。

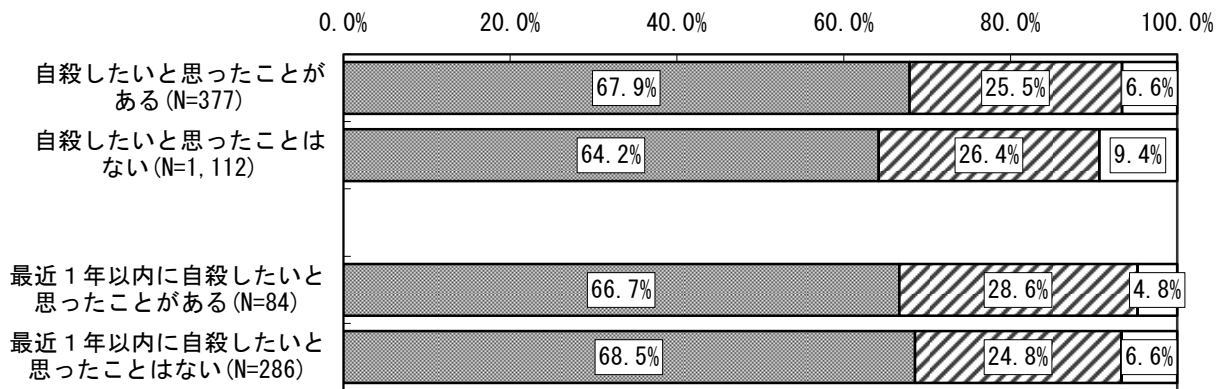
- (i) 1 困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする
 2 困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (i)



■ 困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする □ 困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする □ 無回答

図表 何か困難や問題に直面したときの考え方 (i)



■ 困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする □ 困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする □ 無回答

「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」・「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」いずれの考え方に近いかをたずねたところ、「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」が64.4%で、「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」の26.2%を上回っている。

性別にみると、男女ともに「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」が60%台で、「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」を上回っている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」が「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」を上回っている。「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」は、30歳代以上では年齢層が低いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、いずれの職業でも「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」が「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」を上回っているが、「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」は、「学生」では77.8%と突出している。

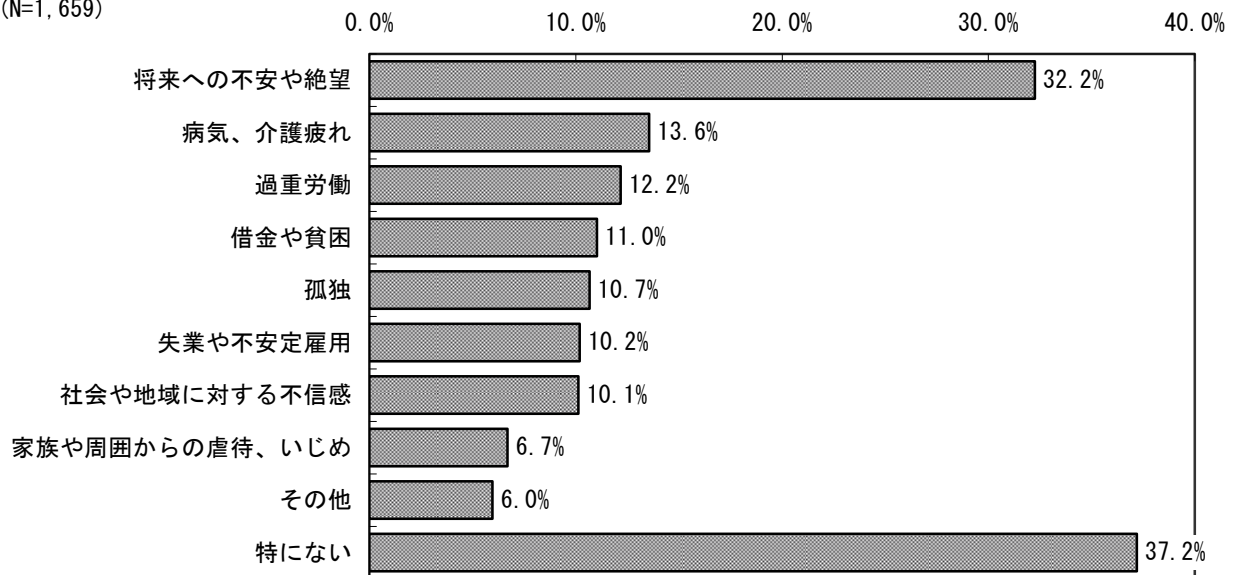
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」が「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」を上回っているが、「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」は、「過去に自殺願望あり群」(67.9%)が「過去に自殺願望なし群」(64.2%)に比べて3.7ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「困難が生じた原因を自分の中を探ろうとする」が「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」を上回っている。「困難が生じた原因を外部の環境の中を探ろうとする」は、「1年以内自殺願望あり群」(28.6%)が「1年以内自殺願望なし群」(24.8%)に比べて3.8ポイント多い。

問16 これまでにどのようなことで生きることが辛くなったり嫌になったりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 これまでに生きることが辛くなったり嫌になったりしたことの有無と内容（複数回答）

(N=1,659)



※「その他」・「特にない」を含まずに、結果が多い順に図示

これまでに生きることが辛くなったり嫌になったりしたことの有無と内容をたずねたところ、「特にない」が37.2%で最も多く、以下、「将来への不安や絶望」が32.2%、「病気、介護疲れ」が13.6%、「過重労働」が12.2%、「借金や貧困」が11.0%、「孤独」が10.7%、「失業や不安定雇用」が10.2%、「社会や地域に対する不信感」が10.1%などとなっている。

図表 これまでに生きることが辛くなったり嫌になったりしたことの有無と内容（複数回答）

		集計母数	絶望 将来への不安や	失業や不安定雇用	過重労働	借金や貧困	家族や周囲からの虐待、いじめ	病気、介護疲れ	社会や地域に対する不信感	孤独	その他	特にな
全体		1,659	32.2%	10.2%	12.2%	11.0%	6.7%	13.6%	10.1%	10.7%	6.0%	37.2%
性別	男性	724	33.8%	14.4%	19.1%	12.6%	4.3%	10.8%	12.2%	10.5%	2.9%	37.6%
	女性	927	31.1%	6.9%	6.8%	9.9%	8.6%	15.7%	8.6%	10.8%	8.4%	36.9%
年齢	20歳代	164	43.9%	7.9%	14.0%	5.5%	5.5%	3.0%	8.5%	14.0%	6.1%	34.8%
	30歳代	301	36.9%	14.0%	15.3%	11.6%	9.0%	7.6%	8.6%	13.3%	6.0%	36.2%
	40歳代	360	38.9%	14.2%	15.8%	17.5%	10.0%	12.2%	10.3%	13.3%	7.2%	28.3%
	50歳代	368	30.4%	10.1%	12.5%	9.8%	5.7%	19.0%	10.6%	9.2%	7.3%	33.7%
	60歳代	309	24.6%	6.8%	6.5%	8.7%	4.9%	18.1%	12.0%	6.1%	5.2%	46.0%
	70歳以上	152	15.1%	3.3%	5.3%	8.6%	2.0%	17.8%	9.9%	7.9%	1.3%	53.9%
職業	勤めている（常勤）	623	34.5%	12.0%	20.2%	10.4%	6.7%	9.3%	8.7%	10.0%	5.1%	34.7%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	32.4%	13.2%	4.9%	11.8%	6.6%	13.6%	9.4%	10.8%	7.3%	36.9%
	自営業	143	40.6%	4.2%	12.6%	20.3%	5.6%	8.4%	11.2%	9.8%	4.9%	36.4%
	自由業	43	34.9%	18.6%	16.3%	11.6%	2.3%	16.3%	16.3%	7.0%	7.0%	37.2%
	専業主婦・主夫	267	22.1%	4.1%	3.0%	5.6%	9.4%	21.3%	9.0%	11.2%	8.2%	41.9%
	学生	27	48.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	7.4%	7.4%	14.8%	7.4%	33.3%
同居家族	いる	1,515	31.9%	10.6%	12.1%	11.2%	7.0%	13.1%	9.8%	10.4%	6.1%	37.4%
	いない	75	41.3%	6.7%	12.0%	6.7%	4.0%	20.0%	10.7%	20.0%	4.0%	30.7%
本気で自殺したいと思ったことの有無別	ある	377	53.1%	17.2%	18.0%	21.2%	18.6%	21.0%	18.0%	25.7%	11.4%	4.8%
	ない	1,112	26.3%	7.8%	10.2%	8.1%	3.0%	11.0%	7.9%	6.5%	4.3%	47.1%
1年以内に自殺したいと思ったことの有無別	ある	84	70.2%	27.4%	27.4%	25.0%	20.2%	25.0%	21.4%	33.3%	10.7%	1.2%
	ない	286	48.3%	14.7%	15.0%	20.3%	18.2%	19.2%	17.1%	24.1%	11.9%	5.9%

性別にみると、男女ともに「特にない」が最も多い。これを除くと、男女ともに「将来への不安や絶望」が最も多く、以下、男性では「過重労働」、「失業や不安定雇用」、「借金や貧困」、「社会や地域に対する不信感」などとなっており、女性では「病気、介護疲れ」、「孤独」、「借金や貧困」、「家族や周囲からの虐待、いじめ」と「社会や地域に対する不信感」（同率）などとなっている。「失業や不安定雇用」や「過重労働」は男性が女性に比べて多く、「家族や周囲からの虐待、いじめ」や「病気、介護疲れ」は女性が男性に比べて多い。

年齢別にみると、50歳代以上では「特にない」が最も多く、70歳以上が53.9%で最も多い。これを除くと、20歳代～60歳代では「将来への不安や絶望」が最も多く、70歳以上では「病気・介護疲れ」が最も多い。「将来への不安や絶望」や「過重労働」、「孤独」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、「病気、介護疲れ」や「社会や地域に対する不信感」は年齢層が高いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、「特にない」を除き、いずれの職業でも「将来への不安や絶望」が最も多く、「学生」や「自営業」が40%台で特に多い。「勤めている（常勤）」では「過重労働」が20.2%で最も多く、同様に、「自営業」では「借金や貧困」が20.3%で最も多い。また、「専業主婦・主夫」では「病気、介護疲れ」が21.3%で最も多く、「無職」や「学生」では「孤独」が15%前後と他の職業に比べてやや多い。

同居者の有無別にみると、「特にない」を除き、同居者の有無に関係なく「将来への不安や絶望」が最も多く、以下、同居者の「いる」人では「病気、介護疲れ」、「過重労働」、「借金や貧困」などとなっており、同居者の「いない」人では「病気、介護疲れ」と「孤独」（同率）、「過重労働」などとなっている。

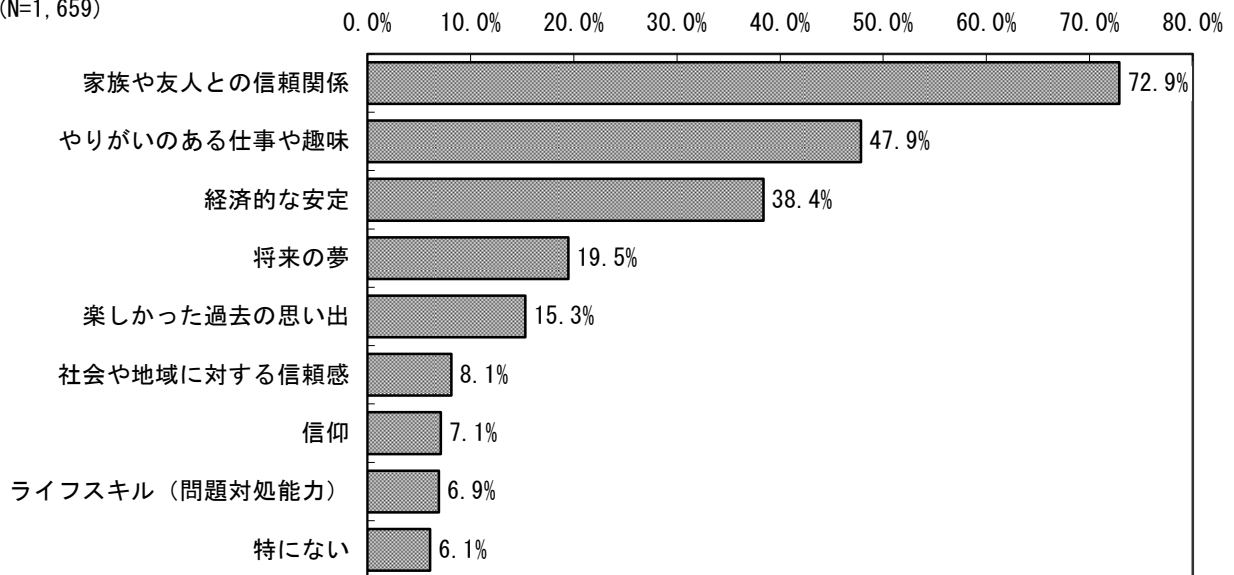
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「過去に自殺願望なし群」では「特にない」が最も多いが、これを除くと「将来への不安や絶望」が最も多く、以下「病気、介護疲れ」、「過重労働」などとなっている。「過去に自殺願望あり群」では、「将来への不安や絶望」が最も多く、以下、「孤独」、「借金や貧困」、「病気、介護疲れ」などとなっている。「特にない」を除き、いずれの項目でも「過去に自殺願望あり群」が「過去に自殺願望なし群」を上回っている。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「1年以内自殺願望あり群」では「将来への不安や絶望」が最も多く、以下、「孤独」、「失業や不安定雇用」と「過重労働」（同率）、「借金や貧困」などとなっている。「特にない」を除き、いずれの項目でも「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」を上回っている。

問17 あなたにとって、どのようなことが生きる励みや支えになりますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 生きる励みや支えになっていること（複数回答）

(N=1,659)



※「特にない」を含まずに、結果が多い順に図示

生きる励みや支えになっていることをたずねたところ、「家族や友人との信頼関係」が72.9%で最も多く、以下、「やりがいのある仕事や趣味」が47.9%、「経済的な安定」が38.4%、「将来の夢」が19.5%などとなっている。

図表 生きる励みや支えになっていること（複数回答）

		集計母数	将来の夢	家族や友人との信頼関係	やりがいのある仕事や趣味	経済的な安定	ライフスキル（問題対処能力）	信仰	社会や地域に対する信頼感	楽しかった過去の思い出	特にない
全体		1,659	19.5%	72.9%	47.9%	38.4%	6.9%	7.1%	8.1%	15.3%	6.1%
性別	男性	724	21.7%	65.9%	52.1%	37.4%	7.3%	5.8%	10.4%	12.6%	8.8%
	女性	927	17.8%	78.7%	44.9%	39.3%	6.7%	8.2%	6.4%	17.5%	3.9%
年齢	20歳代	164	20.1%	73.2%	57.9%	19.5%	7.3%	1.2%	3.7%	28.0%	4.3%
	30歳代	301	20.9%	77.7%	49.2%	31.6%	7.0%	4.7%	5.6%	13.3%	7.3%
	40歳代	360	19.2%	74.2%	50.3%	43.1%	7.8%	5.8%	5.3%	12.2%	4.7%
	50歳代	368	22.8%	76.4%	45.9%	41.8%	9.2%	9.8%	8.2%	13.9%	6.0%
	60歳代	309	18.4%	67.0%	45.3%	47.6%	4.9%	8.4%	12.0%	12.0%	8.4%
	70歳以上	152	11.2%	64.5%	39.5%	34.9%	3.3%	12.5%	16.4%	23.0%	4.6%
職業	勤めている（常勤）	623	21.2%	72.4%	52.6%	36.9%	7.7%	4.5%	6.9%	13.8%	6.9%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	18.1%	75.6%	48.4%	38.3%	5.2%	7.0%	7.3%	16.4%	3.8%
	自営業	143	25.2%	74.8%	55.9%	44.1%	7.7%	7.7%	11.9%	9.8%	7.7%
	自由業	43	20.9%	62.8%	58.1%	34.9%	11.6%	14.0%	7.0%	7.0%	4.7%
	専業主婦・主夫	267	15.7%	83.9%	36.3%	43.4%	6.7%	13.1%	7.9%	17.2%	3.4%
	学生	27	25.9%	70.4%	55.6%	18.5%	7.4%	0.0%	7.4%	33.3%	7.4%
	無職	185	15.1%	53.5%	38.9%	37.8%	6.5%	4.9%	9.7%	19.5%	10.8%
	その他	10	50.0%	80.0%	50.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%
本気で自殺したいと思ったことの有無別	ある	377	19.4%	69.5%	46.9%	38.2%	9.5%	9.3%	8.5%	17.2%	7.7%
	ない	1,112	19.8%	74.9%	49.5%	38.8%	6.7%	6.9%	8.1%	14.8%	5.0%
1年以内に自殺したいと思ったことの有無別	ある	84	16.7%	57.1%	44.0%	39.3%	9.5%	8.3%	9.5%	22.6%	17.9%
	ない	286	20.3%	73.4%	48.3%	38.5%	9.8%	9.1%	8.4%	15.7%	4.5%

性別にみると、男女ともに「家族や友人との信頼関係」が最も多く、以下、「やりがいのある仕事や趣味」、「経済的な安定」、「将来の夢」などとなっている。「家族や友人との信頼関係」は、女性（78.7%）が男性（65.9%）に比べて12.8ポイント多く、「やりがいのある仕事や趣味」は、男性（52.1%）が女性（44.9%）に比べて7.2ポイント多く、それぞれ男女間での差が大きい。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「家族や友人との信頼関係」が最も多いが、50歳代以下では70%台となっており、60歳代以上が60%台であるのに比べて多い。「やりがいのある仕事や趣味」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、「信仰」や「社会や地域に対する信頼感」は年齢層が高いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、いずれの職業でも「家族や友人との信頼関係」が最も多いが、「専業主婦・主夫」が83.9%で最も多く、逆に、「無職」が53.5%で最も少ない。「特にない」は「無職」が10.8%で最も多い。このほか、「将来の夢」は、「学生」や「自営業」、「勤めている（常勤）」、「自由業」では20%を超え、他の職業に比べてやや多い。また、「ライフスキル（問題対処能力）」は「自由業」が11.6%で最も多く、「社会や地域に対する信頼感」は「自営業」が11.9%で最も多い。

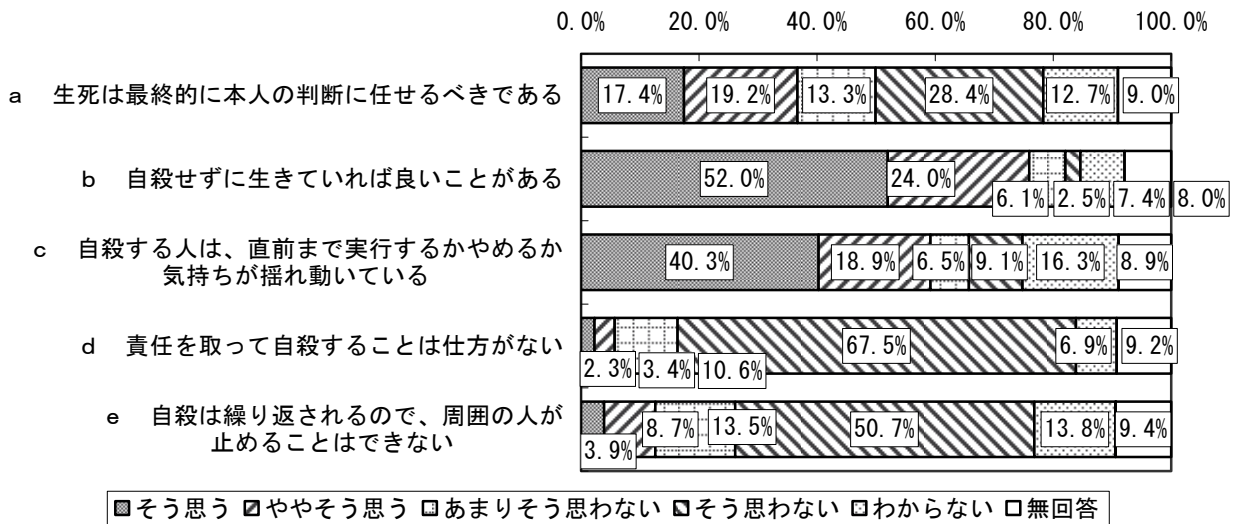
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「家族や友人との信頼関係」が最も多いが、「過去に自殺願望なし群」(74.9%)が「過去に自殺願望あり群」(69.5%)に比べて5.4ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「家族や友人との信頼関係」が最も多いが、「1年以内自殺願望なし群」(73.4%)が「1年以内自殺願望あり群」(57.1%)に比べて16.3ポイント多い。「楽しかった過去の思い出」や「特にない」は、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べてそれぞれ5ポイント以上多く、その差が大きい。

3 自殺やうつに関する意識について

問18 あなたは、自殺についてどのように思いますか。次のaからeそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 自殺に対する意識・考え方



自殺に対する意識・考え方をたずねた。本問においては、「そう思う」と「そう思わない」を合わせて「肯定的意識」、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせて「否定的意識」と表記して分析を行う。

「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」は、「そう思わない」が28.4%で最も多い。「否定的意識」は41.7%、「肯定的意識」は36.6%となっている。

「b 自殺せずに生きていれば良いことがある」は、「そう思う」が52.0%で最も多い。「肯定的意識」は76.0%、「否定的意識」は8.6%となっている。

「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」は、「そう思う」が40.3%で最も多い。「肯定的意識」は59.2%、「否定的意識」は15.6%となっている。

「d 責任を取って自殺することは仕方がない」は、「そう思わない」が67.5%で最も多い。「否定的意識」は78.1%、「肯定的意識」は5.7%となっている。

「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」は、「そう思わない」が50.7%で最も多い。「否定的意識」は64.2%、「肯定的意識」は12.6%となっている。

「b 自殺せずに生きていれば良いことがある」と「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」は、「肯定的意識」が「否定的意識」を上回っている。逆に、「a 生死や最終的に本人の判断に任せるべきである」・「d 責任を取って自殺することは仕方がない」・「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」は、「否定的意識」が「肯定的意識」を上回っているが、「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」は、「肯定的意識」と「否定的意識」との差が5.1ポイントで、その差が他の項目に比べて小さい。

図表 加重平均 自殺に対する意識・考え方（単位：点）

		a	b	c	d	e
		生死は最終的に本人の判断に任せるべきである	自殺せずに生きていけば良いことがある	自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている	責任を取って自殺することは仕方がない	自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない
全体		2.33	3.48	3.21	1.29	1.55
性別	男性	2.36	3.46	3.26	1.33	1.63
	女性	2.29	3.49	3.17	1.26	1.49
年齢	20歳代	2.67	3.32	2.82	1.35	1.57
	30歳代	2.59	3.46	3.21	1.27	1.58
	40歳代	2.30	3.46	3.08	1.24	1.53
	50歳代	2.13	3.52	3.22	1.28	1.50
	60歳代	2.07	3.55	3.47	1.28	1.58
	70歳以上	2.42	3.57	3.57	1.49	1.68
職業	勤めている（常勤）	2.40	3.46	3.22	1.26	1.54
	勤めている（パート・アルバイト）	2.20	3.53	3.15	1.22	1.43
	自営業	2.27	3.47	3.21	1.32	1.69
	自由業	2.21	3.66	3.31	1.35	1.73
	専業主婦・主夫	2.29	3.55	3.17	1.29	1.50
	学生	2.63	3.17	2.95	1.65	2.00
	無職	2.45	3.37	3.37	1.50	1.73
	その他	1.86	3.75	2.86	1.00	1.17
本気で自殺したいと思ったことの有無	ある	2.46	3.23	3.14	1.41	1.72
	ない	2.29	3.55	3.23	1.25	1.49
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無	ある	2.52	2.77	2.84	1.50	1.93
	ない	2.43	3.35	3.23	1.38	1.67

そう思う＝4点、ややそう思う＝3点、あまりそう思わない＝2点、そう思わない＝1点と配点し、《（〈選択肢ごとの回答者数〉×〈選択肢ごとの配点〉）÷〈「無回答」と「わからない」を除く当該設問の回答者数の合計〉》により加重平均を算出し、「肯定的意識」と「否定的意識」の程度を求めた。2.50点を評価の中間とし、これより4.00点に近いほど「肯定的意識」が強く、1.00点に近いほど「否定的意識」が強い。

「肯定的意識」が最も強いのは「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」（3.48点）で、次いで「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」（3.21点）となっている。逆に、「否定的意識」が最も強いのは「d 責任を取って自殺することは仕方がない」（1.29点）で、次いで「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」（1.55点）となっている。

性別にみると、「肯定的意識」が最も強いのは、男女ともに「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」で、次いで「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」となっている。逆に、「否定的意識」が最も強いのは、男女ともに「d 責任を取って自殺することは仕方がない」で、次いで「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」となっている。両者とも、女性の「否定的意識」が男性に比べて強い。

年齢別にみると、「肯定的意識」が最も強いのは、いずれの年齢層でも「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」（70歳以上は「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」も同点）となっており、年齢層が高いほど「肯定的意識」が強い傾向となっている。また、「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」は、60歳代以下では年齢層が低いほど「肯定的意識」が強い傾向となっている。逆に、「否定的意識」が最も強いのは、いずれの年齢層でも「d 責任を取って自殺することは仕方がない」となっている。「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」は、年齢層が低いほど「否定的意識」が強い傾向となっている。

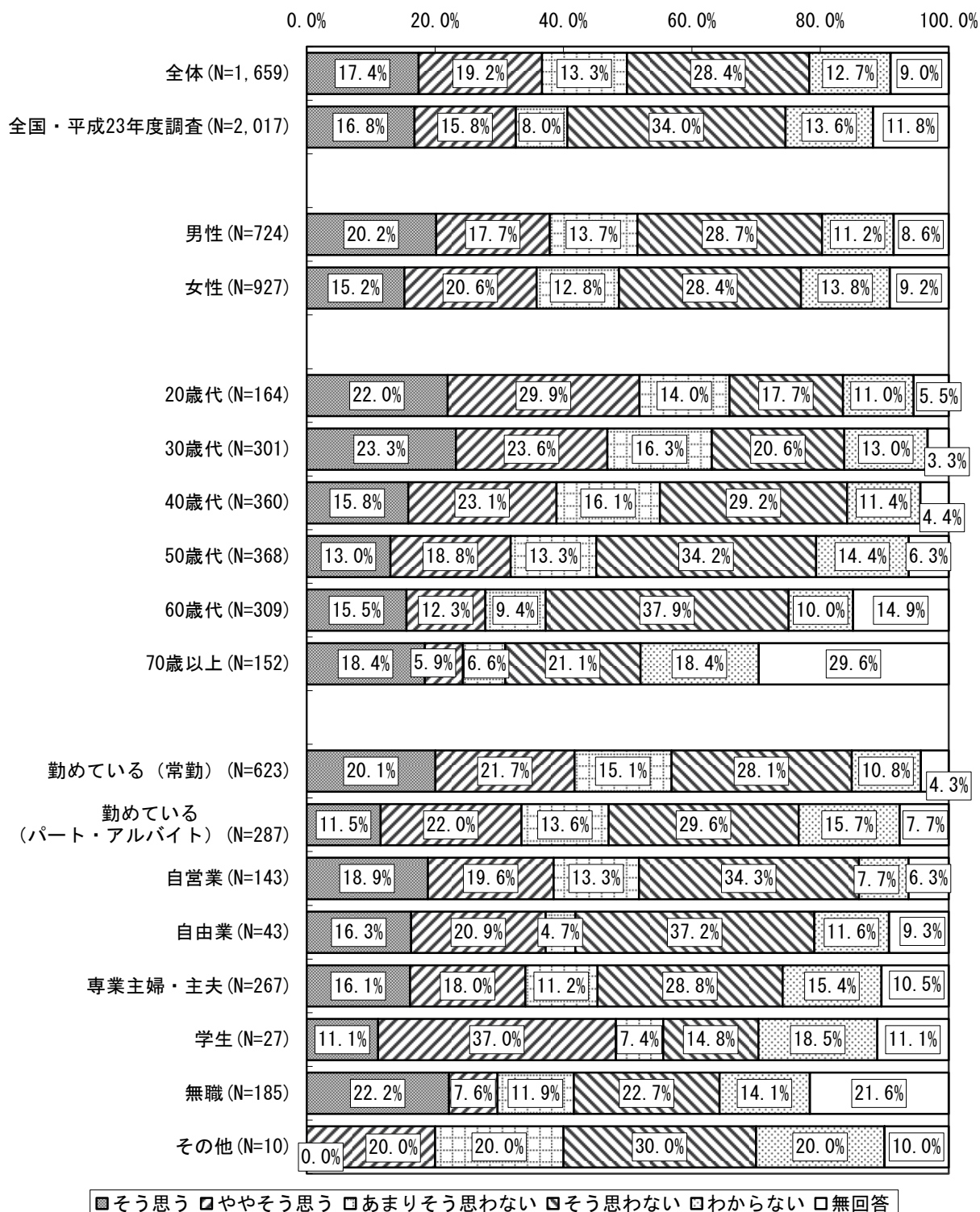
職業別にみると、「肯定的意識」が最も強いのは、いずれの職業でも「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」となっており、「自由業」が3.66点で最も高く、「学生」が3.17点で最も低い。「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」については、「肯定的意識」は「学生」（2.63点）が最も強く、「勤めている（パート・アルバイト）」（2.20点）が最も弱い。また、「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」については、「肯定的意識」は「無職」（3.37点）が最も強く、「学生」（2.95点）が最も弱い。逆に、「d 責任を取って自殺することは仕方がない」については、「否定的意識」は「勤めている（パート・アルバイト）」（1.22点）が最も強く、「学生」（1.65点）が最も弱い。同様に、「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」についても、「否定的意識」は「勤めている（パート・アルバイト）」（1.43点）が最も強く、「学生」（2.00点）が最も弱い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」が最も強いのは、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」だが、「過去に自殺願望なし群」（3.55点）が「過去に自殺願望あり群」（3.23点）に比べて「肯定的意識」がより強い。逆に、「否定的意識」が最も強いのは、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「d 責任を取って自殺することは仕方がない」だが、「過去に自殺願望なし群」（1.25点）が「過去に自殺願望あり群」（1.41点）に比べて「否定的意識」がより強い。

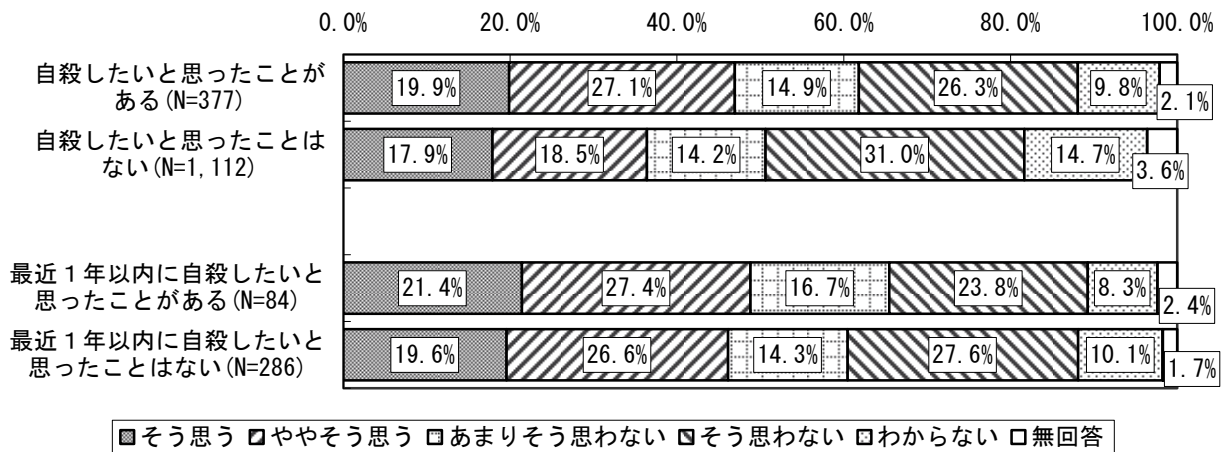
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」が最も強いのは、「1年以内自殺願望あり群」では「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」、「1年以内自殺願望なし群」では「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」となっている。逆に、「否定的意識」が最も強いのは、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく「d 責任を取って自殺することは仕方がない」だが、「1年以内自殺願望なし群」が「1年以内自殺願望あり群」に比べて「否定的意識」がより強い。

(a) 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである

図表 自殺に対する意識・考え方「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」



図表 自殺に対する意識・考え方「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」



「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」について、全国調査と比較すると、「肯定的意識」は本調査が4.0ポイント多いが、「否定的意識」は本調査が0.3ポイント少なく、大差はない。

性別にみると、「肯定的意識」は、男性が37.9%、女性が35.8%で、「否定的意識」は、男性が42.4%、女性が41.2%となっており、男女ともに「否定的意識」が「肯定的意識」を上回っている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど「肯定的意識」が多い傾向となっており、特に「ややそう思う」がその傾向が顕著である。また、強い「肯定的意識」である「そう思う」は、20歳代と30歳代で20%台となっており、40歳代以上が10%台であるのに比べて多い。

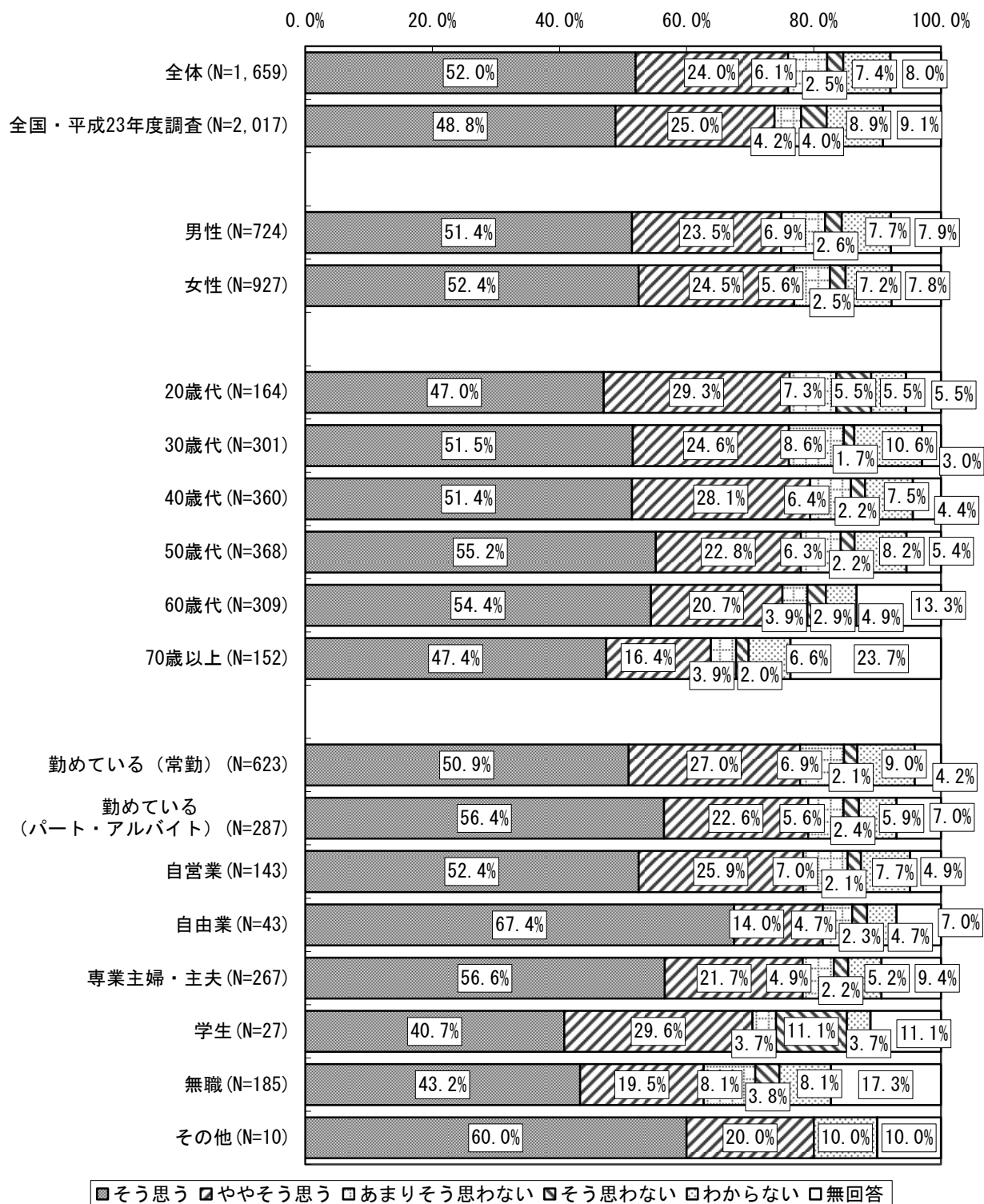
職業別にみると、「学生」では「肯定的意識」が「否定的意識」を上回っているが、他の職業ではこれが逆転しているが、「勤めている（常勤）」では、「否定的意識」が43.2%、「肯定的意識」が41.8%と大差はない。強い「肯定的意識」である「そう思う」は、「無職」や「勤めている（常勤）」では20%台となっており、他の職業が10%台であるのに比べて多い。逆に、強い「否定的意識」である「そう思わない」は、「自由業」や「自営業」では30%台となっており、他の職業が10%台～20%台であるのに比べて多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」は、「過去に自殺願望あり群」（47.0%）が「過去に自殺願望なし群」（36.4%）に比べて10.6ポイント多い。

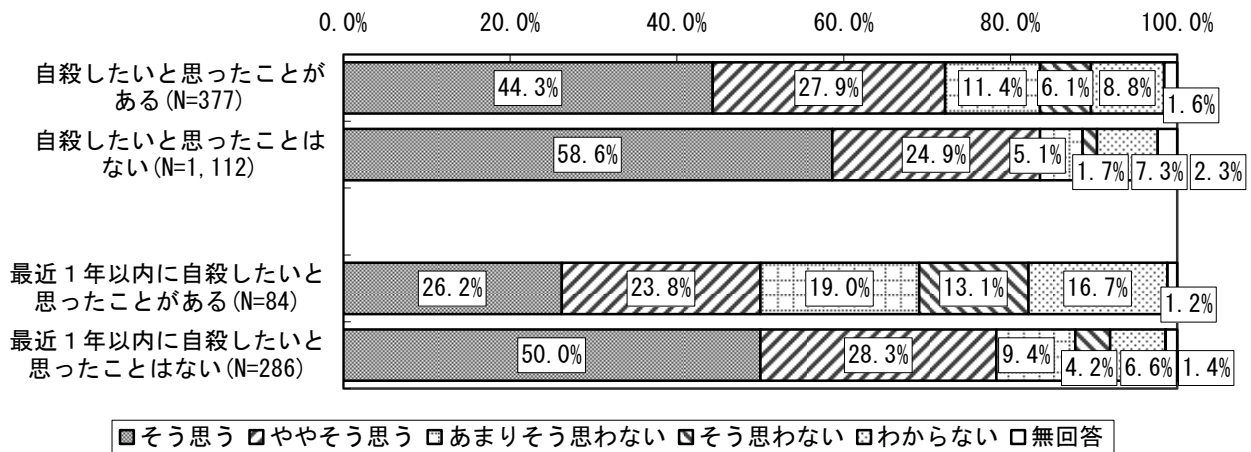
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」は、「1年以内自殺願望あり群」が48.8%、「1年以内自殺願望なし群」が46.2%で、大差はない。

(b) 自殺せずに生きていれば良いことがある

図表 自殺に対する意識・考え方「b 自殺せずに生きていれば良いことがある」



図表 自殺に対する意識・考え方「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」



「b 自殺せずに生きていけば良いことがある」について、全国調査と比較すると、「肯定的意識」は本調査が2.2ポイント多く、「否定的意識」は0.4ポイント多いが、それぞれ大差はない。

性別にみると、「肯定的意識」は、男性が74.9%、女性が76.9%で、大差はない。

年齢別にみると、「肯定的意識」は40歳代が79.5%で最も多く、次いで50歳代が78.0%となっている。「ややそう思う」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、強い「肯定的意識」である「そう思う」は30歳代～60歳代では過半数を占め、20歳代と70歳以上が40%台であるのに比べてやや多い。

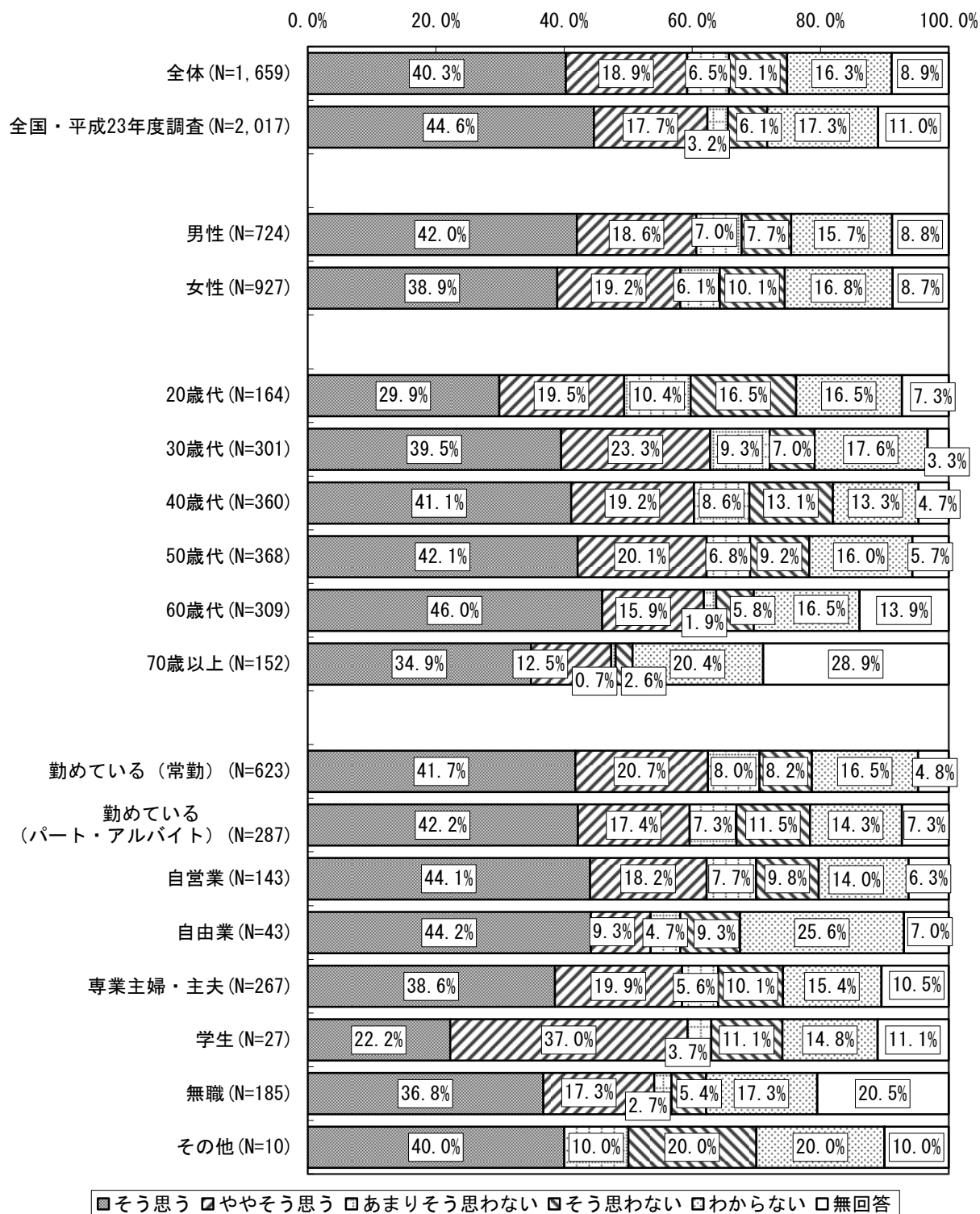
職業別にみると、いずれの職業でも「肯定的意識」が「否定的意識」を上回っているが、「肯定的意識」は「無職」が62.7%で最も少なく、「否定的意識」は「学生」が14.8%で最も多い。強い「肯定的意識」である「そう思う」は、「自由業」が67.4%で最も多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」は、「過去に自殺願望なし群」(83.5%)が「過去に自殺願望あり群」(72.2%)に比べて11.3ポイント多い。

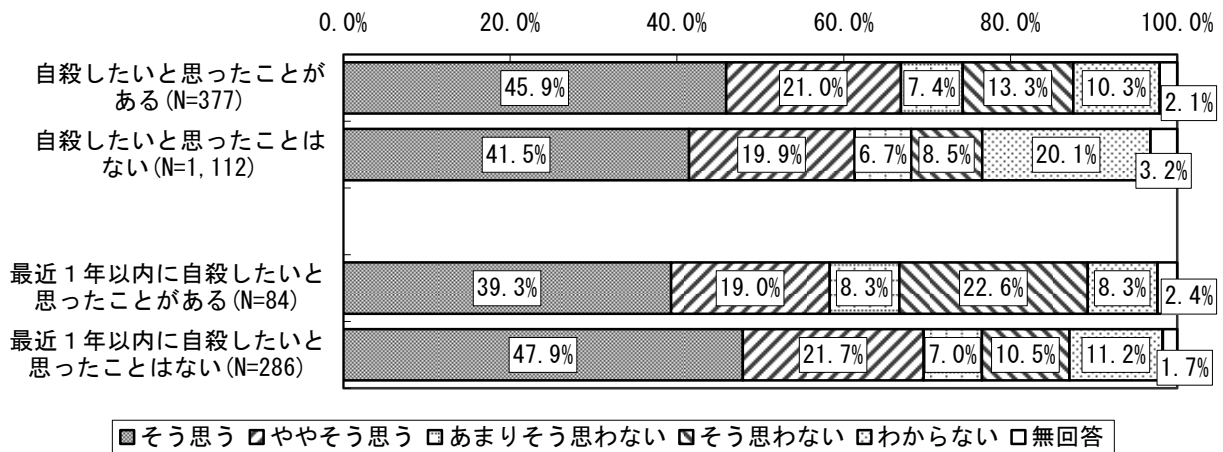
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」は、「1年以内自殺願望なし群」(78.3%)が「1年以内自殺願望あり群」(50.0%)に比べて28.3ポイント多い。

(c) 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている

図表 自殺に対する意識・考え方「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」



図表 自殺に対する意識・考え方「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」



「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」について、全国調査と比較すると、「肯定的意識」は本調査が3.1ポイント少なく、「否定的意識」は本調査が6.3ポイント多い。

性別にみると、「肯定的意識」は、男性が60.6%、女性が58.1%で、大差はない。強い「肯定的意識」である「そう思う」は、男性（42.0%）が女性（38.9%）に比べて3.1ポイント多い。

年齢別にみると、強い「肯定的意識」である「そう思う」は、60歳代を最多として年齢層が高いほど多い傾向となっている。「否定的意識」は20歳代が26.9%で最も多い。

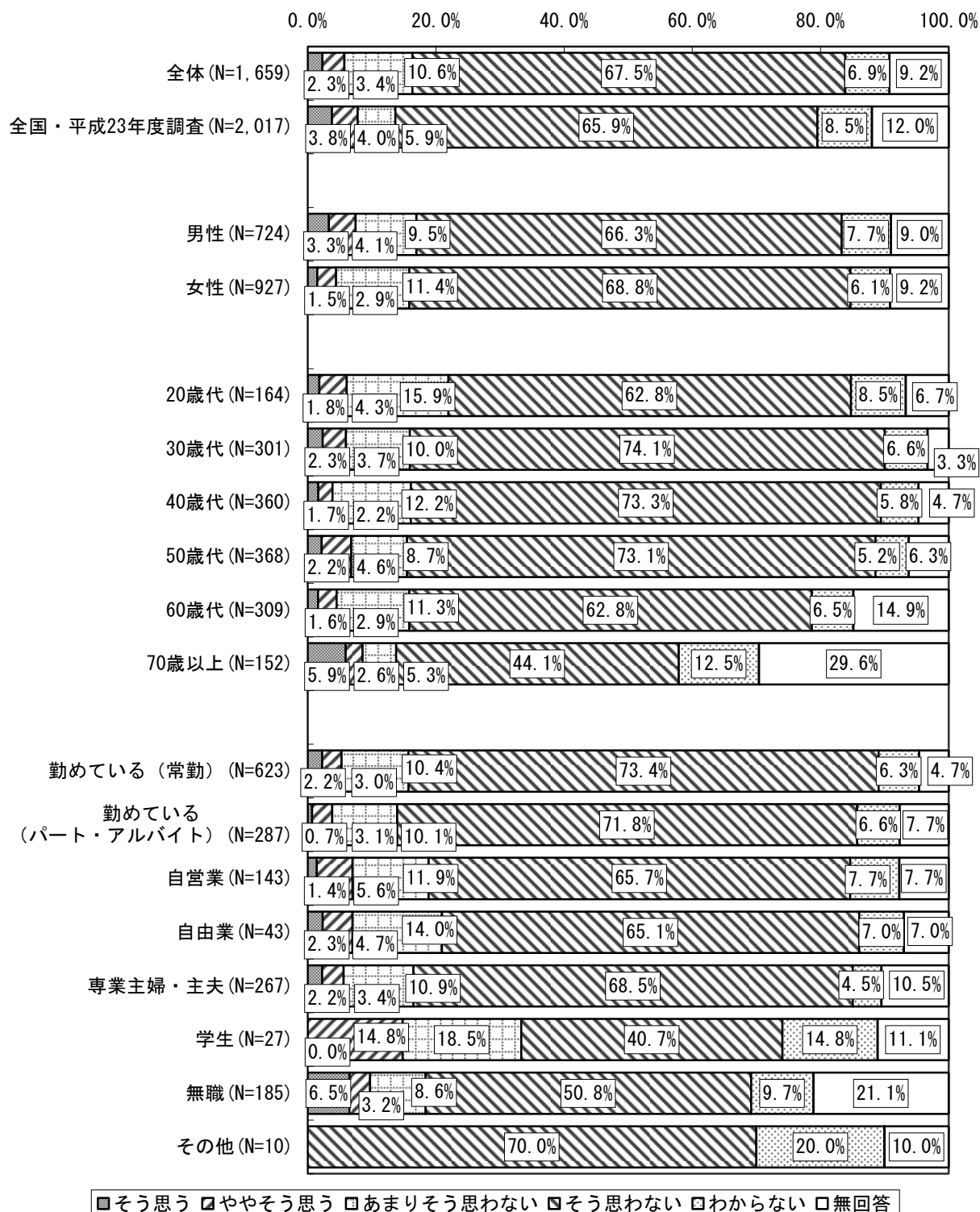
職業別にみると、「肯定的意識」は、常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」・「自営業」・「専業主婦・主夫」・「学生」では60%前後とやや多いが、強い「肯定的意識」である「そう思う」は、就労者である「専業主婦・主夫」や「学生」、「無職」以外では40%以上を占め、多い傾向にある。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」は、「過去に自殺願望あり群」（66.9%）が「過去に自殺願望なし群」（61.4%）に比べて5.5ポイント多い。

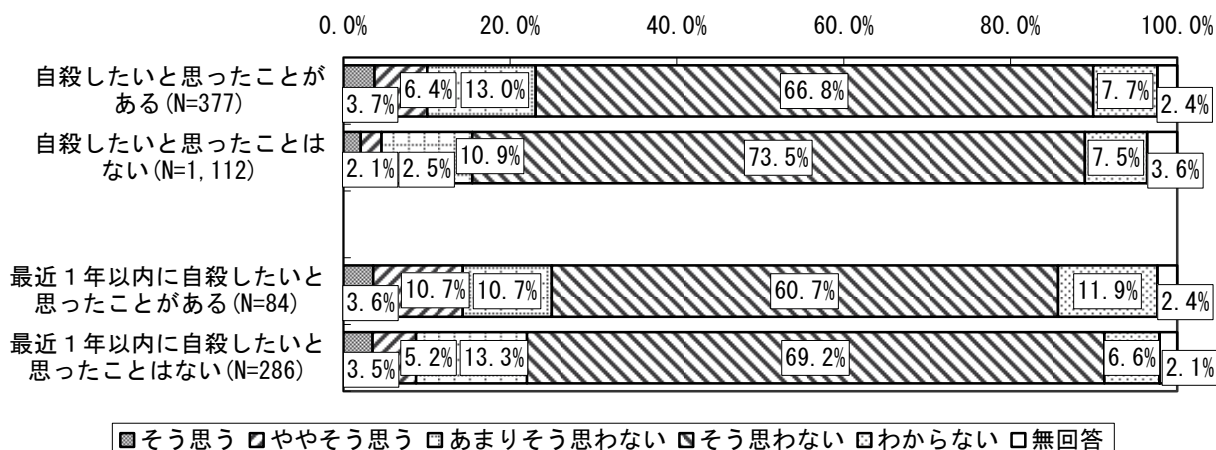
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「肯定的意識」は、「1年以内自殺願望なし群」（69.6%）が「1年以内自殺願望あり群」（58.3%）に比べて11.3ポイント多い。

(d) 責任を取って自殺することは仕方がない

図表 自殺に対する意識・考え方「d 責任を取って自殺することは仕方がない」



図表 自殺に対する意識・考え方「d 責任を取って自殺することは仕方がない」



「d 責任を取って自殺することは仕方がない」について、全国調査と比較すると、「否定的意識」は本調査が6.3ポイント多いが、「肯定的意識」は本調査が2.1ポイント少なく、大差はない。

性別にみると、「否定的意識」は、男性が75.8%、女性が80.2%で、女性が男性に比べて4.4ポイント多い。

年齢別にみると、「否定的意識」は、30歳代を最多として年齢層が低いほど多い傾向となっており、強い「否定的意識」である「そう思わない」も同様の傾向となっている。

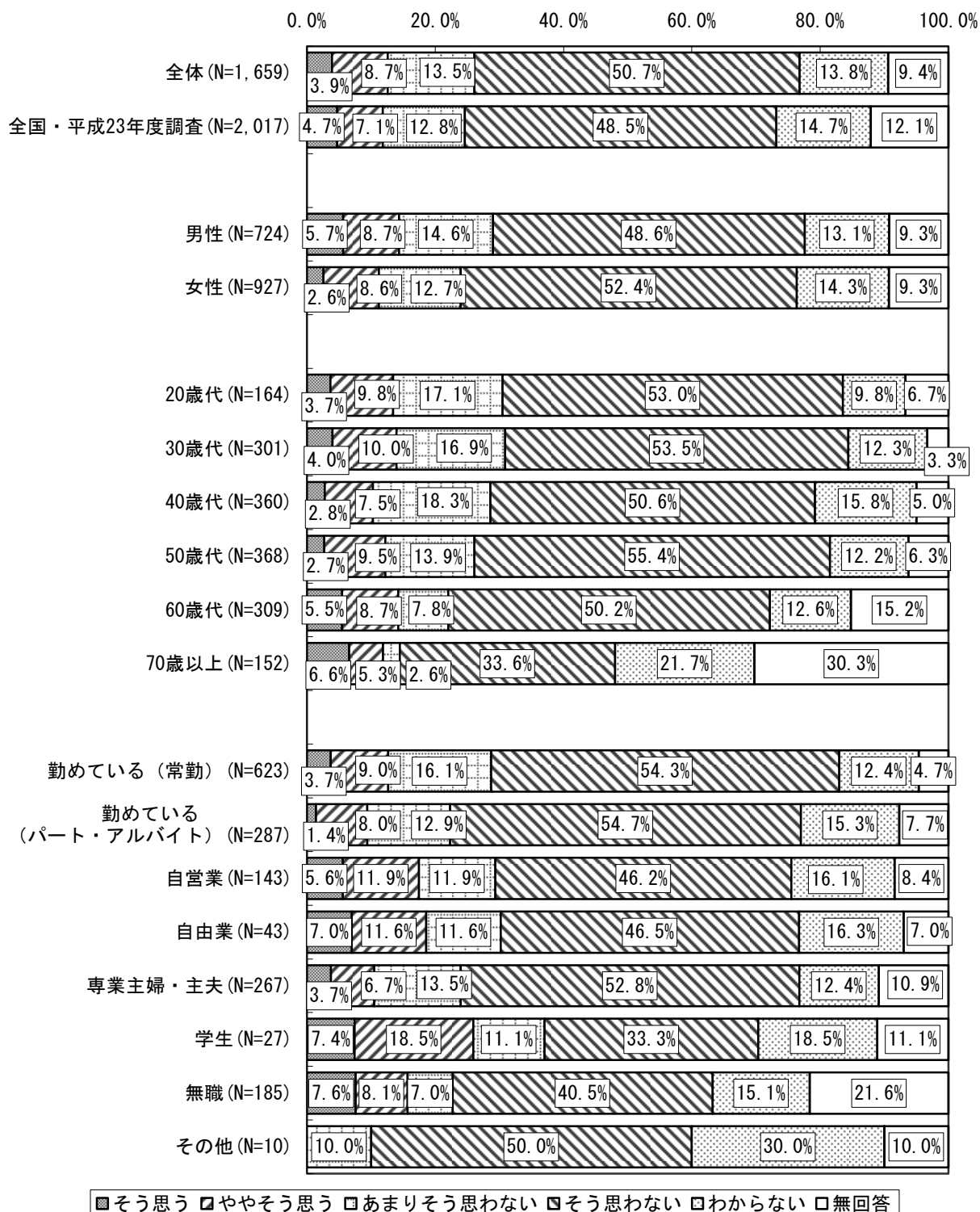
職業別にみると、「肯定的意識」は「学生」が14.8%となっており、他の職業では10%未満であるのに比べてやや多い。逆に、「否定的意識」はいずれの職業でも過半数を占めているが、常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」では80%台と他の職業に比べて多く、特に、強い「否定的意識」である「そう思わない」は、いずれも70%台と多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「否定的意識」は、「過去に自殺願望なし群」(84.4%)が「過去に自殺願望あり群」(79.8%)に比べて4.6ポイント多い。他方、「肯定的意識」は、「過去に自殺願望あり群」(10.1%)が「過去に自殺願望なし群」(4.6%)に比べて5.5ポイント多い。

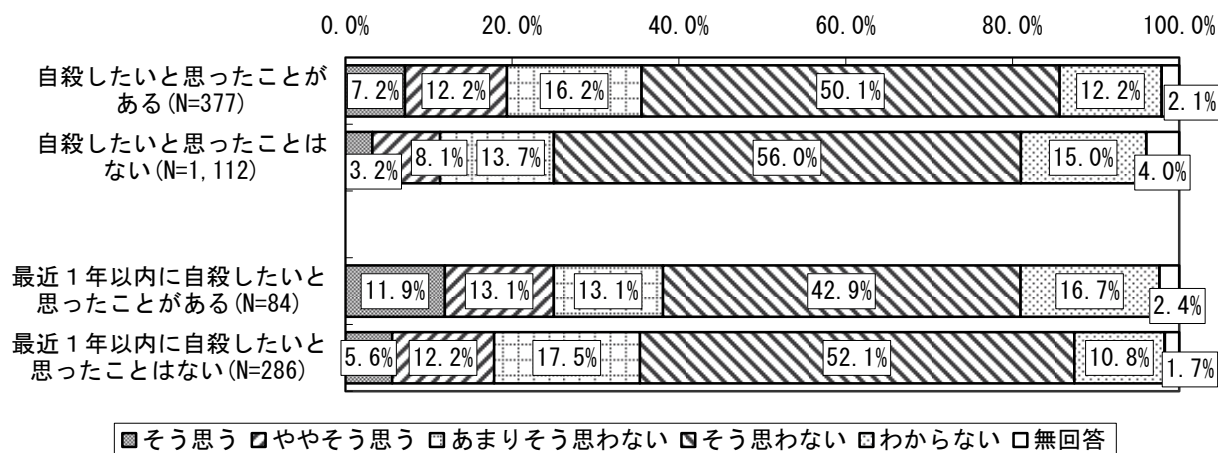
最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「否定的意識」は、「1年以内自殺願望なし群」(82.5%)が「1年以内自殺願望あり群」(71.4%)に比べて11.1ポイント多い。逆に、「肯定的意識」は、「1年以内自殺願望あり群」(14.3%)が「1年以内自殺願望なし群」(8.7%)に比べて5.6ポイント多い。

(e) 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

図表 自殺に対する意識・考え方「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」



図表 自殺に対する意識・考え方「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」



「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」について、全国調査と比較すると、「否定的意識」は本調査が2.9ポイント多く、「肯定的意識」は本調査が0.8ポイント多く、それぞれ大差はない。

性別にみると、「否定的意識」は、男性が63.2%、女性が65.1%で、大差はない。

年齢別にみると、「否定的意識」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、「あまりそう思わない」も同様の傾向となっている。

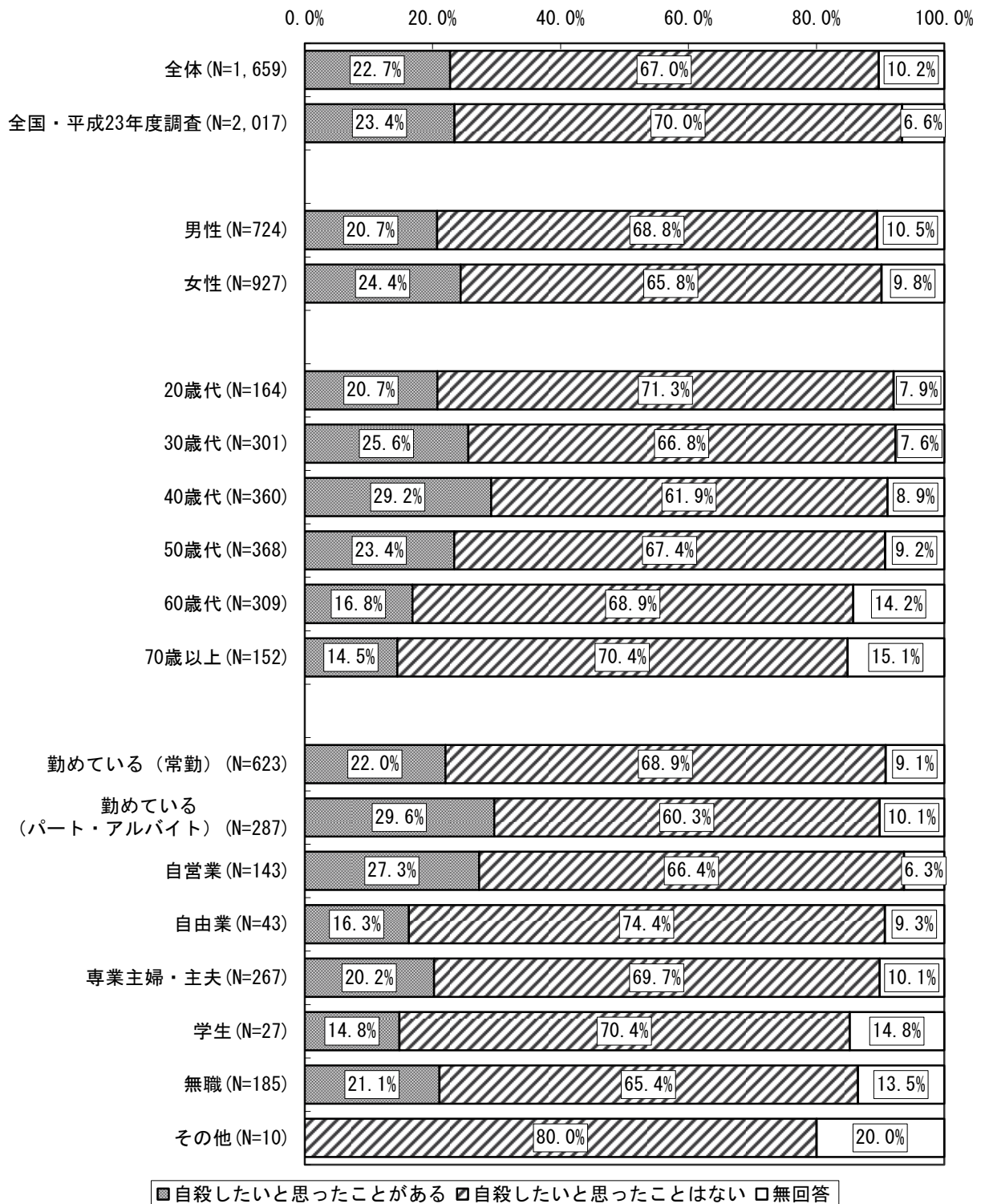
職業別にみると、「肯定的意識」は「学生」が25.9%となっており、他の職業では20%未満であるのに比べて多い。逆に、「否定的意識」は、「無職」と「学生」では40%台であるのに対して、他の職業では過半数を占めている。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「否定的意識」は、「過去に自殺願望なし群」(69.7%)が「過去に自殺願望あり群」(66.3%)に比べて3.4ポイント多い。他方、「肯定的意識」は、「過去に自殺願望あり群」(19.4%)が「過去に自殺願望なし群」(11.3%)に比べて8.1ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「否定的意識」は、「1年以内自殺願望なし群」(69.6%)が「1年以内自殺願望あり群」(56.0%)に比べて13.6ポイント多い。逆に、「肯定的意識」は、「1年以内自殺願望あり群」(25.0%)が「1年以内自殺願望なし群」(17.8%)に比べて7.2ポイント多い。

問19 あなたは、これまでの人生の中で、本気で自殺したいと考えたことがありますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

図表 これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことの有無



これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことの有無をたずねたところ、「自殺したいと思ったことはない」（過去に自殺願望なし群）が67.0%、「自殺したいと思ったことがある」（過去に自殺願望あり群）が22.7%となっている。

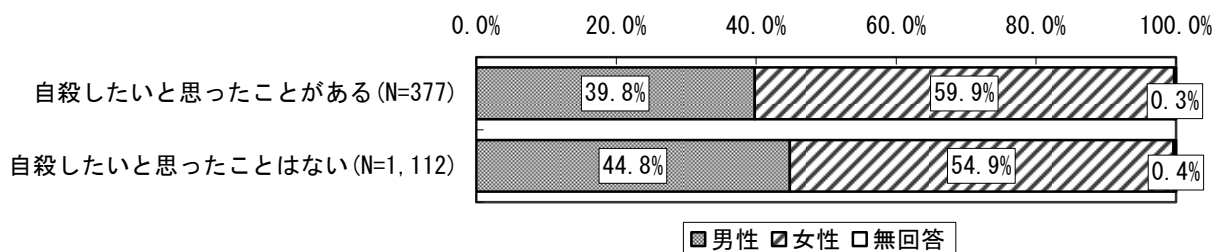
全国調査と比較すると、「自殺したいと思ったことがある」は0.7ポイント差で大差はないが、「自殺したいと思ったことはない」は本調査が3.0ポイント少ない。

性別にみると、「自殺したいと思ったことがある」は、女性（24.4%）が男性（20.7%）に比べて3.7ポイント多い。

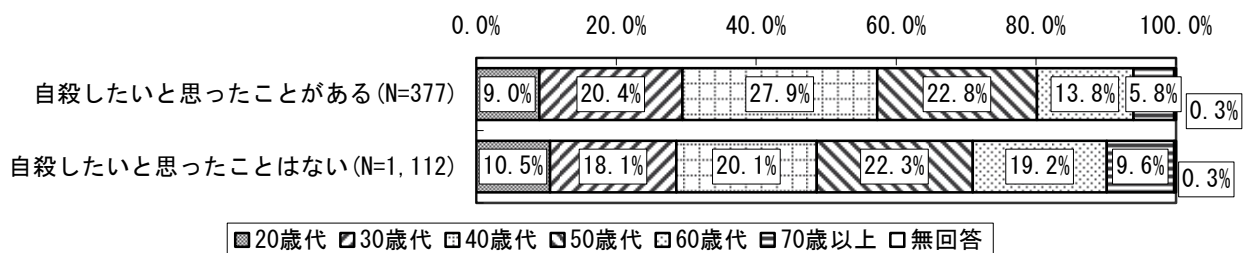
年齢別にみると、「自殺したいと思ったことがある」は、50歳代以下では20%台となっており、60歳代以上が10%台であるのに比べて多く、40歳代が29.2%で最も多い。

職業別にみると、「自殺したいと思ったことがある」は、「勤めている（パート・アルバイト）」が29.6%で最も多く、以下、「自営業」が27.3%、「勤めている（常勤）」が22.0%などとなっている。

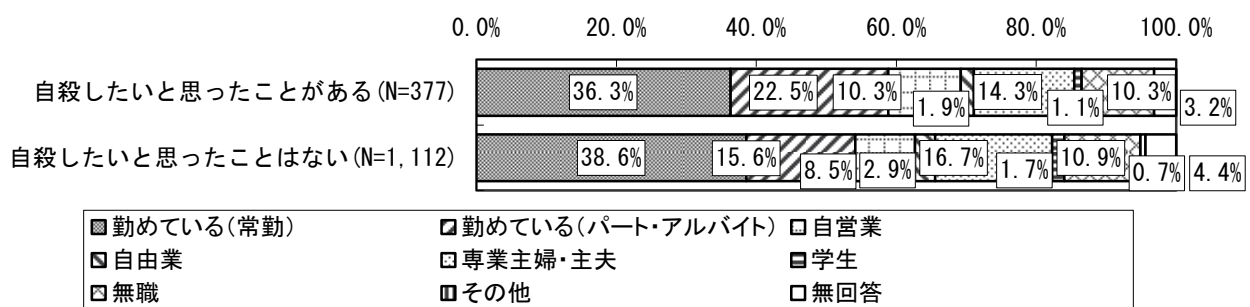
図表 これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことの有無別 回答者の性別



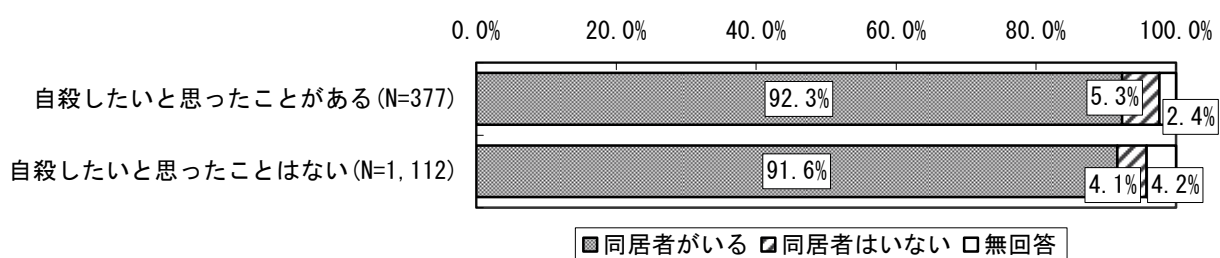
図表 これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことの有無別 回答者の年齢



図表 これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことの有無別 回答者の職業



図表 これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことの有無別 回答者の同居者の有無



これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無について、その属性の詳細をみた。性別については、「過去に自殺願望あり群」は、女性が59.9%、男性が39.8%となっている。

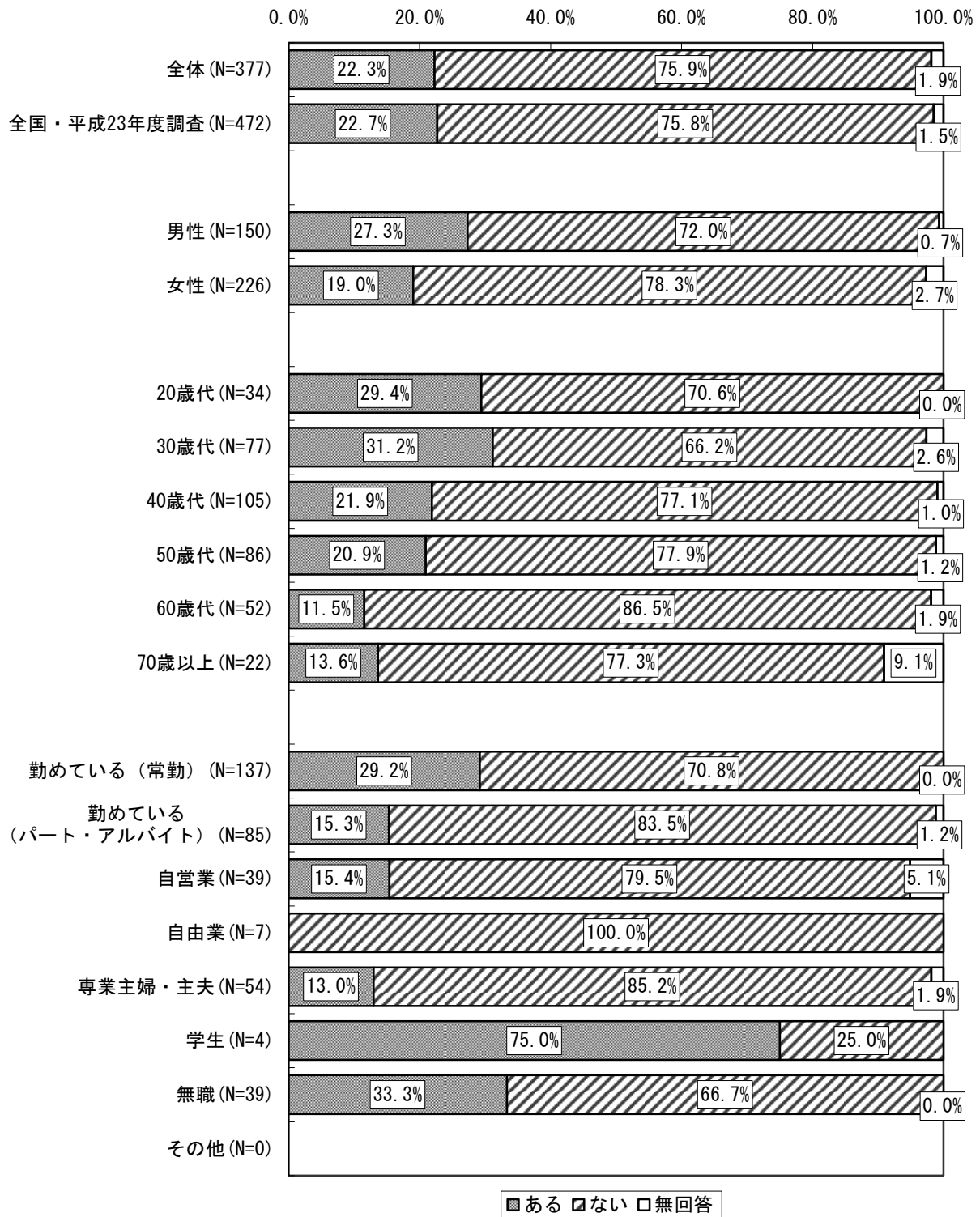
年齢については、「過去に自殺願望あり群」は、40歳代が27.9%で最も多く、以下、50歳代が22.8%、30歳代が20.4%などとなっている。

職業については、「過去に自殺願望あり群」は、「勤めている（常勤）」が36.3%で最も多く、以下、「勤めている（パート・アルバイト）」が22.5%、「専業主婦・主夫」が14.3%、「無職」が10.3%などとなっている。

同居者の有無については、「過去に自殺願望あり群」は、同居者が「いる」人が92.3%、「いない」人が5.3%となっている。

問20 問19で「2 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方にお聞きします。あなたは、最近1年以内に自殺したいと思ったことがありますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

図表 最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無



これまでの人生で本気で自殺したいと思ったことがある人に対して、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無をたずねたところ、「ない」（1年以内自殺願望なし群）が75.9%、「ある」（1年以内自殺願望あり群）が22.3%となっている。

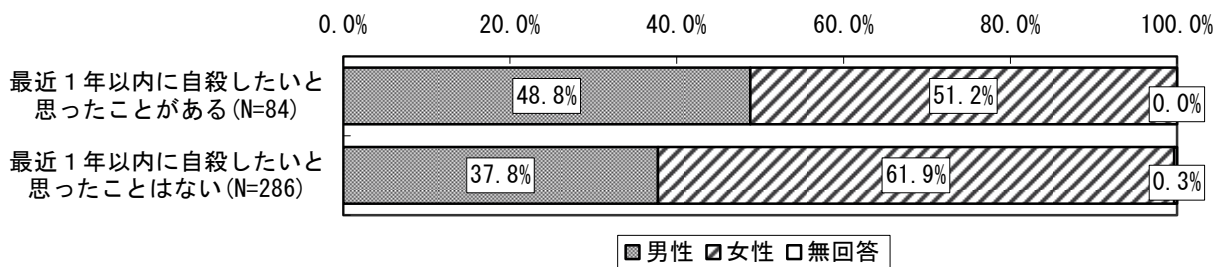
全国調査と比較すると、いずれも本調査と全国調査との差は1ポイント以内で、回答傾向に大差はない。

性別にみると、「ある」は、男性（27.3%）が女性（19.0%）に比べて8.3ポイント多い。

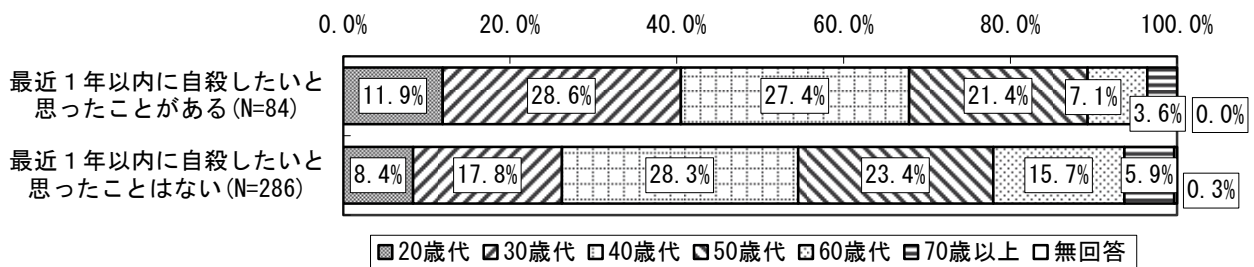
年齢別にみると、年齢層が低いほど「ある」が多い傾向となっている。

職業別にみると、集計母数が少ない「自由業」と「学生」を除き、「ある」は「無職」が33.3%で最も多く、以下、「勤めている（常勤）」が29.2%、「自営業」が15.4%、「勤めている（パート・アルバイト）」が15.3%などとなっている。

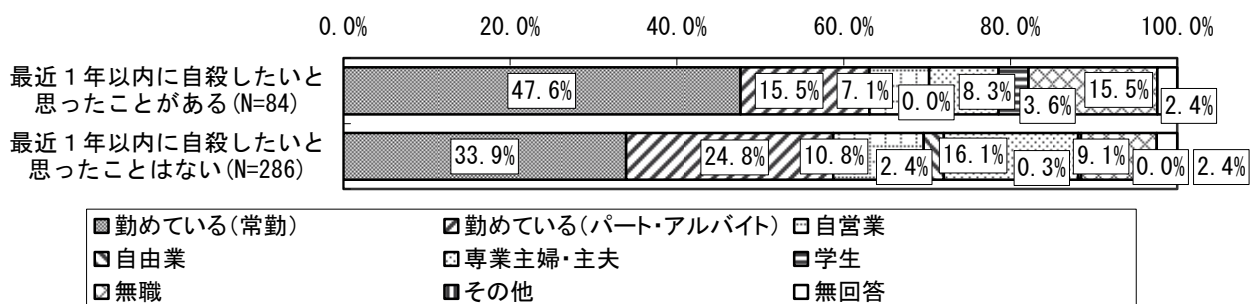
図表 最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別 回答者の性別



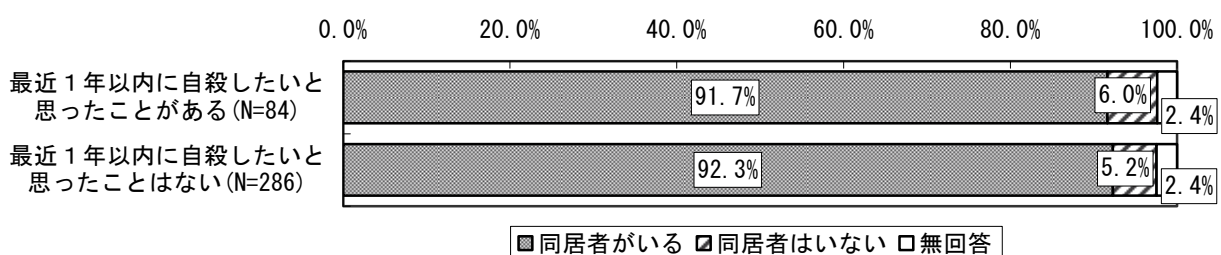
図表 最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別 回答者の性別



図表 最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別 回答者の職業



図表 最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別 回答者の同居者の有無



最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無について、その属性の詳細をみた。

性別については、「1年以内自殺願望あり群」は、女性が51.2%、男性が48.8%となっている。

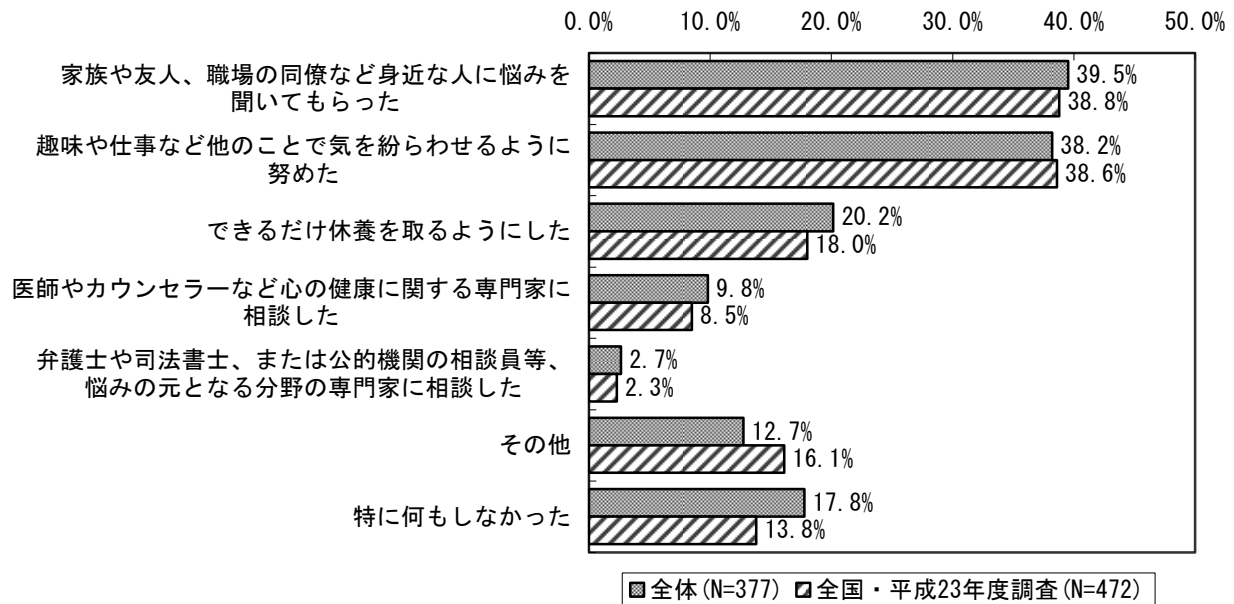
年齢については、「1年以内自殺願望あり群」人は、30歳代が28.6%で最も多く、以下、40歳代が27.4%、50歳代が21.4%などとなっている。

職業については、「1年以内自殺願望あり群」は、「勤めている（常勤）」が47.6%で最も多く、次いで「勤めている（パート・アルバイト）」と「無職」がともに15.5%となっている。

同居者の有無については、「1年以内自殺願望あり群」は、同居者が「いる」人が91.7%、「いない」人が6.0%となっている。

問21 問19で「2 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方にお聞きします。あなたがそのように考えたとき、どのようにして乗り越えましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 自殺したいと考えたときにとった対処法（複数回答）



※「その他」・「特に何もしなかった」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

これまでの人生で本気で自殺したいと思ったことがある人に対して、そう思ったときにとった対処法をたずねたところ、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が39.5%で最も多く、以下、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が38.2%、「できるだけ休養を取るようにした」が20.2%、「特に何もしなかった」が17.8%などとなっている。

全国調査と比較すると、「その他」と「特に何もしなかった」以外は回答傾向に大差はないが、「特に何もしなかった」は、本調査が4.0ポイント多い。

図表 自殺したいと考えたときにとった対処法（複数回答）

		集計母数	近家族や友人、悩みを聞いてもらった身	医師やカウンセラーなど心身の健康に関する専門家に相談した	専門家の相談した	弁護士や司法書士、また公的機関の相談員等、悩みの元となる	できるだけ休養を取るようにした	趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた	その他	特に何もしなかった
全体		377	39.5%	9.8%	2.7%	20.2%	38.2%	12.7%	17.8%	
性別	男性	150	32.0%	10.0%	4.0%	23.3%	39.3%	11.3%	23.3%	
	女性	226	44.2%	9.3%	1.8%	18.1%	37.2%	13.7%	14.2%	
年齢	20歳代	34	55.9%	8.8%	0.0%	23.5%	26.5%	8.8%	20.6%	
	30歳代	77	40.3%	10.4%	0.0%	24.7%	48.1%	14.3%	15.6%	
	40歳代	105	36.2%	8.6%	3.8%	18.1%	39.0%	8.6%	21.9%	
	50歳代	86	39.5%	8.1%	3.5%	19.8%	38.4%	14.0%	17.4%	
	60歳代	52	42.3%	13.5%	5.8%	21.2%	32.7%	19.2%	11.5%	
	70歳以上	22	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	27.3%	13.6%	18.2%	
職業	勤めている（常勤）	137	35.5%	23.0%	17.5%	79.9%	7.2%	2.7%	3.5%	
	勤めている（パート・アルバイト）	85	54.9%	37.1%	18.8%	48.7%	6.7%	4.9%	4.5%	
	自営業	39	53.5%	33.3%	43.4%	37.4%	4.0%	0.0%	9.1%	
	自由業	7	40.0%	33.3%	36.7%	43.3%	10.0%	10.0%	16.7%	
	専業主婦・主夫	54	73.9%	40.6%	15.0%	3.9%	3.3%	4.4%	9.4%	
	学生	4	16.7%	27.8%	22.2%	33.3%	27.8%	27.8%	5.6%	
	無職	39	42.0%	67.0%	26.8%	6.3%	8.9%	2.7%	3.6%	
	その他	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

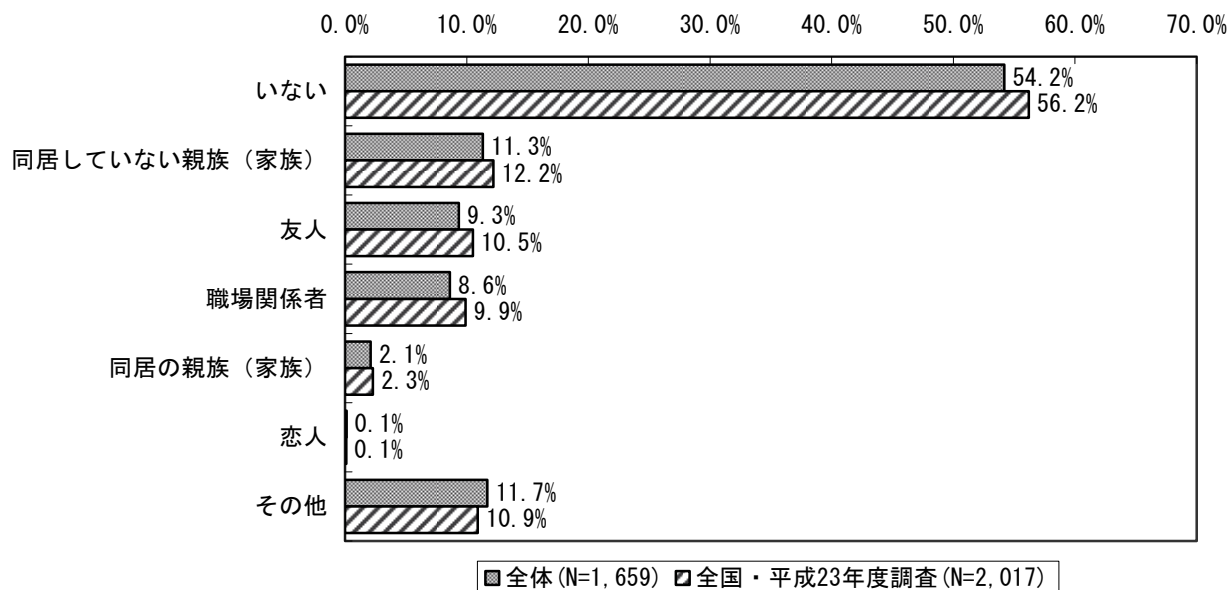
性別にみると、男性では「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が最も多く、以下、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」、「できるだけ休養を取るようにした」と「特に何もしなかった」（同率）などとなっている。女性では「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が最も多く、以下、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」、「特に何もしなかった」などとなっている。「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」は、女性（44.2%）が男性（32.0%）に比べて12.2ポイント多い。他方、「特に何もしなかった」は、男性（23.3%）が女性（14.2%）に比べて9.1ポイント多く、「できるだけ休養を取るようにした」は、男性（23.3%）が女性（18.1%）に比べて5.2ポイント多い。

年齢別にみると、20歳代・50歳代・60歳代では「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」、30歳代・40歳代・70歳以上では「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」がそれぞれ最も多い。

職業別にみると、集計母数が少ない「自由業」と「学生」を除くと、いずれも上位2項目は「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」と「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」があげられており、前者は「勤めている（パート・アルバイト）」と「専業主婦・主夫」で最も多く、後者は「勤めている（常勤）」・「自営業」・「無職」で最も多い。「特に何もしなかった」は「無職」では23.1%で最も多い。

問22 あなたの周りで自殺をした方はいらっしゃいますか。いらっしゃる方は、その人との関係としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 周囲で自殺をした人の有無とその人との関係（複数回答）



※「その他」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

周囲で自殺をした人の有無とその人との関係をたずねたところ、「その他」（11.7％）を除き、「いない」が54.2％で最も多く、以下、「同居していない親族（家族）」が11.3％、「友人」が9.3％、「職場関係者」が8.6％などとなっている。

「その他」の主な意見としては、近所の人、友人・知人の親族、同級生等が特に多い。

全国調査と比較すると、いずれの選択肢も2ポイント以内の差となっており、回答傾向に大差はない。

図表 周囲で自殺をした人の有無とその人との関係（複数回答）

		集計母数	いない	同居の親族（家族）	同居していない親族（家族）	恋人	友人	職場関係者	その他
全体		1,659	54.2%	2.1%	11.3%	0.1%	9.3%	8.6%	11.7%
性別	男性	724	51.4%	2.3%	11.3%	0.1%	11.6%	11.7%	8.8%
	女性	927	56.6%	1.9%	11.3%	0.1%	7.7%	6.0%	13.9%
年齢	20歳代	164	65.9%	1.2%	4.3%	0.0%	11.0%	4.3%	7.9%
	30歳代	301	59.1%	0.7%	12.3%	0.3%	10.3%	6.0%	12.3%
	40歳代	360	54.2%	1.9%	11.4%	0.0%	10.6%	9.2%	12.5%
	50歳代	368	48.4%	2.2%	14.4%	0.3%	10.3%	14.7%	13.3%
	60歳代	309	48.2%	3.9%	11.0%	0.0%	8.4%	8.7%	11.7%
	70歳以上	152	58.6%	2.6%	10.5%	0.0%	2.6%	1.3%	8.6%
職業	勤めている（常勤）	623	52.8%	2.1%	11.4%	0.2%	10.9%	13.0%	11.4%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	58.9%	2.1%	11.5%	0.0%	6.6%	7.7%	12.9%
	自営業	143	35.7%	2.1%	14.7%	0.7%	21.0%	9.1%	14.7%
	自由業	43	48.8%	2.3%	7.0%	0.0%	25.6%	2.3%	11.6%
	専業主婦・主夫	267	59.9%	1.9%	11.2%	0.0%	5.2%	4.5%	13.1%
	学生	27	81.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	0.0%	0.0%
	無職	185	56.8%	2.7%	9.2%	0.0%	3.2%	6.5%	10.3%
	その他	10	50.0%	0.0%	30.0%	0.0%	30.0%	0.0%	10.0%

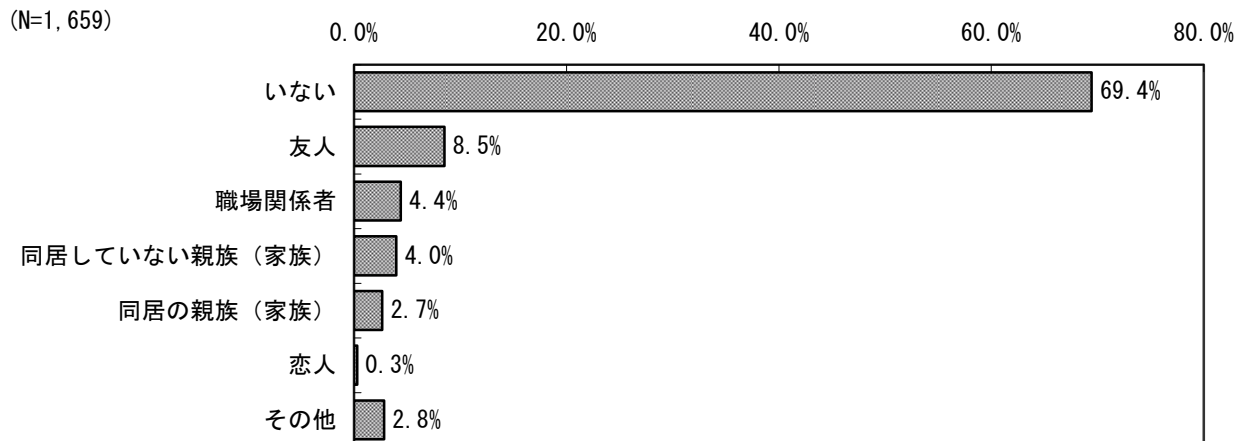
性別にみると、「その他」を除き、男女ともに「いない」が最も多く、以下、男性では「職場関係者」、「友人」、「同居していない親族（家族）」などとなっており、女性では「同居していない親族（家族）」、「友人」、「職場関係者」などとなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「いない」が最も多く、20歳代が65.9%で最も多い。「同居していない親族（家族）」は、20歳代以外では10%台と多い。また、「職場関係者」は、50歳代では14.7%となっており、他の年齢層では10%に満たないのに比べて多い。「友人」は、年齢層が低いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、いずれの職業でも「いない」が最も多く、「自営業」と「自由業」以外では半数を超えている。「自営業」と「自由業」では「友人」が20%台となっており、他の職業が20%未満であるのに比べて多い。また、「勤めている（常勤）」では「職場関係者」が13.0%となっており、他の職業に比べて多い。

問23 あなたの周りで自傷行為（故意に自らの健康を害する行為）や自殺未遂をした方はいらっしゃいますか。いらっしゃる方は、その人との関係としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 周囲で自傷行為や自殺未遂をした人の有無とその人との関係（複数回答）



※「その他」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

周囲で自傷行為や自殺未遂をした人の有無とその人との関係をたずねたところ、「いない」が69.4%で最も多く、以下、「友人」が8.5%、「職場関係者」が4.4%、「同居していない親族（家族）」が4.0%などとなっている。

図表 周囲で自傷行為や自殺未遂をした人の有無とその人との関係（複数回答）

		集計母数	いない	同居の親族（家族）	同居していない親族（家族）	恋人	友人	職場関係者	その他
全体		1,659	69.4%	2.7%	4.0%	0.3%	8.5%	4.4%	2.8%
性別	男性	724	71.5%	2.6%	2.6%	0.4%	5.9%	5.1%	2.3%
	女性	927	67.9%	2.7%	5.1%	0.2%	10.6%	3.9%	3.2%
年齢	20歳代	164	59.1%	1.8%	3.0%	0.0%	26.2%	1.8%	3.0%
	30歳代	301	68.8%	1.7%	5.3%	0.3%	14.3%	7.0%	1.0%
	40歳代	360	71.4%	4.4%	3.6%	0.6%	7.8%	3.6%	3.1%
	50歳代	368	72.6%	3.0%	3.8%	0.3%	5.4%	6.5%	3.3%
	60歳代	309	68.6%	2.3%	4.2%	0.3%	1.9%	3.6%	3.9%
	70歳以上	152	71.1%	1.3%	3.3%	0.0%	0.7%	0.7%	2.6%
職業	勤めている（常勤）	623	70.9%	2.4%	2.7%	0.3%	10.3%	6.6%	2.1%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	71.8%	4.2%	4.2%	0.0%	5.9%	3.5%	2.4%
	自営業	143	60.8%	2.1%	5.6%	1.4%	9.8%	4.2%	6.3%
	自由業	43	58.1%	2.3%	2.3%	2.3%	9.3%	9.3%	4.7%
	専業主婦・主夫	267	73.4%	3.0%	6.0%	0.0%	9.4%	2.6%	1.9%
	学生	27	55.6%	0.0%	3.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	無職	185	70.8%	1.6%	3.8%	0.0%	2.2%	2.2%	3.8%
	その他	10	60.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%

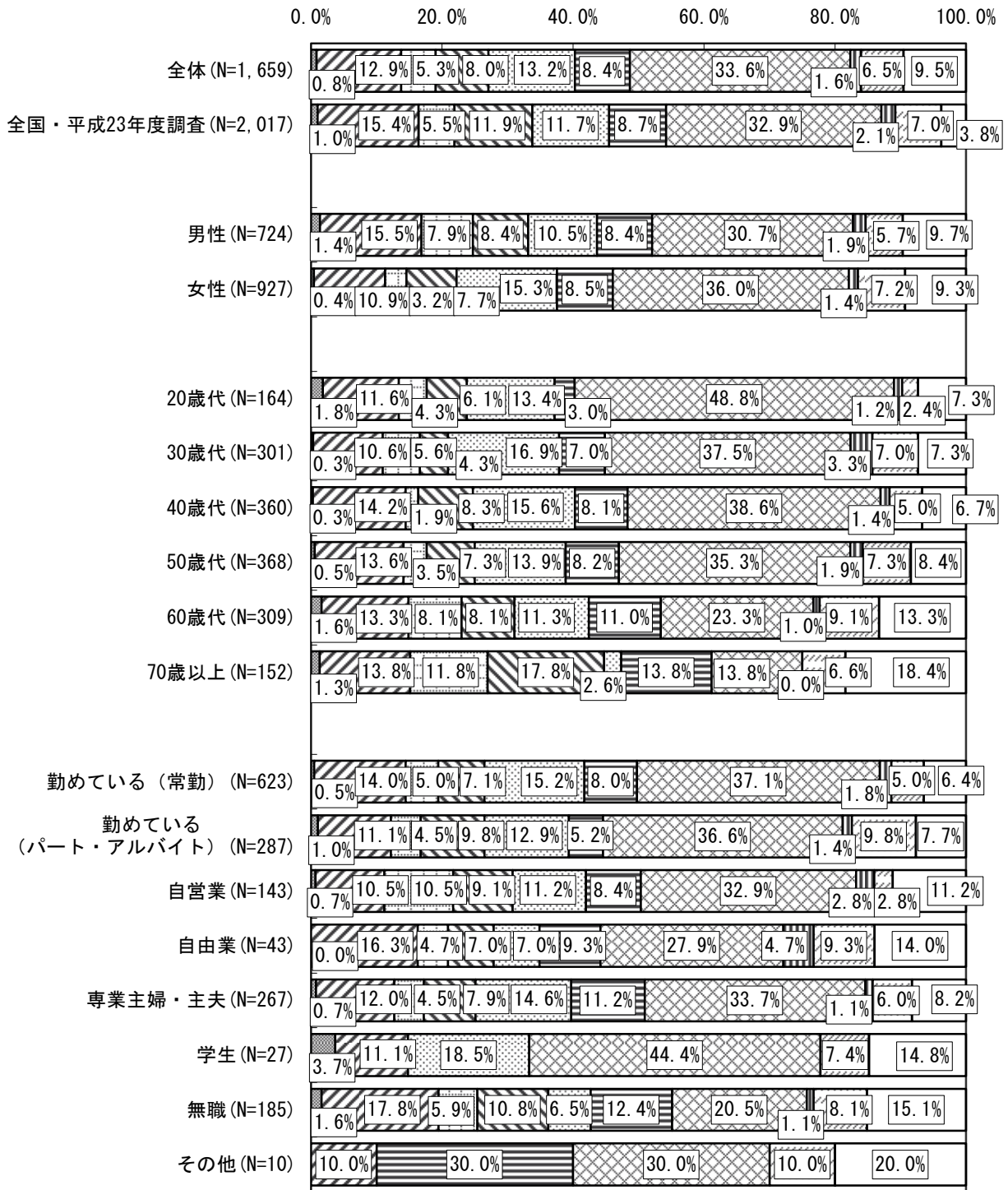
性別にみると、男女ともに「いない」が最も多く、次いで「友人」となっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「いない」が最も多く、次いで、40歳代以下では「友人」、50歳代では「職場関係者」、60歳代以上では「同居していない親族（家族）」となっている。「友人」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、いずれの職業でも「いない」が半数を超えて最も多いが、「学生」では55.6%にとどまり、最も少ない。「学生」では「友人」が33.3%で突出している。

問24 もし、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、あなたはどのように対応するのが良いと思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 仮に身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときに望ましいと思う対応



- 相談に乗らない、もしくは、話題を変える
- 「つまらないことを考えるな」と叱る
- 「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す
- ひたすら耳を傾けて聞く
- わからない
- 「死んではいけない」と説得する
- 「がんばって生きよう」と励ます
- 「医師など専門家に相談したほうが良い」と提案する
- その他
- 無回答

仮に身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときに望ましいと思う対応をたずねたところ、「ひたすら耳を傾けて聞く」が33.6%で最も多く、以下、「『死にたいぐらい辛いんだね』と共感を示す」が13.2%、「『死んではいけない』と説得する」が12.9%、「『医師など専門家に相談したほうが良い』と提案する」が8.4%、「『がんばって生きよう』と励ます」が8.0%などとなっている。

全国調査と比較すると、本調査では「『がんばって生きよう』と励ます」が3.9ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

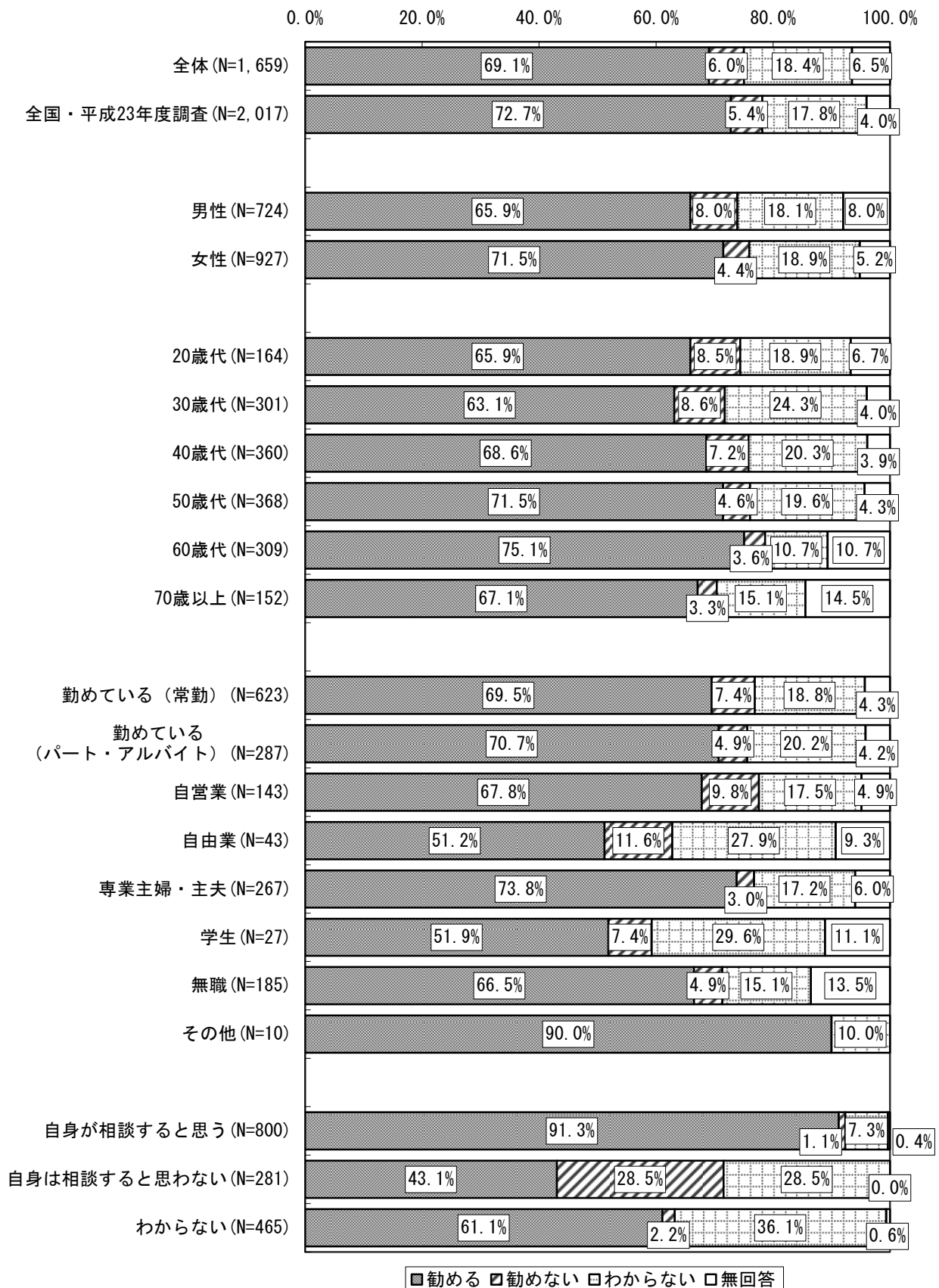
性別にみると、男女ともに「ひたすら耳を傾けて聞く」が最も多いが、女性（36.0%）が男性（30.7%）に比べて5.3ポイント多い。「『つまらないことを考えるな』と叱る」は、男性（7.9%）が女性（3.2%）に比べて4.7ポイント多く、「『死んではいけない』と説得する」は、男性（15.5%）が女性（10.9%）に比べて4.6ポイント多い。また、「『死にたいぐらい辛いんだね』と共感を示す」は、女性（15.3%）が男性（10.5%）に比べて4.8ポイント多い。

年齢別にみると、70歳以上では「『がんばって生きよう』と励ます」が最も多く、他の年齢層では「ひたすら耳を傾けて聞く」が最も多い。「ひたすら耳を傾けて聞く」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、20歳代では48.8%と半数近くを占めている。また、「『医師など専門家に相談したほうが良い』と提案する」は、年齢層が高いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、いずれの職業でも「ひたすら耳を傾けて聞く」が最も多いが、「学生」が44.4%で最も多い。「『がんばって生きよう』と励ます」は「無職」が10.8%で最も多い。また、「『死にたいぐらい辛いんだね』と共感を示す」は、「自由業」と「無職」以外では10%台とやや多く、同様に、「『医師など専門家に相談したほうが良い』と提案する」は、「無職」と「専業主婦・主夫」では10%台となっており、他の職業に比べてやや多い。

問25 もし仮に、今あなたの家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、あなたは精神科の病院へ相談することを勧めますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 仮に家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたときに精神科病院へ相談することを勧めるか



仮に家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたときに精神科病院へ相談することを勧めるかをたずねたところ、「勧める」が69.1%で最も多く、「わからない」が18.4%、「勧めない」が6.0%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「勧める」が3.6ポイント少ない。

性別にみると、「勧める」は、女性（71.5%）が男性（65.9%）に比べて5.6ポイント多く、「勧めない」は、男性（8.0%）が女性（4.4%）に比べて3.6ポイント多い。

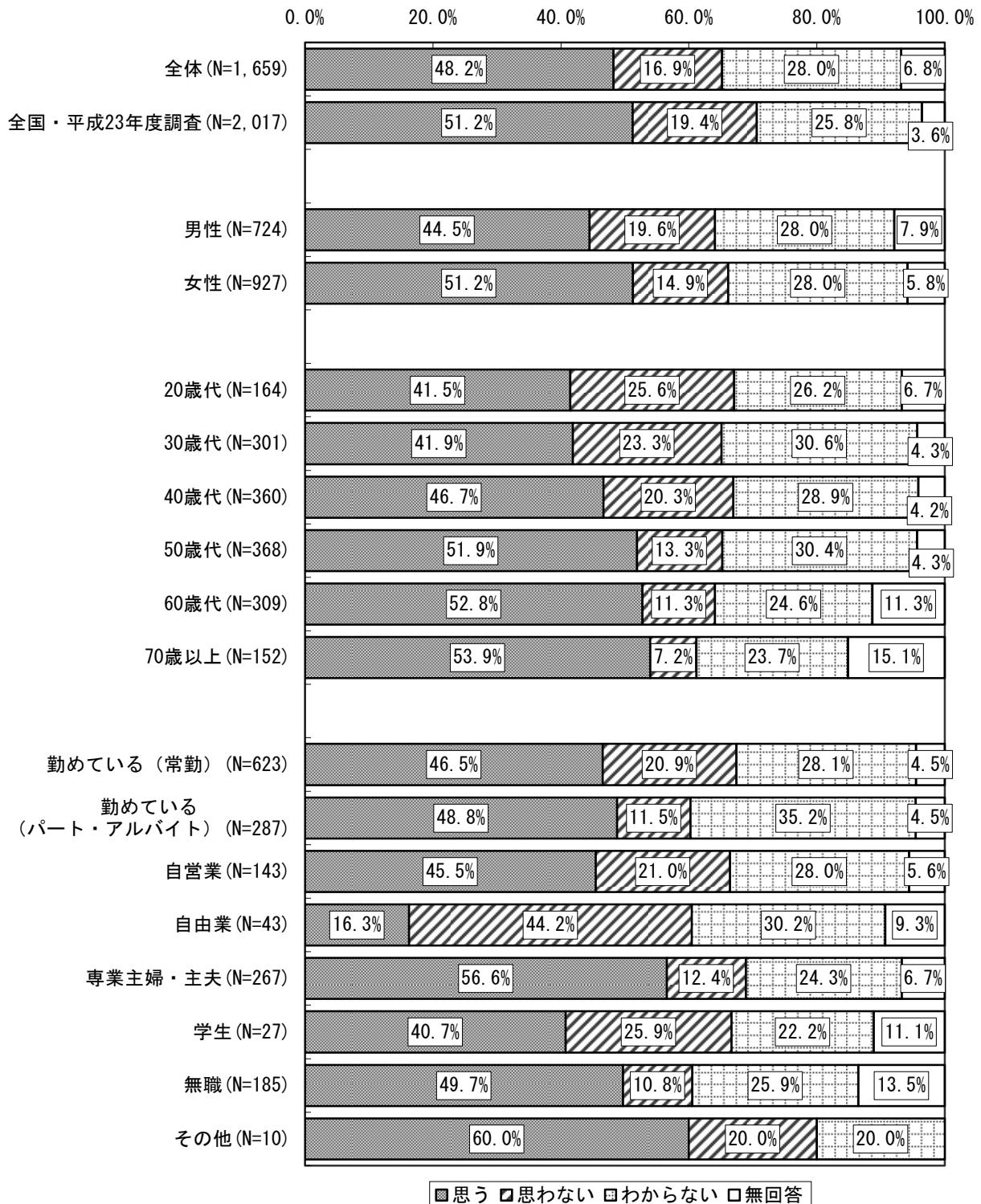
年齢別にみると、「勧める」は50歳代と60歳代では70%台となっており、他の年齢層が60%台であるのに比べて多い。「勧めない」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、「勧める」は「専業主婦・主夫」が73.8%で最も多く、「学生」と「自由業」は50%台で特に少ない。

仮に自分自身が「うつ病のサイン」に気づいたときに自ら精神科病院へ相談しようと思うかどうかの別にみると、「勧める」は、自身が相談すると「思う」人では91.3%であるのに対し、自身が相談すると「思わない」人では43.1%にとどまり、「勧めない」と「わからない」がともに28.5%となっている。

問26 もし仮に、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、自ら精神科の病院へ相談しに行こうと思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 仮に自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたときに自ら精神科病院へ相談しようと思うか



仮に自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたときに自ら精神科病院へ相談しようと思うかをたずねたところ、「思う」が48.2%で最も多く、以下、「わからない」が28.0%、「思わない」が16.9%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「思う」が3.0ポイント少ない。

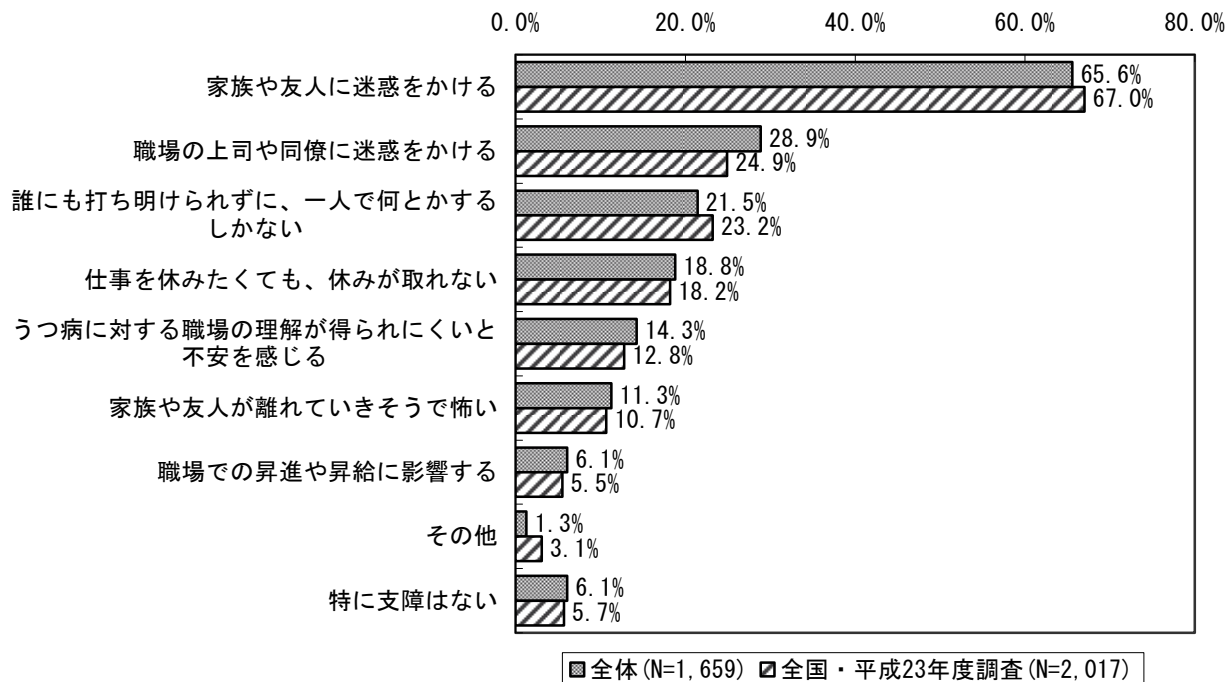
性別にみると、「思う」は、女性（51.2%）が男性（44.5%）に比べて6.7ポイント多く、「思わない」は、男性（19.6%）が女性（14.9%）に比べて4.7ポイント多い。

年齢別にみると、「思う」は年齢層が高いほど多い傾向となっており、50歳代以上では過半数を占めている。逆に、「思わない」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

職業別にみると、「自由業」では「思わない」が「思う」を上回っているが、他の職業ではこれが逆転しており、「思う」は「専業主婦・主夫」が56.6%で最も多い。

問27 もし仮に、あなたがうつになった場合、どのような支障が生じると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 仮に自分自身がうつになった場合に生じると思う支障（複数回答）



※「その他」・「特に支障はない」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

仮に自分自身がうつになった場合に生じると思う支障をたずねたところ、「家族や友人に迷惑をかける」が65.6%で最も多く、以下、「職場の上司や同僚に迷惑をかける」が28.9%、「誰にも打ち明けられずに、一人で何とかするしかない」が21.5%、「仕事を休みたくても、休みが取れない」が18.8%などとなっている。

全国調査と比較すると、本調査では「職場の上司や同僚に迷惑をかける」が4.0ポイント多いが、全体としては同様の回答傾向となっている。

図表 仮に自分自身がうつになった場合に生じると思う支障（複数回答）

		集計母数	しに誰に か、一も ない人打 で明け 何と かす られ ず	け家 る族 や友 人に 迷 惑を か	き家 そ族 うや 友 怖い が 離 れて い	惑職 を場 かの上 ける司 や同 僚に 迷	影職 響場 すでの 昇進 や昇 給に	理不 安解 が得 られ にく いと 不安 を感 じる	うつ 病に 対す る職 場の 理 解が 得ら れに く いと 不安 を感 じる	休仕 みが 取れ ない たく ても、	そ 他	特 に 支 障 は な い
全体		1,659	21.5%	65.6%	11.3%	28.9%	6.1%	14.3%	18.8%	1.3%	6.1%	
性別	男性	724	25.6%	59.8%	10.1%	30.7%	8.7%	16.9%	22.1%	1.1%	6.5%	
	女性	927	18.2%	70.2%	12.2%	27.5%	3.9%	12.2%	16.0%	1.4%	5.8%	
年齢	20歳代	164	20.7%	62.2%	20.1%	40.9%	13.4%	24.4%	26.8%	1.2%	5.5%	
	30歳代	301	20.3%	71.4%	15.9%	42.5%	10.0%	21.9%	23.9%	1.7%	5.3%	
	40歳代	360	23.9%	69.4%	11.9%	39.7%	6.9%	17.8%	26.7%	0.8%	4.4%	
	50歳代	368	19.8%	67.9%	6.8%	30.2%	3.8%	13.6%	22.6%	1.6%	4.9%	
	60歳代	309	21.0%	62.5%	7.4%	7.8%	1.9%	3.6%	3.9%	0.3%	8.4%	
	70歳以上	152	23.7%	48.7%	9.9%	3.3%	2.0%	3.3%	1.3%	2.6%	10.5%	
職業	勤めている (常勤)	623	21.5%	65.2%	12.5%	50.1%	11.7%	23.3%	31.0%	1.0%	5.1%	
	勤めている(パート・アルバイト)	287	21.3%	74.6%	13.2%	34.1%	3.5%	11.8%	13.6%	1.4%	4.5%	
	自営業	143	24.5%	67.1%	4.2%	13.3%	2.8%	7.0%	25.9%	0.0%	7.0%	
	自由業	43	34.9%	51.2%	7.0%	16.3%	2.3%	7.0%	20.9%	0.0%	2.3%	
	専業主婦・主夫	267	16.1%	70.0%	11.2%	4.1%	1.1%	5.6%	3.4%	1.5%	7.5%	
	学生	27	18.5%	59.3%	22.2%	14.8%	3.7%	25.9%	3.7%	0.0%	11.1%	
	無職	185	28.6%	56.2%	11.4%	7.6%	4.3%	6.5%	4.3%	2.2%	7.0%	
	その他	10	40.0%	30.0%	10.0%	20.0%	0.0%	40.0%	30.0%	10.0%	10.0%	

性別にみると、男女ともに「家族や友人に迷惑をかける」が最も多いが、女性（70.2%）が男性（59.8%）に比べて10.4ポイント多い。「誰にも打ち明けられずに、一人で何とかするしかない」は、男性（25.6%）が女性（18.2%）に比べて7.4ポイント多く、同様に、「仕事を休みたくても、休みが取れない」は、男性（22.1%）が女性（16.0%）に比べて6.1ポイント多く、「職場での昇進や昇給に影響する」は、男性（8.7%）が女性（3.9%）4.8ポイント多くなっており、差の大小はあるものの、多くの項目で男性が女性に比べて多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「家族や友人に迷惑をかける」が最も多く、30歳代が71.4%で最も多い。「家族や友人が離れていきそうで怖い」や「職場の上司や同僚に迷惑をかける」、「職場での昇進や昇給に影響する」、「うつ病に対する職場の理解が得られにくいと不安を感じる」は、年齢層が低いほど多い傾向となっている。

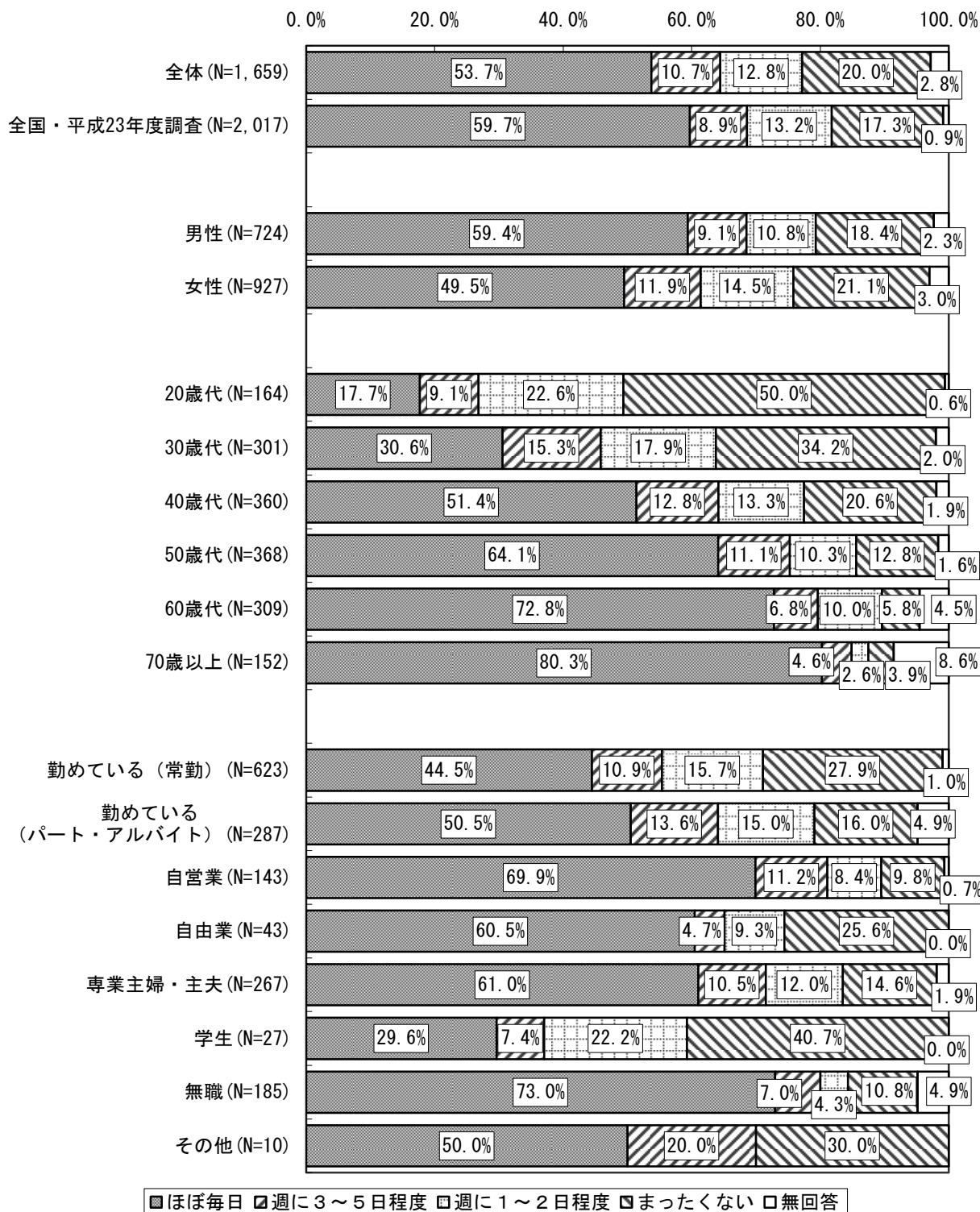
職業別にみると、いずれの職業でも「家族や友人に迷惑をかける」が最も多く、「勤めている（パート・アルバイト）」や「専業主婦・主夫」では70%を超えて特に多い。「誰にも打ち明けられずに、一人で何とかするしかない」は「自由業」が34.9%で最も多く、同様に、「職場の上司や同僚に迷惑をかける」や「職場での昇進や昇給に影響する」、「仕事を休みたくても、休みが取れない」は、「勤めている（常勤）」がそれぞれ最も多い。また、「うつ病に対する職場の理解が得られにくいと不安を感じる」は、「勤めている（常勤）」と「学生」では20%を超えており、他の職業に比べて多い。

4 メディア（新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体）について

問28 メディアの接触頻度についてお聞きします。次の（１）から（４）のそれぞれについて、最もあてはまるもの１つだけに○をつけてください。

（１）あなたは普段、仕事や学業以外で、新聞をどのくらい読みますか。

図表 仕事や学業以外での新聞の閲読頻度



仕事や学業以外での新聞の閲読頻度をたずねたところ、「ほぼ毎日」が53.7%で最も多く、以下、「まったくない」が20.0%、「週に1～2日程度」が12.8%、「週に3～5日程度」が10.7%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「ほぼ毎日」が6.0ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

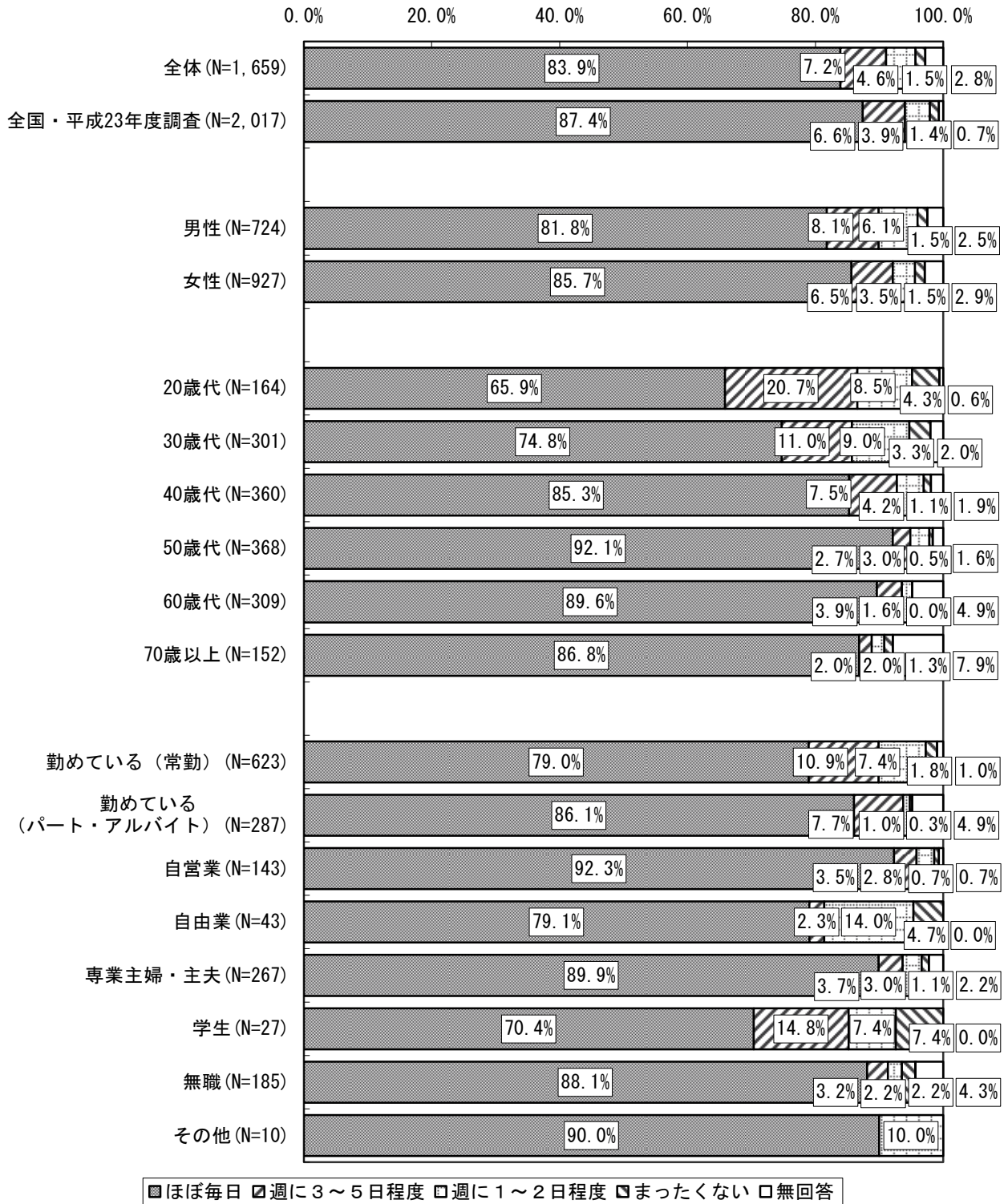
性別にみると、「ほぼ毎日」は、男性（59.4%）が女性（49.5%）に比べて9.9ポイント多いが、週1～2日程度以上閲読する人は、男性（79.3%）が女性（75.9%）に比べて3.4ポイント多い。

年齢別にみると、「ほぼ毎日」は年齢層が高いほど多い傾向となっており、40歳代以上では過半数を占めている。逆に、「週に1～2日程度」や「まったくない」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、年齢層が低いほど閲読頻度が低い傾向となっており、特に、「まったくない」は20歳代でちょうど半数を占めている。

職業別にみると、「ほぼ毎日」は「無職」が73.0%で最も多い。逆に、「まったくない」は「学生」が40.7%で最も多い。週1～2日程度以上閲読する人は、「自営業」と「無職」では80%台となっており、他の職業に比べて多い。

(2) あなたは普段、仕事や学業以外で、テレビをどのくらい見ますか。

図表 仕事や学業以外でのテレビの視聴頻度



仕事や学業以外でのテレビの視聴頻度をたずねたところ、「ほぼ毎日」が83.9%で最も多く、以下、「週に3～5日程度」が7.2%、「週に1～2日程度」が4.6%、「まったくない」が1.5%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「ほぼ毎日」が3.5ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

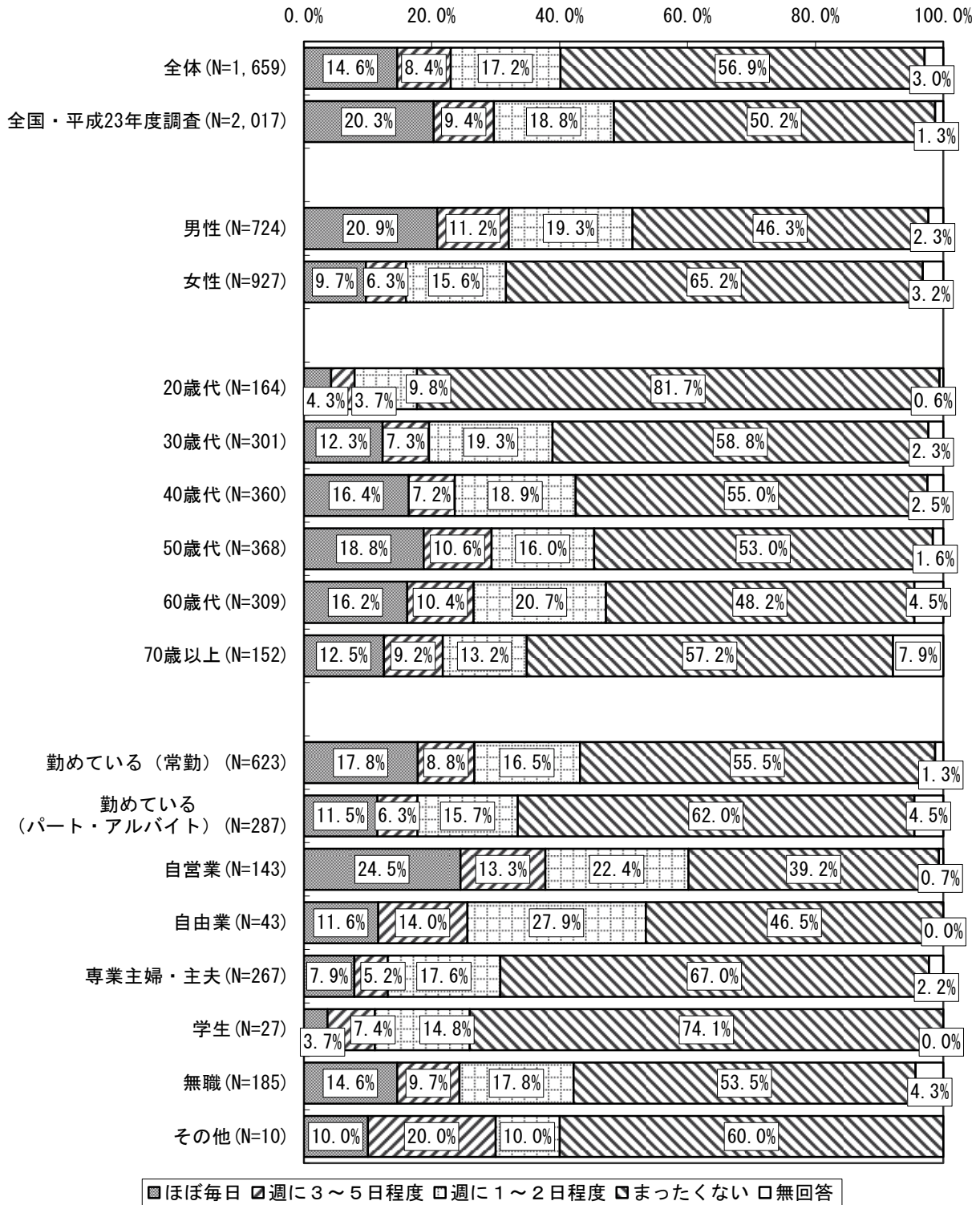
性別にみると、「ほぼ毎日」は、女性（85.7%）が男性（81.8%）に比べて3.9ポイント多いが、週1～2日程度以上視聴する人は、男性が96.0%、女性が95.7%で、ほぼ同率となっている。

年齢別にみると、「ほぼ毎日」は、50歳代にかけては年齢層が高いほど多い傾向となっているが、60歳代以上では年齢層が高いほど少ない傾向となっている。「週に3～5日程度」や「週に1～2日程度」は年齢層が低いほど多い傾向となっており、年齢層が低いほど視聴頻度の低い人が多い傾向となっている。

職業別にみると、「ほぼ毎日」は「自営業」が92.3%で最も多いが、いずれの職業とも70%以上を占め、視聴頻度は高い。逆に、「まったくない」は「学生」が7.4%で最も多い。週1～2日程度以上視聴する人は、いずれの職業でも90%以上を占めているが、「自営業」が98.6%で最も多く、「学生」が92.6%で最も少ない。

(3) あなたは普段、仕事や学業以外で、ラジオをどのくらい聴きますか。

図表 仕事や学業以外でのラジオの聴取頻度



仕事や学業以外でのラジオの聴取頻度をたずねたところ、「まったくない」が56.9%で最も多く、以下、「週に1～2日程度」が17.2%、「ほぼ毎日」が14.6%、「週に3～5日程度」が8.4%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「まったくない」が6.7ポイント多く、「ほぼ毎日」が5.7ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

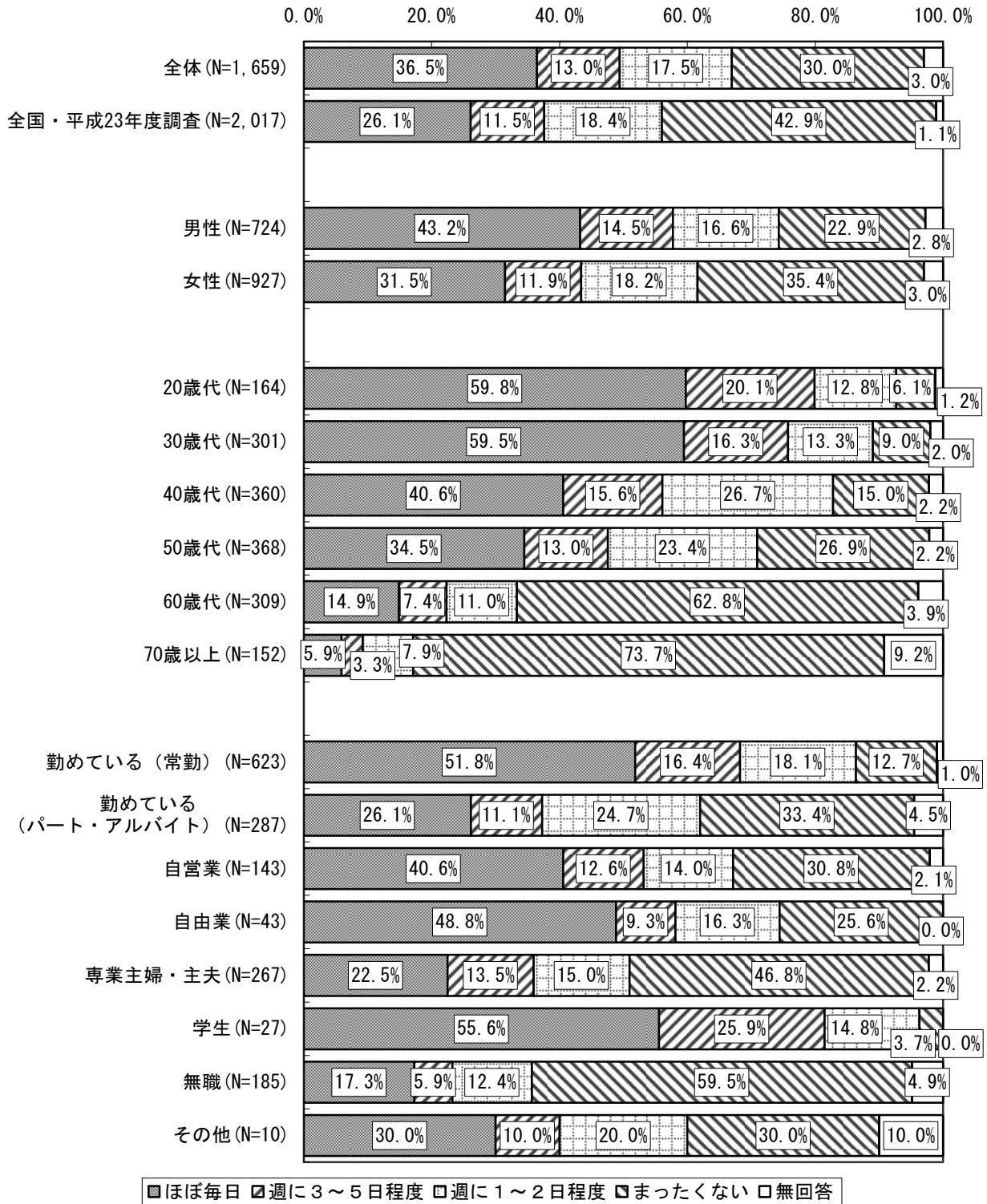
性別にみると、男女ともに「まったくない」が最も多いが、女性（65.2%）が男性（46.3%）に比べて18.9ポイント多い。週1～2回程度以上聴取する人は、男性（51.4%）が女性（31.6%）に比べて19.8ポイント多い。

年齢別にみると、「ほぼ毎日」は40歳代～60歳代では10%台後半で他の年齢層に比べてやや多く、「まったくない」は20歳代が81.7%で最も多い。週1～2日程度以上聴取する人は、40歳代～60歳代では70%台となっており、他の年齢層に比べて多い。

職業についてみると、「ほぼ毎日」は「自営業」が24.5%で最も多く、逆に、「まったくない」は「自営業」と「自由業」を除いて過半数を占めていることから、週1～2日程度以上聴取する人は、「自営業」と「自由業」では過半数を占めている。

(4) あなたは普段、仕事や学業以外で、インターネットをどのくらい利用しますか。

図表 仕事や学業以外でのインターネットの閲覧頻度



仕事や学業以外でのインターネットの閲覧頻度をたずねたところ、「ほぼ毎日」が36.5%で最も多く、以下、「まったくない」が30.0%、「週に1～2日程度」が17.5%、「週に3～5日程度」が13.0%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「ほぼ毎日」が10.4ポイント多く、「まったくない」が12.9ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

性別にみると、男性では「ほぼ毎日」が最も多く、次いで「まったくない」となっている。女性では「まったくない」が最も多く、次いで「ほぼ毎日」となっている。週1～2日程度以上閲覧する人は、男性（74.3%）が女性（61.6%）に比べて12.7ポイント多い。

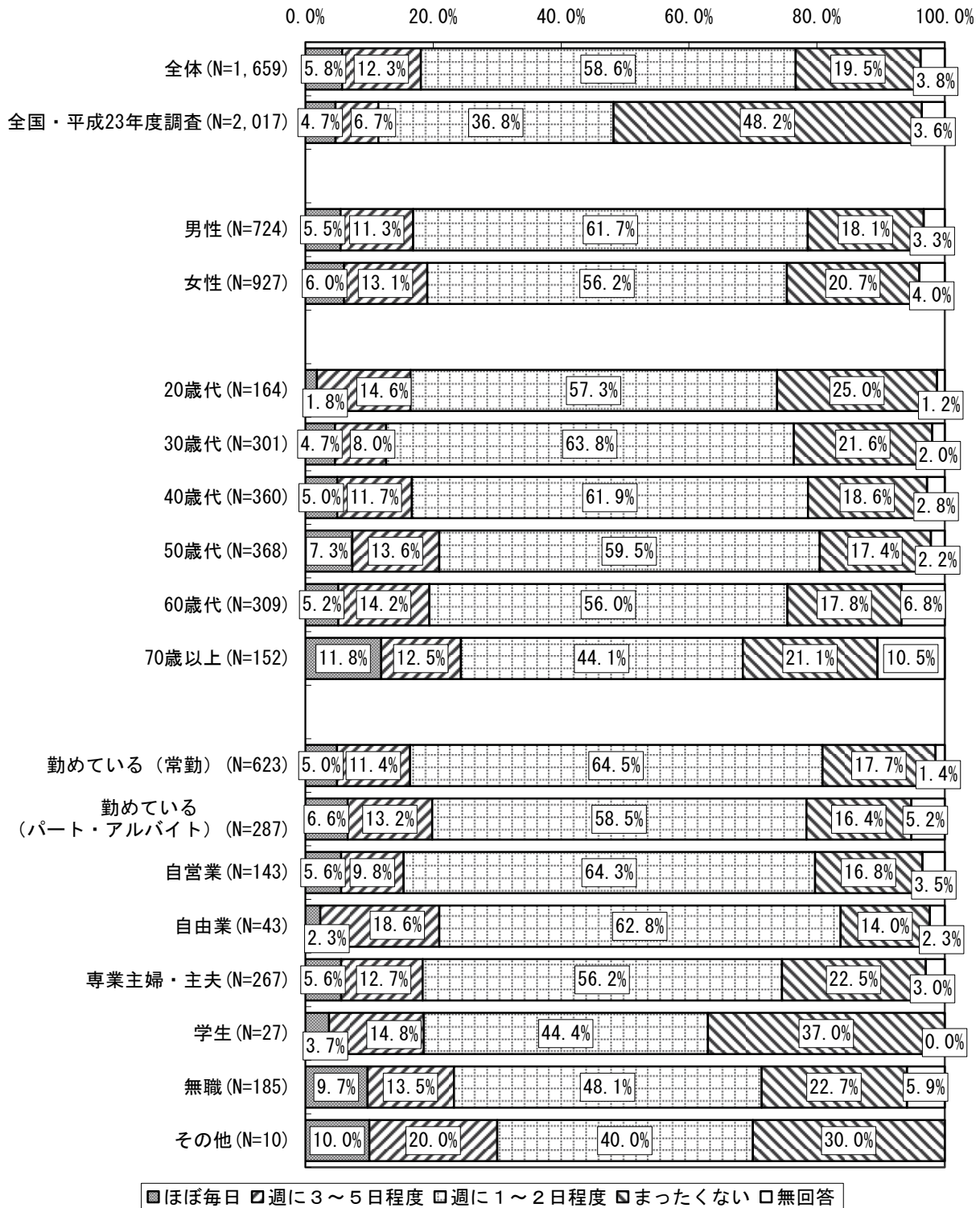
年齢別にみると、「まったくない」は年齢層が高いほど多い傾向となっているが、「ほぼ毎日」・「週に3～5日程度」の比較的閲覧頻度の高い人は年齢層が低いほど多い傾向となっており、「ほぼ毎日」は、20歳代と30歳代では約60%を占めている。

職業別にみると、「ほぼ毎日」は「学生」が55.6%で最も多く、次いで「勤めている（常勤）」が51.8%となっており、これらは過半数を占めている。逆に、「まったくない」は「無職」や「専業主婦・主夫」、「勤めている（パート・アルバイト）」が他の職業に比べて多い。週1～2日程度以上の閲覧する人は「学生」が96.3%で最も多く、以下、「勤めている（常勤）」が86.4%、「自由業」が74.4%と続いている。

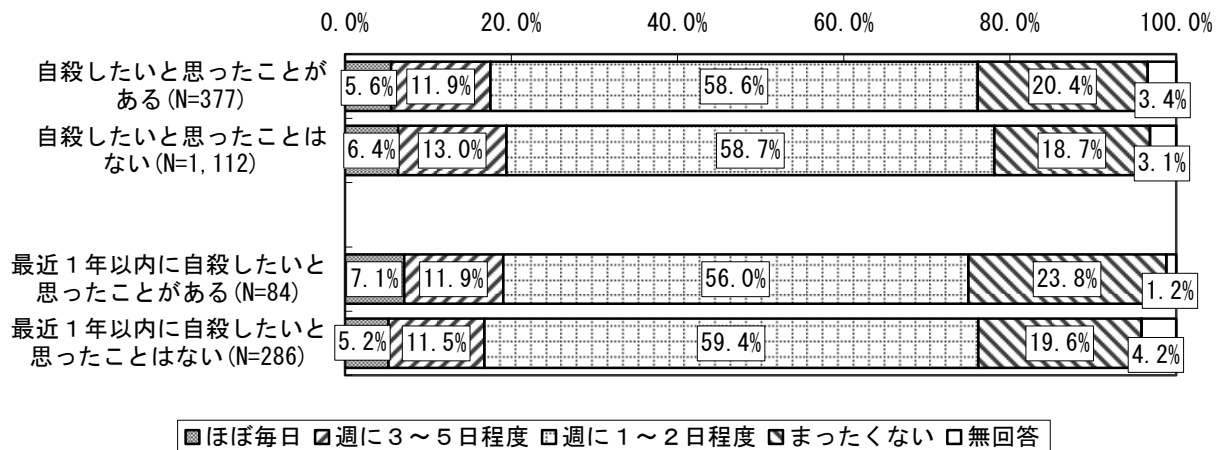
問29 自殺を扱った報道についておうかがいします。次の（１）、（２）のそれぞれについて、最もあてはまるもの１つだけに○をつけてください。

（１）あなたは、生活実感としてどれくらい自殺に関する報道に接していると思いますか。

図表 生活実感として、自殺に関する報道に接する頻度



図表 生活実感として、自殺に関する報道に接する頻度



生活実感として、自殺に関する報道に接する頻度をたずねたところ、「週に1~2日程度」が58.6%で最も多く、以下、「まったくない」が19.5%、「週に3~5日程度」が12.3%、「ほぼ毎日」が5.8%となっている。

全国調査と比較すると、本調査では「まったくない」が28.7ポイント少なく、「週に3~5日程度」が5.6ポイント多く、「週に1~2日程度」が21.8ポイント多くなっており、週に1~2日程度以上自殺に関する報道に接している人は、本調査が28.5ポイント多い。

性別にみると、男女ともに「週に1~2日程度」が最も多いが、男性（61.7%）が女性（56.2%）に比べて5.5ポイント多い。週に1~2日程度以上自殺に関する報道に接している人は、男性（78.5%）が女性（75.3%）に比べて3.2ポイント多い。

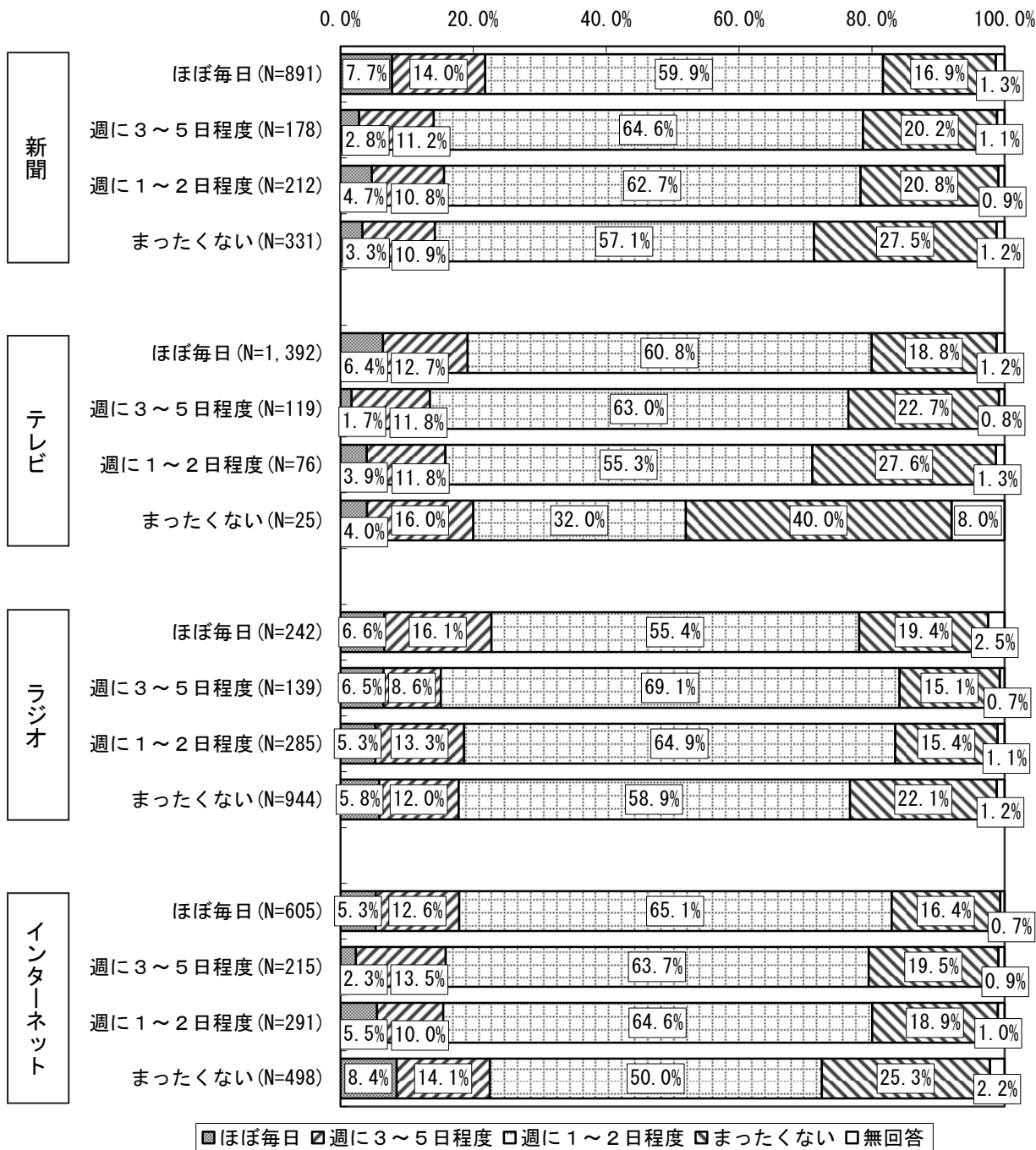
年齢別にみると、「ほぼ毎日」と「週に3~5日程度」の報道への接触頻度が比較的高い人は、年齢層が高いほど多い傾向となっているが、週に1~2日程度以上自殺に関する報道に接している人は、50歳代が80.4%で最も多い。

職業別にみると、「ほぼ毎日」と「週に3~5日程度」の報道への接触頻度が比較的高い人は「無職」が23.2%で最も多く、次いで「自由業」が20.9%となっている。逆に、「まったくない」は「学生」が37.0%で最も多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「まったくない」は、「過去に自殺願望あり群」が20.4%、「過去に自殺願望なし群」が18.7%で、大差はない。また、週に1~2日程度以上自殺に関する報道に接している人は、「過去に自殺願望なし群」が78.1%、「過去に自殺願望あり群」が76.1%で、大差はない。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「まったくない」は、「1年以内自殺願望あり群」（23.8%）が「1年以内自殺願望なし群」（19.6%）に比べて4.2ポイント多い。

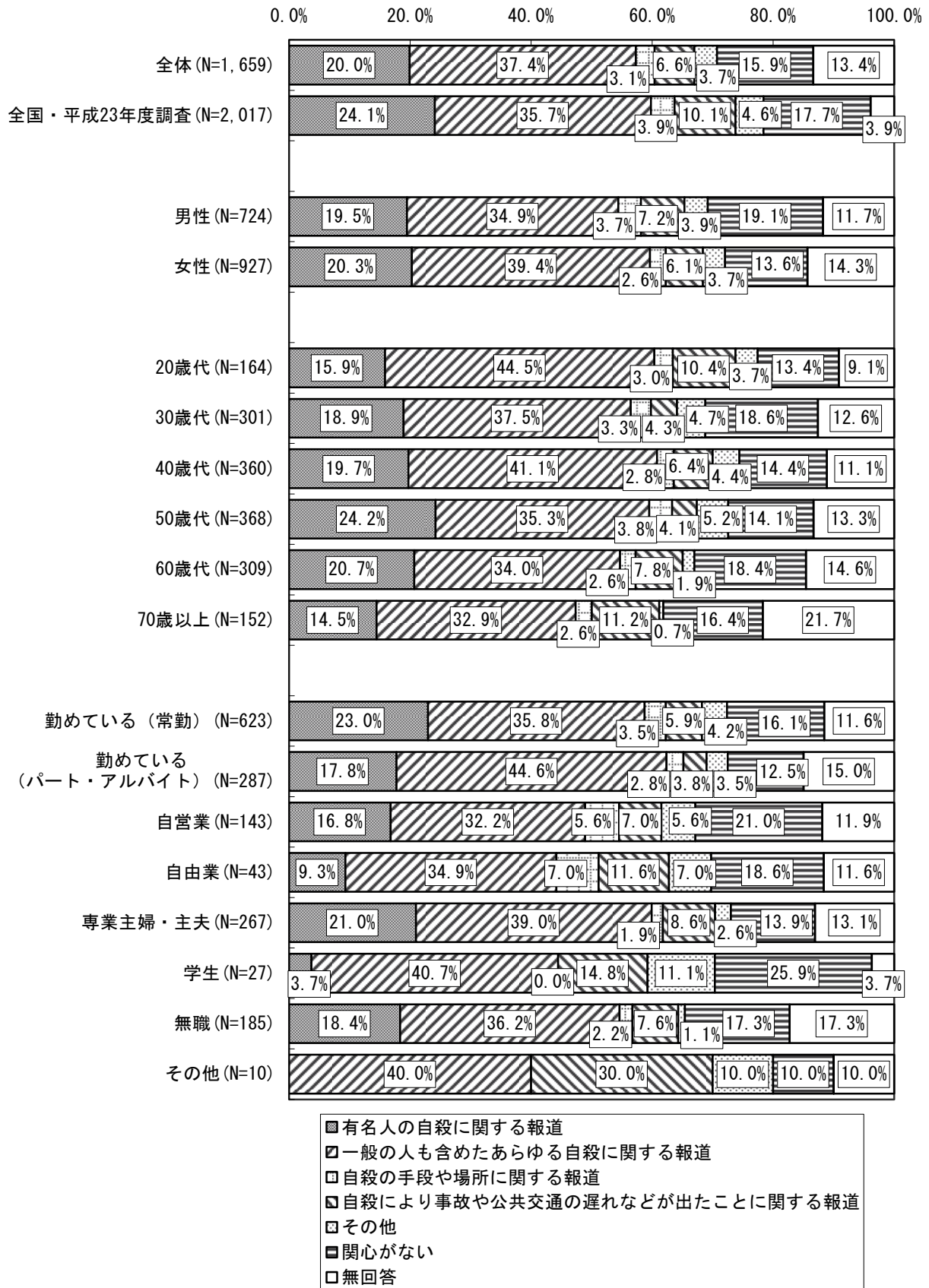
図表 生活実感として、自殺に関する報道に接する頻度



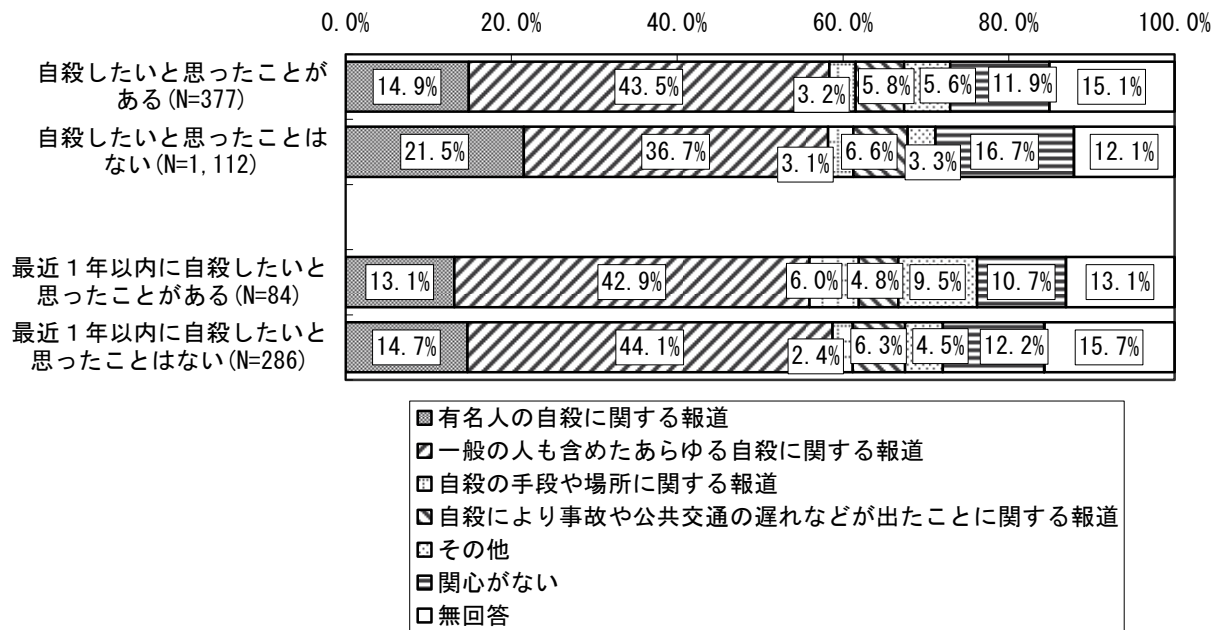
メディアの接触頻度別にみると、新聞やテレビ、インターネットへの接触頻度が高い人ほど自殺に関する報道に週に1~2日程度以上接する人が多い傾向となっている。ラジオとの接触頻度の高低と自殺に関する報道に接する頻度の高低との顕著な傾向は見出せない。

(2) あなたは、自殺を扱ったどのような報道に関心がありますか。

図表 自殺を扱った報道に関心がある内容



図表 自殺を扱った報道で関心がある内容



自殺を扱った報道で関心がある内容をたずねたところ、「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」が37.4%で最も多く、以下、「有名人の自殺に関する報道」が20.0%、「関心がない」が15.9%、「自殺により事故や公共交通の遅れなどが出たことに関する報道」が6.6%などとなっている。

全国調査と比較すると、本調査では「有名人の自殺に関する報道」が4.1ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

性別にみると、男女ともに「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」が最も多いが、女性（39.4%）が男性（34.9%）に比べて4.5ポイント多い。また、「関心がない」は、男性（19.1%）が女性（13.6%）に比べて5.5ポイント多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」が最も多いが、年齢層が低いほど多い傾向となっている。「関心がない」は、20歳代が13.4%で最も少ない。

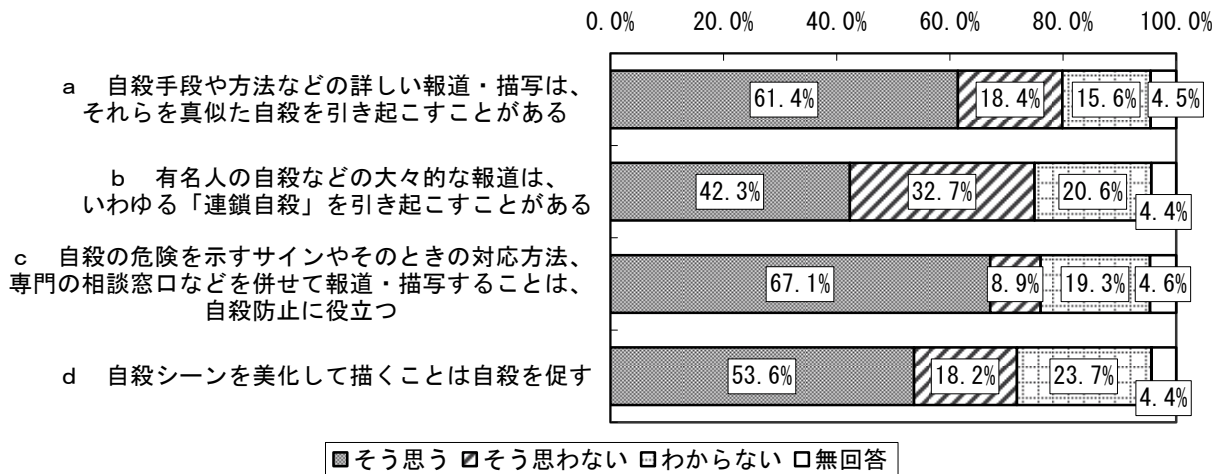
職業別にみると、いずれの職業でも「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」が最も多いが、「勤めている（パート・アルバイト）」と「学生」では40%台となっており、他の職業に比べて多い。他方、「関心がない」は「学生」が25.9%で最も多く、次いで「自営業」が21.0%となっており、これらは20%台で他の職業に比べて多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、自殺したいと思ったことの有無に関係なく「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」が最も多いが、「過去に自殺願望あり群」（43.5%）が「過去に自殺願望なし群」（36.7%）に比べて6.8ポイント多い。「関心がない」は、「過去に自殺願望なし群」（16.7%）が「過去に自殺願望あり群」（11.9%）に比べて4.8ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「自殺の手段や場所に関する報道」は、「1年以内自殺願望あり群」（6.0%）が「1年以内自殺願望なし群」（2.4%）に比べて3.6ポイント多い。

問30 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、またテレビドラマや映画での自殺シーンの描写について、あなたはどのように思いますか。次のaからdのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方



新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方をたずねた。

「そう思う」は、「c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」が67.1%で最も多く、以下、「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」が61.4%、「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」が53.6%、「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」が42.3%となっている。

「そう思わない」は、「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」が32.7%で最も多く、以下、「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」が18.4%、「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」が18.2%、「c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」が8.9%となっている。

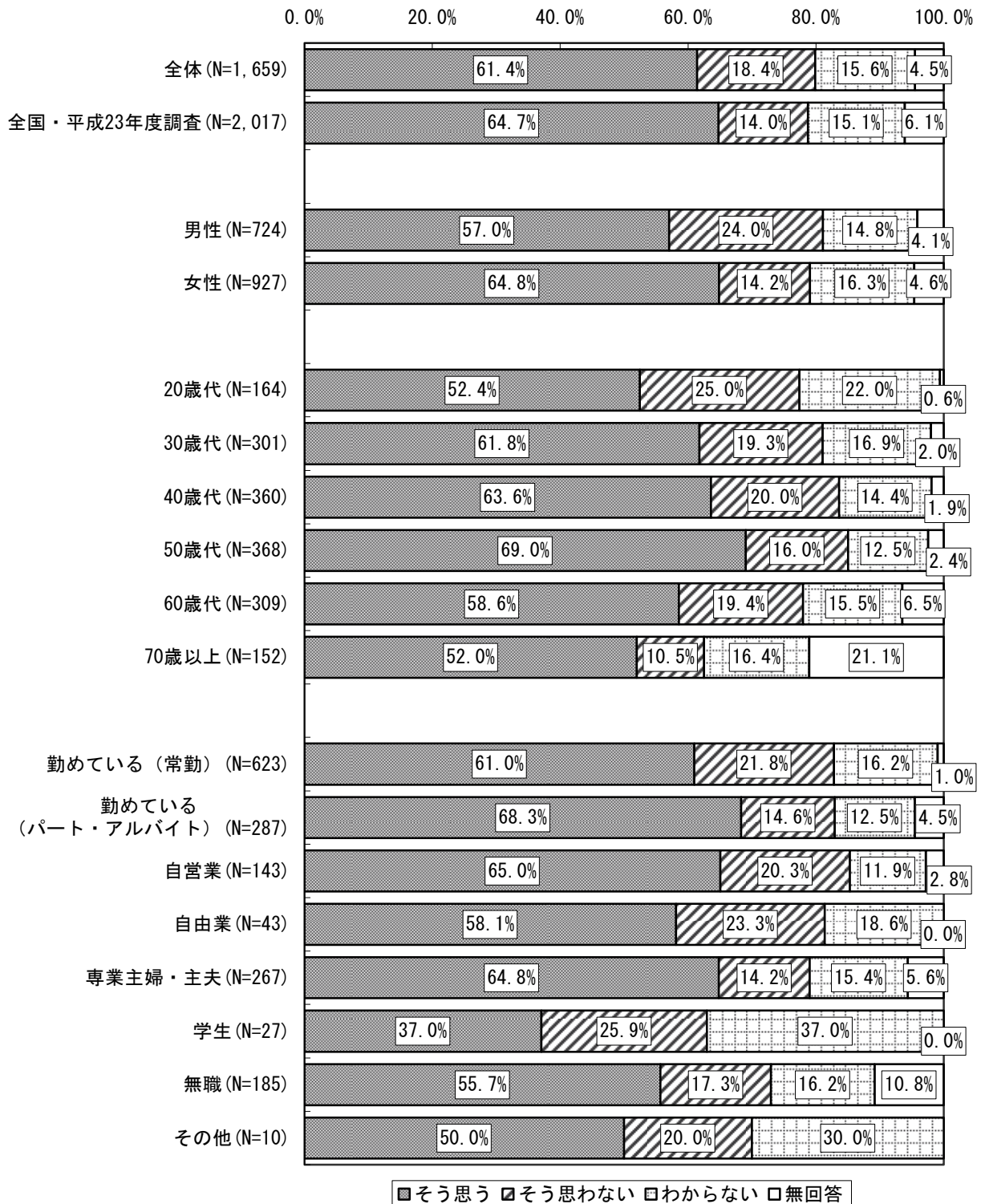
「わからない」は、「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」が23.7%で最も多く、以下、「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」が20.6%、「c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」が19.3%、「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」が15.6%となっている。

「そう思う」と肯定的にとらえる人は、「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」・「c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」・「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」については過半数を占めているのに対し、「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」については42.3%にとどまり、「そう思わない」という否定的にとらえる人が32.7%と多い。

(a) 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある

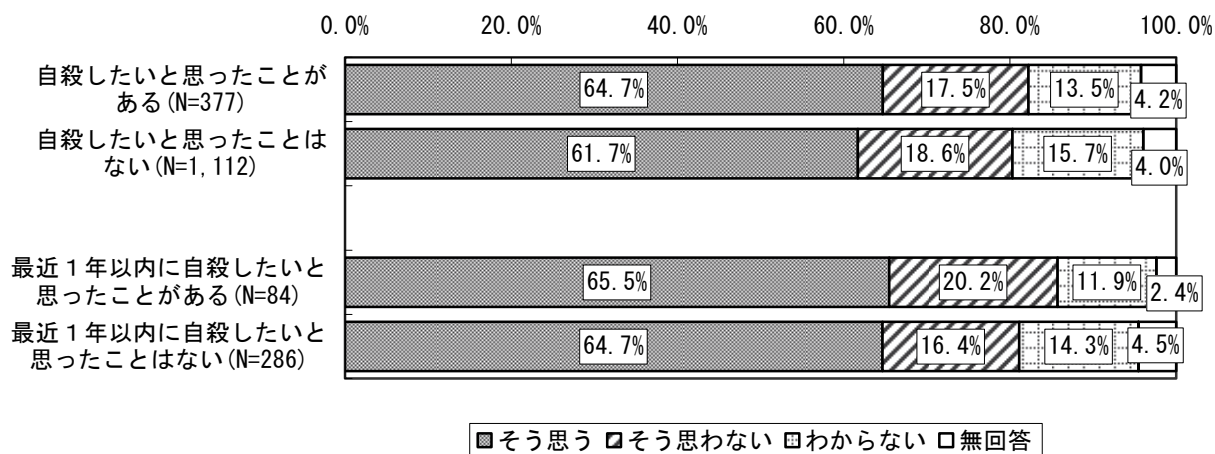
図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方

「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」



図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方

「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」



「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」について、全国調査と比較すると、本調査では「そう思わない」が4.4ポイント多く、「そう思う」が3.3ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

性別にみると、「そう思う」は、女性（64.8%）が男性（57.0%）に比べて7.8ポイント多く、「そう思わない」は、男性（24.0%）が女性（14.2%）に比べて9.8ポイント多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「そう思う」が過半数を占めており、50歳代にかけては年齢層が高いほど多い傾向となっているが、60歳代以上では年齢層が高いほど少ない傾向となっている。

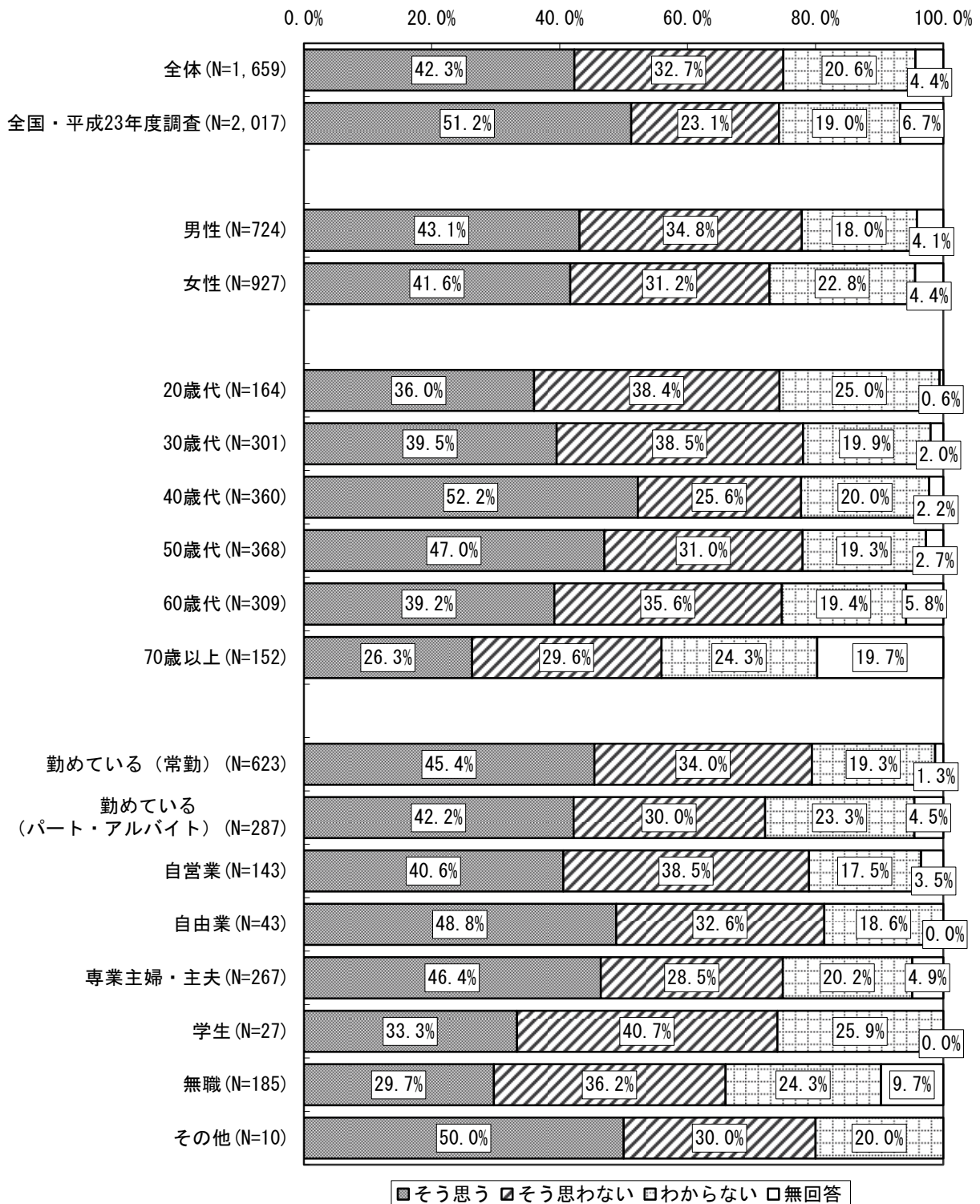
職業別にみると、「学生」では「そう思う」と「わからない」が同率となっているが、他の職業では「そう思う」が最も多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、「過去に自殺願望あり群」（64.7%）が「過去に自殺願望なし群」（61.7%）に比べて3.0ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく大差はない。「そう思わない」は、「1年以内自殺願望あり群」（20.2%）が「1年以内自殺願望なし群」（16.4%）に比べて3.8ポイント多い。

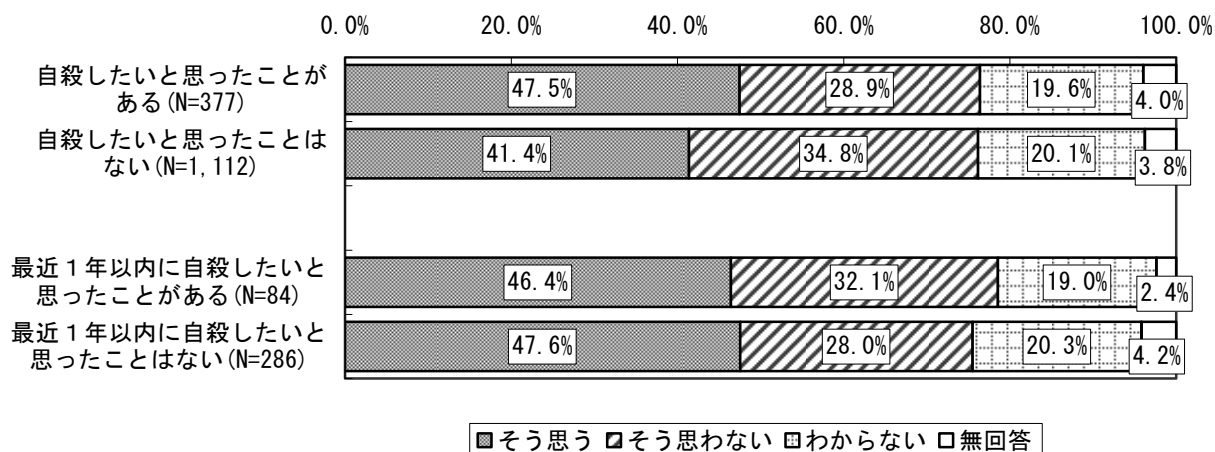
(b) 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる「連鎖自殺」を引き起こすことがある

図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方
「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」



図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方

「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」



「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」について、全国調査と比較すると、本調査では「そう思わない」が9.6ポイント多く、「そう思う」が8.9ポイント少ないが、全体としては同様の回答傾向となっている。

性別にみると、「そう思う」は、男性が43.1%、女性が41.6%で大差はない。また、「そう思わない」は、男性（34.8%）が女性（31.2%）に比べて3.6ポイント多い。

年齢別にみると、「そう思う」は40歳代が52.2%で最も多く、過半数を占めている。「そう思う」は、40歳代にかけては年齢層が高いほど多い傾向となっているが、50歳代以上では年齢層が高いほど少ない傾向となっている。

職業別にみると、「学生」と「無職」では「そう思わない」が「そう思う」を上回っているが、他の職業ではこれが逆転している。

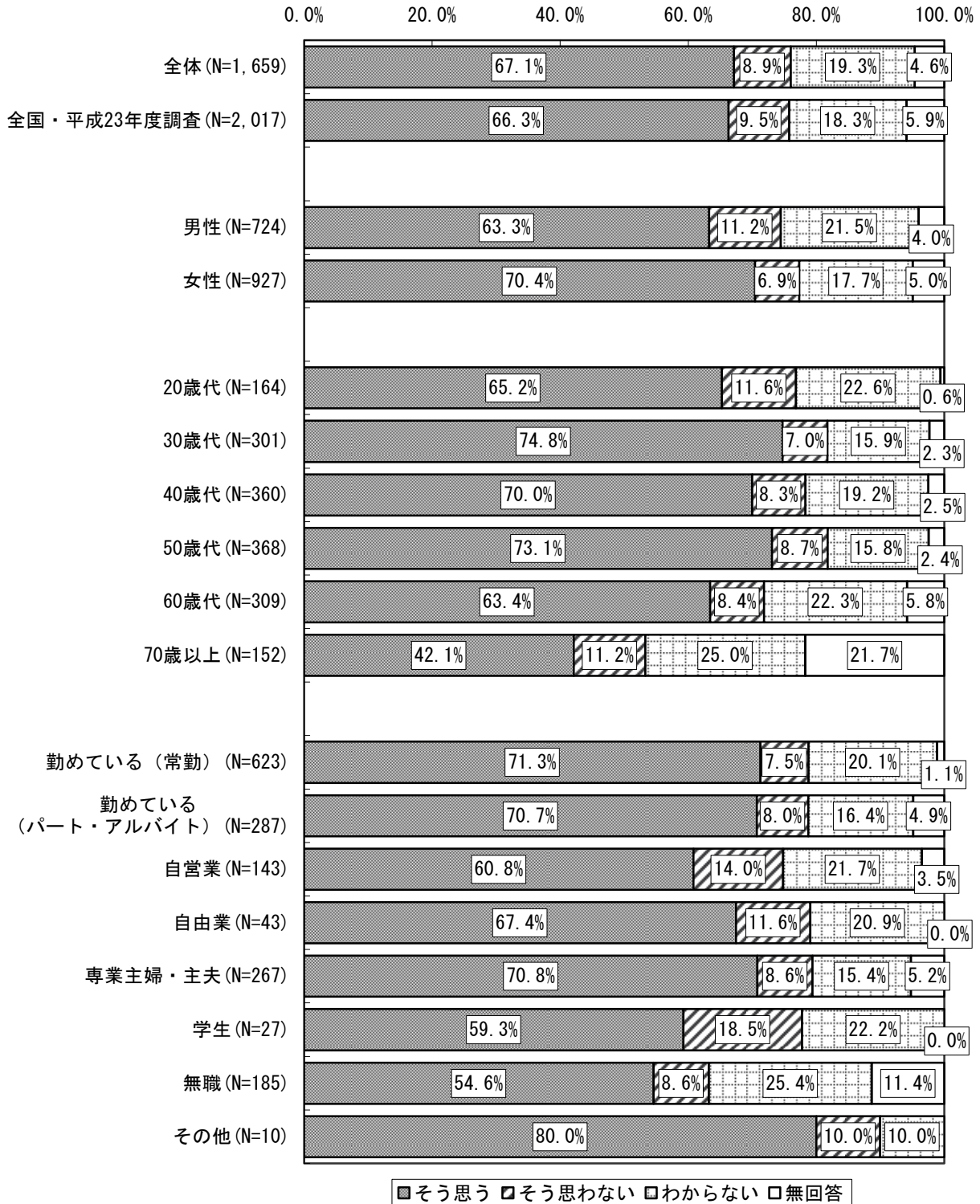
これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、「過去に自殺願望あり群」（47.5%）が「過去に自殺願望なし群」（41.4%）に比べて6.1ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無に関係なく大差はない。「そう思わない」は、「1年以内自殺願望あり群」（32.1%）が「1年以内自殺願望なし群」（28.0%）に比べて4.1ポイント多い。

(c) 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ

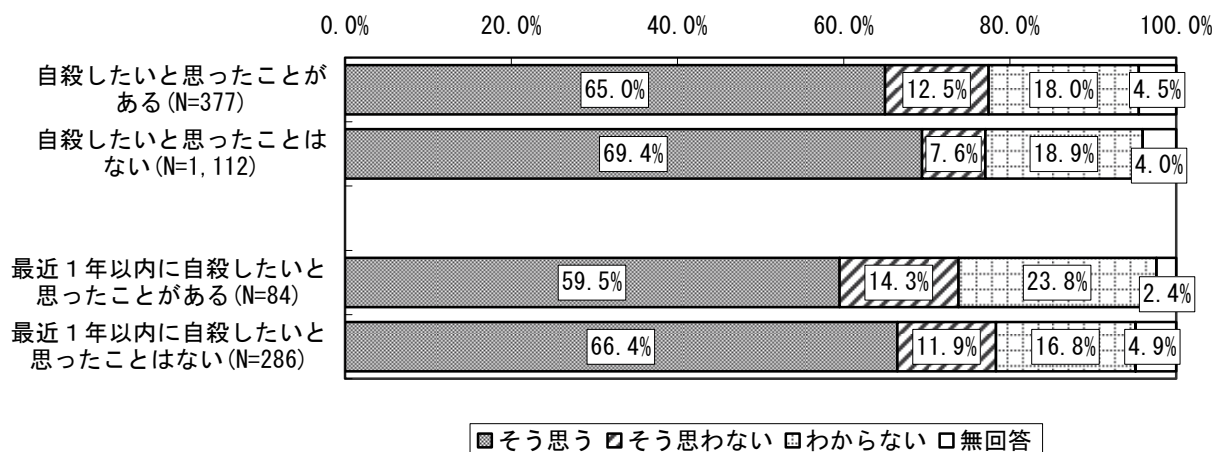
図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方

「c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」



図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方

「c. 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」



「c. 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」について、全国調査と比較すると、いずれの選択肢も2ポイント以内の差となっており、回答傾向に大差はない。

性別にみると、「そう思う」は、女性（70.4%）が男性（63.3%）に比べて7.1ポイント多く、「そう思わない」は、男性（11.2%）が女性（6.9%）に比べて4.3ポイント多い。

年齢別にみると、「そう思う」は、60歳代以下では60%以上を占めているが、70歳以上では42.1%と少なく、「わからない」が4分の1を占めている。

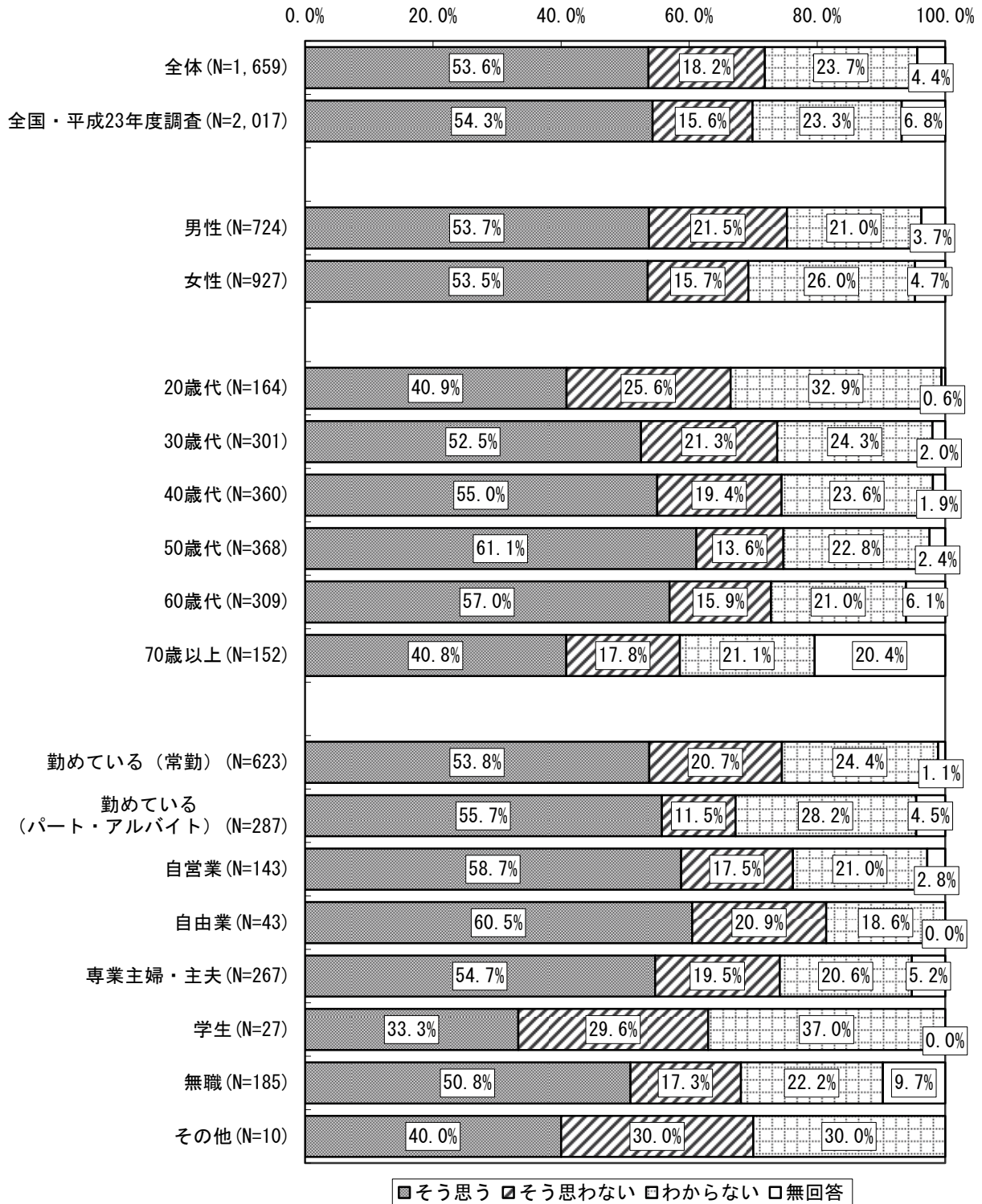
職業別にみると、いずれの職業でも「そう思う」が過半数を占めているが、常勤及びパート・アルバイトの「勤めている」や「専業主婦・主夫」では70%台となっており、他の職業に比べて多い。逆に、「そう思わない」は「学生」が18.5%で最も多く、「自営業」が14.0%で続いている。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思わない」は、「過去に自殺願望あり群」（12.5%）が「過去に自殺願望なし群」（7.6%）に比べて4.9ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思う」は、「1年以内自殺願望なし群」（66.4%）が「1年以内自殺願望あり群」（59.5%）に比べて6.9ポイント多い。

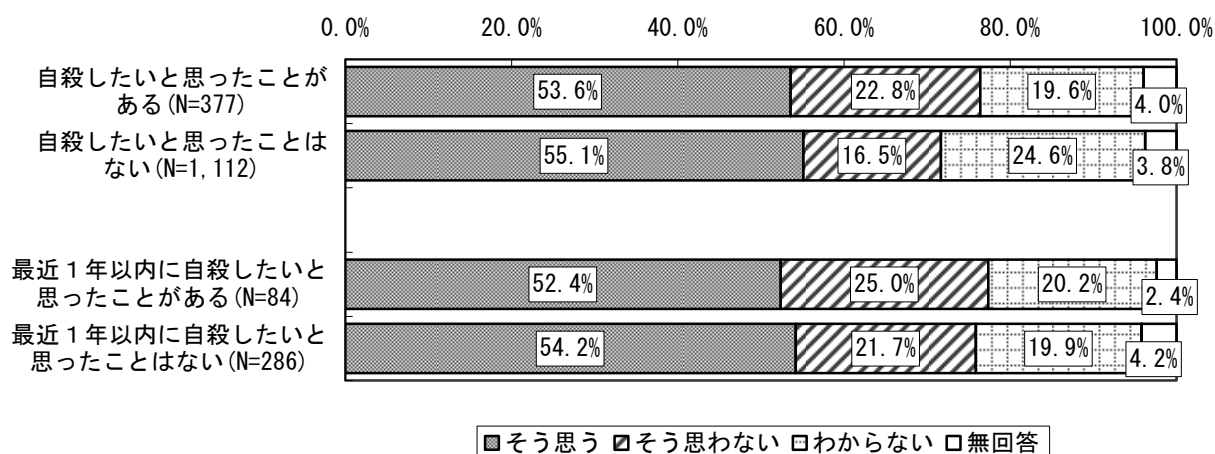
(d) 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す

図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方
「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」



図表 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、テレビドラマや映画での自殺シーンの描写に対する意識・考え方

「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」



「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」について、全国調査と比較すると、本調査では「そう思わない」が2.6ポイント多いが、回答傾向に大差はない。

性別にみると、「そう思う」は、男性が53.7%、女性が53.5%で大差はないが、「そう思わない」は、男性（21.5%）が女性（15.7%）に比べて5.8ポイント多い。

年齢別にみると、「そう思う」は30歳代～60歳代では過半数を占めており、50歳代にかけては年齢層が高いほど多い傾向となっている。「わからない」は、年齢層が低いほど多い傾向となっており、「そう思わない」も20歳代と30歳代では20%台となっており、40歳代以上が10%台であるのに比べて多い。

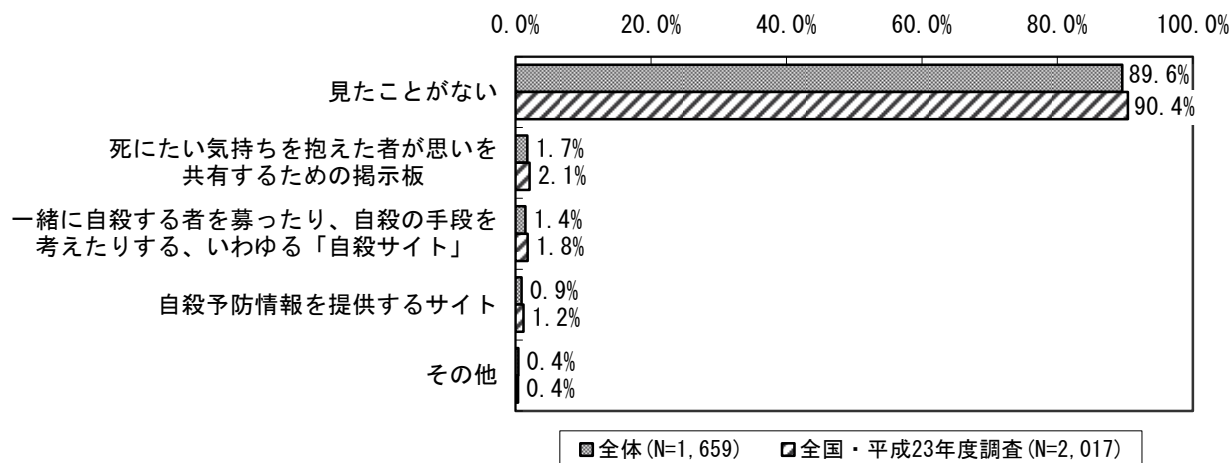
職業別にみると、「学生」では「わからない」が最も多いが、他の職業では「そう思う」が過半数を占めて最も多い。また、「そう思わない」も「学生」が29.6%で最も多い。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思わない」は、「過去に自殺願望あり群」（22.8%）が「過去に自殺願望なし群」（16.5%）に比べて6.3ポイント多い。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「そう思わない」は、「1年以内自殺願望あり群」（25.0%）が「1年以内自殺願望なし群」（21.7%）に比べて3.3ポイント多い。

問31 インターネット上には、自殺に関連する様々なサイトがあります。あなたは、自殺に関する様々なサイトを積極的に見たことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 自殺に関するインターネットサイトの積極的な閲覧経験の有無と閲覧したことがあるサイトの内容（複数回答）



※「その他」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

自殺に関するインターネットサイトの積極的な閲覧経験の有無と閲覧したことがあるサイトの内容をたずねたところ、「見たことがない」が89.6%で最も多く、以下、「死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有するための掲示板」が1.7%、「一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を考えたりする、いわゆる『自殺サイト』」が1.4%などとなっている。

全国調査と比較すると、回答傾向に大差はない。

図表 自殺に関するインターネットサイトの積極的な閲覧経験の有無と閲覧したことがあるサイトの内容（複数回答）

		集計母数	「一緒に自殺する者を募ったりする、いわゆる『自殺サイト』」	「自殺予防情報を提供するサイト」	「死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有するための掲示板」	その他	見たことがない
全体		1,659	1.4%	0.9%	1.7%	0.4%	89.6%
性別	男性	724	1.7%	1.4%	1.4%	0.4%	89.2%
	女性	927	1.3%	0.5%	2.0%	0.4%	90.1%
年齢	20歳代	164	4.3%	0.6%	4.3%	1.2%	89.6%
	30歳代	301	2.7%	2.7%	3.0%	0.7%	89.7%
	40歳代	360	1.1%	0.6%	1.9%	0.8%	92.8%
	50歳代	368	1.1%	0.3%	0.8%	0.0%	91.8%
	60歳代	309	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	90.3%
	70歳以上	152	0.7%	1.3%	2.0%	0.0%	75.0%
職業	勤めている（常勤）	623	2.1%	1.6%	2.4%	0.5%	93.1%
	勤めている（パート・アルバイト）	287	1.0%	0.0%	1.4%	0.3%	95.5%
	自営業	143	0.7%	0.7%	0.7%	1.4%	95.1%
	自由業	43	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	95.3%
	専業主婦・主夫	267	1.1%	0.4%	1.9%	0.0%	93.6%
	学生	27	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	96.3%
	無職	185	0.5%	1.1%	1.1%	0.5%	87.0%
	その他	10	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	90.0%
本気で自殺したいと思ったことの有無別	ある	377	3.4%	1.6%	5.0%	0.8%	85.7%
	ない	1,112	0.8%	0.5%	0.7%	0.4%	92.5%
1年以内に自殺したいと思ったことの有無別	ある	84	6.0%	2.4%	9.5%	2.4%	76.2%
	ない	286	2.8%	1.4%	3.8%	0.3%	88.5%

性別にみると、男女間で回答傾向に大差はない。

年齢別にみると、「一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を考えたりする、いわゆる『自殺サイト』」や「死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有するための掲示板」は、20歳代で最も多い。

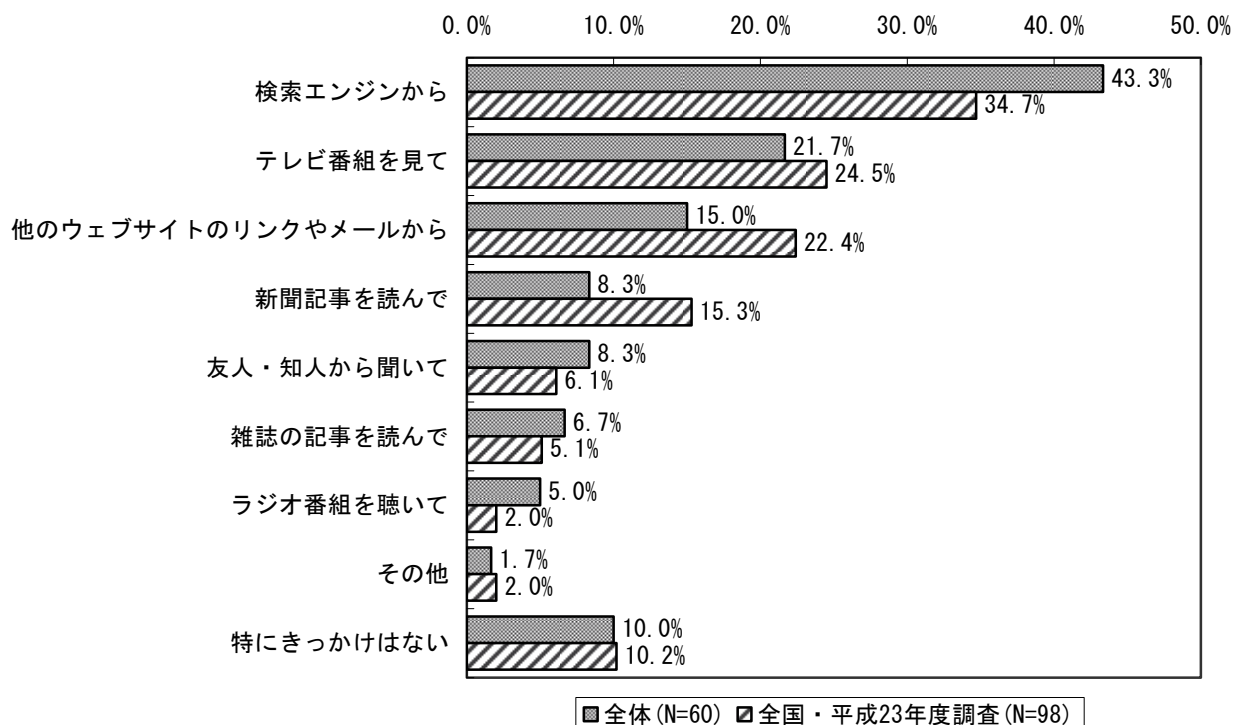
職業別にみると、「見たことがない」は「学生」が96.3%で最も多く、「無職」が87.0%で最も少ない。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無別にみると、「見たことがない」は、「過去に自殺願望なし群」（92.5%）が「過去に自殺願望あり群」（85.7%）に比べて6.8ポイント多いが、このほかは、「過去に自殺願望あり群」が「過去に自殺願望なし群」を上回っている。

最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無別にみると、「見たことがない」は、「1年以内自殺願望なし群」（88.5%）が「1年以内自殺願望あり群」（76.2%）に比べて12.3ポイント多いが、このほかは、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多い。

問32 問31で「5 見たことがない」以外にお答えの方にお聞きします。あなたは、どのようなきっかけで問31で答えられたサイトを見ましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表 自殺に関するインターネットサイトを閲覧したきっかけ（複数回答）



※「その他」・「特にきっかけはない」を含まずに、「全体」の結果が多い順に図示

自殺に関する様々なサイトを積極的に見たことがある人に対して、閲覧したきっかけをたずねたところ、「検索エンジンから」が43.3%で最も多く、以下、「テレビ番組を見て」が21.7%、「他のウェブサイトのリンクやメールから」が15.0%、「特にきっかけはない」が10.0%、「新聞記事を読んで」と「友人・知人から聞いて」がともに8.3%などとなっている。

全国調査と比較すると、本調査では「検索エンジンから」が8.6ポイント多く、「ラジオ番組を聴いて」・「友人・知人から聞いて」・「雑誌の記事を読んで」も差は小さいものの本調査が全国調査に比べて多い。他方、本調査では「他のウェブサイトのリンクやメールから」が7.4ポイント、「新聞記事を読んで」が7.0ポイントそれぞれ少ない。

図表 自殺に関するインターネットサイトを閲覧したきっかけ（複数回答）

		集計母数	検索エンジンから	新聞記事を読んで	テレビ番組を見て	ラジオ番組を聴いて	雑誌の記事を読んで	友人・知人から聞いて	他のウェブサイトからのリンクやメールから	その他	特にきっかけはない
全体		60	43.3%	8.3%	21.7%	5.0%	6.7%	8.3%	15.0%	1.7%	10.0%
性別	男性	30	46.7%	6.7%	20.0%	6.7%	6.7%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%
	女性	30	40.0%	10.0%	23.3%	3.3%	6.7%	6.7%	20.0%	3.3%	10.0%
年齢	20歳代	15	60.0%	6.7%	20.0%	6.7%	6.7%	0.0%	26.7%	0.0%	6.7%
	30歳代	19	47.4%	0.0%	15.8%	0.0%	5.3%	10.5%	10.5%	0.0%	21.1%
	40歳代	13	30.8%	0.0%	15.4%	15.4%	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	7.7%
	50歳代	7	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%
	60歳代	1	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	5	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
職業	勤めている（常勤）	34	2.1%	1.6%	2.4%	1.6%	2.4%	1.6%	2.4%	0.5%	93.1%
	勤めている（パート・アルバイト）	5	1.0%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%	0.3%	95.5%
	自営業	4	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	1.4%	95.1%
	自由業	1	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	95.3%
	専業主婦・主夫	9	1.1%	0.4%	1.9%	0.4%	1.9%	0.4%	1.9%	0.0%	93.6%
	学生	1	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	96.3%
	無職	5	0.5%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	0.5%	87.0%
	その他	1	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	90.0%

性別にみると、男女ともに「検索エンジンから」が最も多い。「新聞記事を読んで」や「テレビ番組を見て」、「他のウェブサイトのリンクやメールから」は女性が男性に比べて多く、「ラジオ番組を聴いて」や「友人・知人から聞いて」は男性が女性に比べて多い。

年齢別にみると、集計母数が少ない50歳代以上を除き、20歳代～30歳代ではいずれも「検索エンジンから」が最も多い。

職業別にみると、「勤めている（常勤）」では、「検索エンジンから」が最も多く、以下、「他のウェブサイトのリンクやメールから」、「テレビ番組を見て」などとなっている。

第3章 調査結果の考察

1 滋賀県と全国の傾向との全般的比較

本調査の設問は、内閣府が平成23年度に実施した「自殺対策に関する意識調査」の設問を参考として作成したため、多くの設問で結果の比較を行った。

比較の結果、設問によっては個別の選択肢において回答比率に多少の差はみられたものの、回答傾向そのものに顕著な差はみられなかった。この点は、本県の自殺に関する実態や県民の自殺に対する意識等が全国の傾向と大差がないことの表れと言える。

2 自殺の現状等について

(1) 我が国の自殺の実態の認知と自殺対策を社会的な取組として実施する必要性

「我が国の自殺の実態の認知（問3）」について、「知っていた」（認知率）は全国調査が65.1%であるのに対し、本調査が56.7%とやや低いことから、さらに自殺に関する啓発が必要と考えられる。また、性別では、男性が女性に比べて高く、年齢別では、年齢層が高いほど高い傾向にあることから、特に女性や若年層に対する啓発に工夫が必要である。自殺願望を抱いたことの有無（「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったこと」と「最近1年以内に自殺したいと思ったこと」の統合。以下、同じ）からみると、「自殺願望抱いたことあり群」（「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことがある」と「最近1年以内に自殺したいと思ったことがある」の合計。以下、同じ）が「自殺願望抱いたことなし群」（「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことがない」と「最近1年以内に自殺したいと思ったことがない」の合計。以下、同じ）に比べて認知率が高いのは、日頃から自殺に関する話題に関心があるからではないかと考えられる。

「自殺は個人の問題といわれることに対する認識（問4）」について、個人の問題だと思っているのは、性別では、男性が女性に比べて多く、年齢別では、70歳以上が最も多い。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて個人の問題だとは思っていない。

男性や高齢層、自殺願望がある人ほど、個人の問題と言われることに否定的な立場にあると推察される。

「自殺対策を社会的な取組として実施する必要性に対する意識（問5）」について、「必要がある」は本調査が77.5%、全国調査が77.9%で、全国の認知率との大差はない。性別では、「わからない」は女性が男性に比べて多く、年齢別では、60歳代を最多として年齢層が高いほど「必要がある」が多い傾向にある。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、「必要はない」は、「1年以内自殺願望あり群」が9.5%で、「1年以内自殺願望なし群」の3.1%に比べて6.4ポイント多い。

「自殺対策を社会的な取組として実施する必要があると思う理由（問6）」について、「様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから」は、年齢別では、20歳代が最も多く、職業別では、集計母数は少ないが、若年層が多い学生で最も多い。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多い。

自殺願望がある人では、社会的な取組としての自殺対策を不要と考える傾向にあり、自殺の要因が自己以外の外的要素や心理的視野狭窄によると推察される。

(2) 悩みに関する相談機関・窓口の認知状況

「自殺対策を社会的な取組として実施する必要があると思う人の悩みに関する相談機関・窓口の認知状況（問7）」について、「子ども家庭相談センター（児童相談所）」は、性別では、パート・アルバイト労働者や専業主婦・主夫が多い女性で男性に比べて多く、年齢別では、子育て世代である30～40歳代で最も多い。他方、相談機関・窓口を「どれも知らない」のは16.8%で、性別では、男性が女性に比べて多く、年齢別では、年齢層が低いほど多い傾向にある。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、「どれも知らない」は、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多い。

ライフステージやワークスタイル等に応じて相談機関・窓口の認知率に差がみられることに加え、行政が相談機関・窓口としての役割を果たしていることを知らない人も多いと言える。

なお、本問は、「自殺対策を社会的な取組として実施する必要性に対する意識（問5）」において、社会的な取組の「必要がある」の回答者だけが回答対象であったため、これ以外のすべての回答者が回答した場合には、認知率はさらに低くなると考えられる。

3 悩みやストレスに関することについて

(1) 不満や悩み等を感じたことの有無・程度とその内容

「この1ヶ月間に日常生活で不満・悩み・苦労・ストレスを感じたことの有無と程度（問8）」について、「不満や悩み等があった」（「大いにある」と「多少ある」の合計）は、年齢別では、年齢層が低いほど多い傾向にあり、職業別では、常勤及びパート・アルバイト労働者が特に多い。自殺願望を抱いたことの有無からみると、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて多い。

若年層は、ストレス等の閾値が低いことや就職等による新たな環境への適応にストレス等を感じていることが要因として考えられる。

「この1ヶ月間に日常生活で感じた不満や悩み等の内容（問9）」について、年齢別では、年齢層が低いほど「勤務問題」や「男女問題」が多い傾向にあり、年齢層が高いほど「健康問題」が多い傾向にある。職業別では、男性が多い常勤労働者は「勤務問題」、女性が多いパート・アルバイト労働者や専業主婦・主夫は「家庭問題」や「勤務問題」が、それぞれ最多または特に多い項目となっている。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、「家庭問題」や「経済生活問題」は、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多い。

不満や悩み等の相談にあたっては、ライフステージやワークスタイル等を踏まえた相談支援を展開する必要があり、その主な内容として「家庭問題」や「勤務問題」、「経済生活問題」が多くあげられていることに留意する必要がある。

(2) 悩みやストレスがあるときやよく眠れない日が続いたときの対処法

「悩みやストレスがあるときに誰かに相談したり助けを求めたりすることに対するためらいの有無と程度（問10）」について、「ためらいを感じる」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、性別では、男性が女性に比べて多く、年齢別では、年齢層が高いほど多い傾向にある。自殺願望を抱いたことの有無からみると、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて多く、強いためらいである「そう思う」の回答者も「自殺願望抱いたことなし群」に比べて多い。

男性や自殺願望を抱いたことがある人ほど相談や支援を求めることを躊躇する傾向が強いこと、また、高齢層ほど自らの悩み等を他人に吐露することを恥じる傾向が強いことなどが要因として考えられる。

「不満・悩み・つらい気持ちを受け止めて耳を傾けてくれる人の有無とその人との関係（問11-（1）」について、性別では、男性は「同居の親族（家族）」や「いない」が女性に比べて多く、女性は「同居していない親族（家族）」や「友人」が男性に比べて多い。年齢別では、年齢層が低いほど「友人」が多い傾向にあり、年齢層が高いほど「近所の知り合い」とともに「いない」も多い傾向にある。職業別では、「いない」は自由業や高齢層が多い無職でやや多い。自殺願望を抱いたことの有無からみると、「いない」は「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて多い。

「必要なときに物質的・金銭的な支援をしてくれる人の有無とその人との関係（問11-（2）」について、「いない」は、性別では、男性が女性に比べて多く、年齢別では、年齢層が高いほど「いない」が多い傾向にある。職業別では、高齢層が多い無職のほか、自由業や自営業でもやや多い。自殺願望を抱いたことの有無からみると、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて多い。

「仮によく眠れない日が2週間続いたときにとると思う対処法（問13）」について、年齢別では、年齢層が低いほど「我慢する」や「もうしばらく様子を見て決める」が多い傾向にあり、年齢層が高いほど「かかりつけの医師（内科等）に受診する」が多い傾向にある。また、自殺願望を抱いたことの有無からみると、「我慢する」は、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて多い。

相談や支援においては、男性は自己解決、女性は対人交流による解決を図る傾向が見受けられるが、男性では相談相手や支援者がいないケースが女性に比べて多く、男性で問題を抱えている人がより多いと推察される。また、若年層では友人がいるかどうか、高齢層では顔なじみの近隣住民がいるかどうか相談相手や支援者の有無に影響すると言える。

自殺願望を抱いたことがある人の特徴としては、相談や支援を求めることを強く躊躇する傾向にあり、なおかつ、相談相手や支援者もいないケースが多く、こうした自身の思考・態度が、より厳しい状況に追い込むことにつながっていると推察される。

(3) 困難や問題に直面したときの考え方

次の a～i の 9 つの場面を設定し、それぞれでいずれの考え方に近いかを問うた（問15）。

a	1 周囲の人も同じような困難に直面していると考える 2 どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う
b	1 失敗したら「次はない」と考える 2 失敗しても「次がある」と考える
c	1 「必ず解決策がある」と考える 2 「解決できない問題に直面した」と考える
d	1 「学びや成長するための経験だ」と考える 2 「もうダメだ」と考える
e	1 やる気がでる 2 逃げ出したくなる
f	1 絶対に逃げてはいけないと考える 2 時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える
g	1 まずは冷静に一步引いて考える 2 とりあえず行動してみる
h	1 誰かに頼ろうとする 2 自分だけで解決しようとする
i	1 困難が生じた原因を自分の中に探ろうとする 2 困難が生じた原因を外部の環境の中に探ろうとする

年齢別では、「b：2 失敗したら『次はない』と考える」・「c：2 『解決できない問題に直面した』と考える」・「d：2 『もうダメだ』と考える」・「e：2 逃げ出したくなる」・「h：1 誰かに頼ろうとする」は、年齢層が低いほど多くあげられている。

職業別にみると、若年層が多い学生で「b：2 失敗したら『次はない』と考える」・「c：2 『解決できない問題に直面した』と考える」が他の職業に比べて多くあげられ、年齢別での回答結果と相まって、若年層ほどより消極的・悲観的な考え方をする人が多いと推察される。

自殺願望を抱いたことの有無からみると、「f：1 絶対に逃げてはいけないと考える／2 時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える」・「g：1 まずは冷静に一步引いて考える／2 とりあえず行動してみる」・「i：1 困難が生じた原因を自分の中に探ろうとする／2 困難が生じた原因を外部の環境の中に探ろうとする」の3項目については、自殺願望を抱いたことの有無による回答に大差はみられなかったが、他の6項目については、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて消極的・悲観的な考え方をする人がより多い傾向が表れている。

自殺願望を抱いたことがある人の特徴として、困難や問題に直面したときの気持ちの持ち様や態度として、「どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく」思い、直面した困難や問題は「解決できない問題」だと考え、失敗したら「次はない」、「もうダメだ」と考え、「逃げ出したくなる」ものの、最終的には「自分だけで解決しようとする」人物像が浮かび上がってくる。

(4) 生きることが辛くなったことの有無・内容とそのときに支えになったこと

「これまでに生きることが辛くなったり嫌になったりしたことの有無と内容（問16）」について、「特になし」を除き、性別では、男性は「失業や不安定雇用」や「過重労働」等が女性に比べて多く、女性は「家族や周囲からの虐待、いじめ」や「病気、介護疲れ」等が男性に比べて多い。年齢別では、「将来への不安や絶望」や「過重労働」、「孤独」は年齢層が低いほど多い傾向にある。職業別では、若年層が多い学生で「将来への不安や絶望」が最も多い。これまでの人生の中で本気で

自殺したいと思ったことの有無からみると、「過去に自殺願望あり群」は、「孤独」や「家族や周囲からの虐待、いじめ」、「借金や貧困」などが「過去に自殺願望なし群」に比べて多い。

「生きる励みや支えになっていること（問17）」について、年齢別では、50歳代以下では「家族や友人との信頼関係」が75%前後と多く、「やりがいのある仕事や趣味」は年齢層が低いほど多い傾向にあり、「信仰」や「社会や地域に対する信頼感」は年齢層が高いほど多い傾向にある。職業別では、「特にない」は高齢層が多い無職で最も多く、「将来の夢」は学生や自営業、常勤労働者、自由業で特に多い。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、励みや支えになったものが「特にない」は「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多い。

若年層では、「将来への不安や絶望」や「孤独」で辛い思いをしているケースが多く、キャリア形成途上における不安や長引く厳しい社会経済情勢、人間関係の形成におけるつまづき等が要因として考えられる。このことは、自殺願望を抱いたことがある人が若年層で多いことの裏付けと考えられる（問19・問20）。また、若年層では、「家族や友人との信頼関係」や「やりがいのある仕事や趣味」、「楽しかった過去の思い出」を励みや支えにしているケースが他の年齢層に比べて比較的多く、周囲の人との対人交流を励みや支えにしている一方で、仕事や趣味のやりがい、過去の思い出など自己完結を指向する傾向の強さも伺える。

これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことがある人では、「将来への不安や絶望」や「孤独」、「家族や周囲からの虐待、いじめ」、「借金や貧困」を辛い思いをした主要因にあげており、特に、最近1年以内に自殺したいと思ったことがある人では、こうした辛さの中で励みや支えになるものがなく、より厳しい状況に追い込まれている人が多いと言える。

4 自殺やうつに関する意識について

（1）自殺に対する意識

次のa～eの5つの意見について、どのように思うかを問うた（問18）。

a	生死は最終的に本人の判断に任せるべきである
b	自殺せずに生きていれば良いことがある
c	自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている
d	責任を取って自殺することは仕方がない
e	自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

年齢別では、「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」は、年齢層が低いほど「肯定的意識」が強い傾向にあり、「b 自殺せずに生きていれば良いことがある」や「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」は、年齢層が高いほど「肯定的意識」が強い傾向にある。

職業別では、若年層が多い学生で「b 自殺せずに生きていれば良いことがある」と「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」は、「肯定的意識」が他の職業に比べて弱く、「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」・「d 責任を取って自殺することは仕方がない」・「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」は、

「肯定的意識」が他の職業に比べて強い。

自殺願望を抱いたことの有無からみると、「自殺願望抱いたことあり群」では、「a 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」・「d 責任を取って自殺することは仕方がない」・「e 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」の「肯定的意識」がより強く（「否定的意識」がより弱く）、「b 自殺せずに生きていれば良いことがある」と「c 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」の「肯定的意識」がより弱い（「否定的意識」がより強い）。

このことから、自殺願望を抱いたことがある人の特徴として、「自殺せずに生きていれば良いことがある」・「自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている」と思っているが、自殺願望がない人ほど強くは思っていない。また、「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」だとはっきり言い切れず、「責任を取って自殺することは仕方がない」や「自殺は繰り返されるので、周囲の人は止めることはできない」とは思っていないものの、自殺願望がない人ほど否定的には思っていない。

（２）自殺したいと思ったことの有無、そのときにとった対処法

「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無（問19）」について、「自殺したいと思ったことがある」は本調査が22.7%、全国調査が23.4%で、大差はない。「自殺したいと思ったことがある」人は、性別では、女性が男性に比べて多く、年齢別では、20歳代～50歳代が60歳代以上に比べて多い。職業別では、パート・アルバイト労働者や自営業者が他の職業に比べてやや多い。

自殺願望を抱いたことがある人が男性よりも女性で多いことは、一般的に、自殺者が女性よりも男性で多いのに対し、自殺未遂者が男性よりも女性で多いことを裏付ける一因と考えられる。

「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことがある人の最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無（問20）」について、自殺したいと思ったことが「ある」は本調査が22.3%、全国調査が22.7%で、ほぼ同率である。最近1年以内に自殺したいと思ったことが「ある」人は、性別では、男性が女性に比べて多く、年齢別では、年齢層が低いほど多い傾向にある。職業別では、常勤労働者が最も多く、自営業者やパート・アルバイト労働者も比較的多い。

「これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことがある人が、自殺したいと考えたときにとった対処法（問21）」について、「特に何もしなかった」は、本調査が17.8%、全国調査が13.8%で4.0ポイントの差がある。性別では、男性は「できるだけ休養を取るようにした」や「特に何もしなかった」が女性に比べて多く、女性は「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が男性に比べて多い。年齢別では、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」は20歳代で半数を超えて最も多いが、「特に何もしなかった」も20歳代と40歳代で特に多い。職業別では、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」は、女性が多いパート・アルバイト労働者と専業主婦・主夫で最も多く、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」は男性が多い常勤労働者や自営業者、高齢層が多い無職で最も多い。

自殺願望を抱いたことがある人の特徴として、自殺願望を抱いたときの対処法は、男性は自己解決、女性は対人交流による解決を図る傾向が顕著に表れており、これは不満や悩み等があったときの相談相手や物質的・金銭的支援者の有無の傾向（問11-(1)・(2)）と似通っている。また、自殺願望を抱いた時期が最近1年以内かどうかに関係なく、自殺願望を抱いた人は年齢層が低いほど多

い傾向にあり、自殺したいと思ったときに特に何も対処しなかった人も比較的若年層で多い傾向がみられる。

(3) 周囲で自殺した人、自傷行為や自殺未遂をした人の有無

「周囲で自殺した人の有無とその人との関係（問22）」について、「いない」は本調査が54.2%、全国調査の56.2%で、大差はない。以下、「同居していない親族（家族）」、「友人」、「職場関係者」などとなっているが、全国調査と同様の回答傾向となっている。「その他」の回答として、近所の人、友人・知人の親族、同級生などが多く寄せられている。

「周囲で自傷行為や自殺未遂をした人の有無とその人との関係（問23）」について、「いない」が69.4%で最も多く、以下、「友人」、「職場関係者」などとなっている。職業別では、集計母数は少ないが、学生で最も多い。

周囲で自殺した人・自傷行為や自殺未遂をした人の有無については、全体の半数以上が「いない」と回答しているが、自殺した人については、「同居していない親族（家族）」や「友人」、「職場関係者」で10%前後いることがわかる。また、「その他」の主な回答内容にあげたように、直接の親しいつきあいや面識はないものの、身近には自殺者が多くいる実態が伺い知れる。

(4) 仮に身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときに望ましいと思う対応

「仮に身近な人から『死にたい』と打ち明けられたときに望ましいと思う対応（問24）」について、性別では、『つまらないことを考えるな』と叱る』や『死んではいけない』と説得する』は男性が女性に比べて多く、『死にたいぐらい辛いんだね』と共感を示す』は女性が男性に比べて多い。年齢別では、「ひたすら耳を傾けて聞く」は年齢層が低いほど多く、『医師など専門家に相談したほうが良い』と提案する』は年齢層が高いほど多い傾向にあり、女性や若年層ほど傾聴の姿勢で臨む人が多く、男性や高齢層ほど専門家による支援を提案する人が多いと推察される。

(5) 「うつ病のサイン」に気づいたときにとる態度

「仮に家族など身近な人の『うつ病のサイン』に気づいたときに精神科病院へ相談することを勧めるかどうか（問25）」について、「勧める」は本調査が69.1%、全国調査が72.7%で、3.6ポイントの差がある。性別では、女性は「勧める」が男性に比べて多く、年齢別では、年齢層が低いほど「勧めない」が多い傾向にある。これを、仮に自分自身が「うつ病のサイン」に気づいたときに精神科病院へ相談すると思うかどうかからみると、「勧める」は、自分自身が相談すると「思う」人では91.3%であるのに対し、相談すると「思わない」人では43.1%にとどまっている。

「仮に自分自身の『うつ病のサイン』に気づいたときに自ら精神科病院へ相談しようと思うかどうか（問26）」について、相談すると「思う」は本調査が48.2%、全国調査が51.2%で、3.0ポイントの差がある。「思わない」は、性別では、男性が女性に比べて多く、年齢別では、年齢層が低いほど多い傾向となっている。

自分の「うつ病のサイン」に気づいて精神科病院へ相談すると思う人が半数に満たないのに対し、他人の場合には70%近くが相談を勧め、かつ、自分の「うつ病のサイン」に気づいて精神科病院へ相談すると思う人ほど、他人に対しても相談を勧める傾向が強い。また、自分の「うつ病のサイン」に気づいた際、若年層ほど相談すると「思わない」と回答していることは、「仮によく眠れ

ない日が2週間続いたときにとると思う対処法（問13）」において、若年層ほど「我慢する」や「もうしばらく様子を見て決める」が比較的多い傾向だったこととも相関があると考えられ、心身の異変に対して、若年層ほどすぐに対処しない傾向が強いと言える。このことは、家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいた際に、精神科病院への相談を「勧めない」との回答が、若年層ほど多いことにも影響していると言える。

（6）仮に自身がうつになった場合に生じると思う支障

「仮に自分自身がうつになった場合に生じると思う支障（問27）」について、性別では、「誰にも打ち明けられずに、一人で何とかするしかない」や「仕事を休みたくても、休みが取れない」、「職場での昇進や昇給に影響する」は男性が女性に比べて多い。年齢別では、「家族や友人が離れていきそうで怖い」や「職場の上司や同僚に迷惑をかける」、「職場での昇進や昇給に影響する」、「うつ病に対する職場の理解が得られにくいと不安を感じる」は、年齢層が低いほど多い傾向となっている。職業別では、「職場の上司や同僚に迷惑をかける」や「職場での昇進や昇給に影響する」、「仕事を休みたくても、休みが取れない」は常勤労働者で最も多く、「うつ病に対する職場の理解が得られにくいと不安を感じる」は、常勤労働者と学生が他の職業に比べて多い。

働いている人が多い男性と学生を含めた若年層においては、職場や学校等で周囲に迷惑をかけることに懸念を示す人が多い。また、職場や学校等でうつ病に対する十分な理解が得られないこと、そのことで孤立してしまうかも知れないことに不安を抱くとともに、十分に休養が取れなかったり、通院できなかつたりすることで、状態を悪化させるケースも懸念される。

5 メディアとの接触について

（1）自殺を扱った報道との接触や関心のある内容

「生活実感として自殺に関する報道に接する頻度（問29-(1)）」について、頻度に関係なく自殺に関する報道に接している人は、本調査が76.7%、全国調査が48.2%で、28.5ポイントの差がある。その背景として、児童・生徒のいじめ等による自殺が各地で発生し、その報道が全国調査の実施時期よりも増加したことが接触機会の増加につながったと考えられる。

これをメディアの接触頻度からみると、新聞やテレビ、インターネットへの接触頻度が高い人ほど自殺に関する報道に接する頻度の高い人が多い傾向にある。新聞やテレビの接触頻度は高齢層ほど高く、インターネットの接触頻度は若年層ほど高いことから、年齢層により媒体は異なるものの、各媒体を通じて自殺を扱った報道に接する機会が多いとみられる。

「自殺を扱った報道で関心がある内容（問29-(2)）」について、性別では、「関心がない」は男性が女性に比べて多く、年齢別では、年齢層が低いほど「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」が多い傾向にあり、50歳代を最多として年齢層が高いほど「有名人の自殺に関する報道」が多い傾向にある。職業別では、「関心がない」は学生が25.9%で最も多いが、年齢別で20歳代の「関心がない」が13.4%であることから、若年層全体の関心が低いのではなく、学生で関心が低いものと考えられる。これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無からみると、「一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道」は、「過去に自殺願望あり群」が「過去に自殺願望なし群」に比べてが多く、「有名人の自殺に関する報道」は、「過去に自殺願望なし群」が「過去に自殺願望あり群」に比べて多い。

(2) マスコミの自殺報道、テレビドラマ等の自殺シーンの描写に対する意識・考え方

次の a～d の 4 つの意見について、どのように思うかを問うた (問30)。

a	自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある
b	有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる「連鎖自殺」を引き起こすことがある
c	自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ
d	自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す

「a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある」については、「そう思う」は本調査が61.4%、全国調査が64.7%で、3.3ポイントの差がある。年齢別では、50歳代を最多として年齢層が高いほど多い傾向にある。最近1年以内に自殺したいと思ったことの有無からみると、「そう思わない」は、「1年以内自殺願望あり群」が「1年以内自殺願望なし群」に比べて多く、自殺願望がある人ほど否定的な見解を持つ人が多い。

「b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる『連鎖自殺』を引き起こすことがある」については、「そう思う」は本調査が42.3%、全国調査が51.2%で、8.9ポイントの差がある。年齢別では、40歳代を最多として年齢層が高いほど「そう思う」が多い傾向にある。これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無からみると、「そう思う」は、「過去に自殺願望あり群」が「過去に自殺願望なし群」に比べて多く、自殺願望がある人ほど肯定的な見解を持つ人が多い。

「c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ」については、「そう思う」は本調査が67.1%、全国調査が66.3%で、大差はない。年齢別では、「そう思う」は、60歳代以下で60%以上を占めて多い。自殺願望を抱いたことの有無からみると、「そう思う」は、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて少なく、自殺願望がある人ほど肯定的な見解を持つ人が多い。

「d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す」については、「そう思う」は本調査が53.6%、全国調査が54.3%で、大差はない。年齢別では、「そう思う」は、50歳代を最多として年齢層が高いほど多い傾向にある。これまでの人生の中で本気で自殺したいと思ったことの有無からみると、「そう思わない」は、「過去に自殺願望あり群」が「過去に自殺願望なし群」に比べて多く、自殺願望がある人ほど否定的な見解を持つ人が多い。

(3) 自殺に関するインターネットサイトの閲覧経験の有無と閲覧のきっかけ

「自殺に関するインターネットサイトの積極的な閲覧経験の有無と閲覧したことがあるサイトの内容 (問31)」について、「見たことがない」は本調査が89.6%、全国調査が90.4%で、大差はない。「見たことがない」は、自殺願望を抱いたことの有無からみると、「自殺願望抱いたことあり群」が「自殺願望抱いたことなし群」に比べて少なく、自殺願望がある人ほどいずれかのインターネットサイトの閲覧経験がある人が多い。

「自殺に関するインターネットサイトの積極的な閲覧経験がある人の閲覧したきっかけ (問32)」について、「検索エンジンから」が最も多く、以下、「テレビ番組を見て」、「他のウェブサイトのリンクやメールから」などとなっている。「他のウェブサイトのリンクやメールから」や「新聞記事を読んで」、「テレビ番組を見て」は、本調査が全国調査に比べて少ないが、他の項目は本調査が全国調査に比べて多い。

第4章 使用した調査票

「自殺に関する県民意識調査」

～ご協力のお願～

皆さまには、日頃から滋賀県政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、滋賀県では、平成22年7月に滋賀県自殺対策基本方針を取りまとめ、自殺対策に取り組んでまいりました。

今回、県内にお住まいの20歳以上の方3,000人を無作為に選ばせていただき、自殺(自死)に関するアンケート調査を実施することになりました。この調査は、皆さまの自殺(自死)に対する意識や自殺サイトへの接触などの実態を把握し、これまでの取組を評価するとともに、今後の対策の参考にしたいと考えています。

調査の趣旨をご理解いただき、お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力くださいようお願いいたします。

なお、調査結果は本事業のみに使用し、統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。

平成25年(2013年)8月

滋賀県立精神保健福祉センター

じきつ かん けんみん いし きちようさひよう
自殺に関する県民意識調査票

きにゆう さい ねが
〔ご記入に際してのお願い〕

- 1) ちょうさひよう かいとう ちょうさ ねが あてな ほんにん きにゆう
調査票のご回答は、調査をお願いした宛名のご本人がご記入ください。
- 2) かいとう かいとう せんたくし ばんごう かこ
ご回答は、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
- 3) えんぴつ くる あお きにゆう ねが
鉛筆または、黒・青のボールペンでご記入をお願いします。
- 4) かいとう しつもん ばんごう ねが
ご回答は、質問の番号にそってお願いします。
- 5) しつもん かいとう かいとう かた かぎ ぼあい かいとう しじ
質問によっては、回答していただく方が限られている場合がありますので、回答の指示に従ってご回答ください。
- 6) しつもん かいとう かいとう かず してい ほんいない こた
質問によっては、○をつける数を指定していますので、その範囲内でお答えくださいますようお願いいたします。
- 7) た えら ぼあい ない ぐたいき ないよう きにゆう
「その他」をお選びになった場合は、() 内に具体的な内容をご記入ください。
- 8) ちょうさ し が けんりつせいしんほけんふくし じっし むきめい
この調査は、滋賀県立精神保健福祉センターが実施するものであり、無記名（あなたの
なまえ じゅうしょ か ひつよう かいとう
お名前やご住所を書いていただく必要はありません）で回答していただきますので、
かいとう かいとう かた なまえ がいぶ も とう めいわく
回答していただいた方のお名前が外部に漏れるようなことや、セールス等でご迷惑をお
かけするようなことは、いっさい
9) きにゆうじよう ふめい てん か き ちょうさしゆたい と あ
記入上、不明な点などがありましたら、下記の調査主体までお問い合わせください。

へんそう きじつ
〔ご返送の期日について〕

きにゆう ちょうさひよう へんしんようふうとう い へいせい ねん がつ にち か ゆうびん
ご記入いただいた調査票は返信用封筒に入れて、平成25年9月24日(火)までに郵便
ポストに投函していただきますようお願いいたします。

ちょうさ かいしゅう かいしゅう しつもん か き と あ
調査や回収についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。

ちょうさしゆたい し が けんりつせいしんほけんふくし
〔調査主体〕 滋賀県立精神保健福祉センター

じゅうしょ じゅうしょ く さつ し か さ や ま は つ ち ょ う め ばん ごう
住所 〒525-0072 草津市笠山八丁目4番25号
でんわ 077-567-5010
FAX 077-566-5370
たんとう くまごし にしだ
担当 熊越、西田

はじめに、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておうかがいします。

問1 あなたの性別はどちらですか。あてはまるものに○をつけてください。

- 1 おとこ 男 2 おんな 女

問2 あなたの満年齢はおいくつですか。あてはまるものに○をつけてください。

- 1 20～24歳 2 25～29歳 3 30～34歳 4 35～39歳
5 40～44歳 6 45～49歳 7 50～54歳 8 55～59歳
9 60～64歳 10 65～69歳 11 70歳以上

I 自殺の現状等について

問3 我が国の自殺者数は平成10年以降毎年3万人を超える水準となっており、交通事故死者数と比べて約6～7倍となっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。それとも知らなかったですか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

- 1 知っていた 2 知らなかった

問4 自殺は個人の問題であるといわれていることについて、あなたはどのようにお思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- 1 そう思う 2 そうは思わない 3 わからない

問5 自殺対策は社会的な取組として実施する必要があると思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- 1 ひつようがある → 問6～問7にお答えください
2 ひつようはない → 問8へお進みください
3 わからない

問6 問5で「1 必要がある」とお答えの方にお聞きします。そのように思うのはなぜですか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- 1 自殺は、全ての人にとって身近に存在する問題だから
- 2 自殺は、自殺した人の家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらすから
- 3 自殺は、社会全体にとって大きな損失になるから
- 4 様々な社会制度や慣行が多くの人を自殺に追い込んでいるから
- 5 自殺者を減らす取組は社会を良い方向に変えることができるから
- 6 自殺する人が可哀想だから
- 7 わからない

問7 問5で「1 必要がある」とお答えの方にお聞きします。悩みの相談先について、あなたは以下の相談機関（窓口）を知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。

- 1 市役所・町役場内の福祉課、保健センター
- 2 子ども家庭相談センター（児童相談所）
- 3 精神保健福祉センター（こころの電話相談）
- 4 自殺予防情報センター
- 5 滋賀いのちの電話
- 6 保健所
- 7 子ども・子育て応援センター（こころんダイヤル）
- 8 日本司法支援センター滋賀地方事務所（法テラス）
- 9 滋賀弁護士会法律相談センター
- 10 滋賀県司法書士会無料法律相談
- 11 滋賀県労働相談所
- 12 その他（)
- 13 どれも知らない

Ⅱ 悩みやストレスに関することについて

問8 あなたは、この1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じたことなどが
ありましたか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

- | | | | |
|---|--------|---|-------------|
| 1 | 大いにある | → | 問9にお答えください |
| 2 | 多少ある | → | |
| 3 | あまりない | → | 問10へお進みください |
| 4 | まったくない | → | |

問9 問8で「1 大いにある」または「2 多少ある」とお答えの方にお聞きします。それは、どのようなことが原因ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 家庭問題 (家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病 等)
- 2 健康問題 (自分や家族の病気の悩み、身体の悩み 等)
- 3 経済生活問題 (倒産、事業不振、負債、失業 等)
- 4 勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等)
- 5 男女問題 (失恋、結婚をめぐる悩み 等)
- 6 学校問題 (いじめ、学業不振、教師との人間関係 等)
- 7 その他 ()

問10 あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたときなどに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- | | | | |
|---|---------------|---|------------|
| 1 | そう思う | 2 | どちらかというと思う |
| 3 | どちらかというとは思わない | 4 | そうは思わない |
| 5 | わからない | | |

問11 あなたの周囲の人たちとの関係についてお聞きします。(1)と(2)それぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

(1) あなたの不満や悩み、つらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はどなたですか。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 同居の親族 (家族) | 2 選択肢 1 以外の親族 |
| 3 友人 | 4 職場の同僚等 |
| 5 近所の知り合い | 6 その他 () |
| 7 いない | |

(2) 必要なとき、あなたに物質的・金銭的な支援をしてくれる人はどなたですか。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 同居の親族 (家族) | 2 選択肢 1 以外の親族 |
| 3 友人 | 4 職場の同僚等 |
| 5 近所の知り合い | 6 その他 () |
| 7 いない | |

問12 あなたが、日常生活での悩みやストレスを解消するためによく行うことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1 買い物 | 2 テレビ・映画・ラジオ | 3 会話・電話 |
| 4 寝る | 5 食べる | 6 音楽 |
| 7 旅行・ドライブ | 8 スポーツ | 9 お酒 |
| 10 神社や寺への参拝 | 11 タバコ | 12 ギャンブル |
| 13 その他 () | 14 特になし | |

問13 もし、よく眠れない日が2週間続いた時、あなたはどうしますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------|
| 1 我慢する |
| 2 もうしばらく様子を見て決める |
| 3 市町保健センターや保健所、精神保健福祉センター等の相談機関に相談する |
| 4 かかりつけの医師 (内科等) に受診する |
| 5 心療内科、精神科を受診する |
| 6 その他 () |

問14 あなたにはかかりつけの医療機関がありますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

1 ある	2 ない
------	------

問15 あなたは何か困難や問題に直面した時、どのように考えることが多いですか。次のaからiそれぞれについて、あなたのお考えにより近いもの（1または2）に○をつけてください。

	せんたくし 選択肢
a	1 周囲の人も同じような困難に直面していると考え 2 どうして自分だけこんな目に遭うのかと恨めしく思う
b	1 失敗したら「次はない」と考える 2 失敗しても「次がある」と考える
c	1 「必ず解決策がある」と考える 2 「解決できない問題に直面した」と考える
d	1 「学びや成長するための経験だ」と考える 2 「もうダメだ」と考える
e	1 やる気がでる 2 逃げ出したくなる
f	1 絶対に逃げてはいけないと考える 2 時には逃げたり遠回りすることも必要だと考える
g	1 まずは冷静に一步步引いて考える 2 とりあえず行動してみる
h	1 誰かに頼ろうとする 2 自分だけで解決しようとする
i	1 困難が生じた原因を自分の中に探ろうとする 2 困難が生じた原因を外部の環境の中に探ろうとする

問16 これまでにどのようなことで生きることが辛くなったり嫌になったりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------|
| 1 将来への不安や絶望 | 2 失業や不安定雇用 |
| 3 過重労働 | 4 借金や貧困 |
| 5 家族や周囲からの虐待、いじめ | 6 病気、介護疲れ |
| 7 社会や地域に対する不信感 | 8 孤独 |
| 9 その他 () | 10 特にない |

問17 あなたにとって、どのようなことが生きる励みや支えになりますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 将来の夢 | 2 家族や友人との信頼関係 |
| 3 やりがいのある仕事や趣味 | 4 経済的な安定 |
| 5 ライフスキル (問題対処能力) | 6 信仰 |
| 7 社会や地域に対する信頼感 | 8 楽しかった過去の思い出 |
| 9 特にない | |

次の「Ⅲ 自殺やうつに関する意識について」(8ページ～11ページの間18～問27)では、あなたの自殺やうつに関する意識等についてお聞きします。回答を負担に感じる方は、回答していただかなくてもかまいません。

その場合は、12ページの「Ⅳ メディア (新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体) について」から引き続きご回答ください。

問21 問19で「2 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方にお聞きします。あなたがそのように考えたとき、どのようにして乗り越えましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった
- 2 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した
- 3 弁護士や司法書士、または公的機関の相談員等、悩みの元となる分野の専門家に相談した
- 4 できるだけ休養を取るようにした
- 5 趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた
- 6 その他 ()
- 7 特に何もしなかった

問22 あなたの周りで自殺をした方はいらっしゃいますか。いらっしゃる方は、その人との関係としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 いない | 2 同居の親族 (家族) |
| 3 選択肢2以外の親族 (家族) | 4 恋人 |
| 5 友人 | 6 職場関係者 |
| 7 その他 () | |

問23 あなたの周りで自傷行為(故意に自らの健康を害する行為)や自殺未遂をした方はいらっしゃいますか。いらっしゃる方は、その人との関係としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 いない | 2 同居の親族 (家族) |
| 3 選択肢2以外の親族 (家族) | 4 恋人 |
| 5 友人 | 6 職場関係者 |
| 7 その他 () | |

問24 もし、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、あなたはどのように対応するのが良いと思いますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- 1 相談に乗らない、もしくは、話題を変える
- 2 「死んではいけない」と説得する
- 3 「つまらないことを考えるな」と叱る
- 4 「がんばって生きよう」と励ます
- 5 「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す
- 6 「医師など専門家に相談したほうが良い」と提案する
- 7 ひたすら耳を傾けて聞く
- 8 その他 ()
- 9 わからない

問25～問27にお答えいただく前にお読みください。

以下に挙げた症状を「うつ病のサイン」といいます。

「うつ病のサイン」

○自分で感じる症状

気分が沈む、悲しい、イライラする、集中力がない、好きなこともやりたくない、大事なことを先送りする、物事を悪いほうへと考える、決断ができない、自分を責める、死にたくなる

○周りから見てわかる症状

表情が暗い、涙もろい、反応が遅い、落ち着きがない、飲酒量が増える

○身体に出る症状

眠れない、食欲がない、便秘がち、身体がだるい、疲れやすい、性欲がない、頭痛、動悸、胃の不快感、めまい

このような症状が2週間以上続く場合、うつ病の可能性がります。

問25 もし仮に、^{いま}あなたの家族など身近な人の「^{うつ病}のサイン」に気づいたとき、あなたは^{せいしんか}精神科の^{びやういん}病院へ相談することを勧めますか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- 1 ^{すす}勧める 2 ^{すす}勧めない 3 わからない

問26 もし仮に、あなたが自分自身の「^{うつ病}のサイン」に気づいたとき、自ら^{みづか}精神科の^{せいしんか}病院へ相談しに行こうと思いませんか。あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

- 1 ^{おも}思う 2 ^{おも}思わない 3 わからない

問27 もし仮に、あなたがうつになった場合、どのような^{ししょう}支障が生じるとおもうか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 ^{だれ}誰にも打ち明けられずに、^{ひとり}一人で何とかするしかない
- 2 ^{かぞく}家族や^{ゆうじん}友人に迷惑をかける
- 3 ^{かぞく}家族や^{ゆうじん}友人が離れていきそうで怖い
- 4 ^{しょくば}職場の^{じょうし}上司や^{どうりょう}同僚に迷惑をかける
- 5 ^{しょくば}職場での^{しょうしん}昇進や^{しょうきゅう}昇給に影響する
- 6 ^{びやう}うつ病に対する^{たい}職場の^{りかい}理解が得られにくいと^{ふあん}不安を感じる
- 7 ^{しごと}仕事を休みたいくても、^{やす}休みが取れない
- 8 その他 ()
- 9 ^{とく}特に^{ししょう}支障はない

IV メディア（新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体）について

問28 メディアの接触頻度についてお聞きします。次の（１）から（４）のそれぞれについて、最もあてはまるもの１つだけに○をつけてください。

（１）あなたは普段、仕事や学業以外で、新聞をどのくらい読みますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3～5日程度 |
| 3 週に1～2日程度 | 4 まったくない |

（２）あなたは普段、仕事や学業以外で、テレビをどのくらい見ますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3～5日程度 |
| 3 週に1～2日程度 | 4 まったくない |

（３）あなたは普段、仕事や学業以外で、ラジオをどのくらい聴きますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3～5日程度 |
| 3 週に1～2日程度 | 4 まったくない |

（４）あなたは普段、仕事や学業以外で、インターネットをどのくらい利用しますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3～5日程度 |
| 3 週に1～2日程度 | 4 まったくない |

問29 自殺を扱った報道についてお聞きします。次の（１）、（２）のそれぞれについて、最もあてはまるもの１つだけに○をつけてください。

（１）あなたは、生活実感としてどれくらい自殺に関する報道に接していると思いますか。

- | | |
|------------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に3～5日程度 |
| 3 週に1～2日程度 | 4 まったくない |

(2) あなたは、自殺を扱ったどのような報道に関心がありますか。

- 1 有名人の自殺に関する報道
- 2 一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道
- 3 自殺の手段や場所に関する報道
- 4 自殺により事故や公共交通の遅れなどが出たことに関する報道
- 5 その他 ()
- 6 関心がない

問30 新聞やテレビなどマスコミの自殺報道、またテレビドラマや映画での自殺シーンの描写について、あなたはどのように思いますか。次のaからdのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

項目	1 そう思う	2 そう思わない	3 わからない
a 自殺手段や方法などの詳しい報道・描写は、それらを真似た自殺を引き起こすことがある	1	2	3
b 有名人の自殺などの大々的な報道は、いわゆる「連鎖自殺」を引き起こすことがある	1	2	3
c 自殺の危険を示すサインやそのときの対応方法、専門の相談窓口などを併せて報道・描写することは、自殺防止に役立つ	1	2	3
d 自殺シーンを美化して描くことは自殺を促す	1	2	3

問31 インターネット上には、自殺に関連する様々なサイトがあります。あなたは、自殺に関する様々なサイトを積極的に見たことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を 考えたりする、いわゆる「自殺サイト」	▶ 問32にお答えください
2	自殺予防情報を提供するサイト	
3	死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有する ための掲示板	
4	その他 ()	
5	見たことがない	▶ 問33へお進みください

問32 問31で「5 見たことがない」以外にお答えの方にお聞きします。あなたは、どのようなきっかけで問31で答えられたサイトを見ましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	検索エンジンから	2	新聞記事を読んで
3	テレビ番組を見て	4	ラジオ番組を聴いて
5	雑誌の記事を読んで	6	友人・知人から聞いて
7	他のウェブサイトのリンクやメールから	8	その他 ()
9	特にきっかけはない		

最後にもう一度あなた自身のことについておうかがいします。

問33 あなたのご職業は何ですか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。

1	勤めている (常勤)
2	勤めている (パート・アルバイト)
3	自営業 (事業経営・個人商店など)
4	自由業 (個人で、自分の専門的知識や技術を生かした職業に従事)
5	専業主婦・主夫
6	学生
7	無職
8	その他 ()

とい 問34 あなたには、現在、同居げんざい どうきょしている人ひとはいますか。あてはまるものに○をつけてください。

1 いる

2 いない

とい 問35 あなたがすお住まいの市町しちょうはどちらですか。あてはまるものに○をつけてください。

1 おおつし
大津市

2 ひこねし
彦根市

3 ながはまし
長浜市

4 おうみはちまんし
近江八幡市

5 ひがしおうみし
東近江市

6 くさつし
草津市

7 もりやまし
守山市

8 りっとうし
栗東市

9 やすし
野洲市

10 こなんし
湖南市

11 こうかし
甲賀市

12 まいぼらし
米原市

13 たかしまし
高島市

14 りゅうおうちょう
竜王町

15 ひのちょう
日野町

16 あいしょうちょう
愛荘町

17 とよさとちょう
豊郷町

18 こうらちょう
甲良町

19 たがちょう
多賀町

きょうりょく
ご協力いただきまして、ありがとうございます。調査票ちょうさひょうは返信用封筒へんしんようふうとうに入れて、平成25
ねん がつ にち か
年9月24日（火）までに郵便ポストゆうびんに投函とうかんしていただきますようお願いいたします。

自殺に関する県民意識調査報告書

平成26年 1 月

編集・発行 滋賀県立精神保健福祉センター

〒525-0072 滋賀県草津市笠山八丁目 4-25

電話 077-567-5010